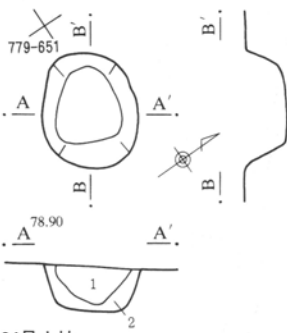


2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)

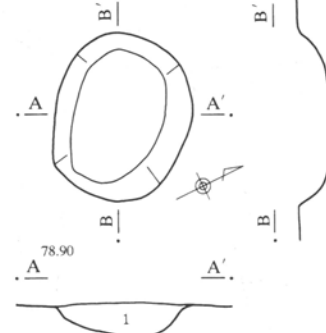
84号土坑



84号土坑

- 1 黒褐色土 砂質土。FAブロックを含む。
2 黄褐色土 FA粒多量に含む。砂質土。

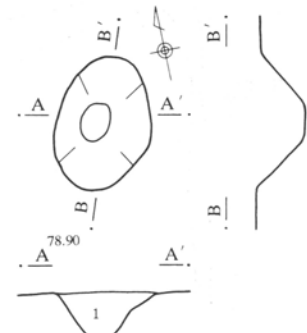
85号土坑



85号土坑

- 1 黒褐色土 As-B・FAブロックを含む。粘性なし。

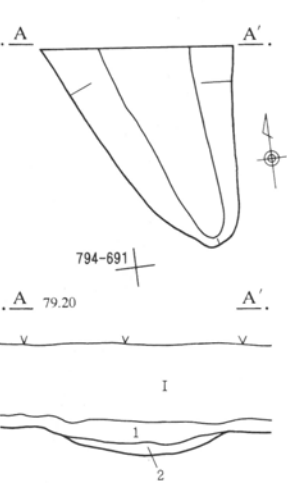
94号土坑



94号土坑

- 1 黒褐色土 砂質土。FA粒含む。

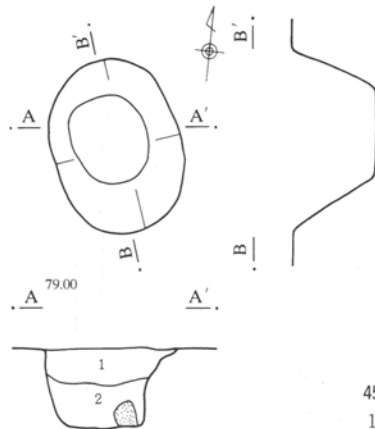
452号土坑



452号土坑

- 1 灰黄褐色土 砂質土。As-Bを含む。
2 黄褐色土 砂質土。1層のブロックを含む。

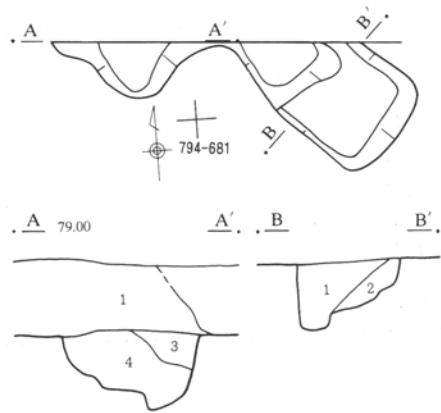
456号土坑



456号土坑

- 1 灰黄褐色土 粘性弱い。As-Bを含む。
2 褐灰色土 黄褐色土ブロック含む。粘性弱い。

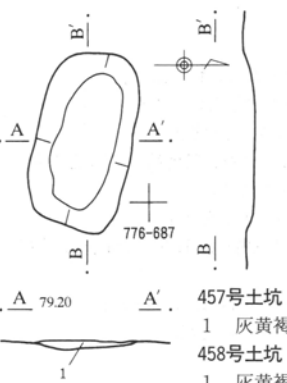
453号土坑



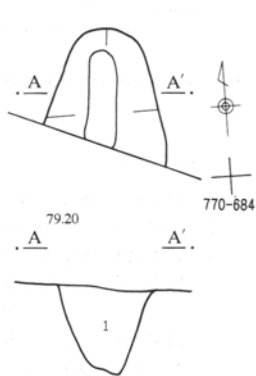
453号土坑

- 1 褐灰色土 やや粘性あり。黄褐色土小ブロックを含む。
2 にぶい黄褐色土 黄褐色土と灰黄褐色土の混土。
3 灰黄褐色土 粘性弱い。黄褐色土ブロック含む。
4 にぶい黄褐色土 粘性弱い。

457号土坑



458号土坑



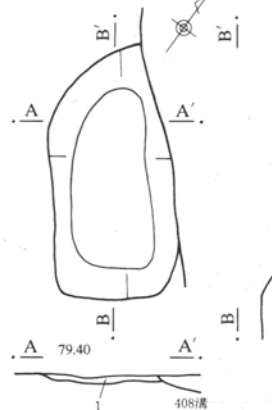
457号土坑

- 1 灰黄褐色土 粘性弱い。As-Bを若干含む。

458号土坑

- 1 灰黄褐色土 黒褐色・黄褐色土ブロック多量に含む。

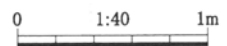
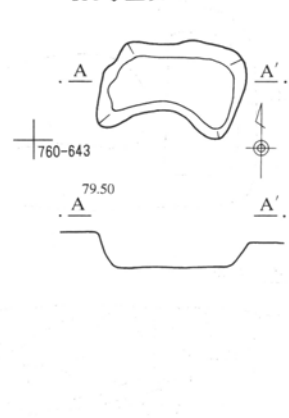
459号土坑



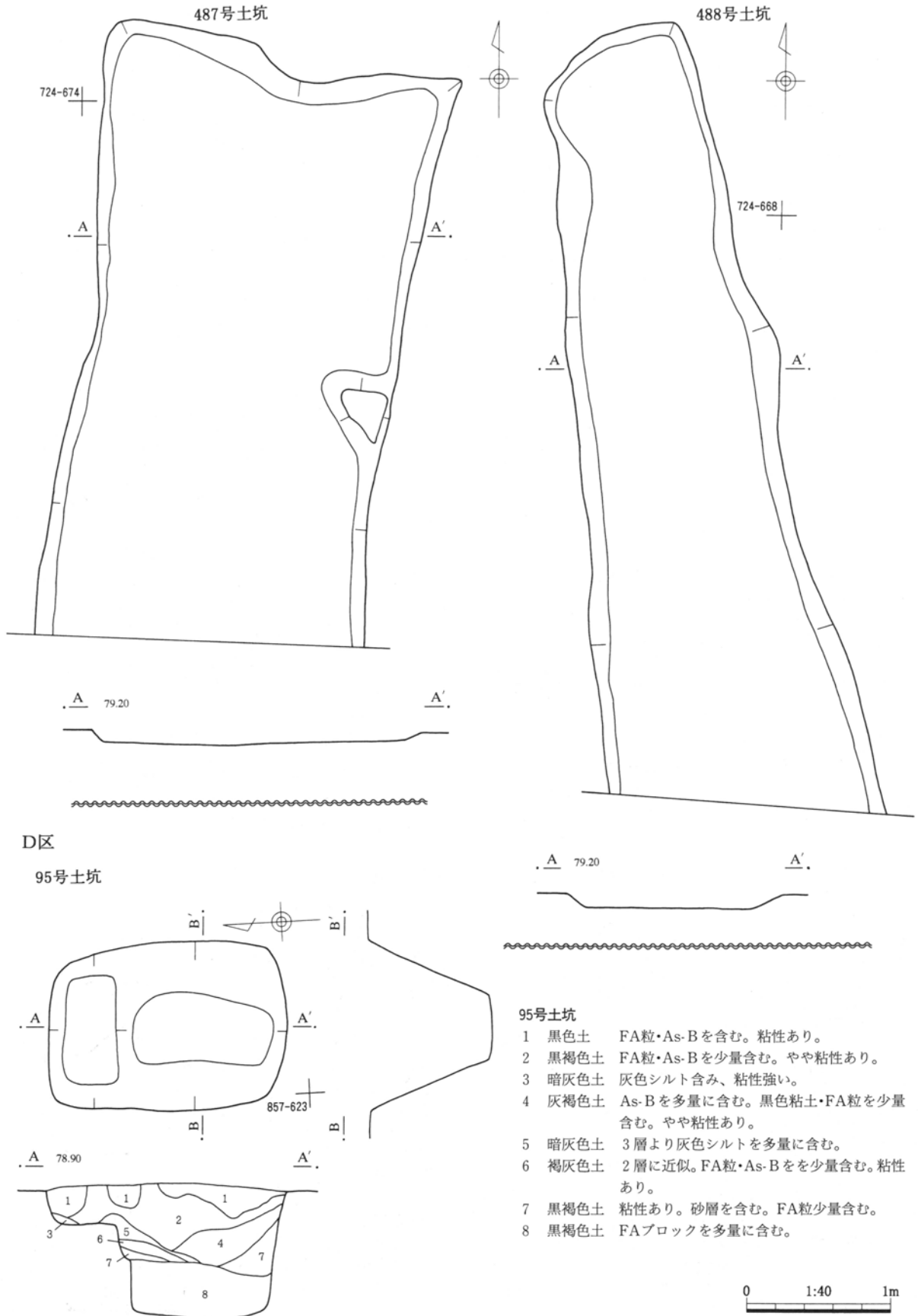
459号土坑

- 1 灰黄褐色土 粘性弱い。黄褐色土ブロックを含む。

485号土坑

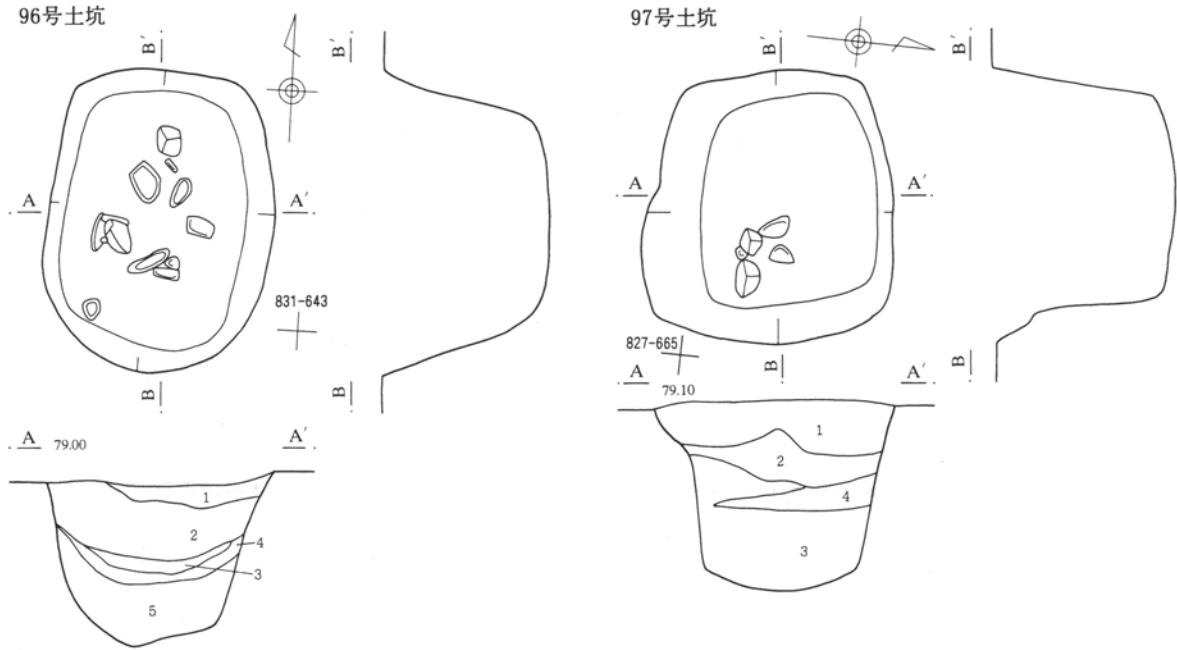


第340図 土坑実測図(28)



第341図 土坑実測図(29)

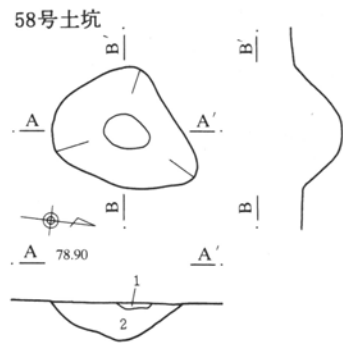
2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)



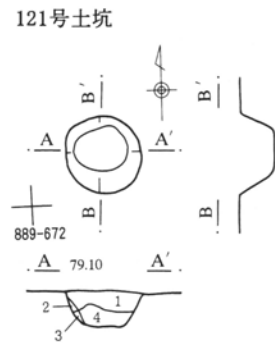
- 96号土坑
- 1 暗灰色土 FAブロックを含む。粘性なし。
 - 2 明褐色土 FAブロックを含む。やや粘性あり。
 - 3 黒褐色土 As-Bを含む。粘性なし。
 - 4 暗褐色土 FA粒を多量に含む。粘性なし。
 - 5 暗褐色土 4層のブロックを少量含む。粘性あり。

- 97号土坑
- 1 褐色土 FA粒・灰色粘土・As-Bの混土。
 - 2 暗褐色土 粘性弱い。
 - 3 明黄褐色土 粘性強い。
 - 4 暗灰色土 粘性強い。FA粒を少量含む。

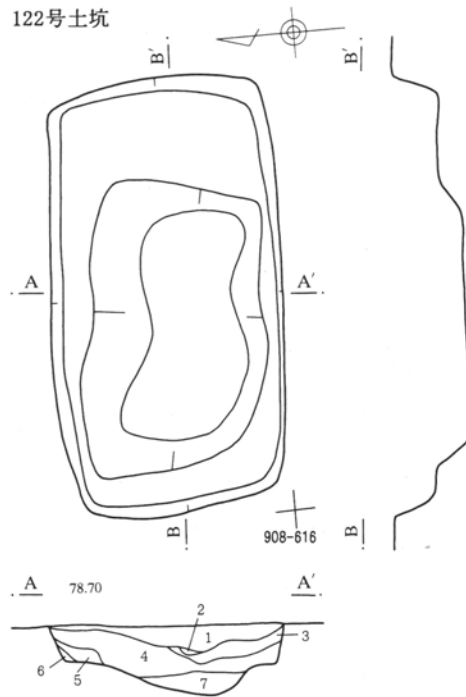
E区



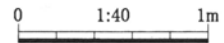
- 58号土坑
- 1 As-Bの小豆色アッシュを含む。
 - 2 As-Bを多量に含む。



- 121号土坑
- 1 灰褐色土 白色鈹粒を含む。
 - 2 黄褐色土 やや粘質。FA粒含む。
 - 3 黄褐色土 2層よりやや明るい。
 - 4 灰褐色土 FA粒含む。

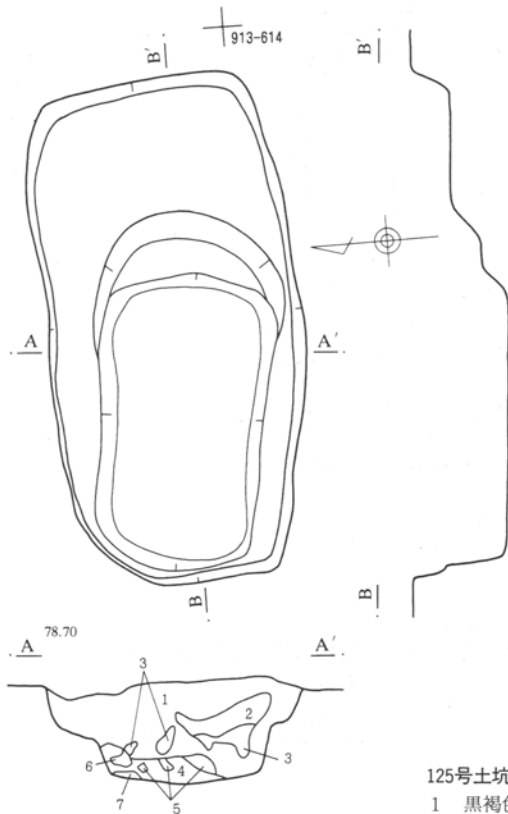


- 122号土坑
- 1 黒褐色土 As-Bを含む。
 - 2 暗褐色土 粘性あり。As-Bを少量含む。As-B下水田耕作土ブロックを含む。
 - 3 暗褐色土 As-Bを含む。As-B下水田耕作土ブロック、鉄分を含む。
 - 4 暗褐色土 粘質土。As-Bを少量含む。鉄分を含む。
 - 5 暗褐色土 As-B僅かに含む。
 - 6 暗褐色土 粘質土。
 - 7 黒褐色土 As-B・白色鈹粒を含む。



第342図 土坑実測図(30)

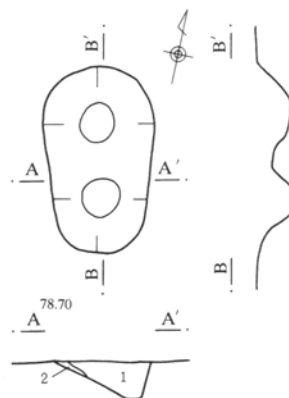
123号土坑



123号土坑

- 1 黒褐色土 As-Bを含む。白色鉱粒を多量に含む。鉄分、As-B下水田耕作土ブロックを少量含む。
- 2 黒褐色土 As-B下水田耕作土ブロックを多量に含む。白色鉱粒を多量に含む。
- 3 黒褐色土 酸化鉄分多い。As-B下水田耕作土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土 As-B下水田耕作土ブロック含む。
- 5 黒色土 As-B下水田耕作土ブロック主体。酸化鉄分斑状にあり。
- 6 暗灰色土 As-Bを少量含む。粘性なし。
- 7 黒褐色土 粘性が強いシルト質土が含まれる。As-B・鉄分を少量含む。

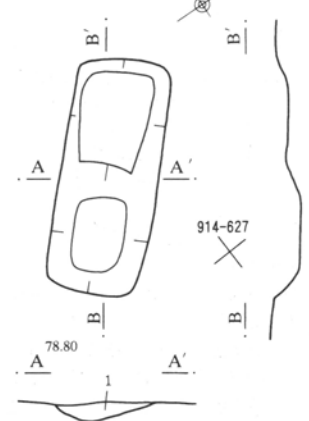
125号土坑



125号土坑

- 1 黒褐色土 白色鉱粒、As-Bを多量に均一に含む。
- 2 黒色土 As-B下水田耕作土が主体。

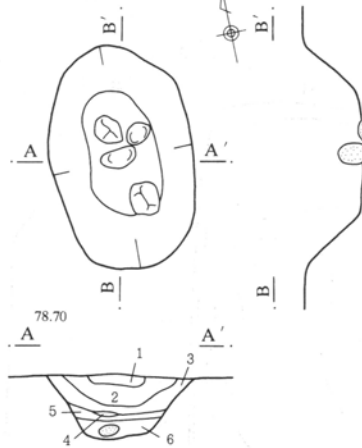
127号土坑



127号土坑

- 1 灰褐色土 As-B鉄分、As-B下水田耕作土ブロック含む。

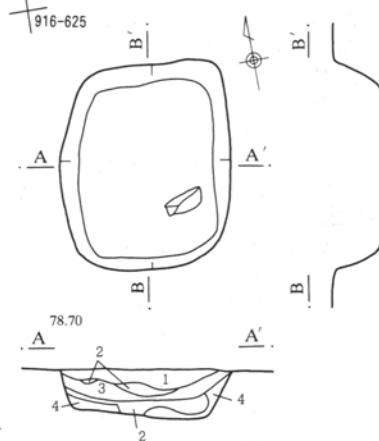
124号土坑



124号土坑

- 1 黒褐色土 As-B、白色鉱粒、鉄分を含む。
- 2 黒褐色土 粘性あり。As-B下水田耕作土ブロック・鉄分を含む。
- 3 黒褐色土 As-Bを含む。1層より鉄分少ない。
- 4 黒褐色土 粘性があり、鉄分を含む。As-Bを少量含む。
- 5 黒褐色土 As-B下水田耕作土をブロックで含む。As-Bを少量含む
- 6 黒褐色土 As-Bを多量に含む。鉄分凝固は見られない。

126号土坑



126号土坑

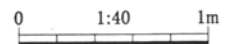
- 1 黒褐色土 As-Bを含む。粘性あり。白色鉱粒を含む。
- 2 黒褐色土 As-B下水田耕作土ブロック。
- 3 褐色土 As-B、鉄分、白色鉱粒を含む。粘性あり。As-Bの割合が多い。
- 4 暗褐色土 As-B、As-B下水田耕作土ブロックを含む。粘性あり。

130号土坑



130号土坑

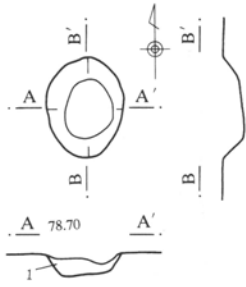
- 1 灰褐色土 As-B・白色鉱粒・鉄分・As-B下水田耕作土ブロックを含む。



第343図 土坑実測図(31)

2. 中・近世面（鎌倉時代～近世）

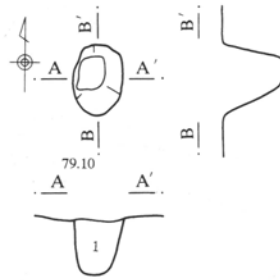
129号土坑



129号土坑

- 1 褐灰色土 As-B・鉄分・As-B下水田耕作土ブロックを含む。

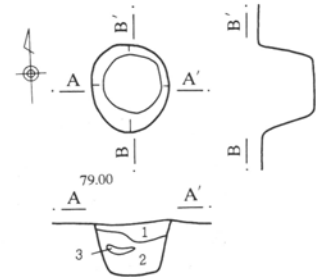
132号土坑



132号土坑

- 1 黒褐色土 As-B・白色鉾粒を多量に含む。

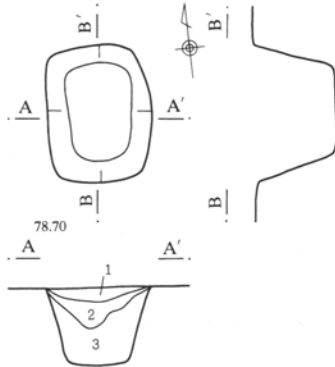
133号土坑



133号土坑

- 1 黒褐色土 As-B混土。
2 黒褐色土 As-Bを多量に含む。
3 黒褐色土 黒色土ブロック、As-Bを含む。

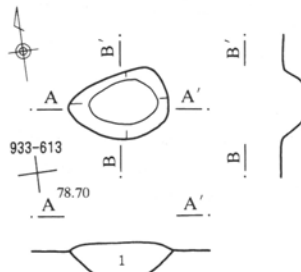
134号土坑



134号土坑

- 1 黒色土 黒色土、FA粒・As-Bの混土。黒色土、FAは粘性強い。
2 黒褐色土 As-Bを少量含む。粘性弱い。
3 黒褐色土 As-B・FA粒を多量に含む。

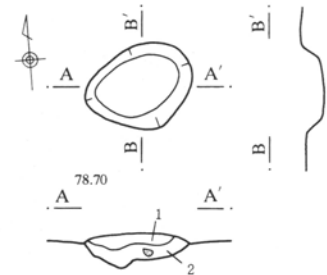
135号土坑



135号土坑

- 1 褐色土 As-Bを多量に含む。鉄分を斑状に含む。

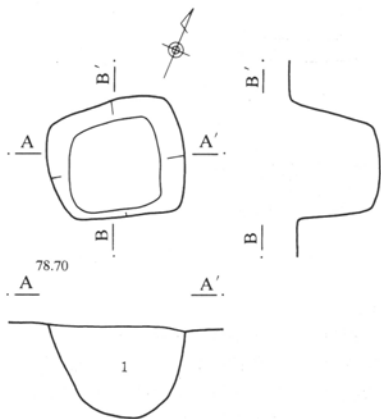
137号土坑



137号土坑

- 1 褐色土 As-B・酸化鉄分を含む。粘性あり。
2 黒褐色土 As-B・FAブロックを含む。粘性なし。

138号土坑



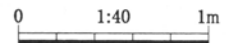
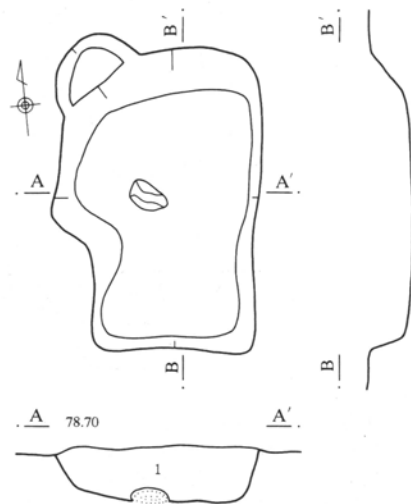
138号土坑

- 1 褐色土 黄色土、As-B下水田耕作土、褐色土のブロックの混土。

140号土坑

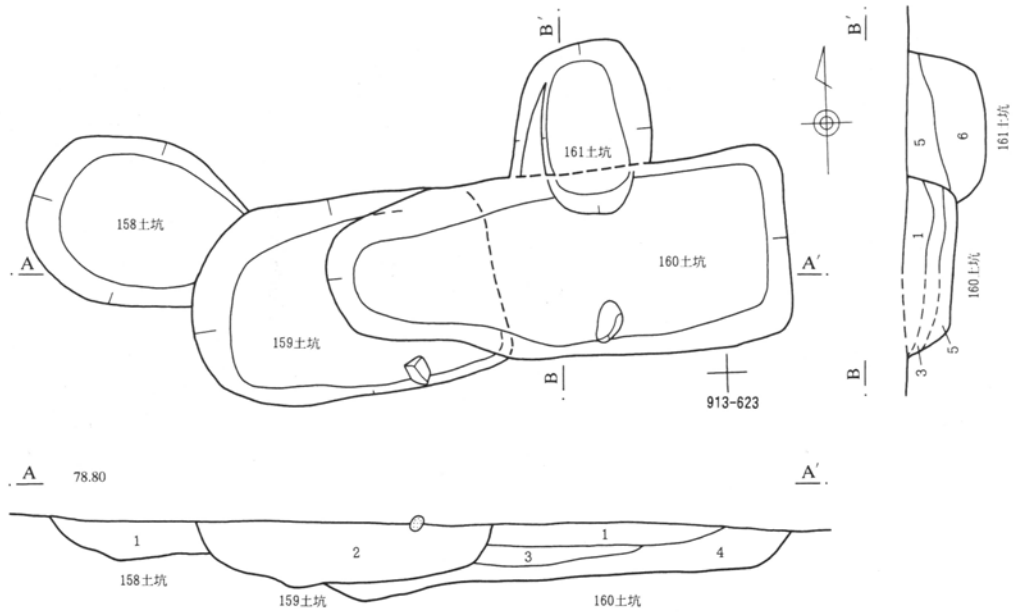
- 1 褐色土 黄色土、As-B下水田耕作土、褐色土のブロックの混土。

140号土坑



第344図 土坑実測図(32)

158~161号土坑

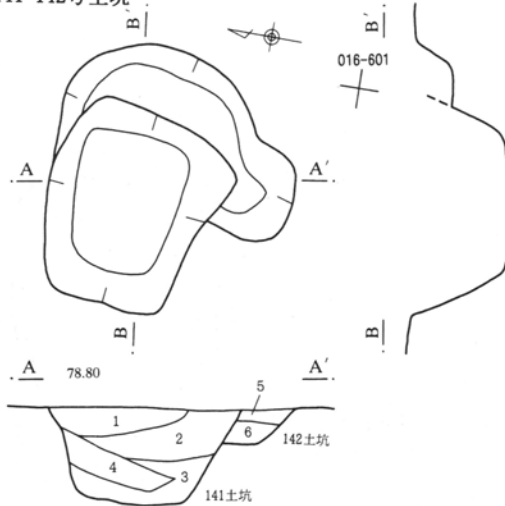


158~161号土坑

- 1 灰褐色土 As-B下水田耕作土粒、鉄分粒を少量含む。
- 2 灰褐色土 As-B下水田耕作土粒、鉄分粒を少量含む。ややしまりあり。
- 3 灰褐色土 灰色粘質土ブロックを多量に含む。鉄分粒を少量含む。
- 4 灰褐色土 As-Bを多量に含む。鉄分粒を僅かに含む。
- 5 灰褐色土 鉄分粒を少量含む。
- 6 灰褐色土 As-B下水田耕作土ブロックを多量に含む。

F区

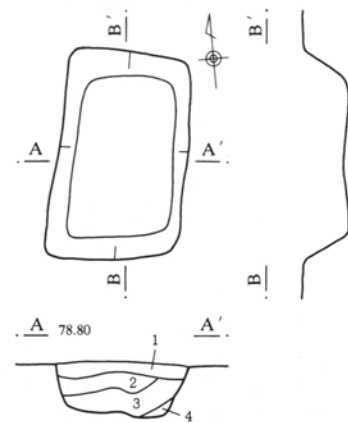
141・142号土坑



141・142号土坑

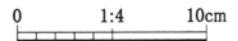
- 1 灰褐色土 橙色粘質土を僅かに含む。鉄分粒を少量含む。砂質。
- 2 灰褐色土 橙色粘質土を少量含む。水田耕作土ブロックを僅かに含む。砂質。
- 3 灰褐色土 橙色粘質土、水田耕作土ブロックを僅かに含む。砂質。
- 4 灰褐色土 橙色粘質土を多量に含む。水田耕作土ブロックを少量含む。砂質。
- 5 暗褐色土 As-Bを多量に含む。
- 6 黒灰色土 水田耕作土ブロック主体。As-Bを少量含む。

143号土坑



143号土坑

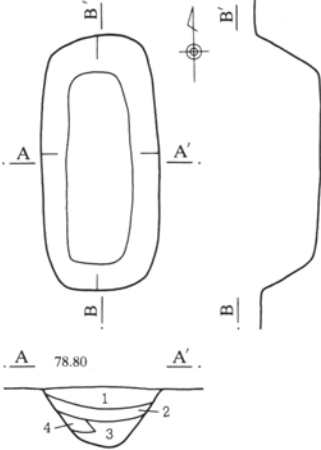
- 1 灰褐色土 橙色粘質土を少量含む。砂質。
- 2 灰褐色土 橙色粘質土を僅かに含む。砂質。
- 3 灰褐色土 橙色粘質土を少量含む。砂質。
- 4 灰褐色土 橙色粘質土を僅かに含む。



第345図 土坑実測図(33)

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)

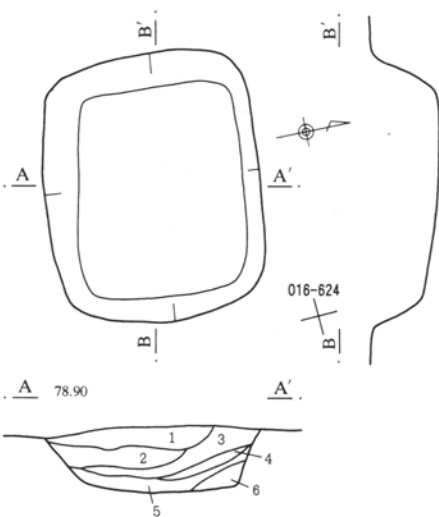
144号土坑



144号土坑

- 1 灰褐色土 橙色粘質土を少量含む。水田耕作土ブロックを多量に含む。
- 2 灰褐色土 橙色粘質土を僅かに含む。FA粒・As-Bを少量含む。
- 3 灰褐色土 橙色粘質土を僅かに含む。As-Bを少量含む。
- 4 灰褐色土 橙色粘質土を僅かに含む。As-Bを多量に含む。

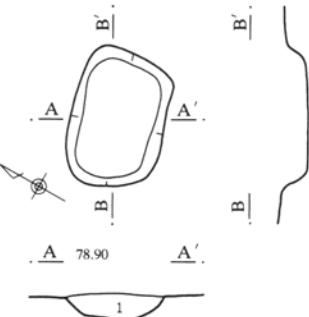
147号土坑



147号土坑

- 1 灰褐色土 FAブロックを僅かに含む。
- 2 灰褐色土 橙色粘質土粒、水田耕作土ブロックを少量含む。
- 3 灰褐色土 橙色粘質土粒を僅かに含む。
- 4 灰褐色土 橙色粘質土粒を僅かに含む。
- 5 灰褐色土 橙色粘質土粒を僅かに含む。軽石を多量に含む。
- 6 灰褐色土 水田耕作土ブロックを含む。

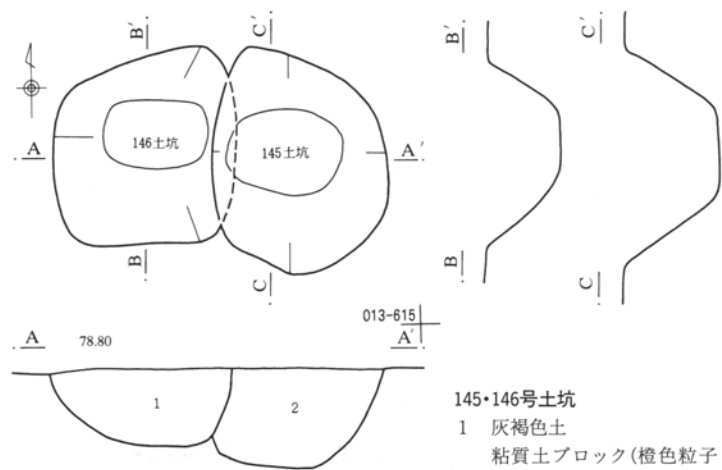
149号土坑



149号土坑

- 1 灰褐色土 水田耕作土ブロックを僅かに含む。砂質。

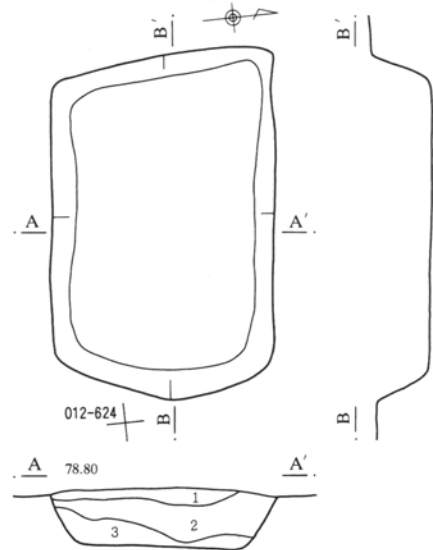
145・146号土坑



145・146号土坑

- 1 灰褐色土 粘質土ブロック(橙色粒子を斑状に含む)を多量に含む。水田耕作土ブロックを少量含む。
- 2 灰褐色土 粘質土ブロック(橙色粒子を斑状に含む)を少量含む。水田耕作土ブロックを僅かに含む。

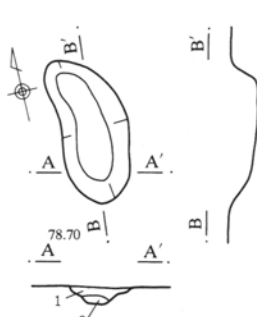
148号土坑



148号土坑

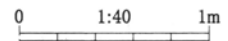
- 1 灰褐色土 鉄分粒を僅かに含む。砂質。
- 2 灰褐色土 水田耕作土ブロックを僅かに含む。FA粒を少量含む。砂質。
- 3 灰褐色土 水田耕作土ブロックを少量含む。FA粒を多量に含む。

153号土坑



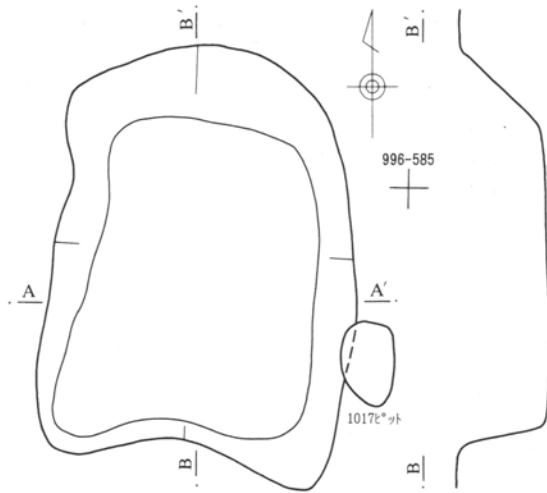
153号土坑

- 1 灰褐色土 As-B軽石。
- 2 灰褐色土 As-B軽石。粒子粗い。



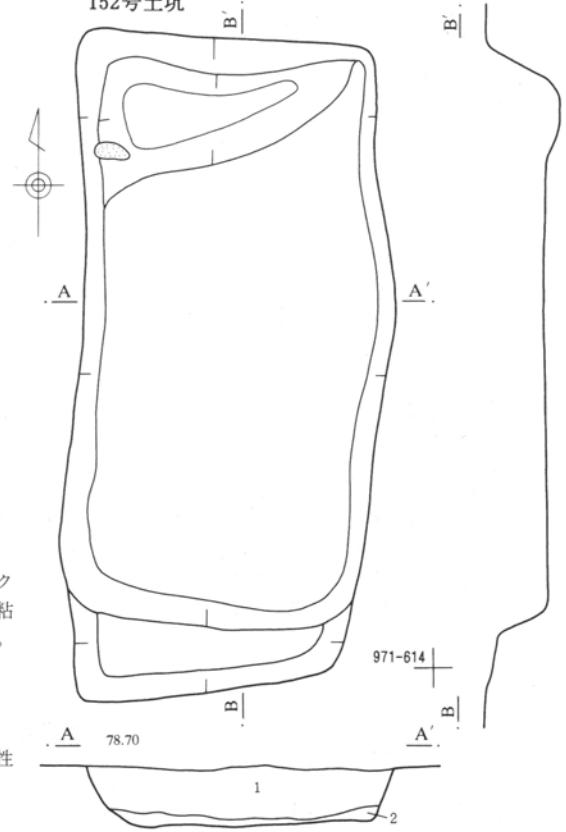
第346図 土坑実測図(34)

150号土坑



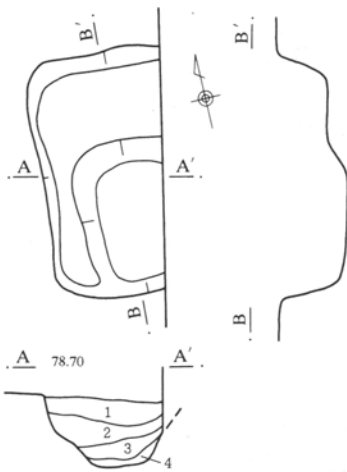
- 150号土坑
- 1 灰褐色土
水田耕作土ブロックを少量含む。橙色粘質土粒を少量含む。砂質。

152号土坑



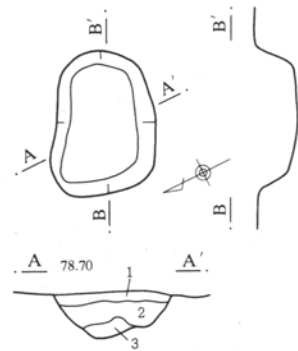
- 152号土坑
- 1 黒褐色土
As-B・黒褐色粘性土ブロックの混土。
 - 2 暗褐色土
As-Bの二次堆積土を斑状に含む。

151号土坑



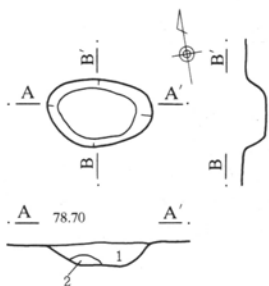
- 151号土坑
- 1 灰褐色土 水田耕作土粒を僅かに含む。
 - 2 灰褐色土 水田耕作土ブロックを多量に含む。
 - 3 灰褐色土 粘質土・橙色粒ブロックを含む。
 - 4 灰褐色土 As-Bを多量に含む。

154号土坑



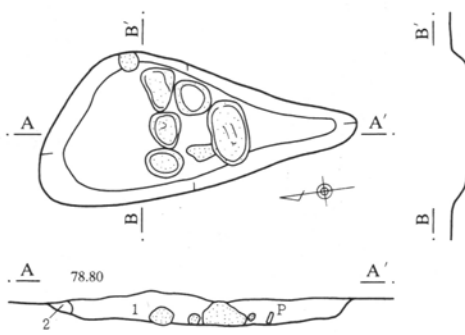
- 154号土坑
- 1 灰褐色土 As-Bの二次堆積土。
 - 2 灰褐色土 As-Bの二次堆積土。粒子は粗い。
 - 3 黒褐色土 As-Bと黒褐色粘性土ブロック混土。

155号土坑



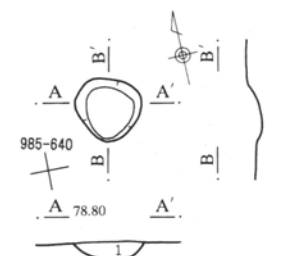
- 155号土坑
- 1 灰褐色土 As-Bの二次堆積。
 - 2 暗褐色土 粘性あり。

156号土坑

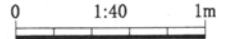


- 156号土坑
- 1 暗褐色土 黒色粘性ブロックを含む。
 - 2 黒色土 粘性土。

162号土坑

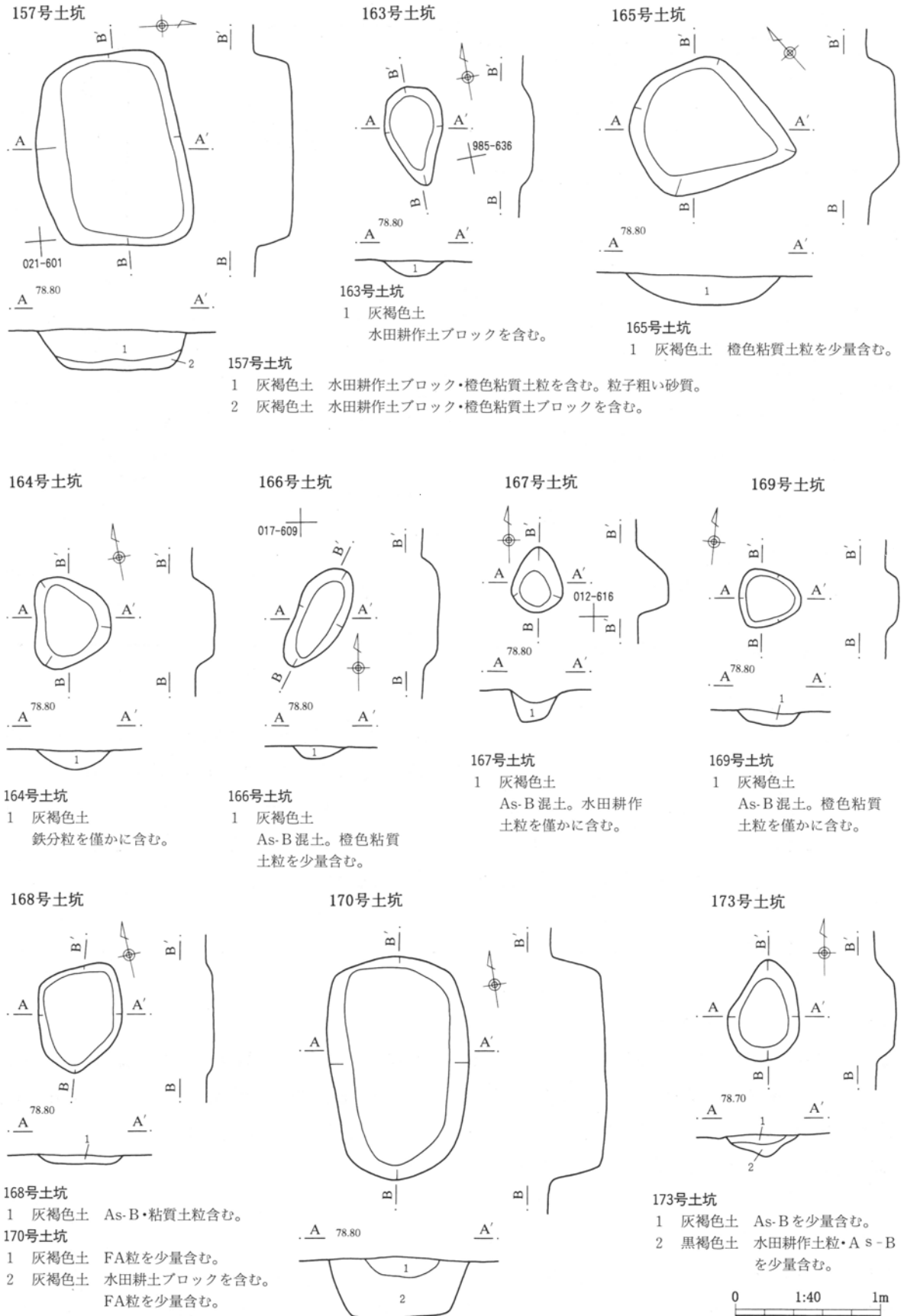


- 162号土坑
- 1 灰褐色土
水田耕作土粒を僅かに含む。

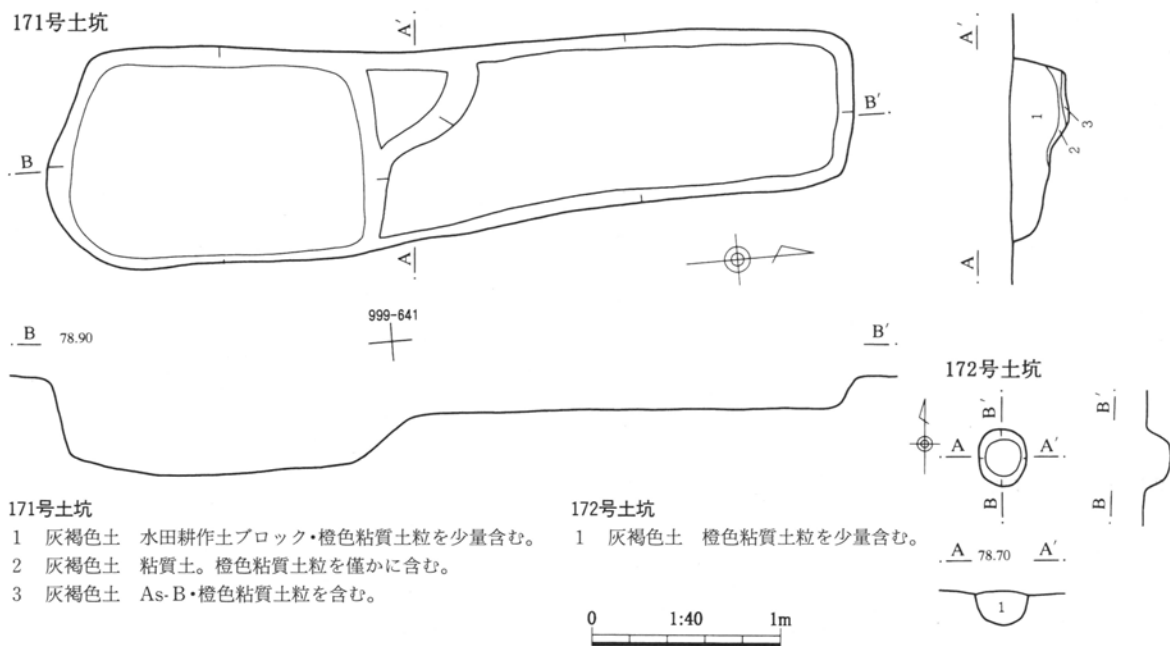


第347図 土坑実測図(35)

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)



第348図 土坑実測図(36)



- 171号土坑
 1 灰褐色土 水田耕作土ブロック・橙色粘質土粒を少量含む。
 2 灰褐色土 粘質土。橙色粘質土粒を僅かに含む。
 3 灰褐色土 As-B・橙色粘質土粒を含む。
- 172号土坑
 1 灰褐色土 橙色粘質土粒を少量含む。

第349図 土坑実測図(37)

(4) 井戸

概要 (第350～361図、PL-142～145)

中・近世面では、A-1区から2基、A-2区で1基、A-3区で5基、Aランプで1基、B区で2基、C区で3基、計14基の井戸が検出された。いずれも素掘りの井戸で、石組みや木枠はない。覆土からは、石礫や遺物が出土している。覆土にAs-Bの一次堆積層がないことや、As-B混土層があることから、As-B軽石降下後の所産と考えられる。埋土からは、故意に投げ入れたと考えられる人頭大～拳大の礫や、遺物の破片が出土している。また、埋土の堆積状況から、自然埋没と考えられる井戸もある。

A-1区の井戸

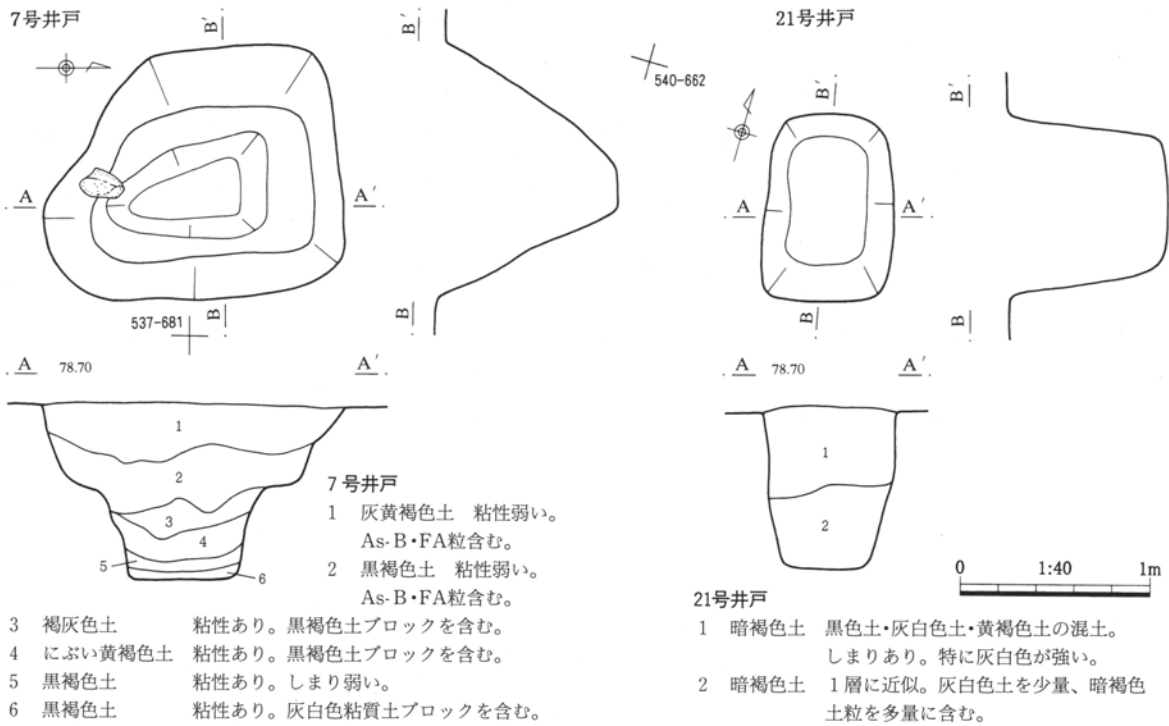
7号井戸 (第350図、PL-142)

位置 535—680グリッド 長軸方位 N-43°-W 形状 隅丸方形 規模 長軸174cm、短軸142cm、深さ94cm 重複 207溝よりも新しい時期の所産である。 調査所見 湧水層は不明。素掘りの井戸で、石組みや木枠はない。埋土も自然堆積であり、放棄された後の自然埋没の可能性が高い。

遺物 馬歯出土 (P-1,016参照)。拳大の礫が出土している。

21号井戸 (第350図、PL-142)

位置 535—675グリッド 長軸方位 N-15°-W 形状 隅丸長方形 規模 長軸98cm、短軸67cm、深さ84cm 重複 なし 調査所見 埋没土は上下2層に分かれ、自然堆積の可能性が高い。素掘りの井戸で、石組みや木枠はない。湧水層は不明。 遺物 なし

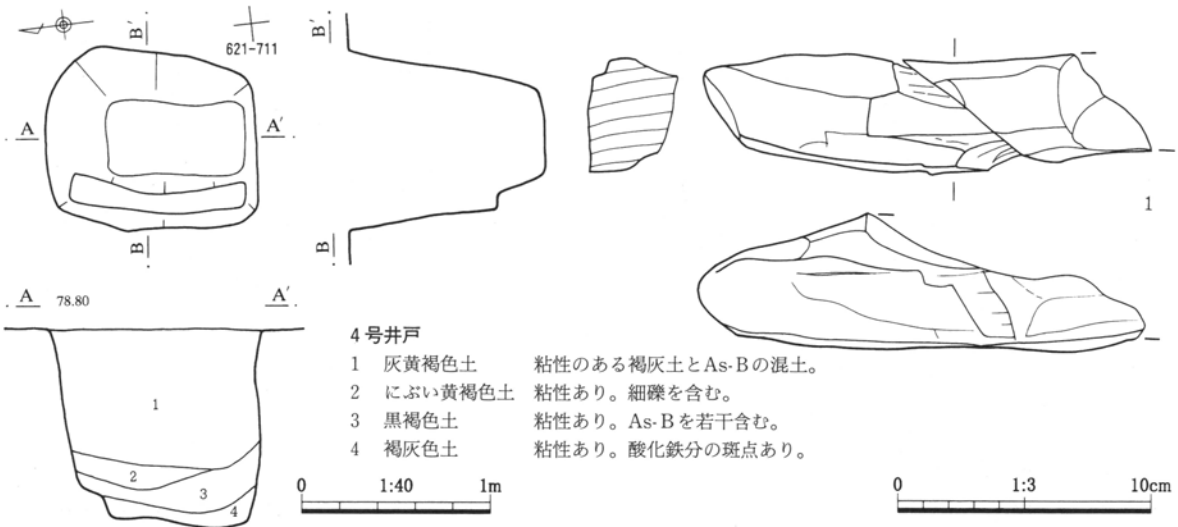


第350図 7・21号井戸実測図

A-2 区の井戸

4号井戸 (第351図、PL-142)

位置 620-710グリッド 長軸方位 N-7°-W 形状 隅丸長方形 規模 長軸112cm、短軸92cm、深さ102cm 重複 なし 調査所見 埋没土の状況から、自然堆積の可能性が高い。素掘りの井戸で、石組みや木枠はない。湧水層は不明。また、埋没土にAs-B軽石を含むことから、As-B降下(1,108年)以後の所産と考えられる。 遺物 1は木製杭か。長さ17.7cm、幅4.4cm。材はサイカチ近似種。

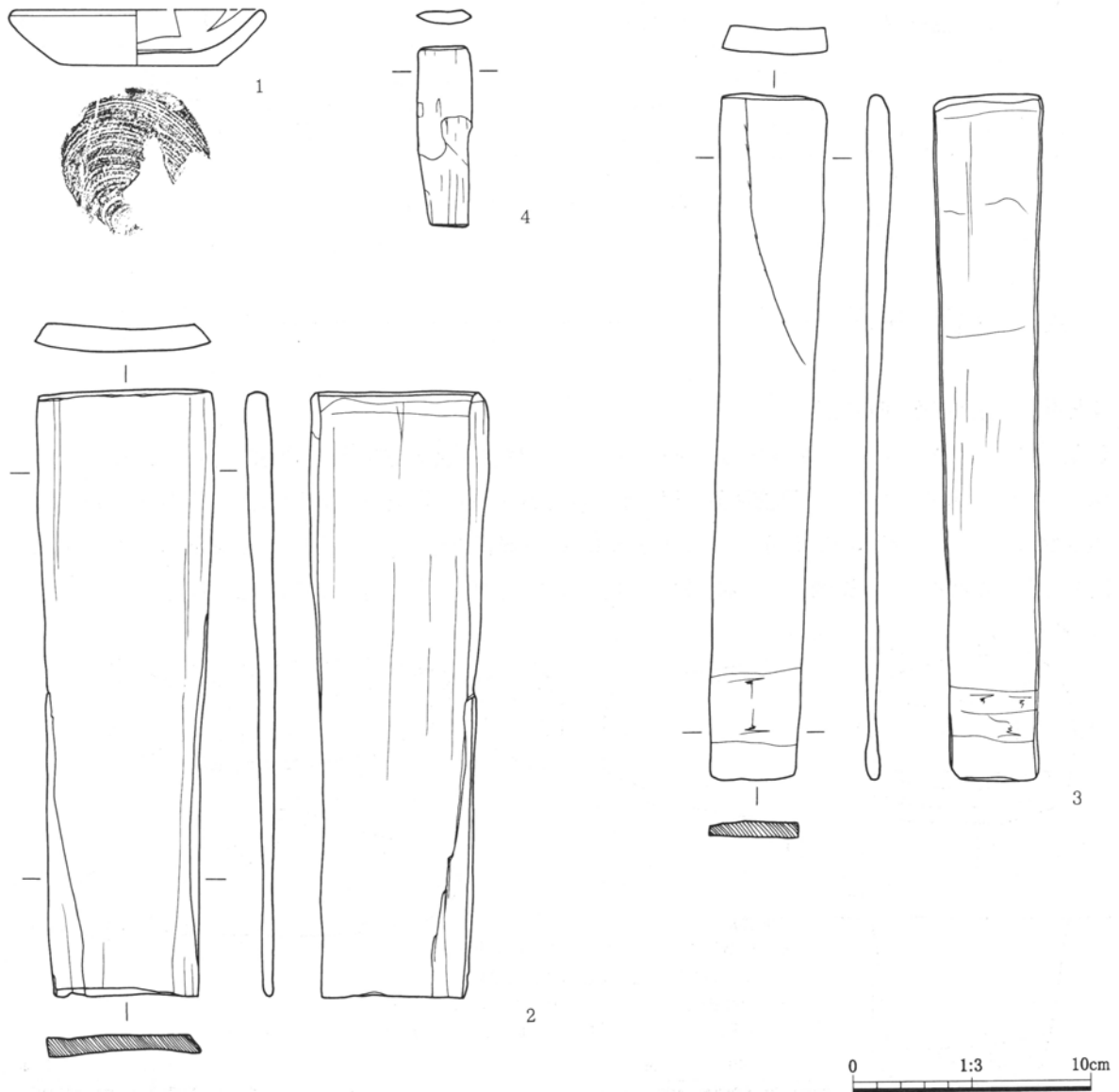


第351図 4号井戸実測図・出土遺物

A-3 区の井戸

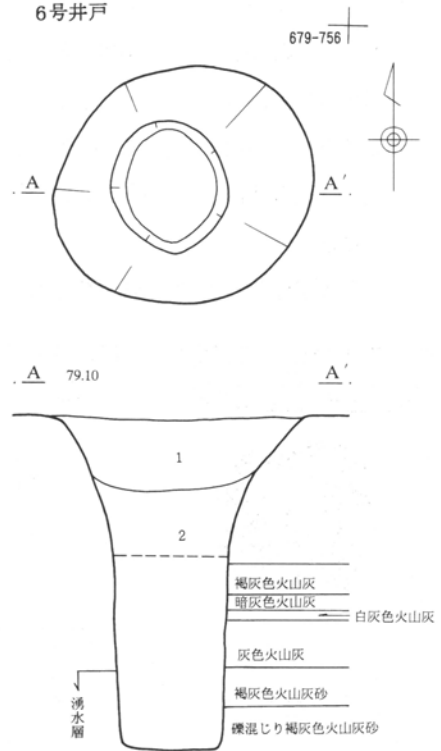
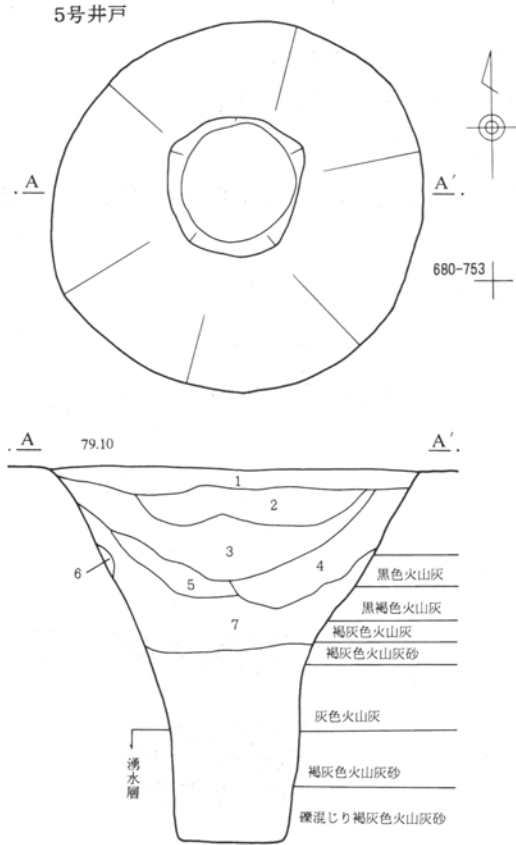
5号井戸 (第352・353図、PL-142・143)

位置 675-750グリッド 長軸方位 N 形状 円形 規模 長軸196cm、短軸193cm、深さ194cm
 重複 なし 調査所見 埋没土の状況から、人為的に埋められたと思われる。掘り方は、地山井筒朝顔型
 である。素掘りの井戸で、石組みや木枠はない。湧水層は、確認面より1.30mの褐灰色火山灰砂層より下層。
 湧水量は、にじみ出る程度である。 遺物 1はカワラケ2/3。口径10.8cm、底径6.6cm、器高2.4cm。轆轤
 成形、底部糸切り痕があり、中世。2～4は桶の側板。2は長さ25.3cm、幅7.5cm、厚さ1.0cm。3は長さ
 28.7cm、幅4.5cm、厚さ1.0cm。4は長さ7.4cm、幅2.3cm、厚さ0.5cm。その他、土師器片7点、須恵器片1点、
 陶器片1点、拳大の礫、桃の種子16点、木片2点、カワラケの破片等が出土している。



第352図 5号井戸出土遺物

2. 中・近世面（鎌倉時代～近世）

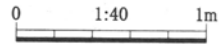


5号井戸

- 1 暗褐色土 As-B混土。酸化鉄分が斑点状に見られる。
- 2 暗褐色土 As-B混土。FA粒・凝固鉄分ブロックを含む。
- 3 暗褐色土 As-B混土。乳白色粘質土・FAブロックを含む。
- 4 暗褐色土 As-B混土。FA粒を含む。しまりなし。
- 5 暗黒褐色土 FA粒・乳白色・黒色土ブロックを含む。粘性あり。
- 6 黒色土 砂質土。
- 7 暗褐色土 砂質土。FA粒・黒色土ブロックを含む。

6号井戸

- 1 暗褐色土 やや砂質。FAブロックを少量含む。
- 2 暗褐色土 粘性ややあり。FAブロックを少量含む。



第353図 5・6号井戸実測図

6号井戸（第353図、PL-143）

位置 675—755グリッド **長軸方位** N-49°-E **形状** 円形 **規模** 長軸134cm、短軸118cm、深さ176cm **重複** 494溝との新旧関係は不明である。 **調査所見** 埋没土の状況から、人為的に埋められたと思われる。掘り方は、地山井筒朝顔型である。素掘りの井戸で、石組みや木枠はない。湧水層は、確認面より1.40mの褐灰色火山灰砂層より下層。湧水量は、井壁からにじみ出る程度である。

遺物 人頭大の礫2点、桃の種子10点等が出土している。

10号井戸（第354・355図、PL-143・144）

位置 675—790グリッド **長軸方位** N **形状** 円形 **規模** 長軸248cm、短軸215cm、深さ160cm **重複** 326溝より古い時期の所産である。 **調査所見** 埋没土の状況から、人為的に埋められたと思われる。掘り方は、地山井筒朝顔型である。素掘りの井戸で、石組みや木枠はない。湧水層は、確認面より1.20mの褐灰色火山灰砂層より下層。湧水量は、にじみ出る程度である。 **遺物** 1はカワラケ。口径10.0cm、底径6.8cm、器高2.5cm。完形で、口縁部が若干内湾する。時期は中世。

第2章 遺構と遺物

2は陶器小皿の口縁～底部破片。口径11.9cm、底径7.0cm、器高2.5cm。轆轤成形で、見込に目痕が2ヶ所見られる。長石釉を施す。灯明皿として使用している。美濃産で、16世紀末～17世紀。

3は陶器皿の口縁片。鉄絵を施し、長石系透明釉を施釉。産地は瀬戸・美濃で、17世紀。

4は陶器小皿の口縁片。長石系透明釉を施釉。産地は瀬戸・美濃で、17世紀。

5は陶器皿の体部片。錆釉を施し、外面は釉を拭い取る。口縁部には灰釉施釉か。瀬戸・美濃産で、17世紀中～18世紀。

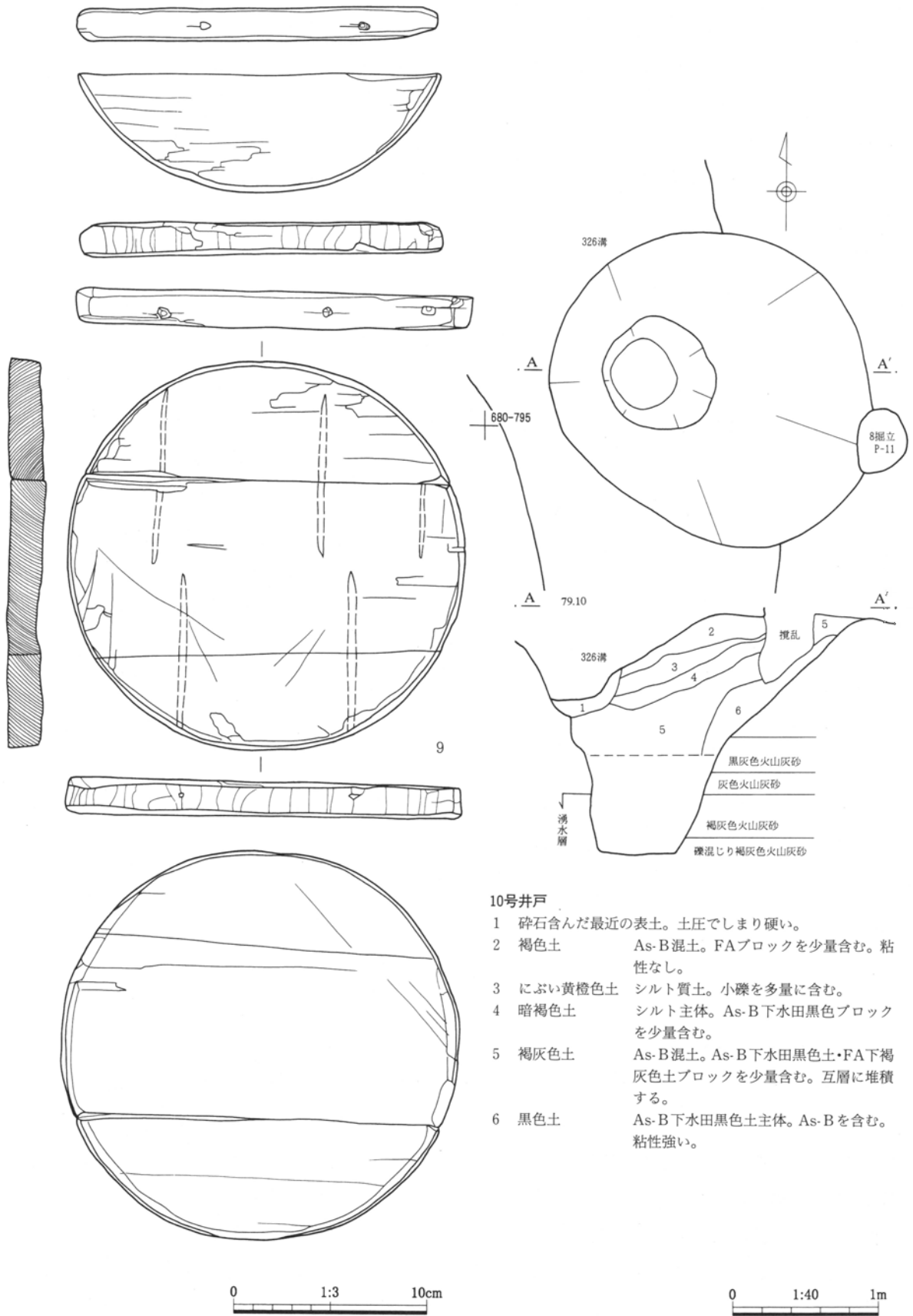
6・7は搦鉢の口縁片。錆釉を施釉。6・7ともに産地は瀬戸・美濃で、17世紀後半。



8・9は木製品。8は杓子。長さ28.5cm、幅7.6cm、柄厚1.5cm。一部欠損しているが、遺存状況が良好である。9は桶底、ヒノキ属。径20.6cm、厚さ1.9cmで、3枚の板材を木釘を使用して、底板を組んでいる。その他、土師器片1点、須恵器片2点、陶器片12点、礫15点等が出土している。

第354図 10号井戸出土遺物

2. 中・近世面（鎌倉時代～近世）



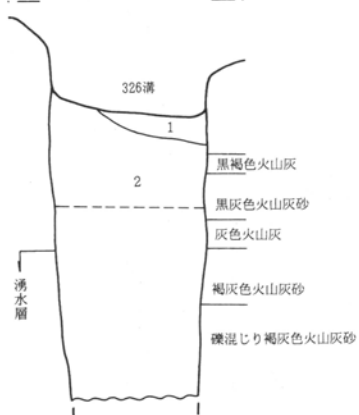
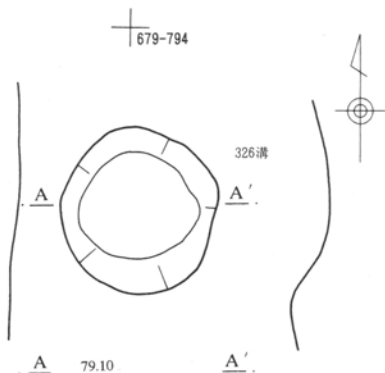
第355図 10号井戸実測図・出土遺物

11号井戸 (第356図、PL-144)

位置 675—795グリッド 長軸方位 N 形状 円形 規模 長軸86cm、短軸76cm、深さ210cm

重複 326溝より新しい時期の所産である。 調査所見 埋没土の状況から、人為的に埋められたと思われる。掘り方は、地山井筒朝顔型である。素掘りの井戸で、石組みや木枠はない。湧水層は、確認面より1.30mの褐灰色火山灰砂層より下層。湧水量は、にじみ出る程度である。遺物や、覆土にAs-Bが含まれていることから、As-B降下以後の井戸と考えられる。 遺物 拳大～人頭大の礫80点、桃の種子片2点が出土している。

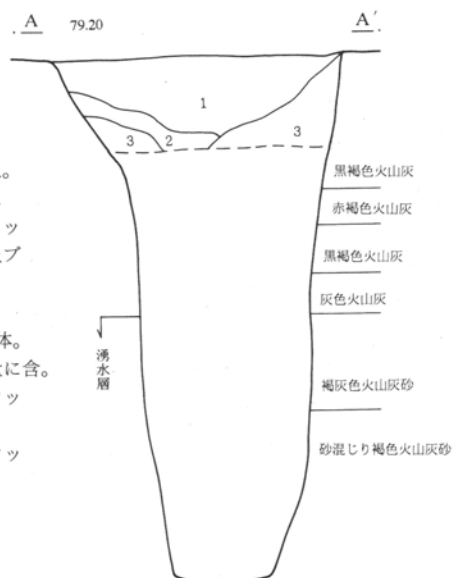
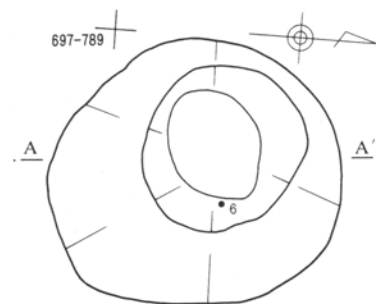
11号井戸



11号井戸

- | | | |
|-------|-------|---------------------------------|
| 1 | 黒褐色土 | As-B下水田黒色土。FAブロックを含む。 |
| 2 | 褐灰色土 | As-B混土。FAブロックを含む。黒色粘土ブロックを少量含む。 |
| 16号井戸 | | |
| 1 | 灰黄褐色土 | 粘性弱い。As-B主体。褐色ブロックを多量に含。 |
| 2 | 黒色土 | As-B混土。FAブロックを少量含む。 |
| 3 | 黒褐色土 | FA・白色粘土ブロックを少量含む。 |

16号井戸



第356図 11・16号井戸実測図

16号井戸 (第356・357図、PL-144)

位置 695—785グリッド 長軸方位 N-43°-W 形状 円形 規模 長軸158cm、短軸136cm、深さ275cm

重複 346溝より新しい時期の所産である。 調査所見 埋没土の状況から、人為的に埋められたと思われる。掘り方は、地山井筒朝顔型である。素掘りの井戸で、石組みや木枠はない。湧水層は、確認面より1.28mの褐灰色火山灰砂層より下層。湧水量は、にじみ出る程度である。

遺物 1は陶器碗。飴釉を施し、口縁内面は白濁釉を施す。瀬戸・美濃産で、18世紀。

2は磁器碗1/2。口径8.2cm、底径3.7cm、器高4.5cm。草花文染付で、高台畳付のみ無釉。肥前波佐見系で、18世紀。

3は陶器碗の体～底部片2/5。呉器手碗。産地は肥前で、18世紀。

4は陶器皿体～底部片。見込に鉄絵を施す。美濃(志野)産で、17世紀。

5は陶器灯明皿。轆轤成形。口縁付近に鉄釉が見られる。産地は志戸呂系で、19世紀か。

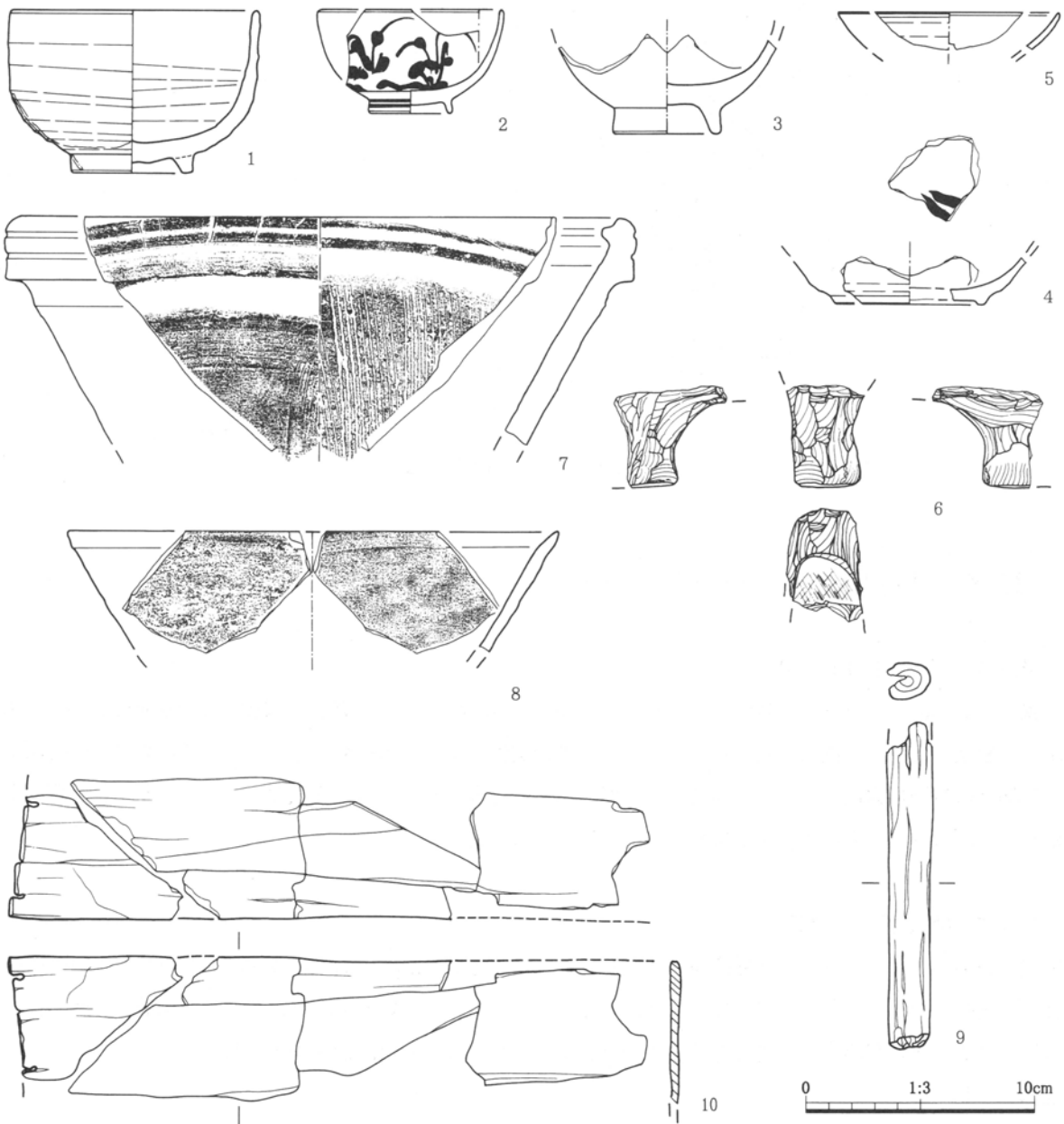
6は軟質陶器の脚部と思われる(獣足か)。篋状工具の成形痕が見られる。胎土は細粒で、白色と黒色の小さな鉱物粒を含有。焼成良好。

7は陶器播鉢の口縁～体部破片。内面に1単位10条の卸目がある。口縁部は外面に2条線が入る。焼成良好。産地は堺で、18世紀。

8は軟質陶器の鍋。口縁～体部破片。口縁部横撫で。江戸時代。

9・10は木器。9は棒状の加工材で、長さ14.2cm、径2.0cm。10は板状の加工材で、長さ28.0cm、幅6.2cm、厚さ0.4cm。双方ともに用途不明。

陶器片5点、人頭大～拳大の礫7点、木片1点、カワラケ、播鉢等が出土している。



第357図 16号井戸出土遺物

Aランプ区の井戸

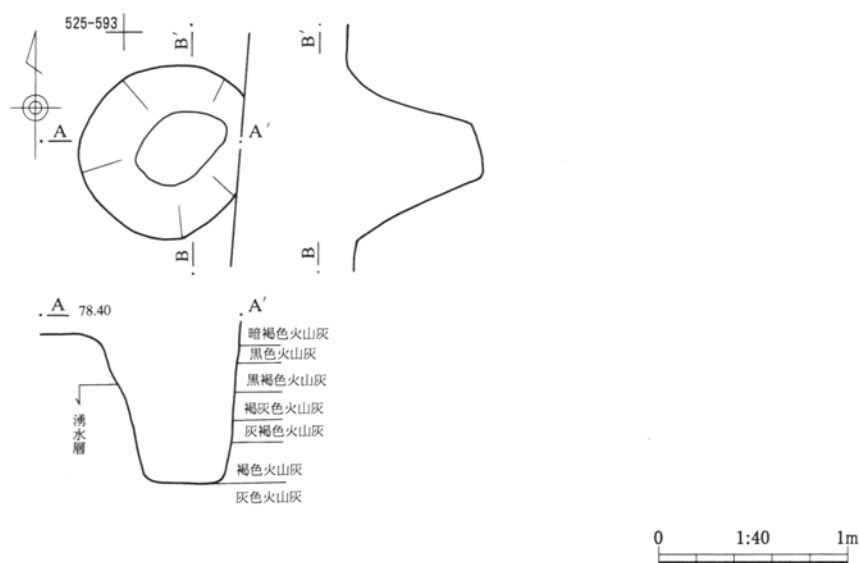
13号井戸 (第358図)

位置 520—590グリッド 長軸方位 N-49°-W 形状 円形

規模 長軸94cm、短軸88cm、深さ85cm 重複 なし

調査所見 掘り方は、地山井筒朝顔型で、石組みや木枠はない。湧水層は確認面から1.30mの褐灰色火山灰層より下層である。湧水量は、壁面からにじみ出る程度である。

遺物 なし



第358図 13号井戸実測図

B区の井戸

1号井戸 (第359図、PL-144)

位置 680—660グリッド 長軸方位 N-28°-W 形状 円形 規模 長軸68cm、短軸62cm、深さ125cm 重複 なし

調査所見 掘り方は、地山井筒朝顔型で、石組みや木枠はない。湧水層は、確認面から1.30mの褐灰色火山灰層より下層である。湧水量は、壁面からにじみ出る程度である。底面付近の埋没土から、人頭大～拳大の礫が出土している。 遺物 なし

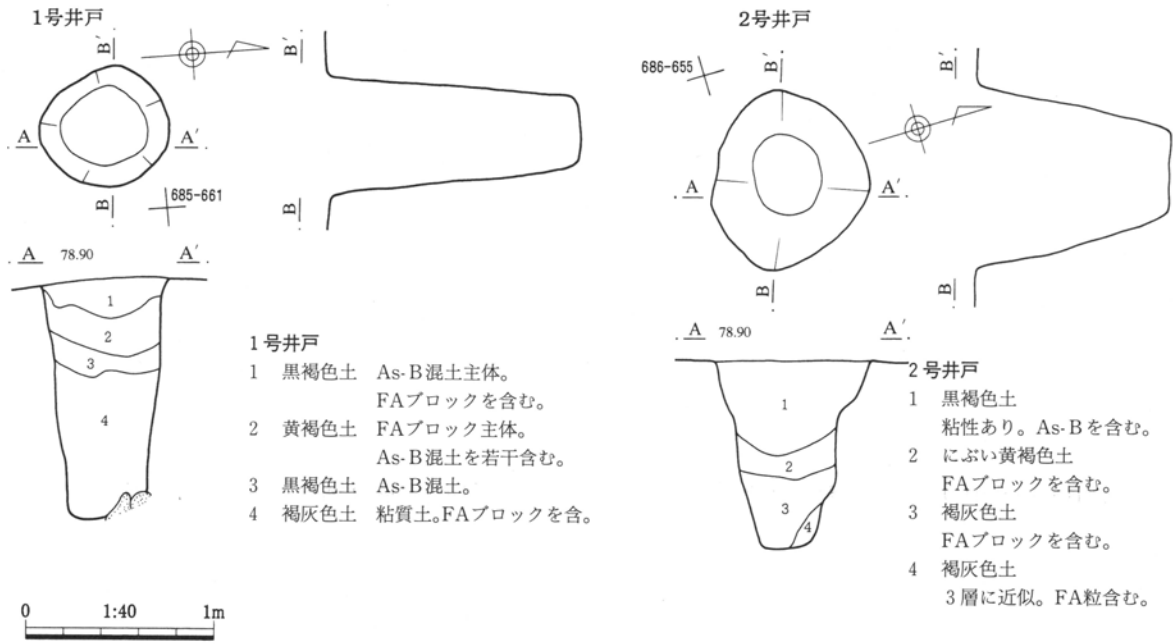
2号井戸 (第359図、PL-145)

位置 685—650グリッド 長軸方位 N-76°-E 形状 円形 規模 長軸96cm、短軸82cm、深さ100cm 重複 なし

調査所見 掘り方は、地山井筒朝顔型で、石組みや木枠はない。湧水層は不明。湧水量は、壁面からにじみ出る程度である。堆積状況から、自然埋没の可能性が考えられる。

遺物 なし

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)

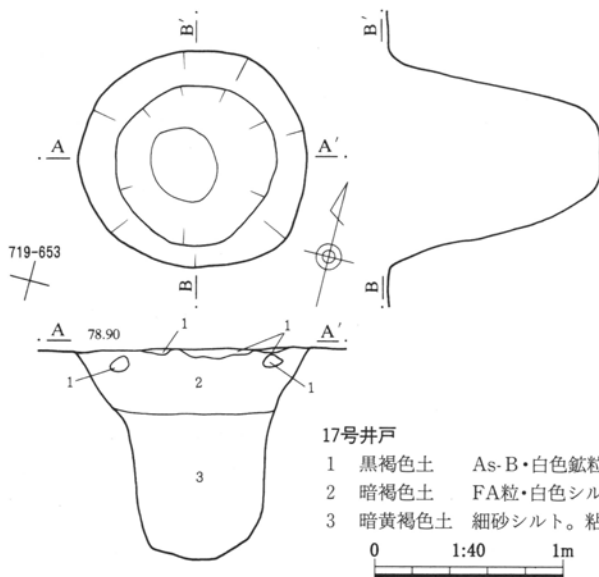


第359図 1・2号井戸実測図

C区の井戸

17号井戸 (第360図、PL-145)

位置 715—650グリッド 長軸方位 N-76°-E 形状 円形 規模 長軸122cm、短軸112cm、深さ110cm 重複 なし 調査所見 掘り方は、地山井筒朝顔型で、石組みや木枠はない。湧水層は、確認面から1.30mの褐灰色火山灰層より下層である。湧水量は、壁面からにじみ出る程度である。底面付近の埋没土から、人頭大～拳大の礫が出土している。 遺物 なし



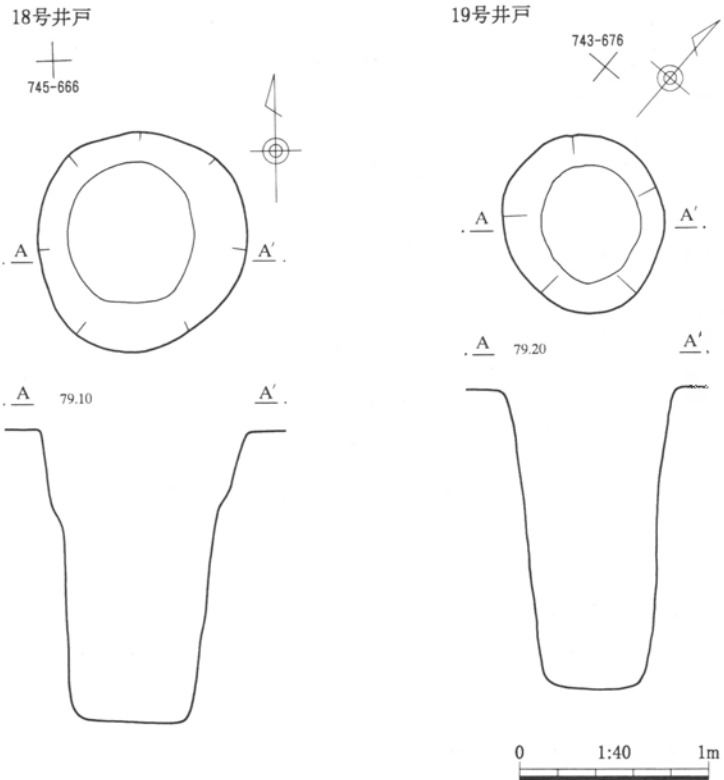
第360図 17号井戸実測図

18号井戸 (第361図、PL-145)

位置 740—665グリッド 長軸方位 N-33°-E 形状 円形 規模 長軸114cm、短軸110cm、深さ154cm 重複 なし 調査所見 掘り方は、地山井筒朝顔型で、石組みや木枠はない。湧水層は不明。湧水量は、壁面からにじみ出る程度である。堆積状況から、自然埋没の可能性が考えられる。 遺物 なし

19号井戸 (第361図、PL-145)

位置 740—675グリッド 長軸方位 N-42°-W 形状 円形 規模 長軸96cm、短軸85cm、深さ159cm 重複 なし
 調査所見 掘り方は、地山井筒朝顔型で、石組みや木枠はない。湧水層は不明。湧水量は、壁面からにじみ出る程度である。堆積状況から、自然埋没の可能性が考えられる。
 遺物 なし



第361図 18・19号井戸実測図

(5) 中・近世屋敷跡

概要 (第362・363図、PL-146)

A-3区の北半部と、隣接する県道前橋・長瀬線部分で検出された、大溝に囲まれた部分が、中世から近世前半にかけての屋敷跡である。溝に囲まれた地域からは、掘立柱建物6基・井戸4基、その他多くの土坑・ピット等が集中して検出された。掘立柱建物や井戸が確認できたが、中心的建物は、当遺跡の調査区外にあると思われる、検出された遺構群は、付属施設であったと思われる。

また、屋敷跡を東西に分ける、南北方向の溝(264溝)があり、居住域があったとすれば、掘立柱建物や井戸などが集中している、西半部分にあったことが推測できる。南辺を流れる264溝は、その位置を若干移動させながら、近・現代まで用水路としても利用されていたことがわかっている。近世に、屋敷跡を耕地にして、生産域を拡大したことが想定される。

遺物から見ると、17世紀の後半頃には、屋敷跡も耕地に転換され、現在に至ったものと推定できる。屋敷跡は、戦国大名である甲斐武田家とつながる、江原氏との関係が想定できる。江原氏については、As-A下面のところでも触れたが、江戸時代の1,600年代初めに、滝川(天狗岩用水・代官堀)建設に当たり、活躍した土着豪族である。

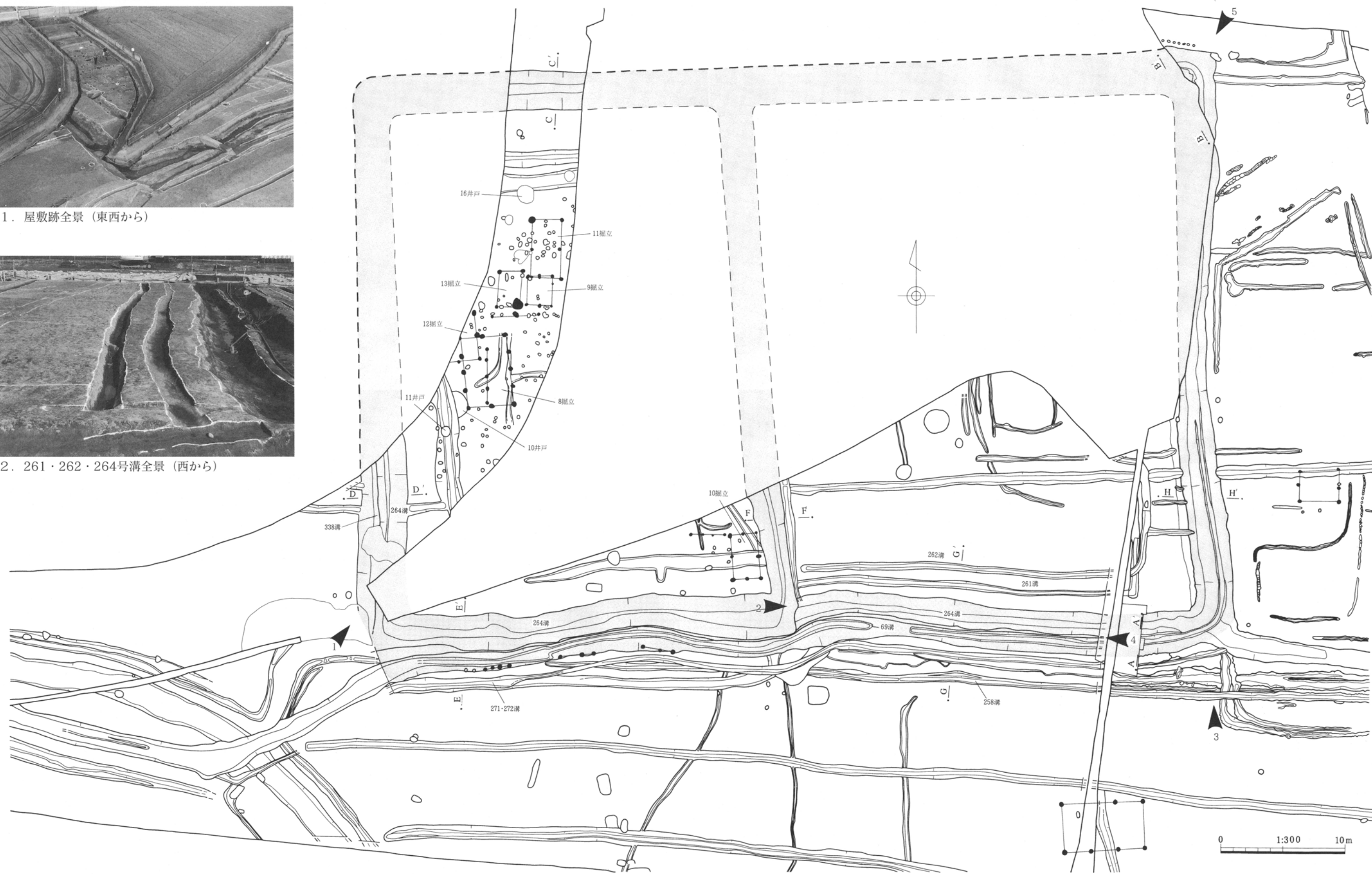
各遺構の詳細は、それぞれの項目を参照していただきたい。



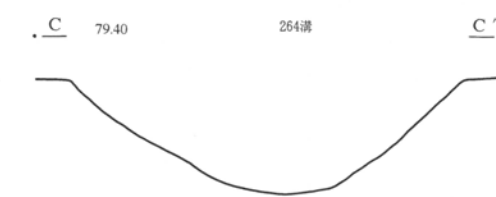
1. 屋敷跡全景 (東西から)



2. 261・262・264号溝全景 (西から)



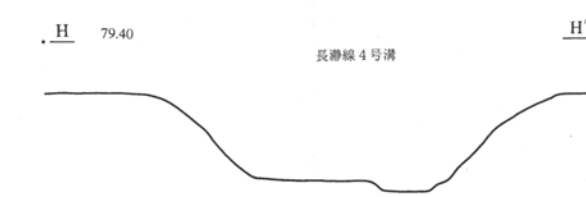
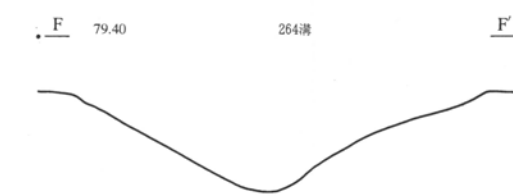
第362図 中・近世屋敷跡実測図(1)



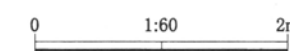
3. 長潯線4号溝全景 (南から)

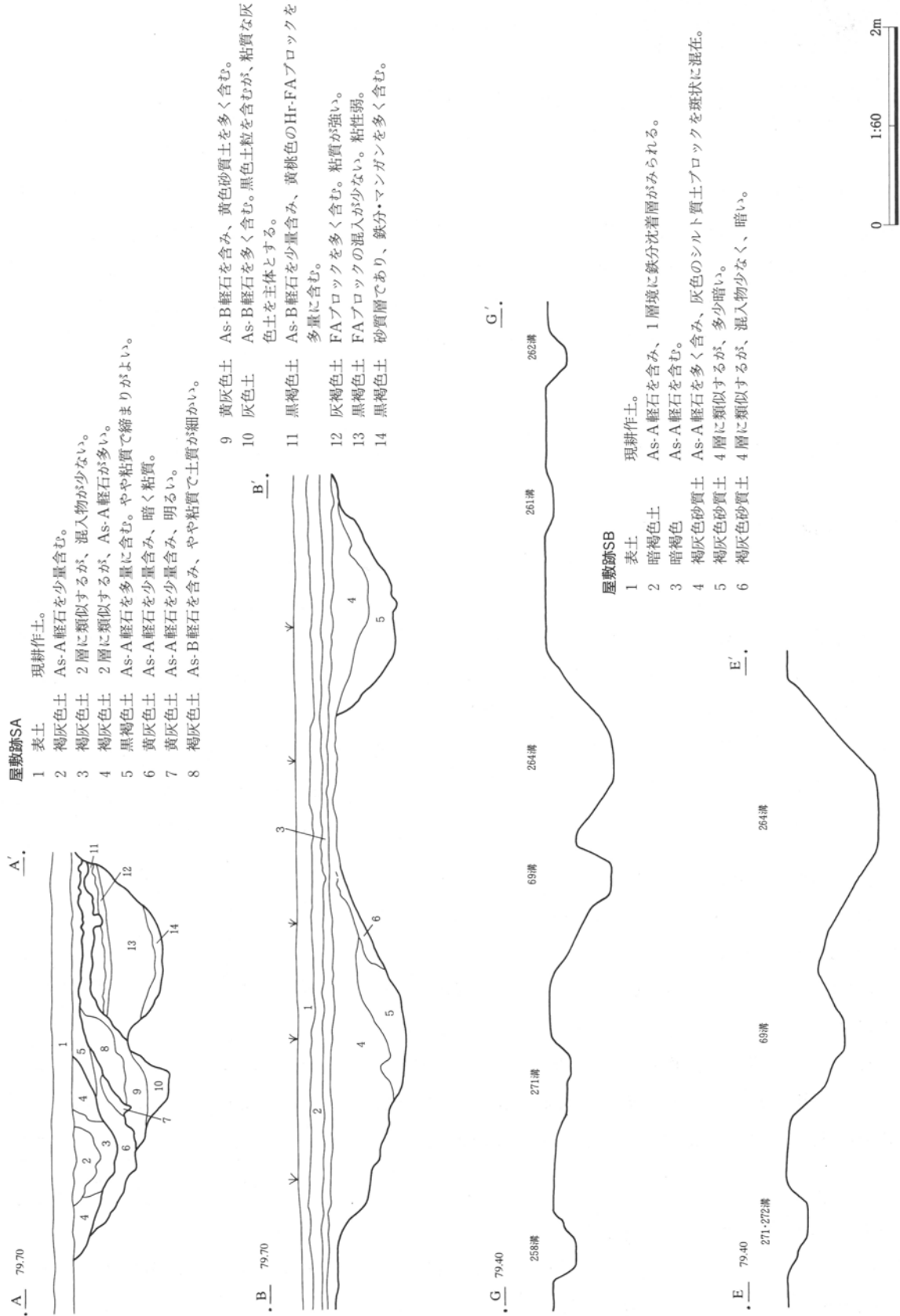


4. 69・264号溝全景 (東から)



5. 長潯線4号溝セクション (北から)





第363図 中・近世屋敷跡実測図(2)

(6) 掘立柱建物

概要 (第364～382図、PL-147～155)

中・近世面での掘立柱建物は、A-3区で7基、B区で6基、計13基検出された。A-3区は、位置・遺物等から、屋敷跡に伴う付属施設としての掘立柱建物と考えられる。B区で検出された掘立柱建物は、すべて調査区の北半部に集中している。B区北半は、中世には周辺よりも若干高い微高地となっていたことがわかっており、周辺生産域との境界部分につくられた掘立柱建物であったことが推測される。このことは、溝・土坑・井戸等が集中していることから、推測できよう。

以下、掘立柱建物の詳細を報告していく。

A-3区の掘立柱建物

8号掘立柱建物 (第364図、PL-147)

位置 680-785・790グリッド **主軸方位** N-10°-W **調査所見** 長軸方向の柱間(桁行)は、北側が1.95m・1.85m、南側が1.85m・1.92mで、約6尺。短軸方向の柱間(梁行)は、西側の北から、1.50m・1.35m・1.45m・1.48m、東側の北から、1.43m・1.45m・1.47m・1.49mで、約5尺である。検出された建物は、長軸・短軸ともに2間以上の規模を持つが、総柱建物ではない。棟は南南東～北北西と考えられる。総柱では無いことから、床の無い建物であった可能性が高い。5柵列がほぼ中央部にあるが、軸がずれることから、異なる時期の所産と考えたい。 **遺物** なし **柱穴** 径が20～50cm、深さ30～50cmほどの円形の柱穴が、12基検出できた。大きさは、表の通り。

番号	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
1	40	40	50
2	34	33	33
3	39	33	40
4	40	33	36
5	36	31	30
6	45	38	44
7	20+	—	36
8	48	44	36
9	50	42	41
10	44	37	42
11	46	34	44
12	44	42	40

9号掘立柱建物 (第364図、PL-148)

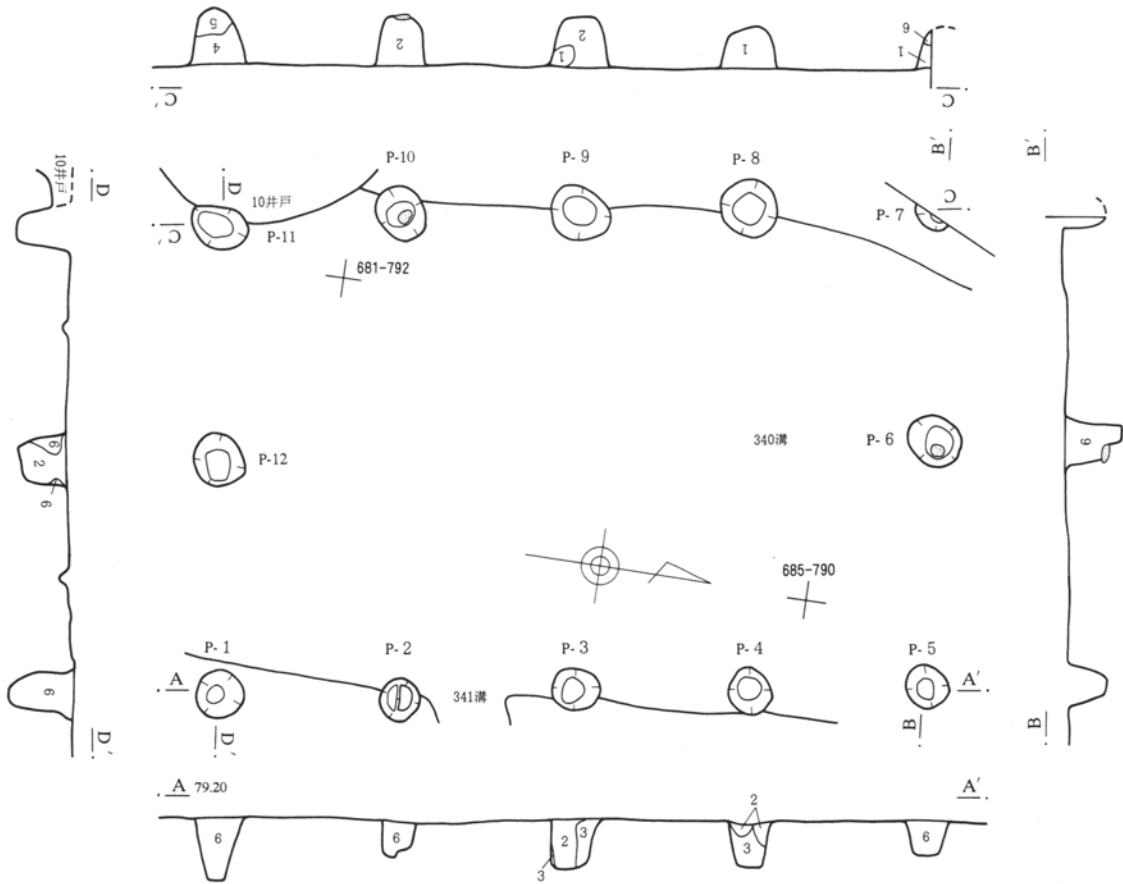
位置 685・690-785グリッド **主軸方位** N **調査所見** 長軸方向の柱間(桁行)の長さは、2.28m・2.40m(約8尺)。短軸方向の柱間(梁行)の長さは、0.95m・1.02m・1.00m・0.95m(約3尺)である。総柱では無いことから、床の無い建物であった可能性が高い。11掘立柱建物との関係が想像されるが、細部は不明。 **遺物** なし **柱穴** 径が20～40cm、深さ12～60cmほどの円形の柱穴が、6基検出できた。大きさは、表の通り。

番号	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
1	24	22	12
2	24	20	21
3	43	24	44
4	33	26	39
5	26	23	26
6	40	36	68

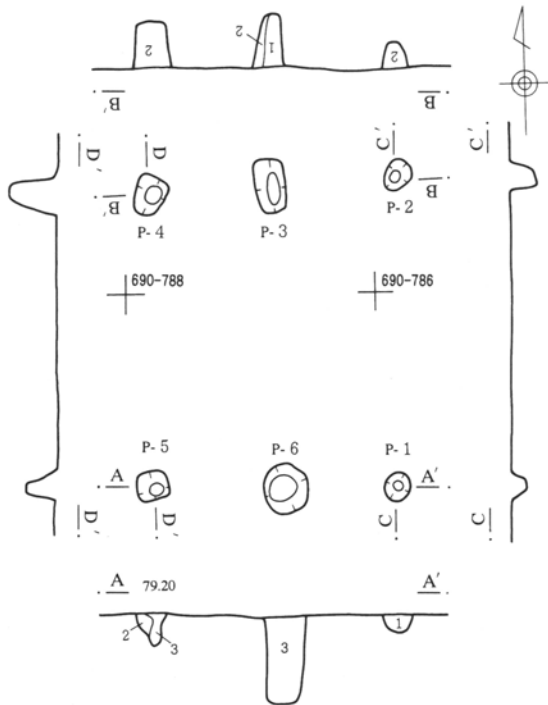
10号掘立柱建物 (第365図、PL-149・150)

位置 665・670-765・770グリッド **主軸方位** N-8°-W **調査所見** 短軸方向の柱間(梁行)は、北側が1.06m・1.12m、南側が1.15m・1.14mで、約3尺。長軸方向の柱間(桁行)は、西側が1.73m・1.85m、東側が1.91m・1.78mで、約6尺である。検出された建物は、長軸・短軸ともに2間以上の規模を持つが、総柱建物ではない。総柱では無いことから、床の無い建物であった可能性が高い。掘立柱建物より

8号掘立柱建物



9号掘立柱建物

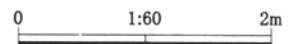


8号掘立柱建物

- 1 黒色土 As-B混土。FAブロックを少量含む。粘性なし。
- 2 にぶい黄褐色土 As-B混土。粘性弱くにぶい黄褐色土を含む。しまりあり。
- 3 黄橙色土 FAブロック主体。As-Bを含む。粘性弱い。
- 4 褐灰色土 粘性弱い。FAブロックを含む。
- 5 黄褐色土 粘性あり。FAブロック主体に褐灰色土含む。
- 6 黒褐色土 As-B混土。FA・As-B下水田黒色粘質土ブロックを含む。しまりあり。

9号掘立柱建物

- 1 にぶい黄橙色土 As-B混土。粘性弱いにぶい黄橙土を含む。しまりあり。
- 2 黒褐色土 As-B混土。FA・As-B下水田黒色粘質土含む。
- 3 黒色土 As-B混土。FAブロックを少量含む。粘性なし。



第364図 8・9号掘立柱建物実測図

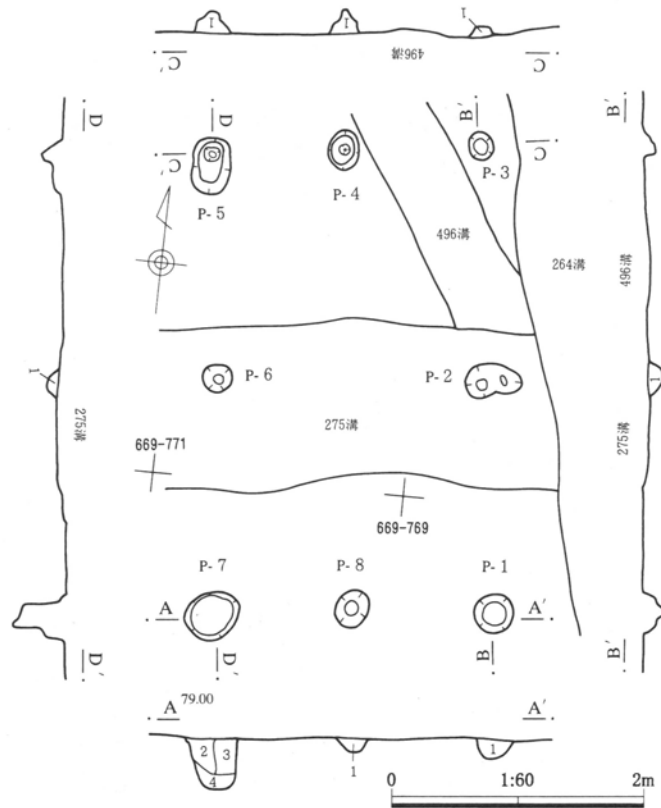
第2章 遺構と遺物

新しい275溝が、中央部を東西に走る。遺物 なし 柱穴 径が19~45cm、深さ6~41cmほどの円形の柱穴が、8基検出できた。大きさは、表の通り。

番号	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
1	30	30	15
2	43	22	9
3	22	19	6
4	32	24	20
5	45	31	18
6	23	22	8
7	44	37	41
8	30	26	13

10号掘立柱建物

- 1 黒褐色土
粘性あり。FAブロック、As-Bを含む。
- 2 灰黄褐色土
粘性弱い。FAブロックを多量に含む。
- 3 褐灰色土
粘性あり。FA粒を含む。
- 4 褐灰色土
粘性あり。FA粒・黒褐色粘質土ブロックを含む。



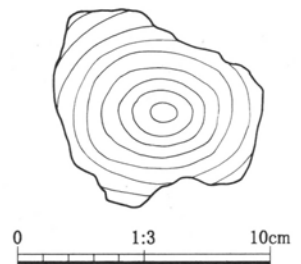
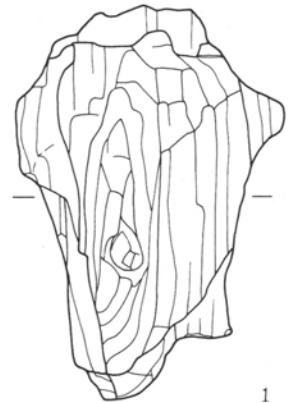
第365図 10号掘立柱建物実測図

11号掘立柱建物 (第366・367図、PL-150)

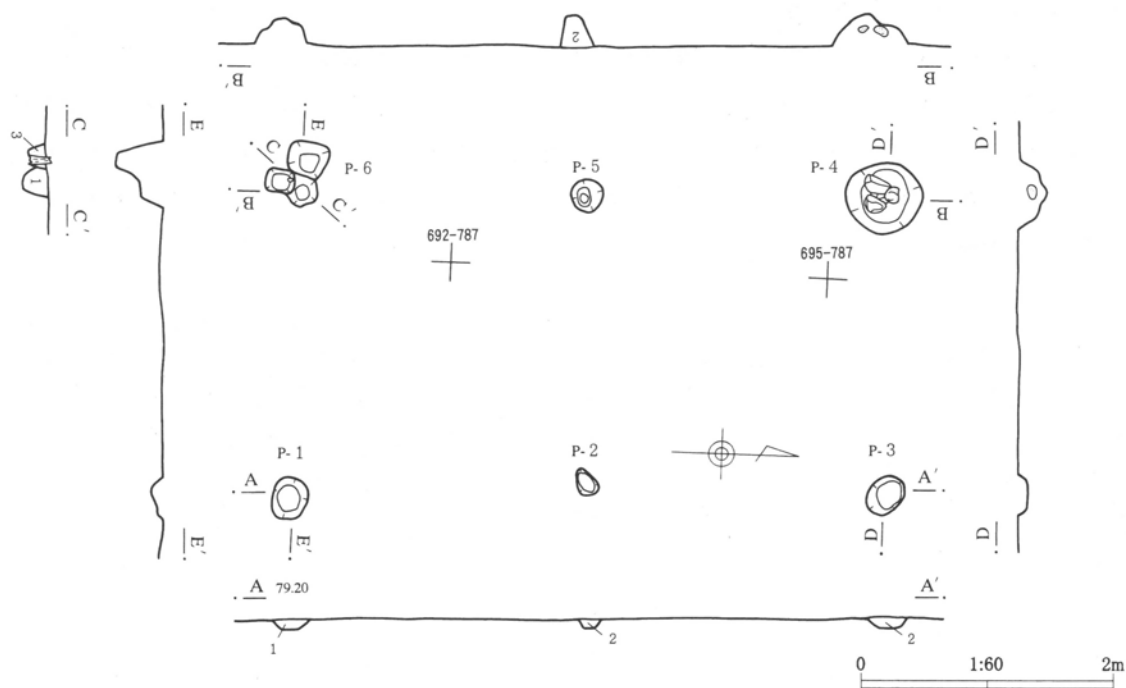
位置 690・695-785グリッド 主軸方位 N-8°-W

調査所見 短軸方向の柱間(梁行)は、北側が2.45m・2.50mで約8尺。長軸方向の柱間(桁行)は、西側が2.36m・2.30m、東側が2.40m・2.40mで約8尺である。総柱建物では無いことから、床の無い建物であった可能性が強い。9号掘立柱建物との関係が窺われるが、詳細は不明である。P-5からは、柱材が出土した。遺物 1はP-5出土柱材。長さ15.6cm、幅10.6cm、厚さ7.7cm。柱穴 径が22~56cm、深さ9~25cmほどの円形の柱穴が、6基検出できた。大きさは、表の通り。

番号	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
1	34	29	10
2	22	18	10
3	37	26	9
4	63	56	25
5	26	25	24
6	22+	18+	17



第366図 11号掘立柱建物出土遺物



11号掘立柱建物

- 1 にぶい黄褐色土 As-B混土。粘性弱くにぶい黄褐色土を含む。しまりあり。
- 2 黒色土 As-B混土。FAブロックを少量含む。粘性・しまりなし。
- 3 黒褐色土 As-B混土。FAブロック、As-B下水田黒色粘質土を含む。しまりなく柔らかい。

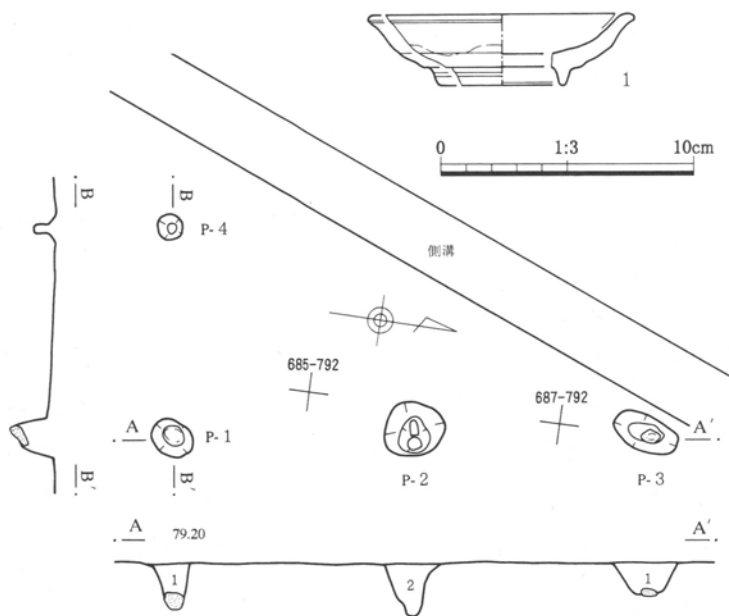
第367図 11号掘立柱建物実測図

12号掘立柱建物 (第368図、PL-151)

位置 680・685—790グリッド

主軸方位 N-8°-W

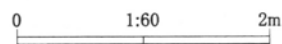
調査所見 長軸方向の柱間 (桁行) は、1.80m・1.89mで約6尺。短軸方向の柱間 (梁行) は、1.15mで約4尺である。遺物 1は陶器小皿の口縁～体部破片。口径10.4cm、底径5.0cm、器高2.8cm。灰釉施釉し、17世紀の瀬戸・美濃産と思われる。柱穴 径が21～53cm、深さ17～45cmほどの円形の柱穴が、4基検出できた。



12号掘立柱建物

- 1 黒色土 As-B混土。FAブロックを少量含む。粘性なし。
- 2 にぶい黄褐色土 As-B混土。粘性弱くにぶい黄褐色土を含む。しまりあり。粘性弱い。

番号	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
1	34	28	36
2	45	44	45
3	53	27	23
4	21	20	17

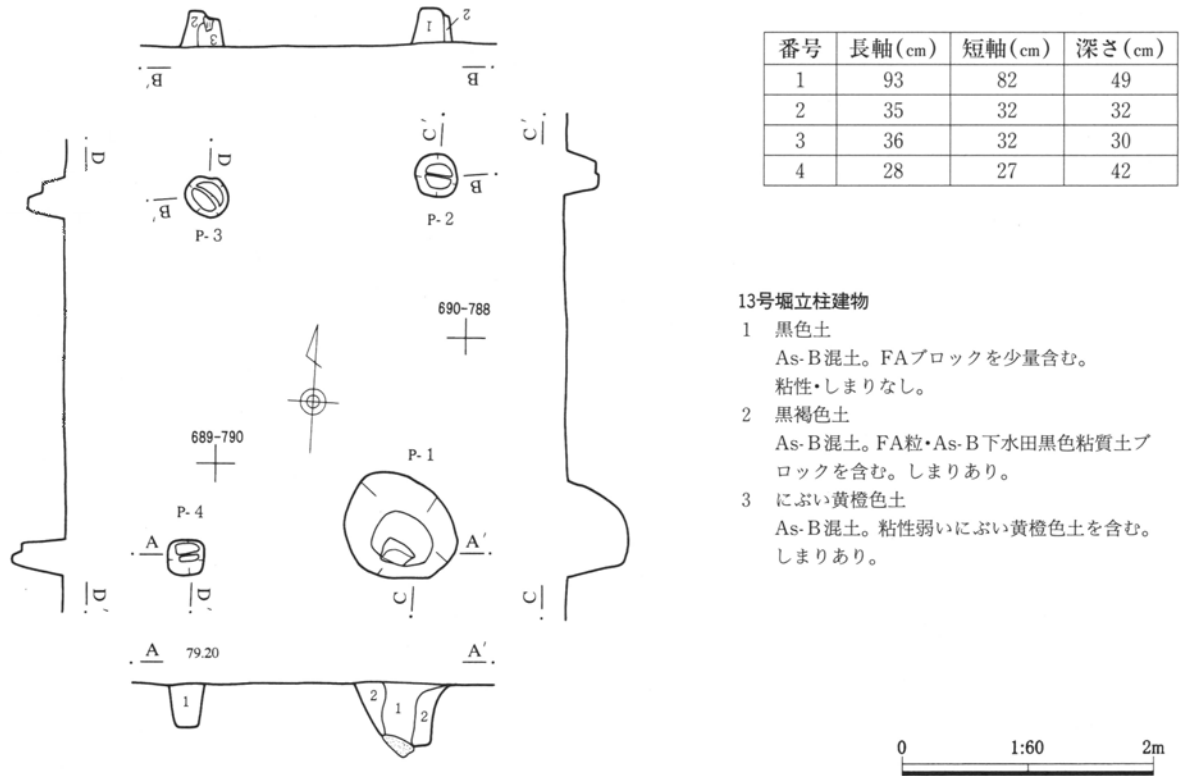


第368図 12号掘立柱建物実測図・出土遺物

第2章 遺構と遺物

13号掘立柱建物（第369図、PL-151）

位置 685・690—785・790グリッド **主軸方位** N-2°-E **調査所見** 長軸方向の柱間（桁行）は、2.85m・2.75mで約9尺。短軸方向の柱間（梁行）は、1.85m・1.78mで約6尺である。9掘立柱建物の西隣に位置し、規模は小さい。柱穴の規模差が大きく、掘立柱建物としての認定を躊躇したが、調査時の判断を重視して、掘立柱建物として報告した。 **遺物** なし **柱穴** 径が27～93cm、深さ30～49cmほどの円形の柱穴が、4基検出できた。大きさは、表の通り。



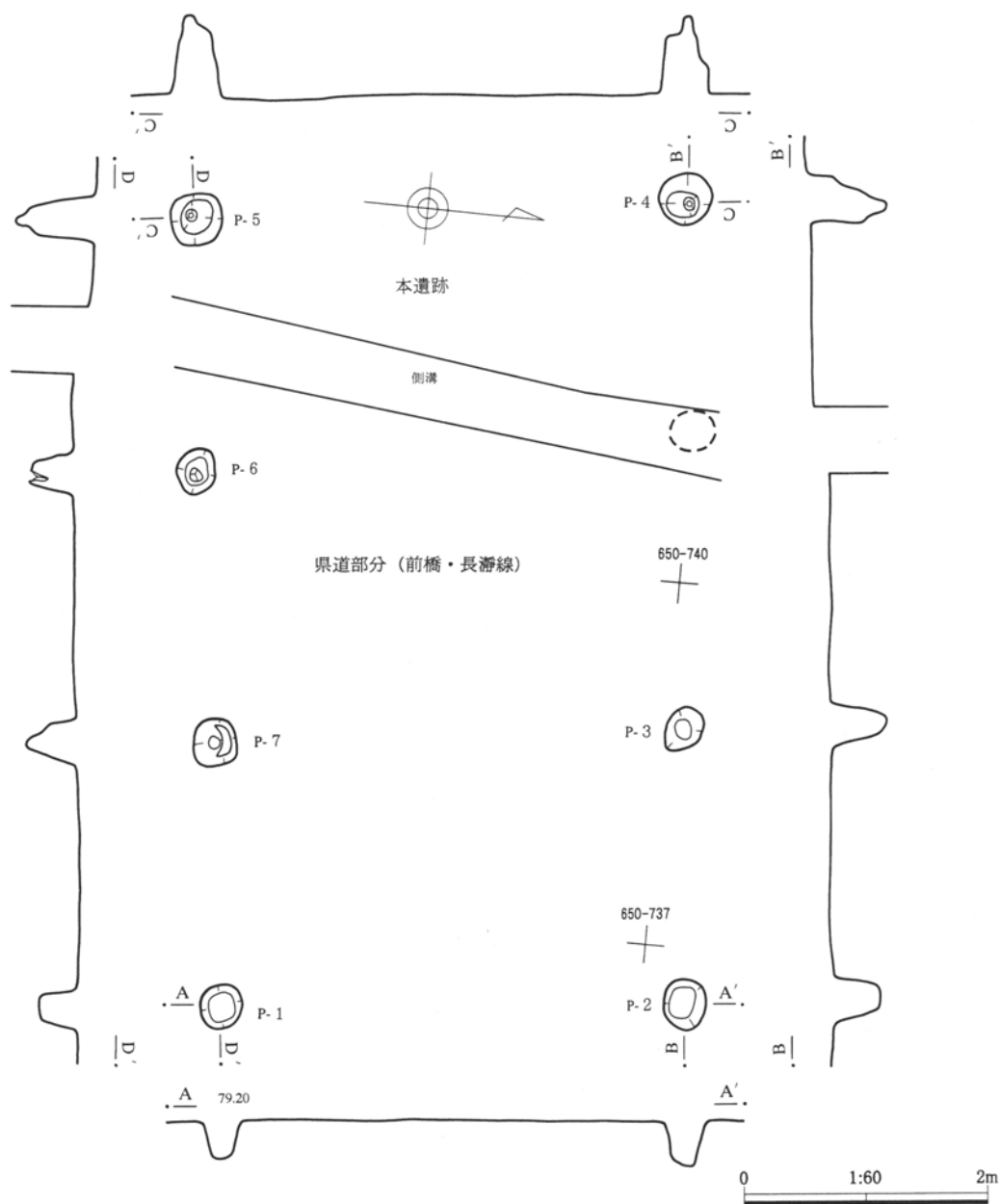
第369図 13号掘立柱建物実測図

16号掘立柱建物（第370図）

位置 645・735—645・740グリッド **主軸方位** N-4°-W **調査所見** A-3区北半部東端から、柱穴2基が検出された。県道前橋・長瀬線に伴う上滝榎町北遺跡で、柱穴5基が確認できており、両遺跡にまたがるように検出された。長軸は東西方向で、3間×1間の掘立柱建物である。長軸方向の柱間（桁行）は、北側が2.25m、南側が西から2.15m・2.20m・2.18m（7尺）、短軸方向（梁行）が西から、4.13m・3.98m・3.81m（12尺）である。北側の柱穴1基が、側溝の攪乱を受けており、確認できなかった。当該掘立柱建物の北10mにある、中近世屋敷跡との関係も推測される。 **遺物** なし

柱穴 径・深さともに30cm代の柱穴が、北関東自動車道部分で2基検出できた。P-1・2・3・6・7は、県道部分から検出された柱穴である。

番号	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
4	34	34	30
5	40	36	37



第370図 16号掘立柱建物実測図

B区の掘立柱建物

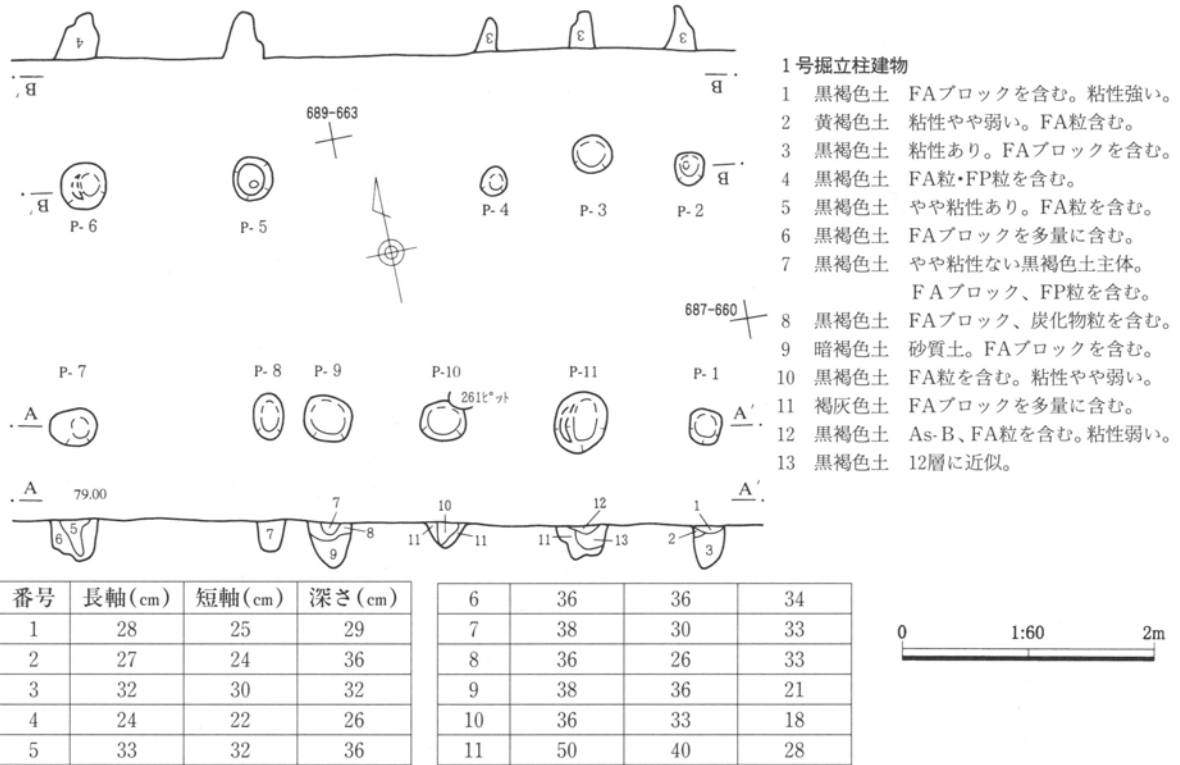
1号掘立柱建物 (第371図、PL-152)

位置 685-660・665グリッド 主軸方位 N-80°-W

調査所見 P-6-P-7、P-5-P-8、P-3-P-11、P-1-P-2は、それぞれ対応する柱穴と考えた。全体的に掘立柱建物として報告したが、P-4・P-9・P-10は、対応する柱穴が不明瞭である。長軸は約5m、短軸は約2mである。構造にやや歪みがある。B区の北半部分は、標高が若干高くなっており、田畠近辺に設けられた掘立柱建物としての性格が想像できる。 遺物 なし

柱穴 径が22~40cm、深さ18~36cmほどの円形の柱穴が、11基検出できた。大きさは、表の通り。

第2章 遺構と遺物



第371図 1号掘立柱建物実測図

2号掘立柱建物 (第372図、PL-152)

位置 680・685—670・675グリッド 主軸方位 N—80°—W

調査所見 長軸方向の柱間は、北側がそれぞれ西から1.95m・1.95m・2.10m、南側がそれぞれ西から1.85m・2.05m・1.95mで約6尺の規模である。短軸方向の柱間は、西から3.20m・3.25m・3.25m・3.35mで約10尺である。3号掘立柱建物とほぼ同位置にあり、建て替えの可能性が考えられる。柱穴の規模がほぼ等しく、典型的な掘立柱建物である。遺物 なし
柱穴 径が24~42cm、深さ37~63cmほどの円形の柱穴が、8基検出できた。大きさは、表の通り。

番号	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)
1	27	23	62
2	38	30	48
3	30	28	42
4	36	32	53
5	39	38	56
6	34	27	37
7	24	22	43
8	42	32	63

3号掘立柱建物 (第372図、PL-152)

位置 680・685—670・675グリッド 主軸方位 N—80°—W

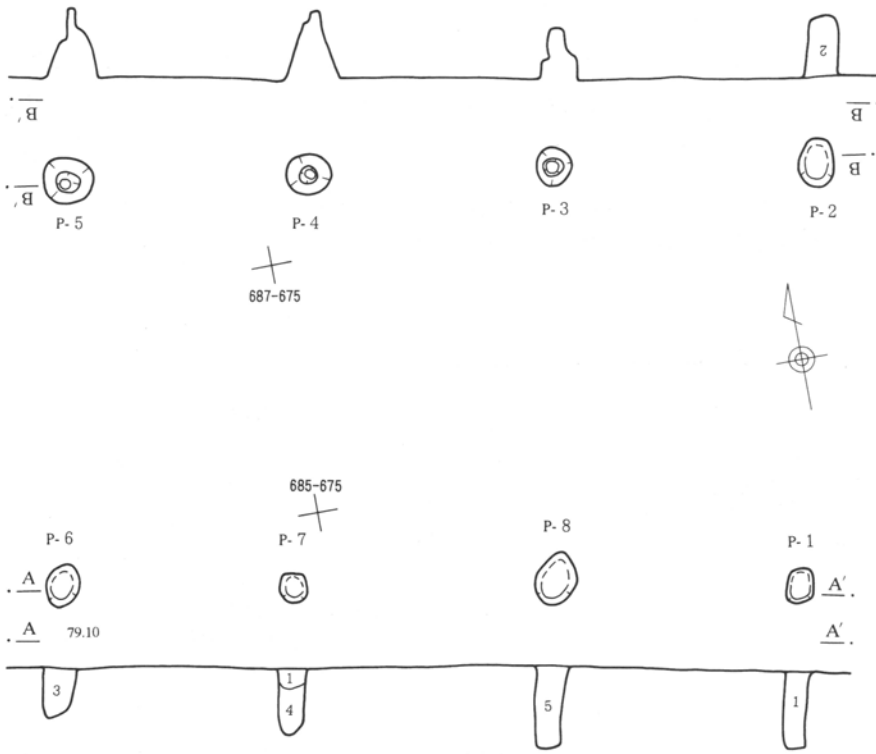
調査所見 長軸方向の柱間は、北側がそれぞれ西から2.02m・2.03m・2.12m、南側がそれぞれ西から1.92m・2.15m・1.96mで約6尺。短軸方向の柱間は、西から3.28m・3.35m・3.27m・3.18mで約10尺である。P-6—P-5、P-4—P-8、P-3—P-9、P-2—P-1がそれぞれ対応する柱穴である。P-5は、P-6の建て替えと考えたが、他の柱穴位置から考えると、若干歪む。2号掘立柱建物と同位置にあり、規模もほぼ等しいことから、建て替えの可能性が考えられる。2号掘立柱建物と3号掘立柱建物との新旧関係は、不明である。遺物 なし

番号	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)
1	28	20	64
2	29	29	47
3	30	30	53
4	30	29	12
5	34	34	42
6	34	30	33
7	26	24	40
8	32	30	40
9	30	28	57

柱穴 径が24~34cm、深さ12~64cmほどの円形の柱穴が、9基検出できた。大きさは、表の通り。

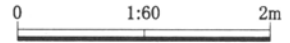
2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)

2号掘立柱建物

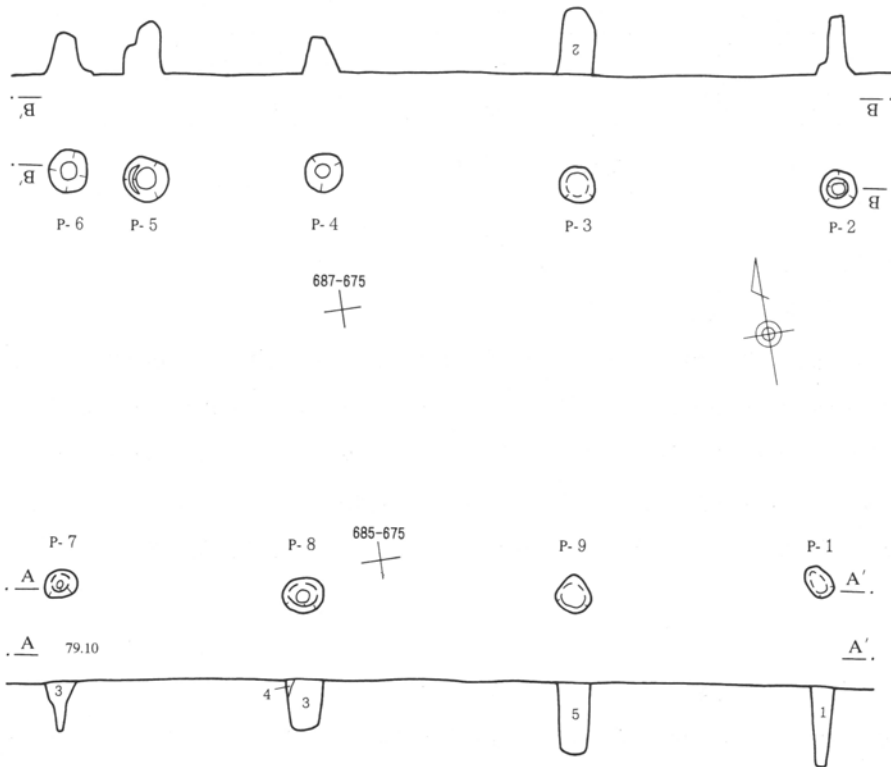


2号掘立柱建物

- 1 黒褐色土
As-Bを含む。軟質土。
- 2 黒褐色土
やや粘性のある土層。
FAブロックを含む。
- 3 黒褐色土
As-Bを含む。軟質土。
FAブロック含む。
- 4 褐色土
シルト質土。FA二次
堆積土を含む。
- 5 褐色土
FAブロック。As-Bを
少量含む。

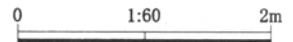


3号掘立柱建物



3号掘立柱建物

- 1 黒褐色土
As-Bを含む。
- 2 黒褐色土
やや粘性あり。FAブ
ロックを含む。
- 3 黒褐色土
As-Bを含む。FAプロ
ック含む。
- 4 褐色土
シルト質土。FA二次
堆積土を含む。
- 5 褐色土
FAブロック主体。As-
Bを少量含む。



第372図 2・3号掘立柱建物実測図

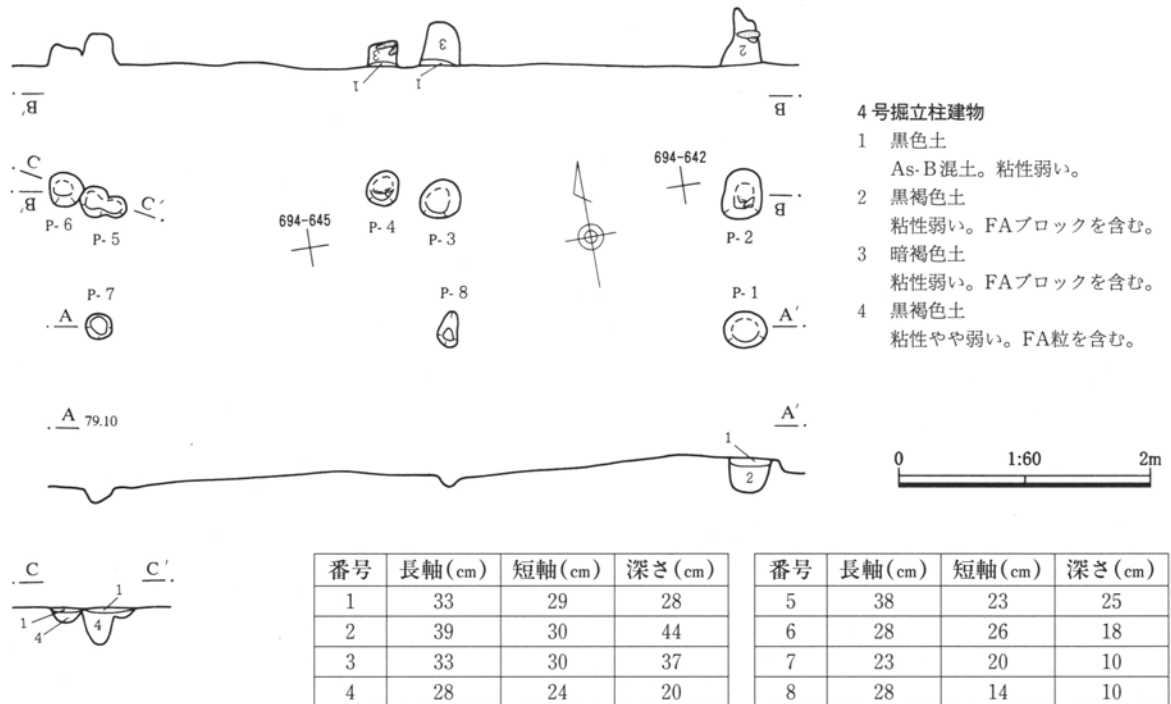
第2章 遺構と遺物

4号掘立柱建物 (第373図、PL-153)

位置 690・695—640・645グリッド 主軸方位 N-80°-W

調査所見 長軸方向の柱間は、北側が2.75m・2.42m、南側が2.80m・2.40mで約8尺。短軸方向の柱間は、西から1.00m・1.05m・1.10mで約3尺である。17掘立柱建物の北隣に位置し、規模は小さい。17掘立柱建物と、同一の建物であった可能性もある。P-4・P-6は、他の柱穴に比べて、若干歪みがあるが、それぞれP-3・P-5を建て替えた柱穴とも考えられ、当該遺構の一部として報告した。遺物 なし

柱穴 径が14~39cm、深さ10~44cmほどの円形の柱穴が、8基検出できた。大きさは、表の通り。



第373図 4号掘立柱建物実測図

17号掘立柱建物 (第374図、PL-153)

位置 685・690—640・645グリッド 主軸方位 N-82°-W

調査所見 長軸方向の柱間は、北側が2.78m・2.38m、中央が2.48m・2.27m、南側が2.35m・2.50mで、約8尺。短軸方向の柱間は、西側が2.15m・1.80m、中央が2.00m・1.96m、東側が1.90m・2.00mで約6尺である。4掘立柱建物の南隣に位置する、総柱の掘立柱建物である。4掘立柱建物と同一の建物であった可能性が考えられる。95溝よりは、古い時期の所産と考えられる。遺物 なし

柱穴 径が19~42cm、深さ16~57cmほどの円形の柱穴が、6基検出できた。大きさは、表の通り。

18号掘立柱建物 (第375図)

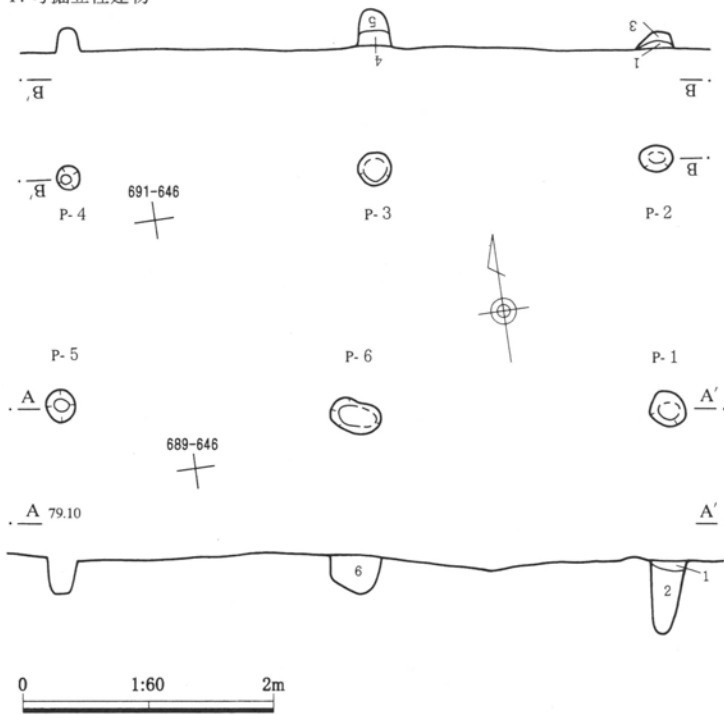
位置 685・690—665・670グリッド 主軸方位 N-17°-E

調査所見 長軸方向の柱間は、3.94m・4.10mで約12尺。短軸方向の柱間は、2.90m・3.20mで約9尺である。84溝と重複しているが、新旧関係は不明である。遺物 なし

柱穴 径が23~45cm、深さ13~31cmほどの円形の柱穴が、4基検出できた。大きさは、表の通り。

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)

17号掘立柱建物



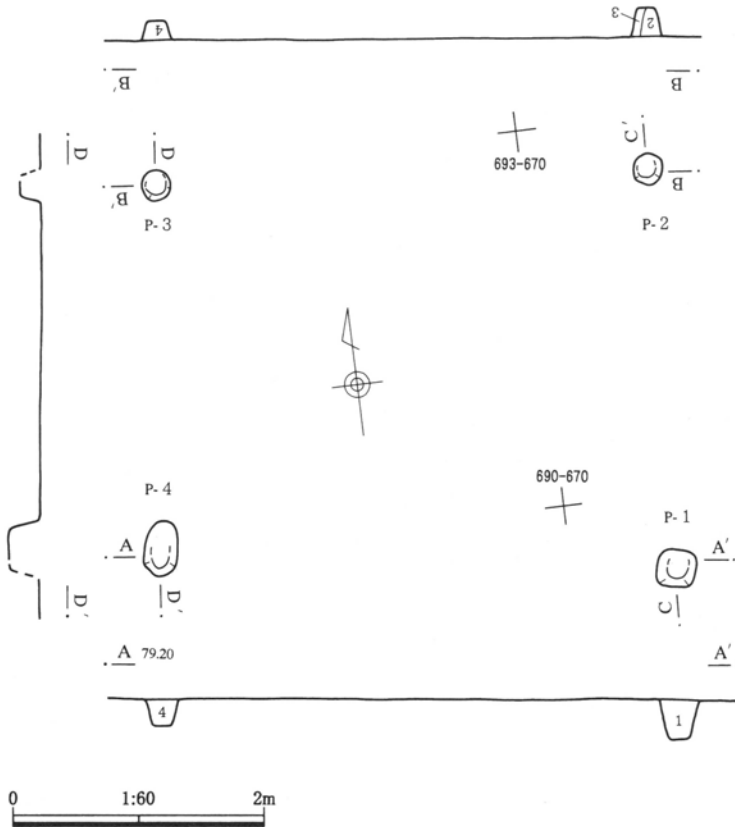
17号掘立柱建物

- 1 黒色土
As-B混土。粘性弱い。
- 2 暗褐色土
粘性やや弱い。砂質土含む。
- 3 暗褐色土
粘性弱い。FA粒を含む。
- 4 黒褐色土
As-Bを含む。粘性弱い。
- 5 黒褐色土
粘性やや弱い。FA粒を含む。
- 6 黒褐色土
砂質土。黒褐色土ブロックを多量に含む。

番号	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)
1	29	26	57
2	27	20	16
3	28	28	32
4	20	19	21
5	25	23	28
6	42	24	30

第374図 17号掘立柱建物実測図

18号掘立柱建物



18号掘立柱建物

- 1 黒褐色土
やや粘性あり。FAブロックを含む。
- 2 黒褐色土
粘性のある黒褐色土主体。若干FA粒を含む。
- 3 黒褐色土
FAブロックを多量に含む。
- 4 黒褐色土
やや粘性あり。FA粒含む。

番号	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)
1	31	30	31
2	25	24	24
3	24	23	13
4	45	33	21

第375図 18号掘立柱建物実測図

(7) 杭 列

概 要

中・近世面で、杭列は7基検出されている。これらはいずれも、A-3区北半部で検出されており、中・近世の屋敷跡に伴う遺構と思われる。溝に平行して並ぶ杭列は、溝に対する安全対策用のフェンスとしての性格が考えられる。その他の杭列は、対応するピットもなく掘立柱建物とも考えられず、性格が不明である。以下、遺構番号順に報告する。

A-3区の杭列 (第376~382図、PL-153~155)

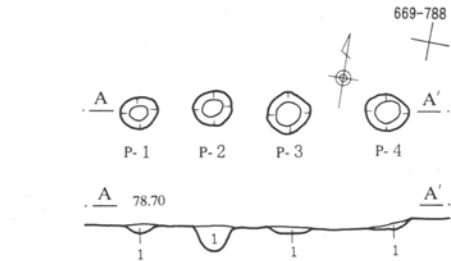
19号杭列 (第376図)

位置 655-785・790グリッド 調査所見 A-3区北半中央部、264溝南側に位置する。柱間は西から、60cm・60cm・75cmである。264溝に対する安全フェンス的な性格が想像できるが、詳細は不明である。

遺物 なし

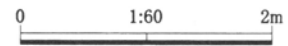
杭穴

ピット番号	形 状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P-1	円 形	30	27	7
P-2	〃	30	27	28
P-3	〃	34	31	5
P-4	〃	33	29	8



19号杭列

- 1 灰黄褐色土 As-B下水田耕作土、FAを含む。しまりなく柔らかい。粘性弱い。



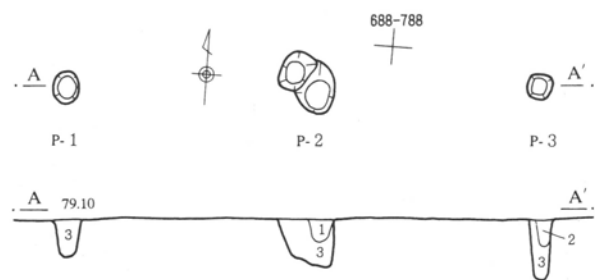
第376図 19号杭列実測図

20号杭列 (第377図、PL-153)

位置 685-785・790グリッド 調査所見 A-3区北端部の、13掘立柱建物の南側に位置する。柱間は200cm・175cmである。他のピットと対応して掘立柱建物となる可能性を考えたが、対応するピットが見つからなかったため、杭列とした。性格は不明である。 遺物 なし

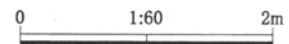
杭穴

ピット番号	形 状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P-1	円 形	25	22	31
P-2	楕円形	43	30	35
P-3	隅丸方形	20	19	48



20号杭列

- 1 黒色土 As-B混土。FAブロックを少量含む。粘性・しまりなし。
- 2 にぶい黄橙色土 As-B混土。にぶい黄橙色土を含む。しまりあり。粘性弱い。
- 3 黒褐色土 As-B混土。FA・As-B下水田黒色粘質土ブロックを含む。しまりあり。



第377図 20号杭列実測図

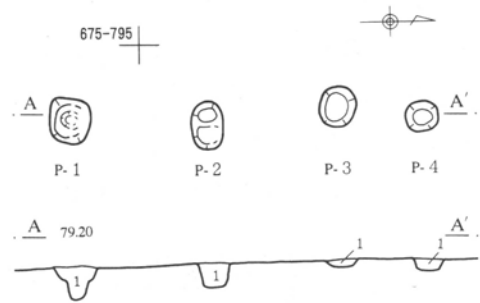
2. 中・近世面（鎌倉時代～近世）

21号杭列（第378図、PL-154）

位置 670・675-790グリッド 調査所見 A-3区北端部の、326溝わきに位置する。その位置から、326溝に対する安全フェンス的な性格の杭列と思われる。柱間は北から、70cm・100cm・110cmである。また、当該杭列の北にある628ピットも対応している可能性がある。 遺物 なし

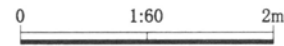
杭穴

ピット番号	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P-1	隅丸方形	36	35	24
P-2	楕円形	38	26	14
P-3	隅丸方形	33	29	3
P-4	円形	26	25	7



21号杭列

1 黒褐色土 As-B混土。FAがブロック状に少量含。全体的に砂質。粘性なし。



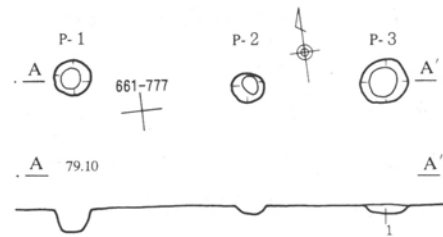
第378図 21号杭列実測図

22号杭列（第379図）

位置 660-770・775グリッド 調査所見 A-3区北半中央の、272溝わきに位置する。272溝に対する、安全フェンス的な性格が考えられる。柱間は西から、143cm・110cmである。19・23杭列と同じ性格のものと思われる。 遺物 なし

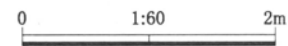
杭穴

ピット番号	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P-1	円形	27	28	55
P-2	〃	25	19	43
P-3	楕円形	34	34	45



22号杭列

1 黄褐色土 粘性弱い。As-Bを多量に含む。



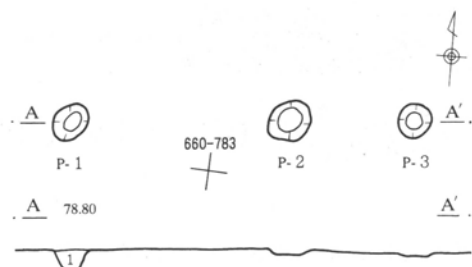
第379図 22号杭列実測図

23号杭列（第380図）

位置 660-780グリッド 調査所見 A-3区北半中央の、272溝南わきに位置する。272溝に対する、安全フェンス的な性格が考えられる。柱間は西から、170cm・100cmである。19・22杭列と同じ性格のものと思われる。 遺物 なし

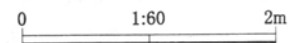
杭穴

ピット番号	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P-1	楕円形	32	26	34
P-2	不整形	39	33	30
P-3	円形	28	28	21



23号杭列

1 灰黄褐色土 FA粒・As-Bを含む。しまりなし。粘性弱い。

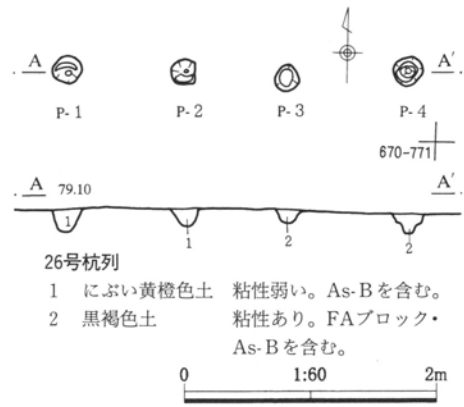


第380図 23号杭列実測図

第2章 遺構と遺物

26号杭列 (第381図、PL-154)

位置 670—770グリッド 調査所見 A-3区の北半部中央の、10掘立柱建物の西隣に位置する。柱間は、西から95cm・85cm・98cmである。287溝と重複するが、溝との関係・新旧関係・性格等は、不明である。 遺物 なし



第381図 26号杭列実測図

杭穴

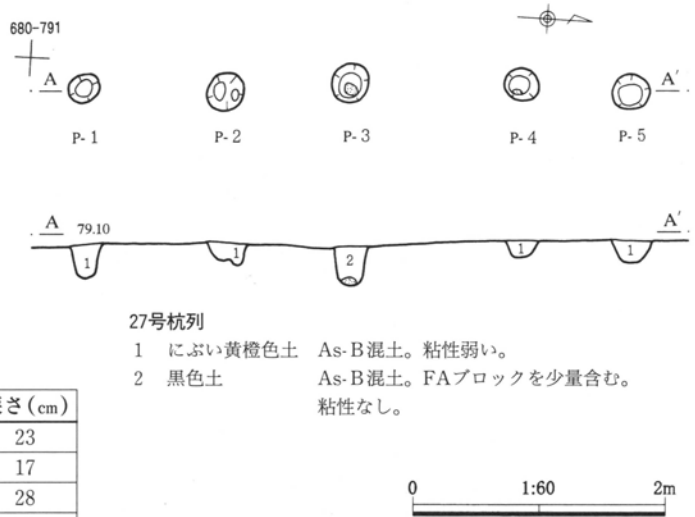
ピット番号	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P-1	円形	22	22	18
P-2	不整形	21	20	16
P-3	円形	22	20	11
P-4	〃	23	22	17

26号杭列

- 1 にぶい黄橙色土 粘性弱い。As-Bを含む。
- 2 黒褐色土 粘性あり。FAブロック・As-Bを含む。

27号杭列 (第382図、PL-155)

位置 680—790グリッド 調査所見 A-3区の北半部の、8掘立柱建物内部に位置する。8掘立柱建物の柱穴とは、その方向・位置関係から、別の遺構と判断した。柱間は北から、90cm・135cm・100cm・110cmである。当該遺構の性格は不明である。342溝より新しい時期の所産である。 遺物 なし



第382図 27号杭列実測図

杭穴

ピット番号	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)
P-1	円形	25	23	23
P-2	〃	30	30	17
P-3	〃	32	30	28
P-4	〃	28	26	15
P-5	〃	30	29	30

27号杭列

- 1 にぶい黄橙色土 As-B混土。粘性弱い。
- 2 黒色土 As-B混土。FAブロックを少量含む。粘性なし。

(8) ピット

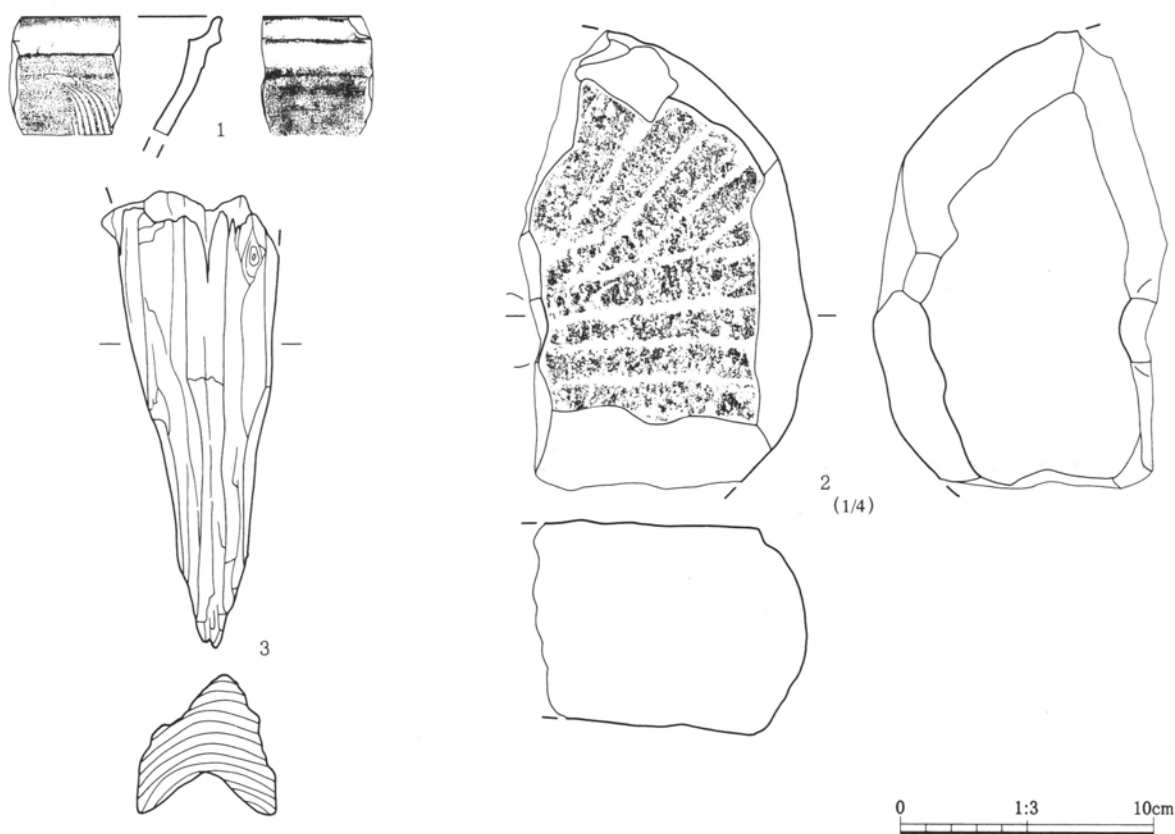
概要 (第384~407図、PL-155~165)

中・近世面におけるピットは、A-3区・Aランプから489基検出された。遺構の性格は不明である。P-847・848は、413溝より新しいピットである。またP-880は、8井戸に接するが、その新旧は不明である。以下、一覧表によって報告する。

ピット出土遺物 (第383図、PL-156)

- 1 はP-637から出土した摺鉢片。錆釉を施し、瀬戸・美濃産で、17世紀のものと思われる。
- 2 はP-676から出土した石臼(下臼)。3はP-706出土の木柱基部。長さ18.0cm、幅6.2cm、厚さ4.0cm。

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)



第383図 ピット出土遺物

ピット一覧表

番号	調査区	グリッド	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
338	A-1	485-635	円形	30	28	27	
339	〃	480-635	楕円形	19	14	7	214溝より古い
340	〃	530-685	円形	22	20	24	
341	〃	530・535-685	隅丸方形	21	21	30	
342	〃	530-685	〃	21	20	25	
343	〃	535-675	円形	32	27	15	
331	A-2	585-670	不整形	38	37	10	
332	〃	560-660	楕円形	56	43	21	187溝より古い
333	〃	565-660	隅丸方形	94	60	14	
334	〃	585-705	〃	20	19	14	
335	〃	575-690	不整形	23	19	24	
336	〃	575-690	〃	21	17	25	
337	〃	575-685	円形	21	21	18	
883	〃	579-695・700	楕円形	52	40	5	
519	A-3	645-745	〃	53	27	17	
523	〃	670-765・770	不整形	30	21	18	
525	〃	665-770	〃	30	18	11	
526	〃	665-770	隅丸方形	22	19	5	
527	〃	665-770	楕円形	58	32	11	275溝より新しい
528	〃	665-770	〃	28	23	9	
531	〃	665-770	隅丸方形	25	25	67	275溝より古い
532	〃	670-765	不整形	30	21	17	
535	〃	665-770	隅丸方形	47	36	48	
536	〃	665-770	〃	45	40	55	
537	〃	655-675	〃	31	26	15	
538	〃	655-765	不整形	44	31	20	
539	〃	655-765	楕円形	36	25	16	
540	〃	645-805	隅丸方形	44	31	11	
541	〃	650-830	円形	38	34	5	P542より新しい
542	〃	650-830	〃	32	14+	8	P541より古く、P543より新しい

第2章 遺構と遺物

番号	調査区	グリッド	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
543	A-3	650-830	円形	29	17+	5	P542より古い
550	〃	630-785	隅丸方形	30	27	17	
558	〃	630-755	不整形	50	37	39	
615	〃	660-830	円形	31	29	27	
616	〃	660-830	隅丸方形	31	25	24	
617	〃	660-825	不整形	72	47	32	282・283溝より古い
618	〃	660-825	〃	69	48	15	283溝より古い
619	〃	655-815	円形	21	20	16	281溝より古い
623	〃	670-790	隅丸方形	36	35	24	326溝より古い
624	〃	670-790	〃	24	24	33	326溝より古い
625	〃	675-790	楕円形	38	26	14	326溝より古い
626	〃	675-790	隅丸方形	33	29	3	326溝より古い
627	〃	675-790	円形	26	25	7	326溝より古い
628	〃	675-790	不整形	30	27	6	326溝より古い
629	〃	675-790	〃	27	18	3	326溝より古い
630	〃	675-790	〃	39	36	51	
631	〃	675-790	隅丸方形	34	32	36	
632	〃	675-790	不整形	28	24	8	
633	〃	675-790	楕円形	24	20	10	
634	〃	675-785・790	円形	21	20	8	
635	〃	675-785・790	不整形	25	20	14	
636	〃	675-785	〃	19	18	16	
637	〃	675-785	〃	28	22	17	播鉢片が出土(1)
641	〃	675・680-790	〃	23	20	10	
642	〃	680-790	隅丸方形	24	22	11	
647	〃	680-790	不整形	44	33	4	
651	〃	680-785	円形	20	19	8	
652	〃	680-785	隅丸方形	24	23	8	
653	〃	680-785	不整形	23	19	20	
656	〃	680-785	円形	19	17	8	
657	〃	680-785	不整形	26	26	6	
658	〃	680-785	隅丸方形	24	20	9	
659	〃	680-785	不整形	24	21	20	
660	〃	685-785	楕円形	24	17	8	
661	〃	685-785	円形	14	14	6	
662	〃	685-785	〃	17	16	7	
663	〃	685-785	不整形	27	18	18	
667	〃	680-790	隅丸方形	19	18	30	
670	〃	685-790	楕円形	27	23	18	
671	〃	685-790	隅丸方形	18	17	8	
672	〃	685-790	円形	24	23	12	
673	〃	685-790	楕円形	26	23	13	
675	〃	685-790	隅丸方形	26	21	37	
676	〃	685-790	不整形	56	48	42	石臼出土(2)
677	〃	685-790	円形	25	25	12	
679	〃	685-790	楕円形	34	21	16	
680	〃	685-785	〃	23	20	10	
682	〃	685-785	隅丸方形	31	22	22	
683	〃	685-785	不整形	25	23	3	
685	〃	685-785	〃	26	24	16	P686より新しい
686	〃	685-785	〃	39	26+	41	P685より古い
688	〃	685-785	楕円形	21	16	9	P689より新しい
689	〃	685-785	〃	30	21	53	P688より古い
691	〃	685-795	隅丸方形	47	29	40	
695	〃	685-785	不整形	33	24	48	
697	〃	685-785・790	円形	20	19	6	
698	〃	685-785	〃	17	16	6	
699	〃	685・690-790	不整形	80	50	37	
701	〃	690-785	楕円形	37+	22	15	P702より古い
702	〃	690-785	〃	27	22	16	P701より新しい
703	〃	690-785	不整形	24	22	7	
704	〃	690-785	隅丸方形	32	30	43	
706	〃	690-785	楕円形	27	21	14	木柱基部出土(3)
711	〃	690-785	隅丸方形	36	33	22	
712	〃	690-785	楕円形	36	24	19	
713	〃	690-785	隅丸方形	32	30	68	
714	〃	690-785	楕円形	57	39	68	
715	〃	690-785	円形	24	24	28	
716	〃	690-785	〃	22	21	33	
717	〃	690-785	隅丸方形	31	27	16	
718	〃	690-795	不整形	51	30+	34	
719	〃	690-795	〃	23	20+	14	
720	〃	695-785	円形	28	26	14	
721	〃	690-785	楕円形	23	18	7	
723	〃	695-785	〃	26	19	5	
724	〃	650-785	〃	28	23	12	
726	〃	690-785	隅丸長方形	56	36	10	

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)

番号	調査区	グリッド	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
727	A-3	690-785	隅丸長方形	21	20	6	
728	〃	690-785	〃	25	19	5	
729	〃	695-785	楕円形	30	20	6	
730	〃	690-785	〃	45	30	11	
731	〃	690-785	〃	20	13	6	
732	〃	690-785	不整形	37	31	7	
734	〃	690-780	〃	34	26	7	
736	〃	685-785	隅丸長方形	22	19	12	
737	〃	685-785	楕円形	20	18	9	
740	〃	605-745	不整形	52	36	16	
741	〃	580-750	〃	19	19	6	
742	〃	675-785	〃	25	25	18	
743	〃	675-790	〃	54	39+	8	
744	〃	675-790	〃	32	30	5	
745	〃	670-790	楕円形	29	27	49	
746	〃	675-785・790	隅丸長方形	28	20	34	
747	〃	700-785	楕円形	53	34	16	
748	〃	700-785	円形	24	24	8	
749	〃	695-780・785	楕円形	32	24	4	
750	〃	695-780	不整形	20	16+	8	
751	〃	690-780	〃	28	18+	36	
752	〃	690-780	〃	30+	25+	47	P753より古い
753	〃	690-780	〃	30+	40+	20	P752より新しい
754	〃	685-795	円形	29	27	4	
755	〃	660-800	隅丸長方形	56	53	11	
756	〃	665-800	楕円形	31	28	11	
760	〃	695-780	不整形	35	14+	5	
764	〃	655-790	隅丸長方形	27	22	30	69溝より古い
765	〃	655-790	不整形	24	21	36	69溝より古い
793	〃	690-785	隅丸長方形	43	29	43	
849	〃	640-820	〃	63	55	15	413溝より古い
885	〃	680-785	楕円形	38	28	6	
886	〃	680-785	〃	22	18	4	
887	〃	680-785	隅丸長方形	20	17	7	
888	〃	680-785	〃	21	19	4	
889	〃	680-785	不整形	23	20	6	
890	〃	675-790	楕円形	22	18	6	
891	〃	670-785	〃	37	32	2	
892	〃	675-790	〃	23	24	11	
893	〃	690-790	隅丸長方形	18	15	6	
894	〃	685-785	円形	22	21	6	
895	〃	685-785	不整形	23	14+	7	
896	〃	685-785	楕円形	21	18	9	
899	〃	630-750	〃	42	37	9	
1069	〃	625-760	隅丸長方形	34	28	11	
1072	〃	650-795	円形	56	53	29	257溝より古い
1073	〃	650-795	不整形	43	21+	3+	
1079	〃	655-815	〃	57	47	19	
1080	〃	695-780	〃	25	21	18	
1081	〃	680-785	〃	25	22	19	341溝より新しい
776	Aランプ	495-585	楕円形	39	32	11	
777	〃	515-590	不整形	33	25	37	
1	B	700-695	円形	23	21	15	
2	〃	695-695・700	〃	26	24	10	
3	〃	695-700	〃	25	24	5	
4	〃	695-700	不整形	28	24	11	
5	〃	695-700	隅丸方形	29	26	9	
6	〃	695-695	円形	28	26	15	
7	〃	700-690	〃	43	36	11	74溝より古い
8	〃	700-675	〃	21	18	8	
9	〃	700-675	楕円形	28	18+	24	89溝より新しい
10	〃	700-675	隅丸方形	38	34	40	219土坑より古い
11	〃	700-675	楕円形	24	20	10	219土坑と新旧不明
12	〃	700-675	円形	30	25	13	219土坑と新旧不明
13	〃	700-670	〃	25	24	17	219土坑と新旧不明
14	〃	700-670	〃	29	27	15	219土坑と新旧不明
15	〃	695-670	〃	24	20	6	219土坑と新旧不明
16	〃	700-670	〃	22	21	19	219土坑と新旧不明
17	〃	700-670	〃	20	18	16	219土坑と新旧不明
18	〃	695-670	〃	21	21	10	219土坑と新旧不明
19	〃	700-670	〃	35	30	40	219土坑と新旧不明
20	〃	690-695	隅丸方形	59	53	11	219土坑と新旧不明
23	〃	705-675	楕円形	27	24	24	275溝より古い
24	〃	705-675	〃	60	38	14	
25	〃	705-675	〃	46	42	17	
26	〃	705-675	円形	34	31	15	
27	〃	705-670	〃	28	27	33	91溝より古い

第2章 遺構と遺物

番号	調査区	グリッド	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
28	B	705-670	楕円形	23	17	42	91溝より古い
29	〃	705-670	〃	34	22	22	91溝より古い
32	〃	700-670	〃	23	19	32	
33	〃	700-670	円形	21	21	22	
34	〃	700-670	楕円形	51	47	16	P35・91溝より古い小型埴が出土
35	〃	700-670	〃	37	25	28	P34より新しく、91溝より古い
36	〃	705-670	円形	24	24	28	91溝より古い
38	〃	700-665	〃	26	23	31	91溝と新旧不明
39	〃	700-665	楕円形	36	27	24	
40	〃	700-665	〃	30	26	30	
41	〃	705-670	〃	32	27	25	
42	〃	705-665	円形	32	21	36	
43	〃	705-670	〃	32	32	29	92溝と新旧不明
44	〃	705-665	〃	52	50	10	
45	〃	705-665	〃	26	26	31	
46	〃	700-665	〃	22	21	14	
47	〃	705-665	〃	26	25	23	
48	〃	700-665	不明	—	—	54	92溝より古い
49	〃	705-665	円形	34	32	41	
50	〃	705-665	〃	36	33	17	
51	〃	705-665	楕円形	50	20+	51	
52	〃	705-665	円形	35	15+	22	
53	〃	705-660	〃	35	29	20	
54	〃	705-665	隅丸方形	21	20	23	
55	〃	705-660	〃	32	29	23	
56	〃	700-660	楕円形	21	22	21	
57	〃	705-660	円形	34	32	30	
58	〃	705-660	楕円形	35	26	13	
59	〃	705-660	〃	36	30	14	
60	〃	705-660	円形	21	20	14	
61	〃	705-660	〃	27	24	26	
62	〃	705-660	楕円形	45	34	63	
63	〃	705-660	円形	29	24	15	
64	〃	700-660	〃	23	22	14	
65	〃	705-660	〃	24	22	10	
66	〃	705-660	楕円形	44	34	12	
67	〃	705-660・665	円形	24	24	25	
68	〃	705-660・665	〃	43	33	14	
69	〃	705-655	〃	30	24	18	
70	〃	705-655	隅丸方形	21	19	22	
71	〃	700-665	楕円形	27	20	11	
72	〃	705-655	〃	21	14	10	
73	〃	705-655	〃	28	24	16	
74	〃	705-655	〃	22	22	18	
75	〃	705-655	〃	24	20	26	
76	〃	705-655	隅丸方形	22	19	14	
77	〃	705-655	楕円形	28	19	11	
78	〃	705-655	円形	20	18	14	
79	〃	700-640	楕円形	30	23	10	
80	〃	705-650	円形	33	23	16	
81	〃	700-660	楕円形	29	21	37	
82	〃	700-660	〃	45	28	62	
83	〃	700-660	円形	30	30	22	
84	〃	700-660	楕円形	32	26	23	
85	〃	700-655・660	〃	25	20	14	
86	〃	700-655	不整形	21	20	12	
87	〃	700-655	隅丸方形	30	24	22	
88	〃	700-655	楕円形	23	21	11	
89	〃	700-650	〃	27	19	17	
90	〃	700-655	隅丸方形	22	19	17	
91	〃	700-660	円形	24	21	17	
92	〃	695-660	楕円形	36	31	23	
93	〃	695-660	円形	21	20	15	
94	〃	700-660	楕円形	24	19	14	
95	〃	700-660	〃	29	22	9	
96	〃	695・700-660	円形	—	—	20	P97より古い
97	〃	695・700-660	楕円形	55	40	22	P96より新しい
98	〃	695-660	〃	25	20	15	
99	〃	605-660	隅丸方形	25	23	15	
100	〃	695-660	円形	23	22	19	
151	〃	700-660	楕円形	44	36	36	91溝より古い
152	〃	695-655	円形	21	20	31	
162	〃	685・690-640	楕円形	43	32	14	
164	〃	690-640・645	〃	36	27	30	
166	〃	685-640	円形	67	62	19	
167	〃	685-645	〃	29	29	21	
168	〃	685-645	楕円形	28	23	9	

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)

番号	調査区	グリッド	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
169	B	685-645	円形	30	29	9	
170	〃	680・685-645	〃	23	25	26	
171	〃	680-645	隅丸方形	82	75	19	87溝より古い
172	〃	690-645	〃	31	27	37	
173	〃	695-665	〃	32	31	19	
174	〃	695-665	〃	28	23	30	
175	〃	695-665	不整形	33	24	25	90溝より新しい
176	〃	695-660	円形	21	19	11	
177	〃	695-665	隅丸方形	24	20	19	95溝と新旧不明
178	〃	695-660	楕円形	23	17	14	95溝、P179と新旧不明
179	〃	695-660	不整形	29	19	30	95溝、P178と新旧不明
180	〃	695-665	楕円形	31	26	17	
181	〃	695-665	隅丸方形	32	21	22	
182	〃	695-665	不整形	19	18	12	
183	〃	695-665	楕円形	27	23	23	
184	〃	695-665	隅丸方形	30	25	16	
185	〃	695-665	楕円形	34	29	20	
186	〃	695-665	隅丸方形	31	31	20	
187	〃	690-665	〃	27	24	14	
188	〃	690-665	隅丸長方形	41	29	23	
190	〃	690-665	楕円形	33	26	12	
191	〃	690-665	円形	27	26	21	
192	〃	690-665	楕円形	27	22	26	
193	〃	690-665	不整形	53	41	23	
195	〃	690-670	隅丸長方形	42	33	10	
198	〃	685-670	不整形	46	37	16	
199	〃	685-670	楕円形	45	33	9	
203	〃	685-665	円形	18	17	28	
204	〃	685-665	楕円形	31	21	25	
205	〃	685-665	隅丸方形	39	36	13	
206	〃	685-665	円形	28	25	18	
207	〃	685-665	楕円形	20	16	20	
209	〃	685-665	〃	29	13	11	
210	〃	685-665	不整形	26	20	32	
211	〃	685-665	楕円形	26	26	30	
216	〃	685-660	円形	20	19	15	
220	〃	690-660	〃	25	24	21	84溝より古い
221	〃	685-660	〃	20	19	12	
222	〃	685-660	〃	22	21	21	
223	〃	685-660	〃	21	19	15	
226	〃	685-655	〃	20	19	23	
227	〃	685・690-650	隅丸方形	33	28	9	
228	〃	685-655	円形	22	21	10	
229	〃	685-655	〃	23	20	23	
230	〃	680-655	〃	21	19	30	
231	〃	680-655	隅丸方形	30	28	28	
232	〃	680-660	不整形	46	23	51	
235	〃	680-660	楕円形	31	23	18	
236	〃	680-660	〃	41	35	43	
237	〃	680-660	〃	48	40	48	
238	〃	685-660	隅丸方形	24	18	24	
239	〃	680-660	楕円形	35	28	38	
240	〃	675・680-660	不整形	65	36	25	
241	〃	680-660	楕円形	30	24	26	
242	〃	680-660	不整形	49	33	47	
243	〃	680-660	隅丸方形	28	26	24	
244	〃	680-665	不整形	42	40	39	131溝より新しい
245	〃	680-665	円形	36	34	19	
246	〃	680-665	〃	32	21	16	
251	〃	685-685・690	〃	30	27	12	
252	〃	685-675	〃	26	26	9	
253	〃	685-675	隅丸方形	20	20	25	
256	〃	680-675	〃	20	17	23	
259	〃	680-675	〃	23	22	9	
260	〃	685-675	〃	25	19	13	
261	〃	695-670	円形	29	28	21	
262	〃	695-670	楕円形	26	21	26	
263	〃	695-670	〃	19	17	21	
264	〃	695-670	円形	28	24	15	
265	〃	695-670	〃	24	23	31	
266	〃	695-670	楕円形	48	43	41	
267	〃	695-670	不整形	42	31	28	
268	〃	695-670	楕円形	41	30	47	
269	〃	695-670	不整形	54	38	30	
270	〃	695-670	楕円形	31	22	38	
271	〃	695-670	〃	31	24	38	
272	〃	695-670	隅丸方形	38	27	38	

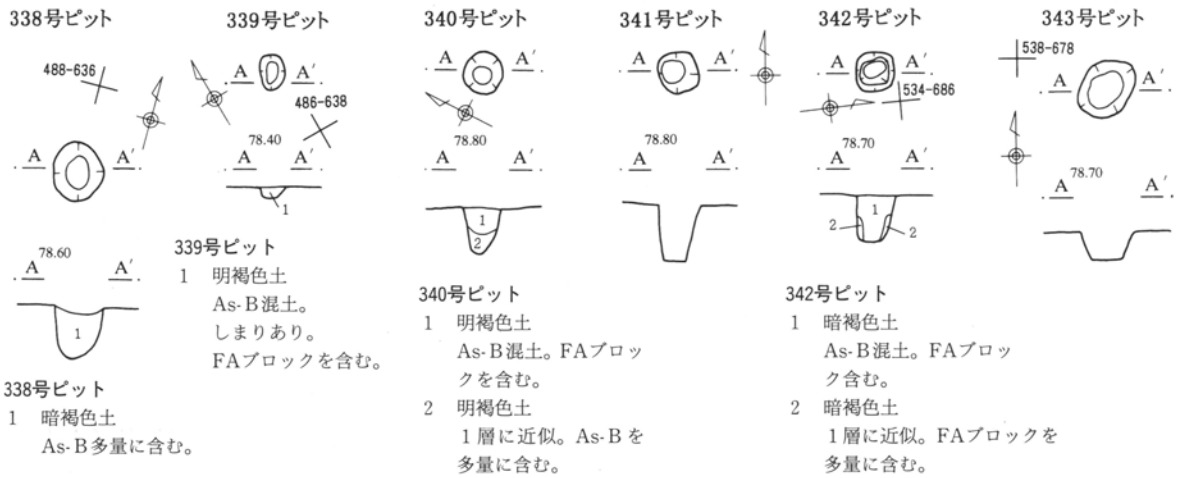
第2章 遺構と遺物

番号	調査区	グリッド	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
273	B	695-670	不整形	122	55	24	
274	〃	695-670	楕円形	45	33	26	
275	〃	695-670	不整形	69	43	35	
276	〃	695-670	楕円形	88	50	30	
277	〃	695-670	不整形	49	23	30	
278	〃	680-655	隅丸方形	55	51	8	
279	〃	680-655	楕円形	73	69	50	
280	〃	680-650	隅丸方形	21	20	22	
281	〃	680-650	円形	24	21	9	
282	〃	680-650	隅丸方形	74	69	50	87溝より古い
283	〃	675-645	楕円形	100	66	32	
284	〃	675-650	〃	72	61	52	127溝より新しい
285	〃	675-645	円形	22	21	44	
286	〃	675-645	楕円形	55	40	15	133溝と新旧不明
287	〃	670-640	隅丸方形	25	21	12	
288	〃	670-675-640	楕円形	27	22	26	
289	〃	675-640	円形	23	20	11	
290	〃	670-640	不整形	24	21	14	
291	〃	670-645	楕円形	21	19	9	
292	〃	665-640	〃	80	70	38	
293	〃	670-655	隅丸方形	42	40	19	131溝より新しい
294	〃	685-655	円形	27	24	10	
295	〃	680-655	〃	19	14	12	
296	〃	680-655	〃	24	22	10	
297	〃	680-650-655	〃	22	19	8	
298	〃	680-655	〃	22	22	12	
299	〃	670-665	隅丸方形	40	23	7	
300	〃	675-655	楕円形	30	25	17	
301	〃	700-670	〃	26	21	40	497溝より古い
302	〃	700-670	〃	20	11	11	
303	〃	700-670	〃	20	16	11	
304	〃	690-665	隅丸方形	31	25	27	
305	〃	690-695-665	円形	26	26	24	
306	〃	690-670	楕円形	48	38	40	
307	〃	700-655	円形	24	22	16	
308	〃	700-655	不整形	34	21	12	
309	〃	700-645	隅丸方形	24	22	9	
310	〃	680-695	楕円形	68	50	9	88溝より古い
311	〃	690-645	隅丸方形	30	23	33	
312	〃	700-705-660	不整形	88	27	47	94溝より古い
313	〃	705-670	楕円形	32	28	20	497溝より古い
314	〃	660-705	不整形	35	35	24	
315	〃	650-695	楕円形	70	30	23	113溝より古い
316	〃	645-665	不整形	59	54	42	
317	〃	665-640	〃	53	43	13	
318	〃	665-640	円形	26	25	14	
928	〃	645-680	楕円形	16	14	6	
929	〃	645-680	不整形	25	16	9	
930	〃	635-680	隅丸方形	15	15	8	
931	〃	645-690	楕円形	38	35	13	
932	〃	640-645	不整形	38	30	14	
933	〃	655-675	〃	48	32	6	
934	〃	655-660	楕円形	26	24	11	
935	〃	665-650	不整形	47	35	19	129溝、P936と新旧不明
936	〃	665-650	〃	59	34	11	128溝、P935と新旧不明
937	〃	675-645	〃	18	15	9	
938	〃	675-640	〃	32	28	25	133溝と新旧不明
939	〃	675-645	楕円形	22	16	14	
940	〃	675-655	円形	24	23	11	
941	〃	675-655	楕円形	22	17	21	
942	〃	670-655	〃	30	27	13	
943	〃	690-675	〃	49	38	10	79溝と新旧不明
944	〃	690-670	不整形	43	36	19	79溝と新旧不明
945	〃	690-665	〃	44	35	24	
946	〃	690-660	円形	27	26	9	
947	〃	690-660	隅丸方形	32	23	9	
948	〃	680-665	楕円形	26	20	26	86溝と新旧不明
949	〃	680-660-665	不整形	51	36	17	86溝と新旧不明
950	〃	680-660	隅丸方形	39	37	28	
951	〃	680-660	不整形	28	28	22	
952	〃	680-660	〃	26	25	41	
953	〃	700-695	楕円形	46	32	38	
954	〃	695-695	不整形	30	23	20	
955	〃	705-660	〃	38	32+	26	
956	〃	695-665	円形	48	47	29	95溝と新旧不明
957	〃	695-660	不整形	37	31	12	95溝と新旧不明
958	〃	705-670	楕円形	42	35	32	498溝と新旧不明

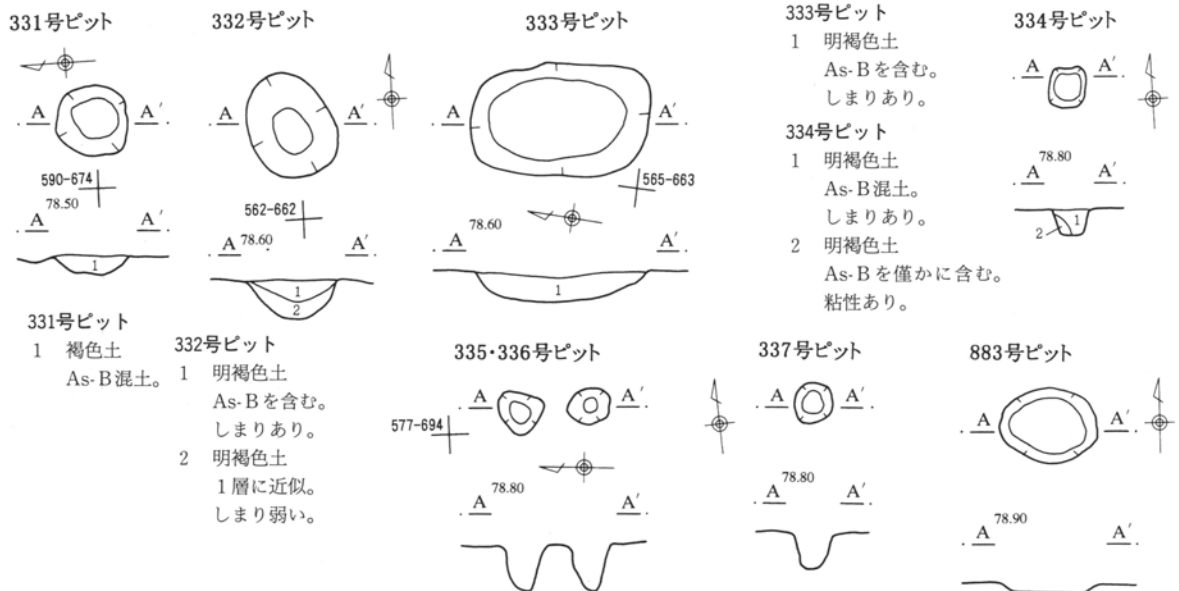
2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)

番号	調査区	グリッド	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
959	B	700-670	不整形	24	21	20	90溝と新旧不明
960	〃	695-675	円形	34	31	11	145溝と新旧不明
961	〃	700-655	不整形	19	15	6	
962	〃	700-655	〃	24	20	39	94溝と新旧不明
963	〃	700-655	円形	24	23	18	
964	〃	695-645	不整形	34	29	19	98溝と新旧不明
965	〃	695-645	円形	24	23	17	98溝と新旧不明
966	〃	695-650	不整形	22	22	19	138溝と新旧不明
967	〃	710-700	〃	28	25	16	
1064	〃	705-665	〃	67	61	48	93溝と新旧不明
1065	〃	705-665	〃	59	36+	55	93溝と新旧不明
1071	〃	695-700	〃	20	18+	11	93溝と新旧不明
828	C	790-675	円形	21	19	33	
829	〃	790-670	楕円形	53+	36	5	
830	〃	785-665	円形	30	26	14	
831	〃	790-665	楕円形	36	27	12	
832	〃	785-675	〃	50	33	16	
833	〃	785-680	不整形	53	30	12	
834	〃	780-680	円形	37	30	25	
835	〃	780-675・680	不整形	87	33	9	
836	〃	780-670	円形	46	38	7	
838	〃	775-665	〃	23+	30	13	
839	〃	775-685	楕円形	41	26	11	
840	〃	775-685	不整形	50	41	13	
841	〃	775-690	隅丸長方形	57	33	19	
842	〃	780-685	円形	26	25	26	
843	〃	780-690	楕円形	75	27	18	
844	〃	780-690	円形	40	37	9	
845	〃	785-665	不整形	44	38	11	410溝より新しい
846	〃	775-675	〃	53+	52	7	
987	D	830-640	〃	49	32	9	
988	〃	795-630	隅丸方形	21	19	17	
989	〃	790・795-630	〃	22	21	16	
990	〃	795-625	〃	20	20	16	
993	〃	935-630	円形	26	24	8	
999	F	015-610	隅丸長方形	30	25	4	
1000	〃	010-635	楕円形	31	25	10	
1001	〃	010-610	〃	30	23	10	
1002	〃	005-610	〃	45	33	12	
1003	〃	015-595	不整形	40	31	3	
1004	〃	010-595	隅丸長方形	32	23	8	
1005	〃	005-595	〃	57	30	10	
1006	〃	010-605	〃	37	20	9	
1007	〃	010-605	不整形	29	24	8	
1008	〃	010-605	楕円形	23	20	8	
1009	〃	005-605	円形	20	19	8	
1010	〃	010-605	不整形	40	32	22	
1011	〃	010-605	〃	42	23	10	
1012	〃	005-605	〃	35	21	11	
1013	〃	995-635	〃	48	43	9	
1014	〃	955-640	〃	23	18	12	
1015	〃	000-610	〃	21	17	11	
1016	〃	000-610	楕円形	22	17	10	
1017	〃	995-610	不整形	43	28	11	
1018	〃	995-610	〃	43	39	8	
1019	〃	990-605	〃	26	20	8	
1020	〃	985-605	隅丸長方形	33	17	9	
1021	〃	980-615	不整形	42	21	10	
1022	〃	980-620	楕円形	28	23	7	
1023	〃	975-925	隅丸方形	22	21	11	
1024	〃	950-615	不整形	14	14	5	
1025	〃	955-620	円形	15	15	25	
1026	〃	954-620	不整形	23	17	13	
1027	〃	950-625	楕円形	35	27	9	
1028	〃	950-625	〃	30	22	8	
1032	〃	020-635	〃	18	14	9	
1033	〃	020-635	〃	26	20	22	
1034	〃	020-635	〃	21	15	13	
1035	〃	020-630	〃	35	18	11	
1036	〃	020-630	〃	20	13	20	
1037	〃	020-630	〃	13	12	10	
1038	〃	015-620	不整形	22	29	8	
1039	〃	990-610	隅丸方形	23	20	10	
1040	〃	955-610	楕円形	26	20	31	

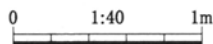
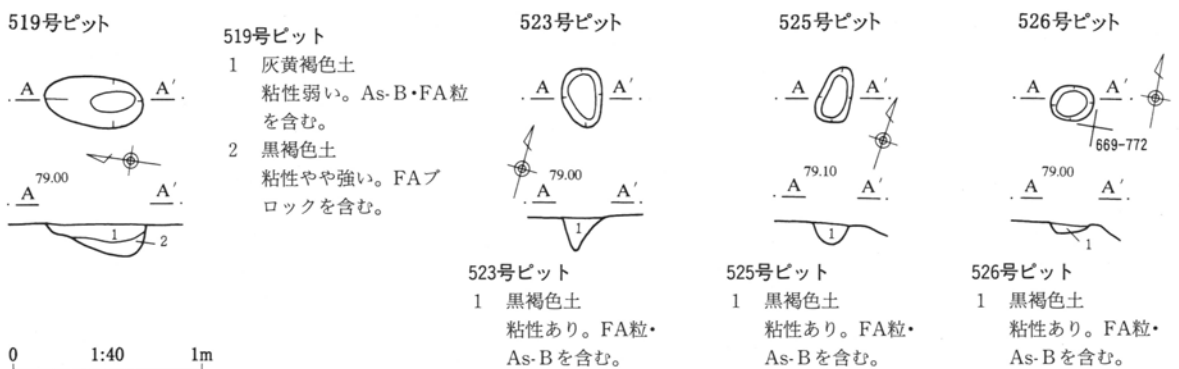
A-1区



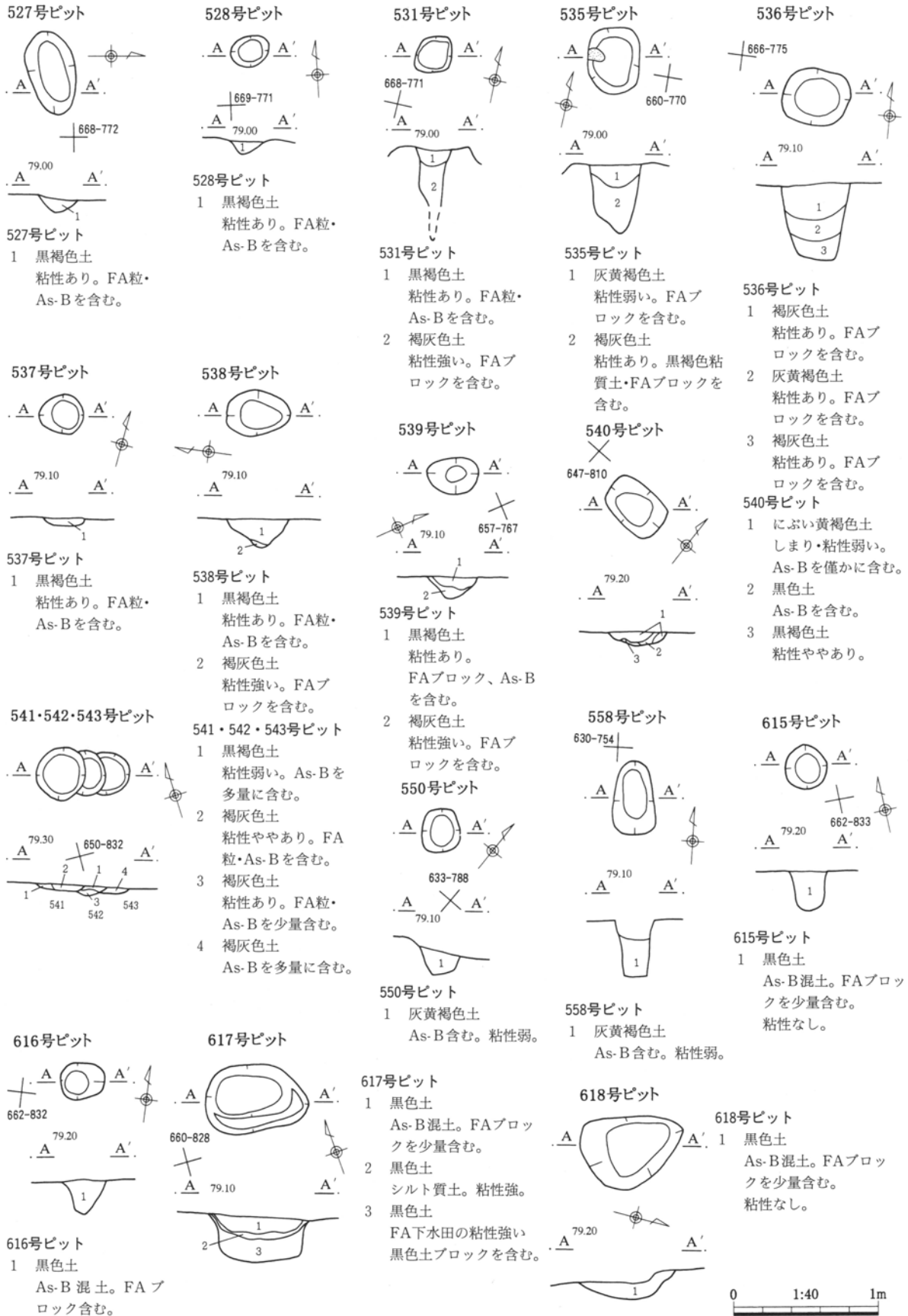
A-2区



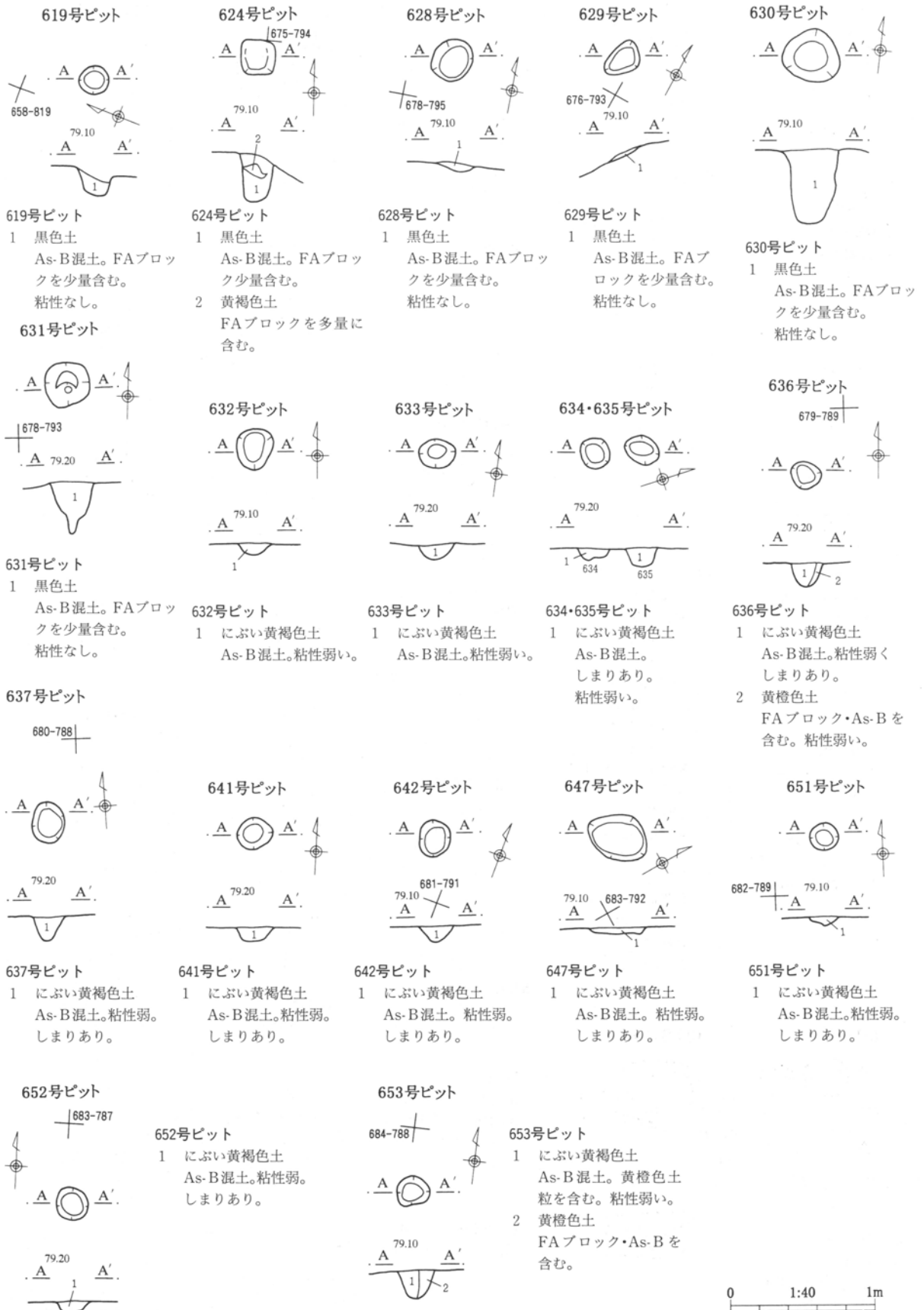
A-3区



第384図 ピット実測図(1)

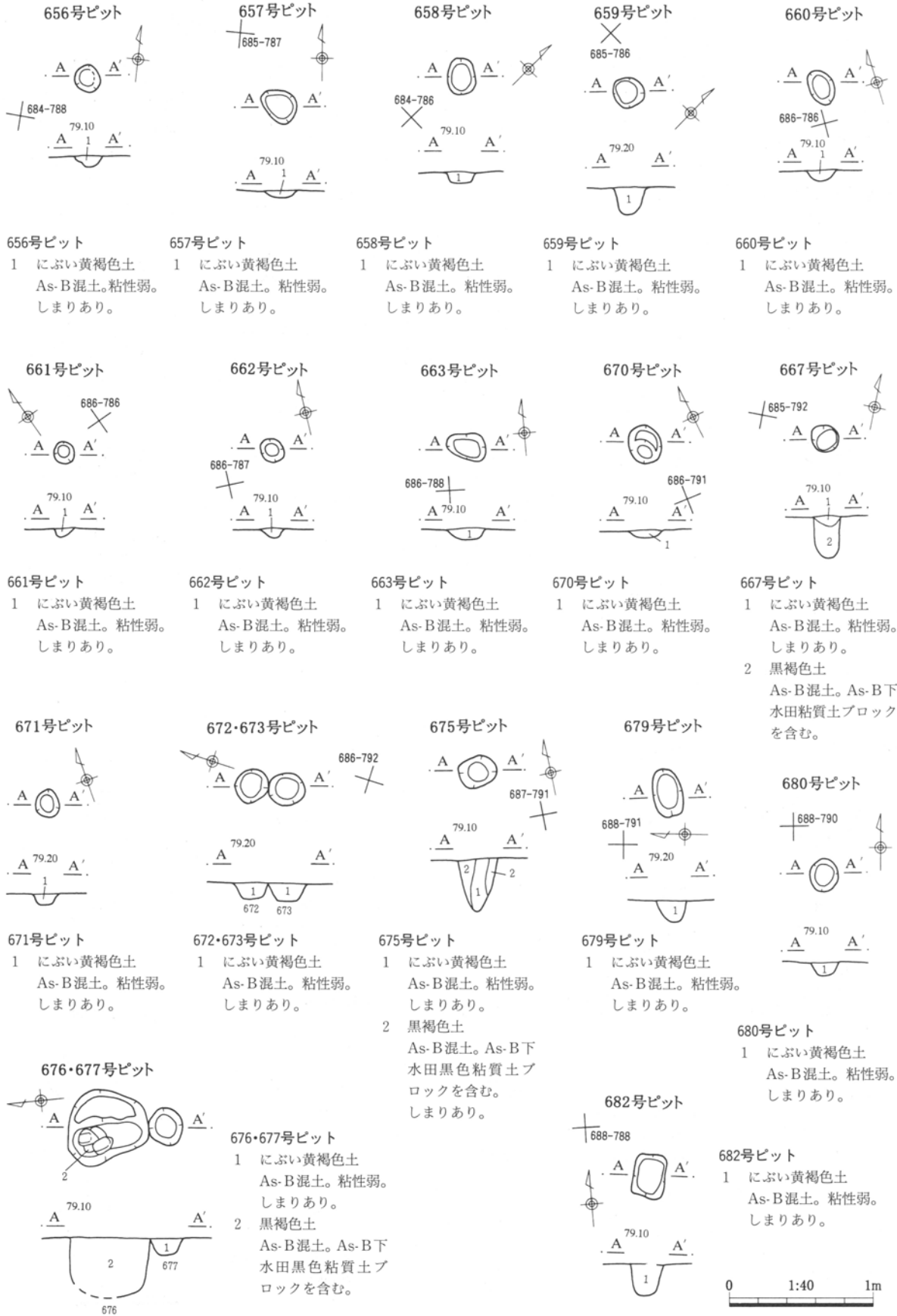


第385図 ピット実測図(2)



第386図 ピット実測図(3)

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)



第387図 ピット実測図(4)

第2章 遺構と遺物

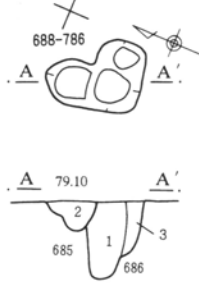
683号ピット



683号ピット

- 1 におい黄褐色土
As-B混土。粘性弱。
しまりあり。

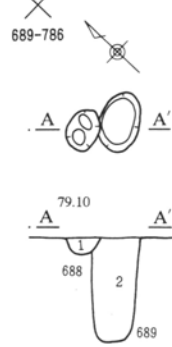
685・686号ピット



685・686号ピット

- 1 黒色土
As-B混土。FAブ
ロックを少量含む。
粘性・しまりなし。
2 黒色土
As-B混土。FAブ
ロックを少量含む。
しまりなく柔らかい。
3 黒褐色土
As-B混土。As-B下
水田黒色粘質土ブ
ロックを含む。

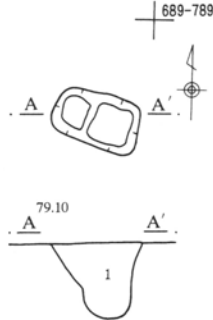
688・689号ピット



688・689号ピット

- 1 におい黄褐色土
As-B混土。粘性弱。
しまりあり。
2 黒褐色土
As-B混土。As-B下
水田黒色粘質土ブ
ロックを含む。

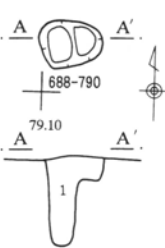
691号ピット



691号ピット

- 1 黒褐色土
As-B混土。As-B下
水田黒色粘質土ブ
ロックを含む。

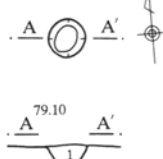
695号ピット



695号ピット

- 1 黒色土
As-B混土。FAブ
ロックを少量含む。
粘性・しまりなし。

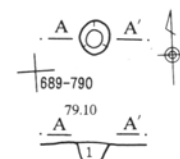
697号ピット



697号ピット

- 1 黄褐色土
As-B混土。粘性弱。
しまりあり。

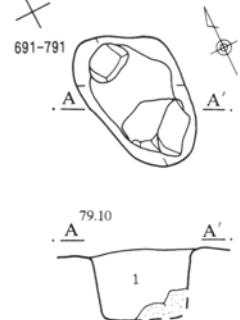
698号ピット



698号ピット

- 1 におい黄褐色土
As-B混土。粘性弱。
しまりあり。

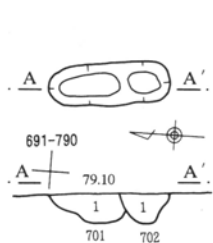
699号ピット



699号ピット

- 1 黒褐色土
As-B混土。As-B下
水田黒色粘質土ブ
ロックを含む。

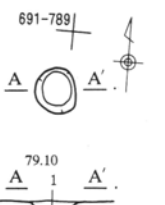
701・702号ピット



701・702号ピット

- 1 におい黄褐色土
As-B混土。粘性弱。
しまりあり。

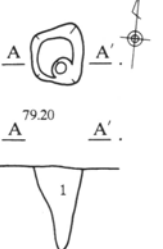
703号ピット



703号ピット

- 1 黒色土
As-B混土。FAブ
ロックを少量含む。
粘性・しまりなし。

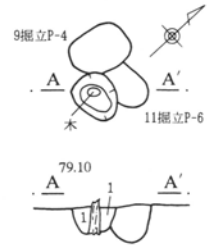
704号ピット



704号ピット

- 1 黒褐色土
As-B混土。As-B下
水田黒色粘質土ブ
ロックを含む。

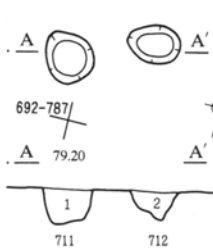
706号ピット



706号ピット

- 1 黒褐色土
As-B混土。FA・As-
B下水田黒色粘質土
ブロックを含む。

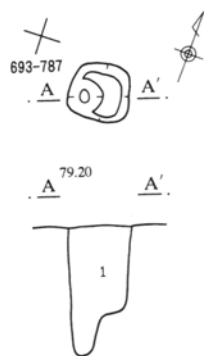
711・712号ピット



711・712号ピット

- 1 黒色土
As-B混土。FAブ
ロックを少量含む。
粘性・しまりなし。
2 におい黄褐色土
As-B混土。粘性弱。
しまりあり。

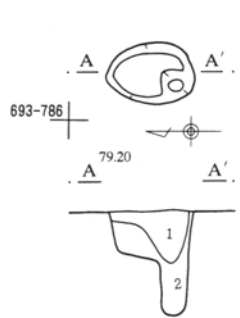
713号ピット



713号ピット

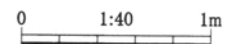
- 1 黒色土
As-B混土。FAブ
ロックを少量含む。
粘性・しまりなし。

714号ピット



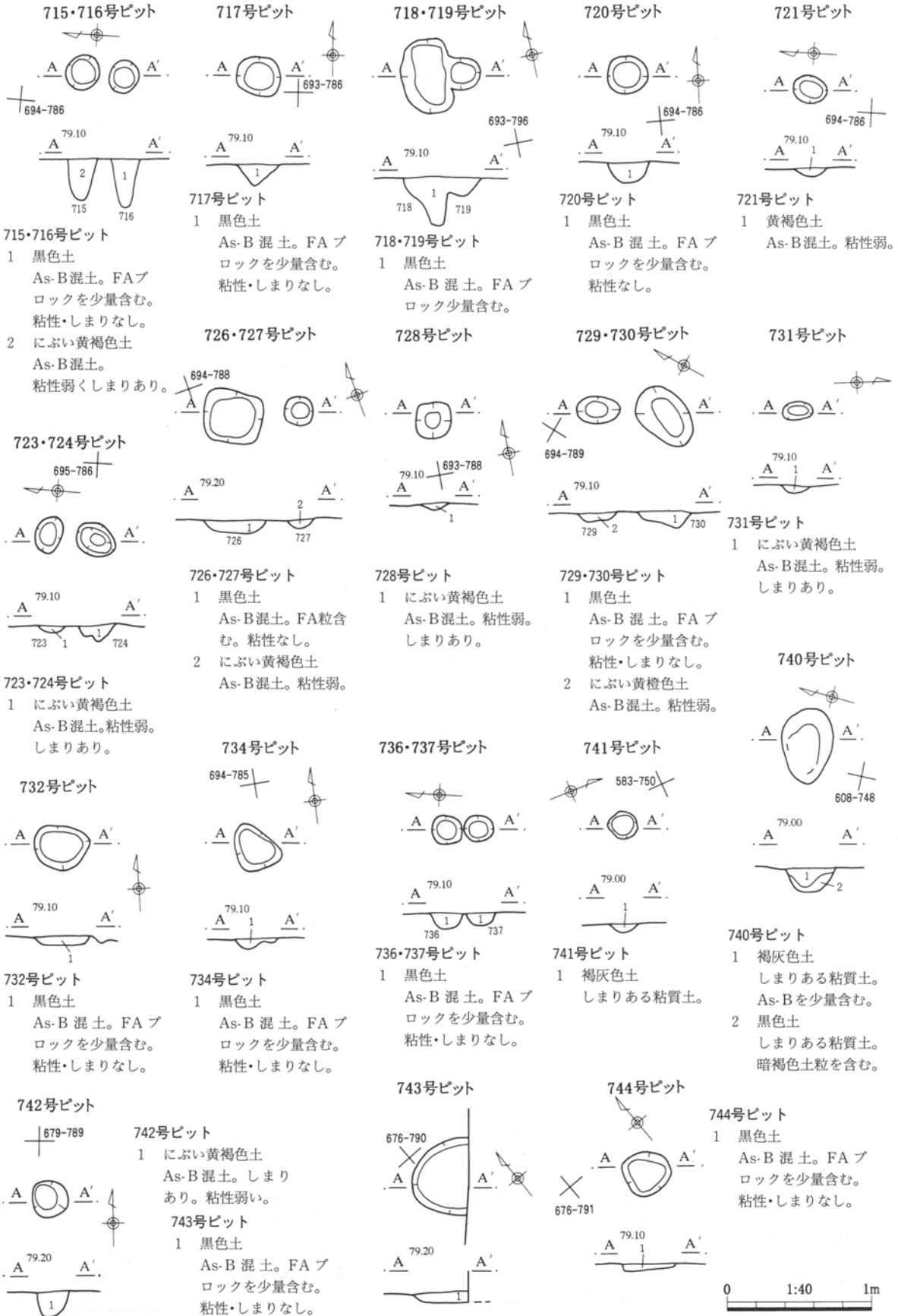
714号ピット

- 1 黒色土
As-B混土。FAブ
ロックを少量含む。
粘性・しまりなし。
2 黒褐色土
As-B混土。
FA・As-B下水田黒
色粘質土ブロックを
含む。



第388図 ピット実測図(5)

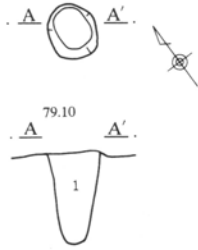
2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)



第389図 ピット実測図(6)

0 1:40 1m

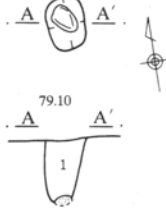
745号ピット



745号ピット

1 黒色土
As-B混土。FAブ
ロックを少量含む。
粘性・しまりなし。

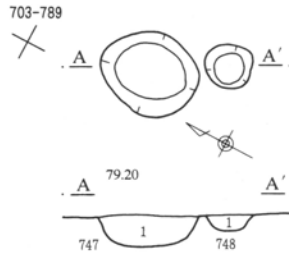
746号ピット



746号ピット

1 黒褐色土
As-B混土。FA・As-
B下水田黒色粘質
土ブロックを含む。

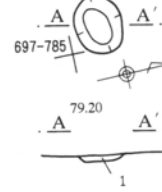
747・748号ピット



747・748号ピット

1 黒色土
As-B混土。FAブ
ロックを少量含む。

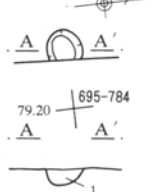
749号ピット



749号ピット

1 黒色土
As-B混土。FAブ
ロックを少量含む。
粘性・しまりなし。

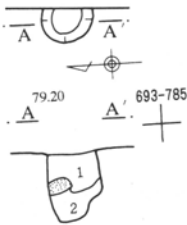
750号ピット



750号ピット

1 にぶい黄褐色土
As-B混土。粘性弱。
しまりあり。

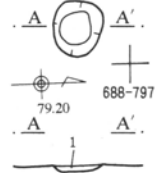
751号ピット



751号ピット

1 にぶい黄褐色土
As-B混土。粘性弱。
2 黒褐色土
As-B混土。FA下黒
色粘質土粒含む。

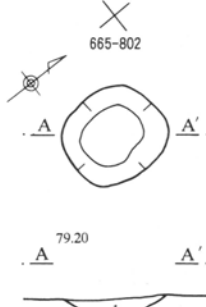
754号ピット



754号ピット

1 にぶい黄褐色土
As-B混土。しまり
あり。粘性弱い。

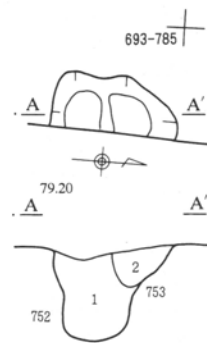
755号ピット



755号ピット

1 黒色土
As-B混土。FAブ
ロックを少量含む。
粘性・しまりなし。

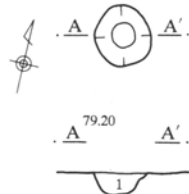
752・753号ピット



752・753号ピット

1 黒色土
As-B混土。FAブ
ロックを少量含む。
2 黒褐色土
As-B混土。FA・As-
B下水田黒色粘質土
ブロックを含む。炭
化物を少量含む。

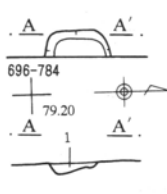
756号ピット



756号ピット

1 にぶい黄褐色土
As-B混土。しまり
あり。粘性弱い。

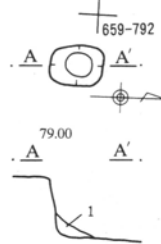
760号ピット



760号ピット

1 にぶい黄褐色土
As-B混土。しまり
あり。粘性弱い。

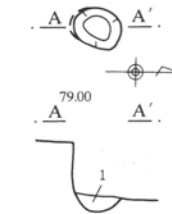
764号ピット



764号ピット

1 灰黄褐色土
As-B下水田耕作土
ブロック・FA・As-
Bを含む。

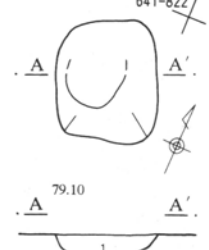
765号ピット



765号ピット

1 灰黄褐色土
As-B下水田耕作土
粒・FA・As-Bをま
だらに含む。粘性弱。

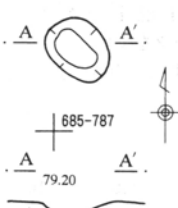
849号ピット



849号ピット

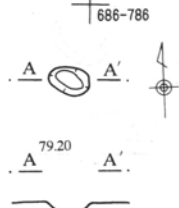
1 黒色土 粘性強い。

885号ピット



885号ピット

886号ピット



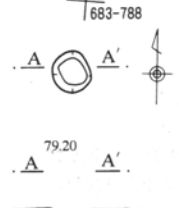
886号ピット

887号ピット



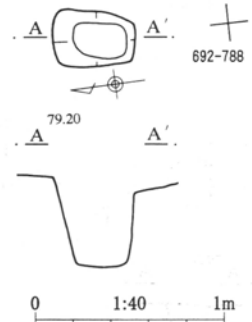
887号ピット

888号ピット



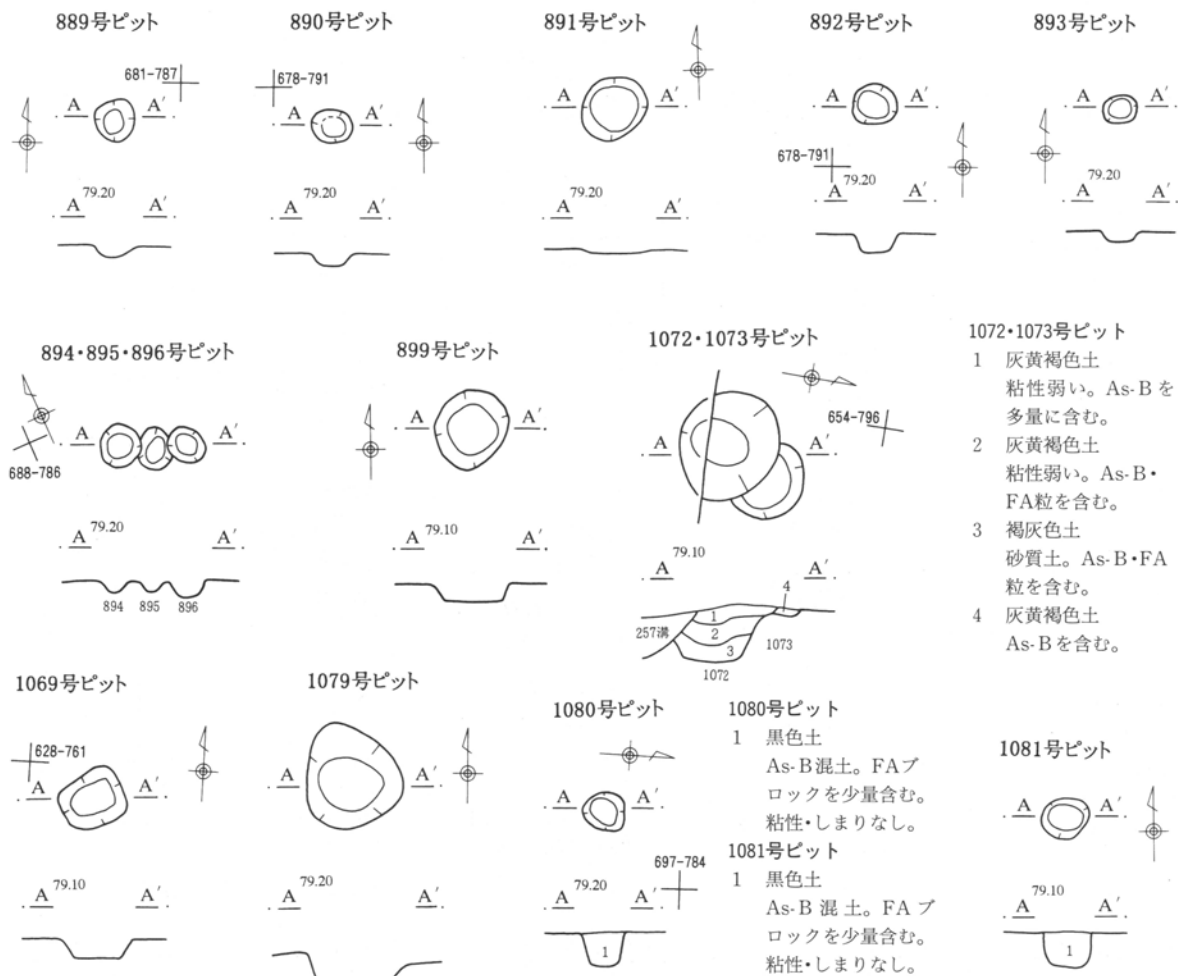
888号ピット

793号ピット

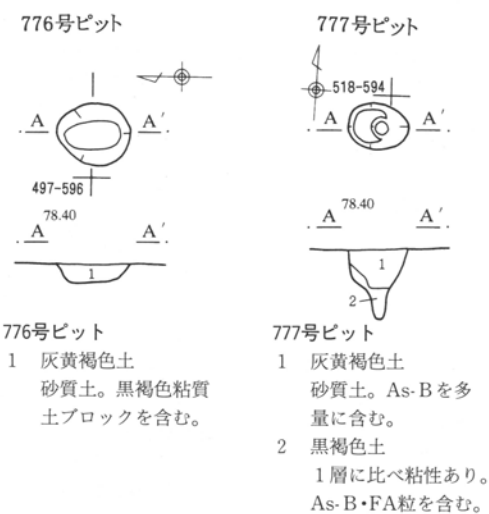


第390図 ピット実測図(7)

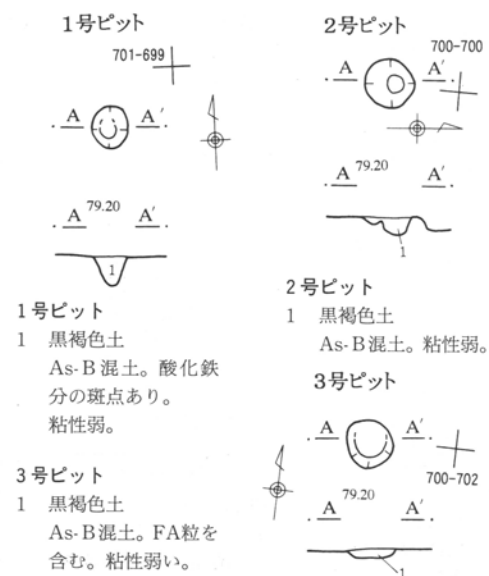
2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)



Aランプ

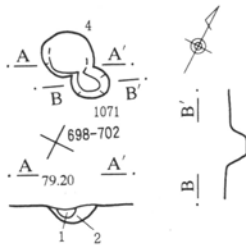


B区



第391図 ピット実測図(8)

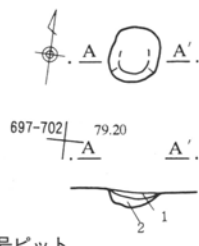
4・1071号ピット



4・1071号ピット

- 1 黒褐色土
As-B混土。
- 2 黒褐色土
As-Bを少量含む。
FAブロックを含む。

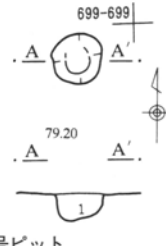
5号ピット



5号ピット

- 1 黒褐色土
As-B混土。粘性弱。
- 2 暗褐色土
As-Bを含む。FA粒を含む。

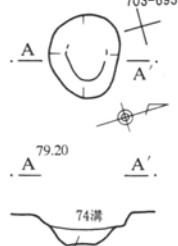
6号ピット



6号ピット

- 1 黒褐色土
As-B・FAブロック
を含む。

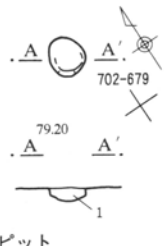
7号ピット



7号ピット

- 1 褐灰色土
粘性あり。酸化鉄分
の斑点あり。

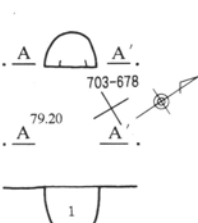
8号ピット



8号ピット

- 1 黒色土
粘性やや弱い。
As-B混土。

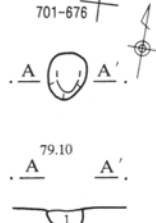
9号ピット



9号ピット

- 1 黒褐色土
As-B混土。FAブ
ロックを含む。

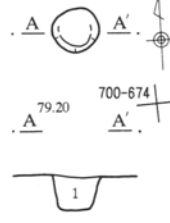
11号ピット



11号ピット

- 1 褐灰色土
やや粘性あり。FA
粒を含む。

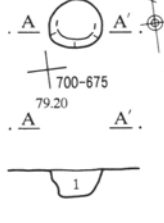
13号ピット



13号ピット

- 1 褐灰色土
やや粘性あり。酸化
鉄分の斑点あり。

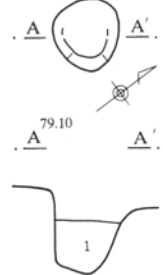
14号ピット



14号ピット

- 1 黒褐色土
やや粘性あり。白色
鉱粒を含む。

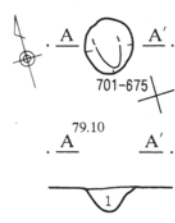
10号ピット



10号ピット

- 1 褐灰色土
粘性あり。FA粒を
含む。

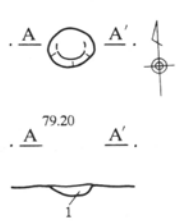
12号ピット



12号ピット

- 1 黒褐色土
FAブロックを
含む。

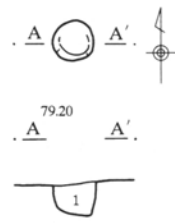
15号ピット



15号ピット

- 1 黒褐色土
FA粒を含む。

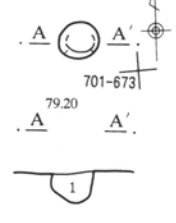
16号ピット



16号ピット

- 1 黒褐色土
As-Bを斑点状に
含む。粘性弱い。

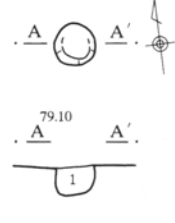
17号ピット



17号ピット

- 1 黒褐色土
As-Bを斑点状に
含む。粘性弱い。

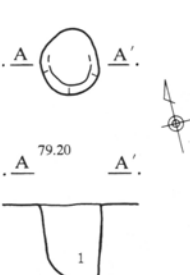
18号ピット



18号ピット

- 1 黒褐色土
As-Bを斑点状に
含む。粘性弱い。

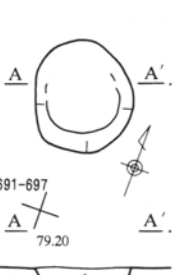
19号ピット



19号ピット

- 1 褐色土
FAブロックを
含む。
粘性あり。

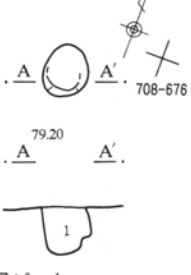
20号ピット



20号ピット

- 1 にぶい黄褐色土
粘性弱い。As-Bを
若干含む。

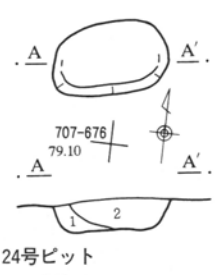
23号ピット



23号ピット

- 1 黒褐色土
As-Bを含む。
粘性弱い。

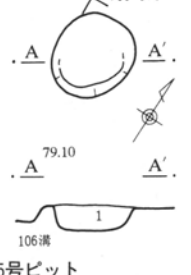
24号ピット



24号ピット

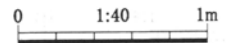
- 1 褐色土
FAブロックを含む。
- 2 黒褐色土
As-B含む。粘性弱。

25号ピット



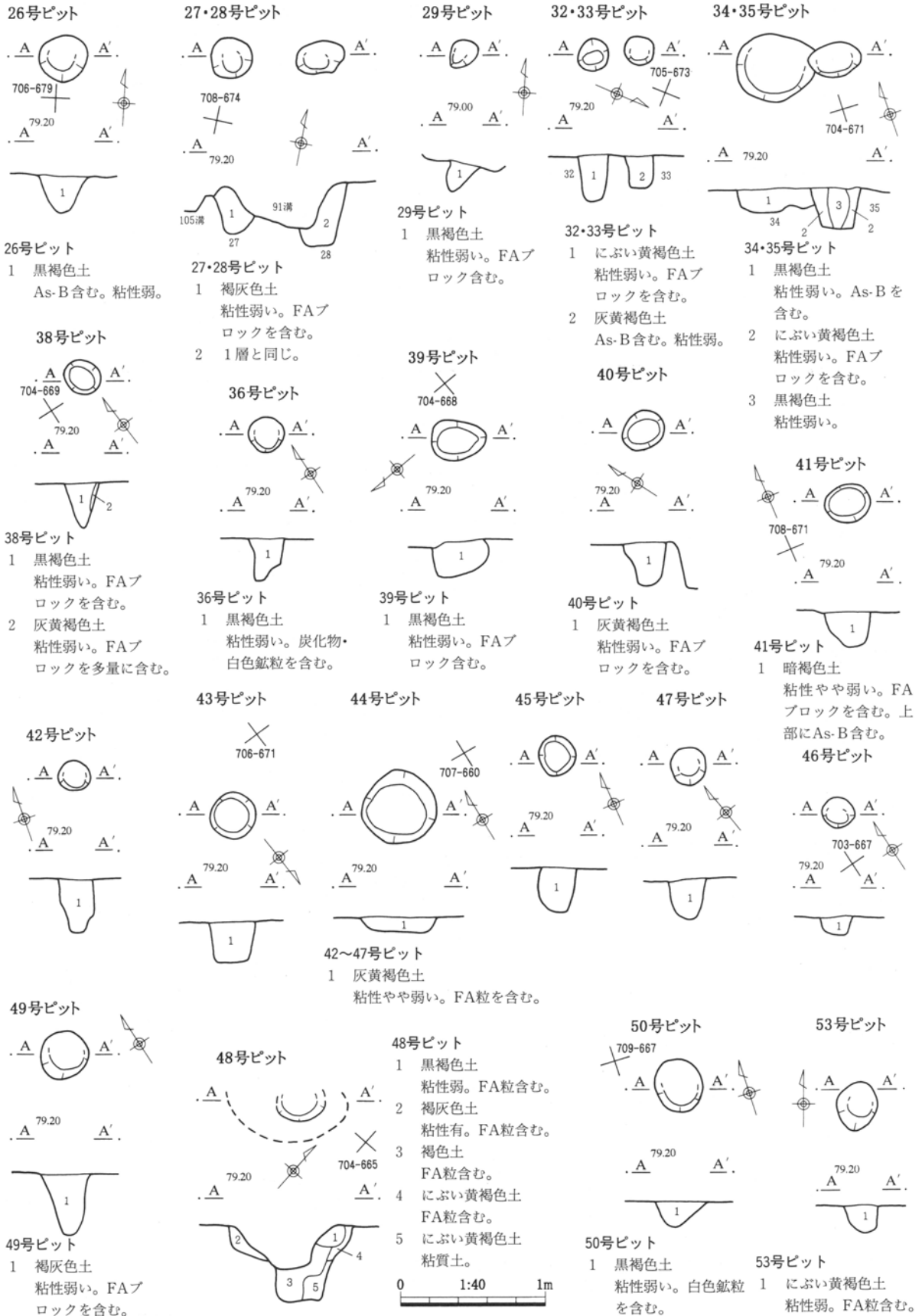
25号ピット

- 1 にぶい黄褐色土
As-B含む。粘性弱。

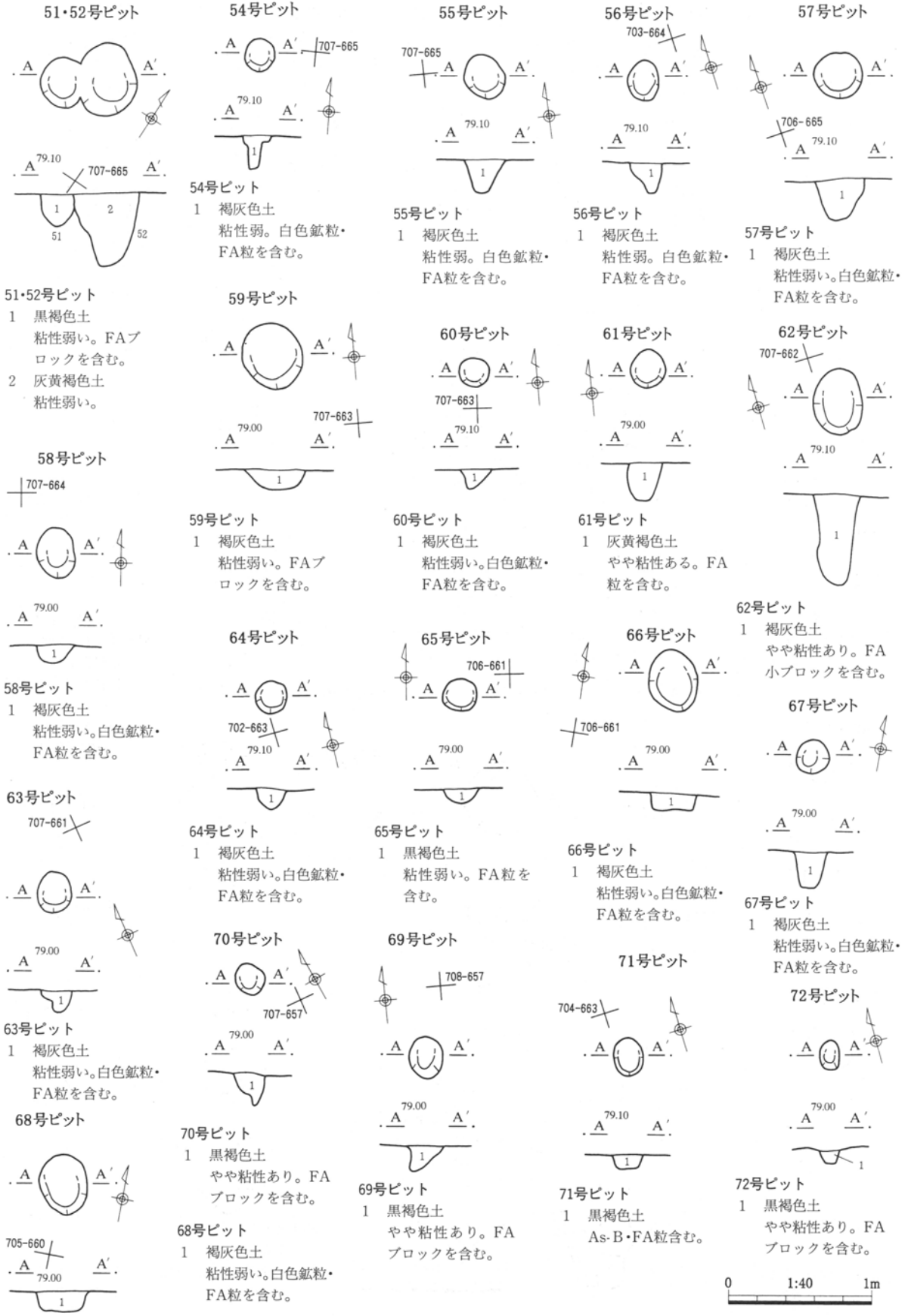


第392図 ピット実測図(9)

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)

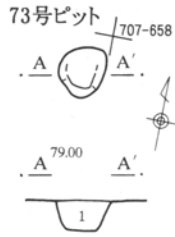


第393図 ピット実測図(10)

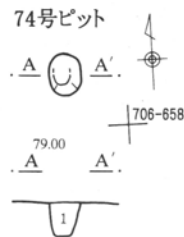


第394図 ピット実測図(11)

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)



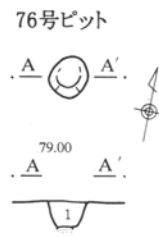
73号ピット
1 褐灰色土
やや粘性あり。
As-Bを含む。



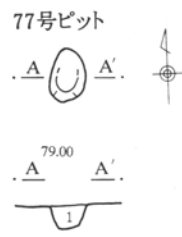
74号ピット
1 黒褐色土
やや粘性あり。FA
ブロックを含む。



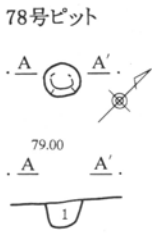
75号ピット
1 黒褐色土
やや粘性あり。FA
ブロックを含む。



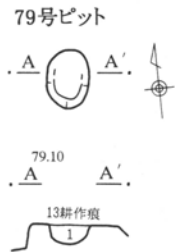
76号ピット
1 黒褐色土
やや粘性あり。FA
ブロックを含む。



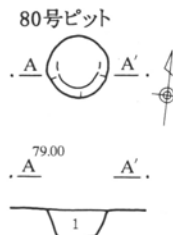
77号ピット
1 黒褐色土
やや粘性あり。FA
ブロックを含む。



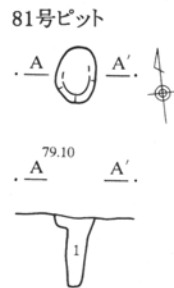
78号ピット
1 黒褐色土
やや粘性あり。FA
ブロックを含む。



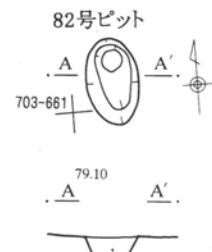
79号ピット
1 黒褐色土
粘性弱。FA粒含む。



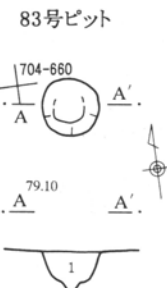
80号ピット
1 暗褐色土
やや粘性あり。黒褐
色土ブロック含む。



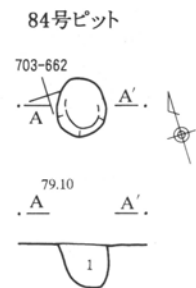
81号ピット
1 黒褐色土
粘性やや弱い。FA
ブロックを含む。



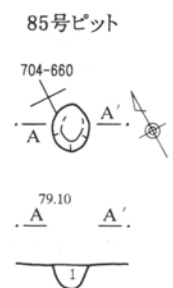
82号ピット
1 黒褐色土
粘性やや弱い。FA
ブロックを含む。



83号ピット
1 暗褐色土
黒褐色土ブロックを
含む。



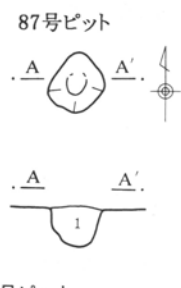
84号ピット
1 黒褐色土
やや粘性あり。FA
粒を含む。



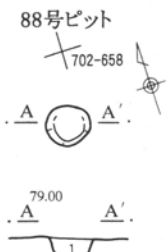
85号ピット
1 黒褐色土
粘性弱い。FA粒を
含む。



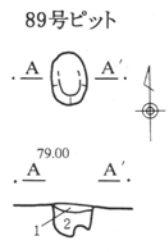
86号ピット
1 黒褐色土
粘性弱い。FA粒を
含む。



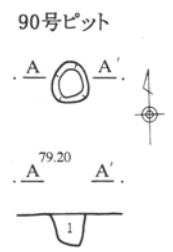
87号ピット
1 黒褐色土
粘性弱い。FA粒を
含む。



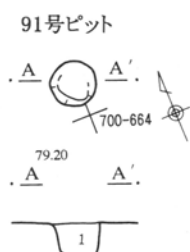
88号ピット
1 黒褐色土
As-Bを含む。
粘性弱い。



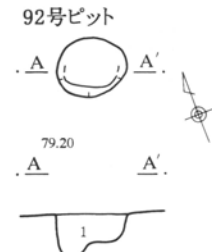
89号ピット
1 黒色土
As-B混土。粘性弱。
2 暗褐色土
粘性弱い。FAブ
ロックを含む。



90号ピット
1 灰黄褐色土
粘性弱い。FAブ
ロックを含む。



91号ピット
1 灰黄褐色土
粘性弱い。FAブ
ロックを含む。

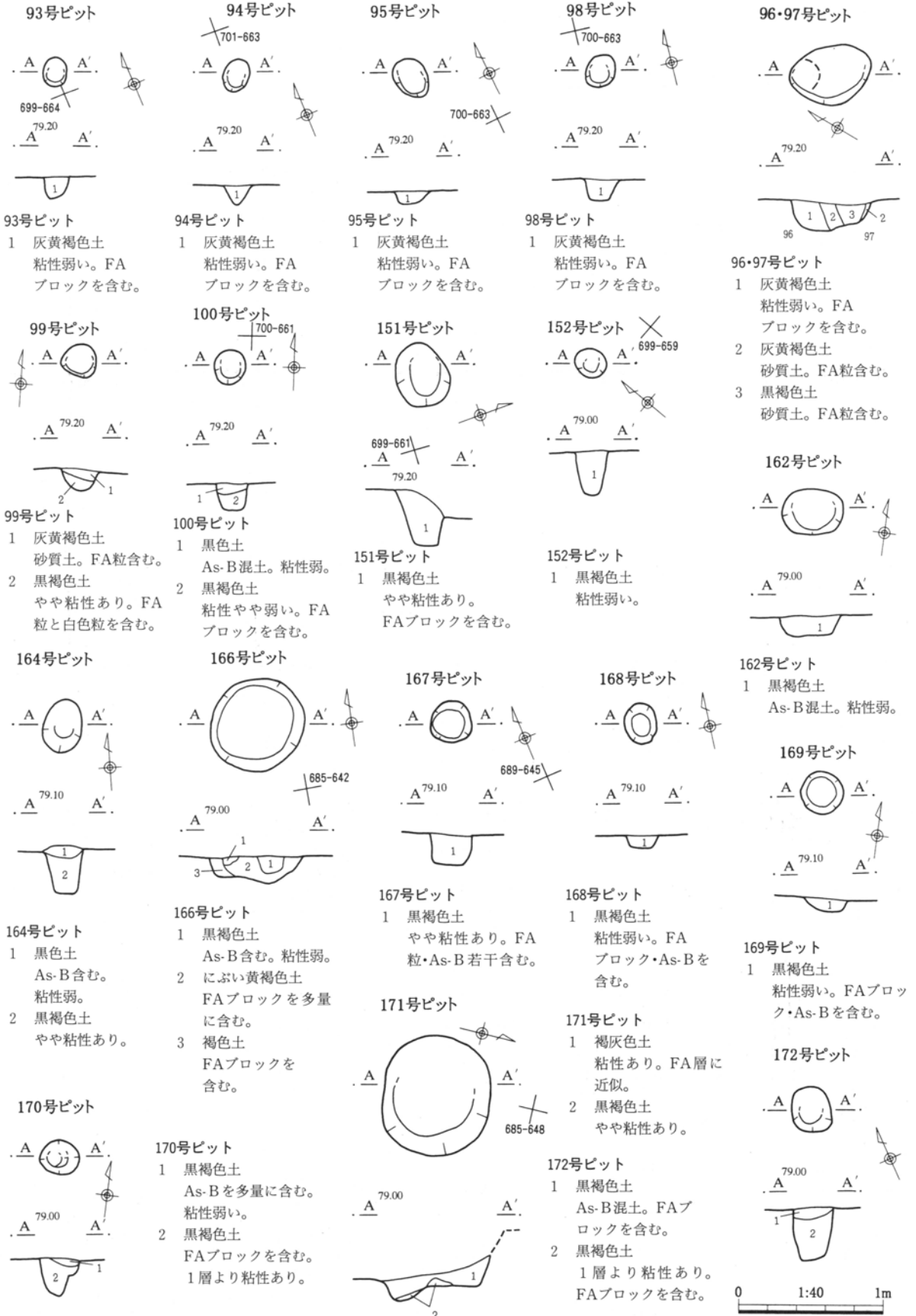


92号ピット
1 灰黄褐色土
粘性弱い。FAブ
ロックを含む。



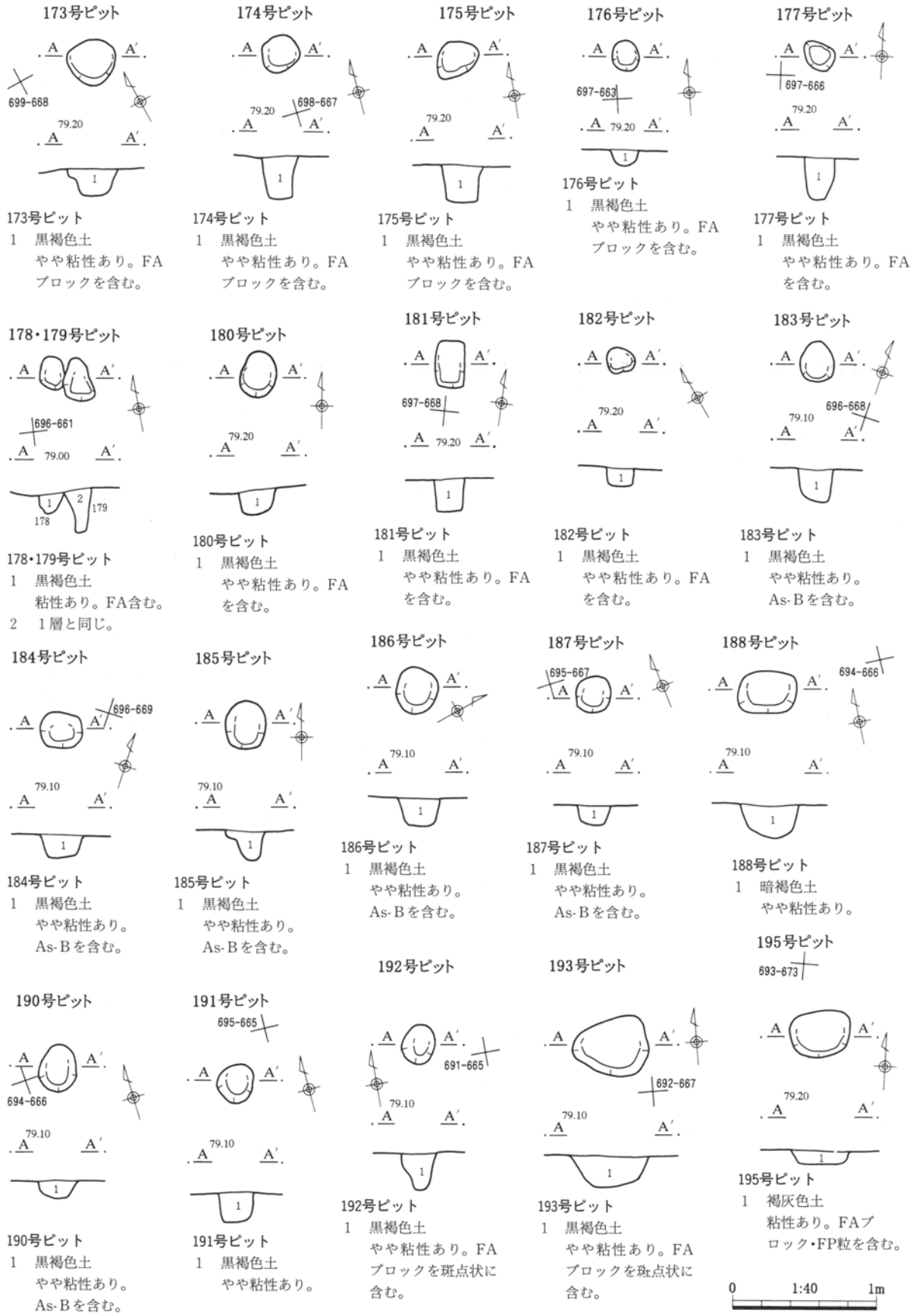
第395図 ピット実測図(12)

第2章 遺構と遺物

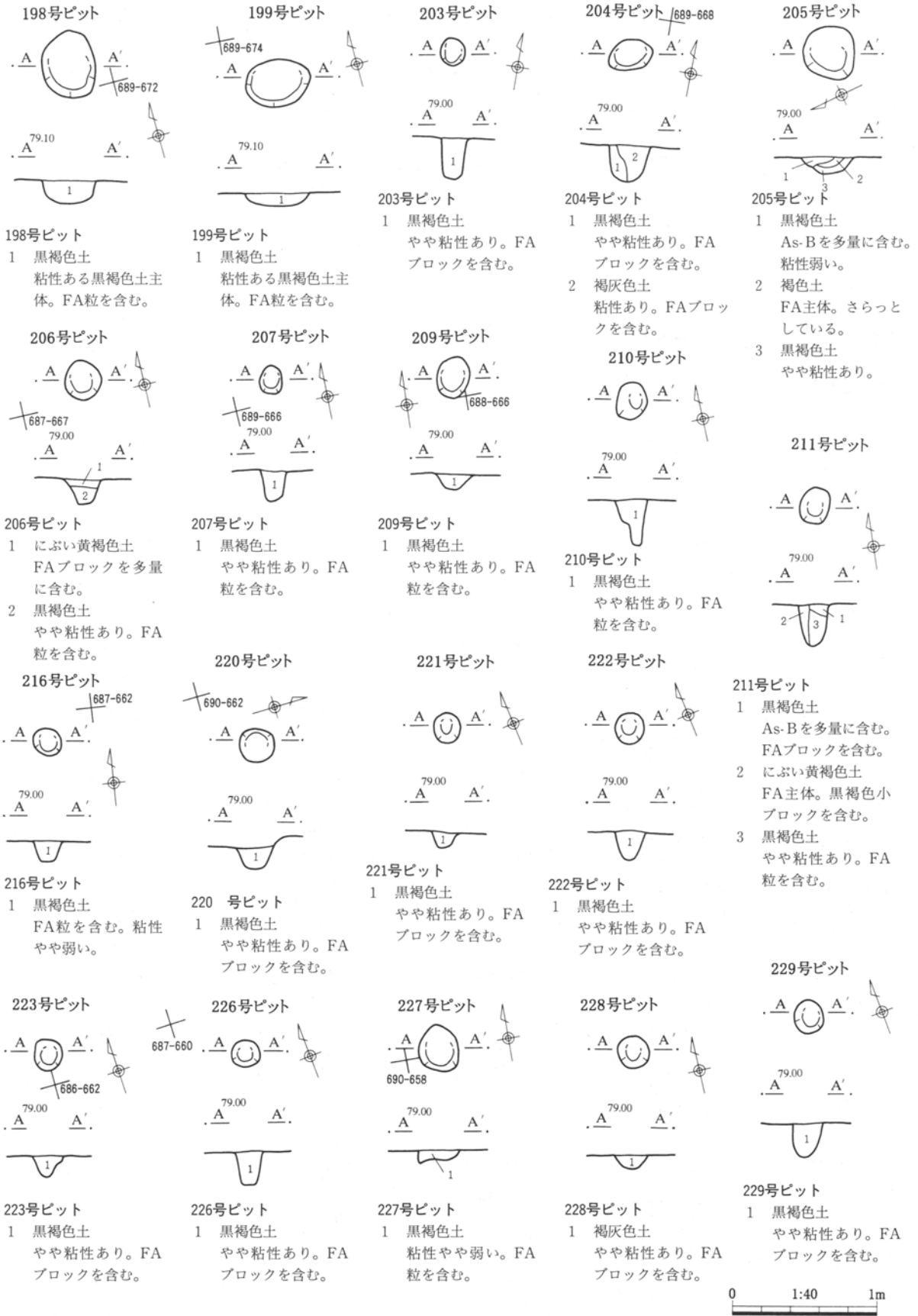


第396図 ピット実測図(13)

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)



第397図 ピット実測図(14)



第398図 ピット実測図(15)

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)

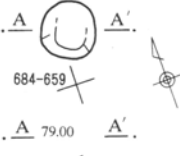
230号ピット



230号ピット

- 1 褐灰色土
粘性弱い。FA粒を含む。
- 2 黒褐色土
やや粘性あり。FA粒を含む。

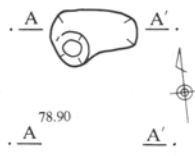
231号ピット



231号ピット

- 1 黒褐色土
As-Bを含む。粘性弱。
- 2 黒褐色土
FAブロックを多量に含む。

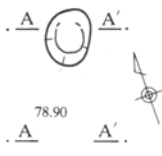
232号ピット



232号ピット

- 1 黒褐色土
As-Bを混入。
- 2 暗黄褐色土
シルト質土。FAの二次堆積土。

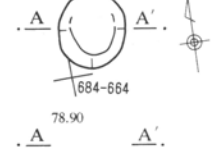
235号ピット



235号ピット

- 1 暗褐色土
FAブロック・As-Bを含む。
- 2 褐色土
FAブロックを多量、As-Bを少量含む。

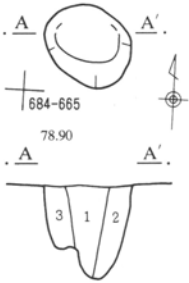
236号ピット



236号ピット

- 1 黒褐色土
As-Bを均一に含む。
- 2 暗褐色土
As-Bを均一に含む。
- 3 暗褐色土
As-B・FAブロックを少量含む。

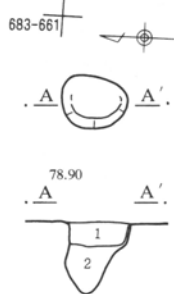
237号ピット



237号ピット

- 1 褐色土
FA粒・As-Bを少量含む。
- 2 褐色土
FA粒・As-Bを少量含む。
- 3 黒褐色土
FA粒・As-B含む。

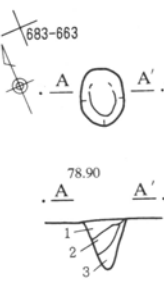
239号ピット



239号ピット

- 1 黒褐色土
As-B・FAブロックを少量含む。
- 2 暗褐色土
As-B・FAブロックを少量含む。しまりあり。

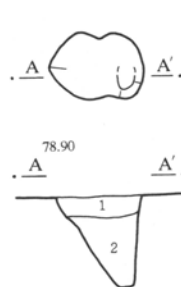
241号ピット



241号ピット

- 1 灰白色土
シルト。
- 2 灰白色土
シルト。FAブロックを含む。
- 3 暗黄褐色土
シルト。

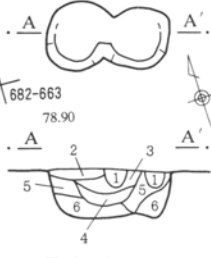
242号ピット



242号ピット

- 1 褐色土
FA粒・As-Bを少量含む。
- 2 黒褐色土
白色鉄粒を含む。

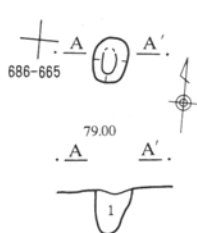
240号ピット



240号ピット

- 1 黒褐色土
As-Bを含む。
- 2 灰白色土
シルト質土。
- 3 黒褐色土
1層に近似。As-Bを含まない。
- 4 暗黄褐色土
シルト質土。
- 5 暗褐色土
シルト質土。
- 6 黄褐色土
FAを多量に含む。

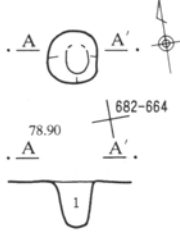
238号ピット



238号ピット

- 1 暗褐色土
As-B少量含む。
やや粘性あり。

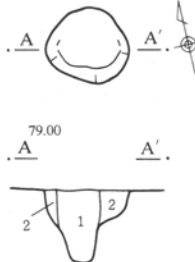
243号ピット



243号ピット

- 1 黒褐色土
As-Bを均一に含む。

244号ピット



244号ピット

- 1 褐色土
白色鉄粒を少量含む。しまりあり。
- 2 褐色土
しまり強い。

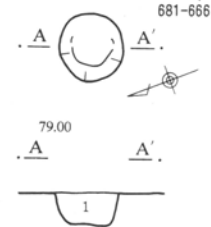
246号ピット



246号ピット

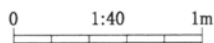
- 1 黒褐色土
As-Bを均一に含む。
- 2 暗褐色土
As-Bを均一に含む。

245号ピット



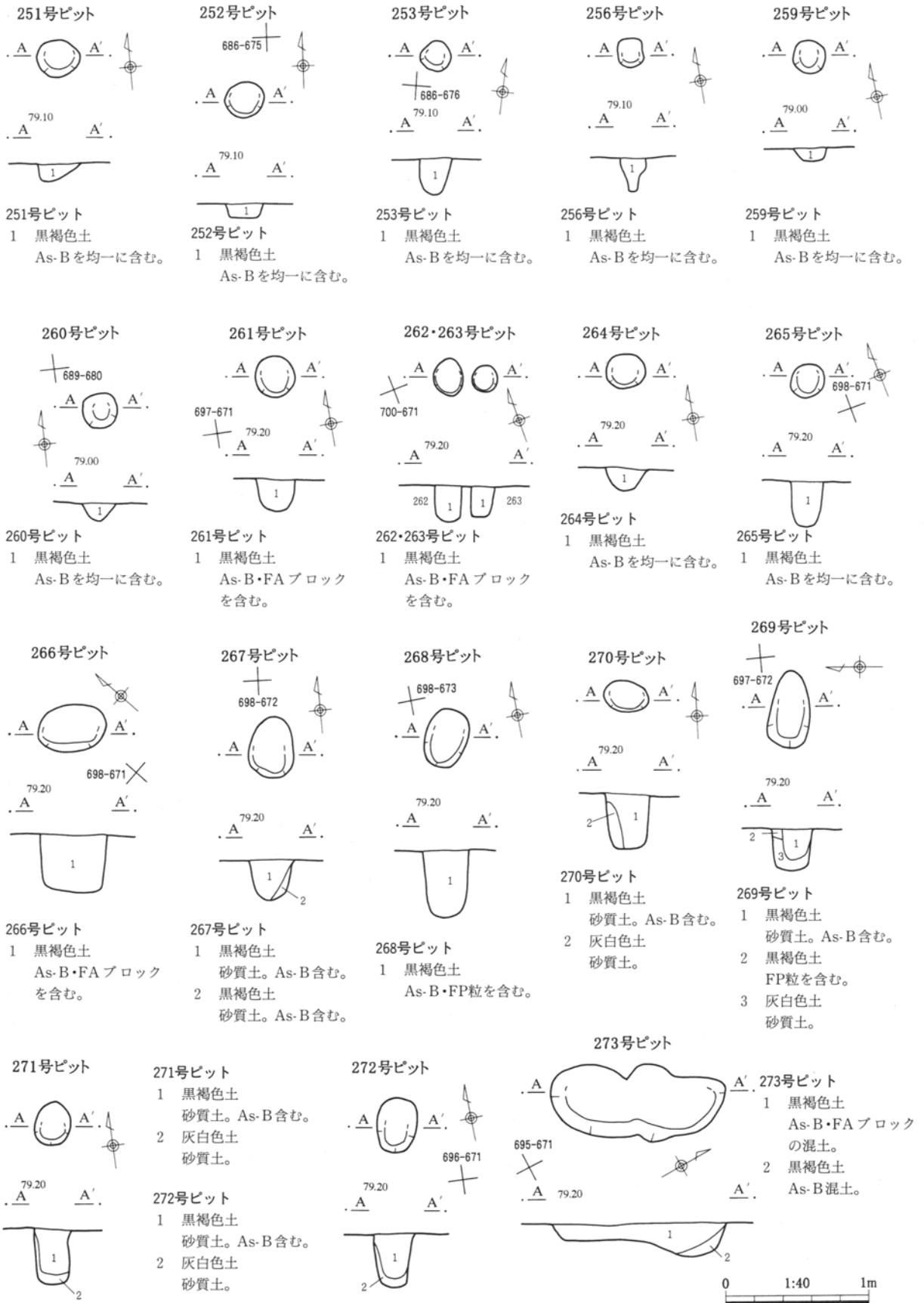
245号ピット

- 1 褐色土
FA粒・As-Bを少量含む。



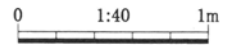
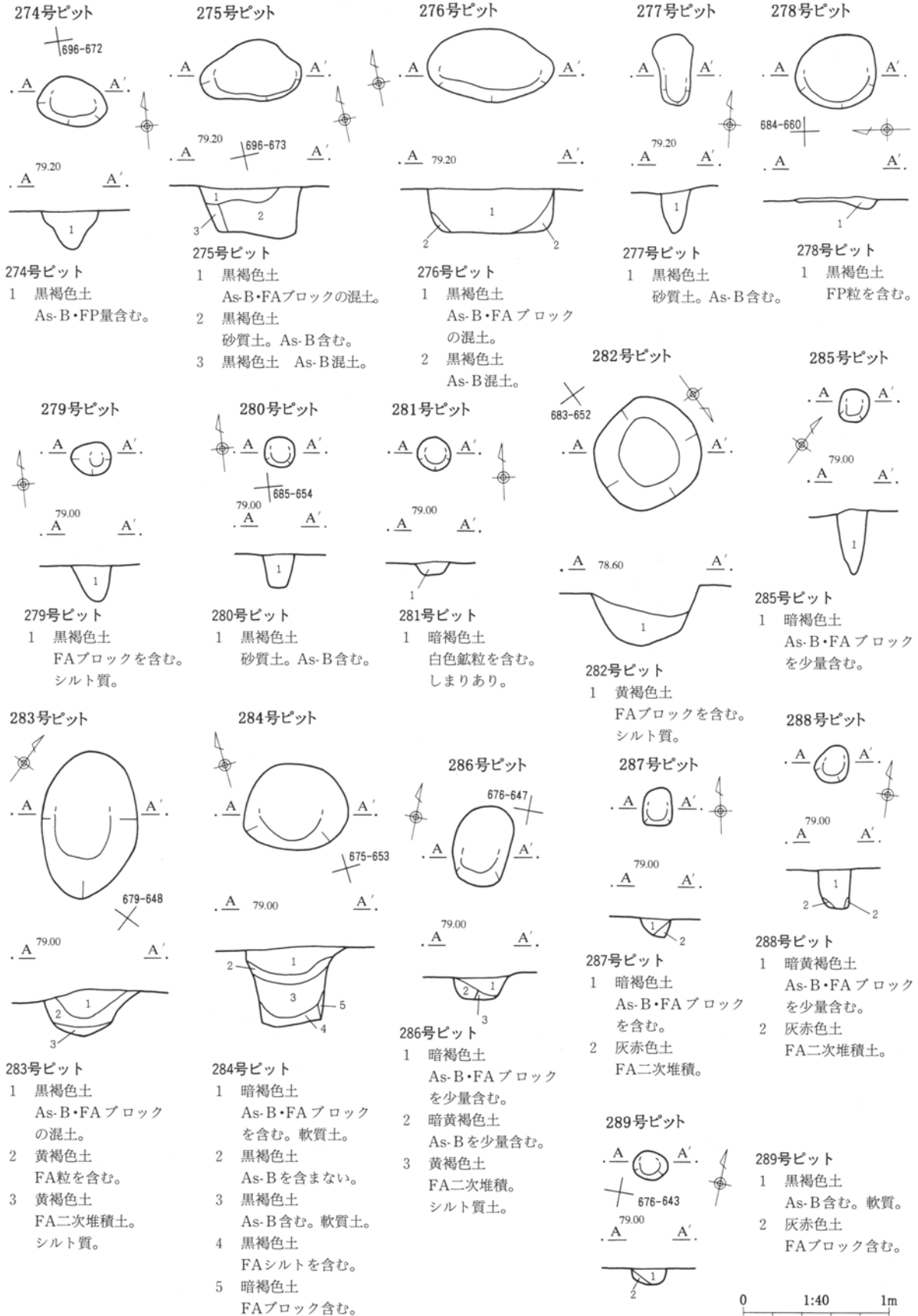
第399図 ピット実測図(16)

第2章 遺構と遺物



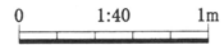
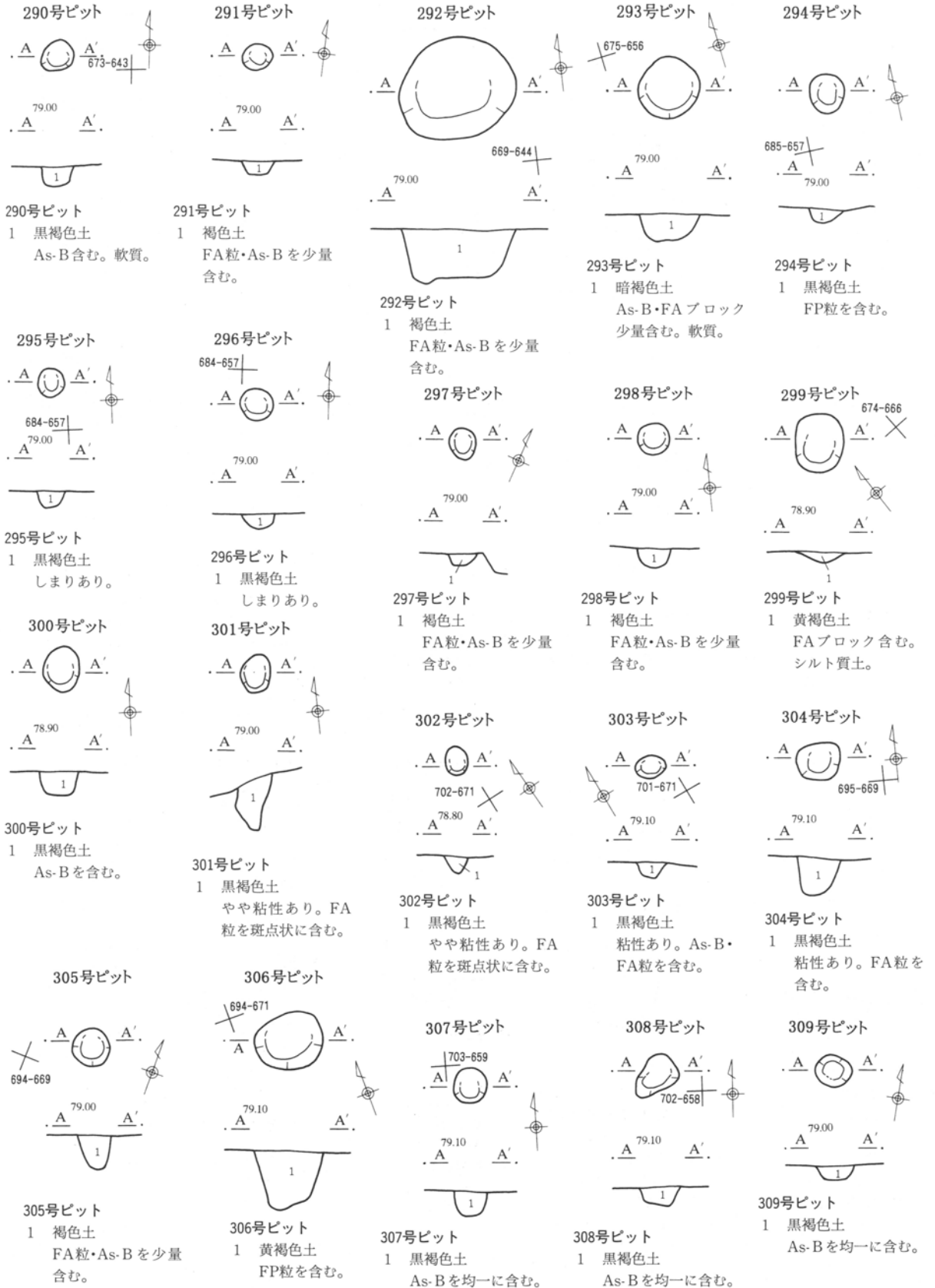
第400図 ピット実測図(17)

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)



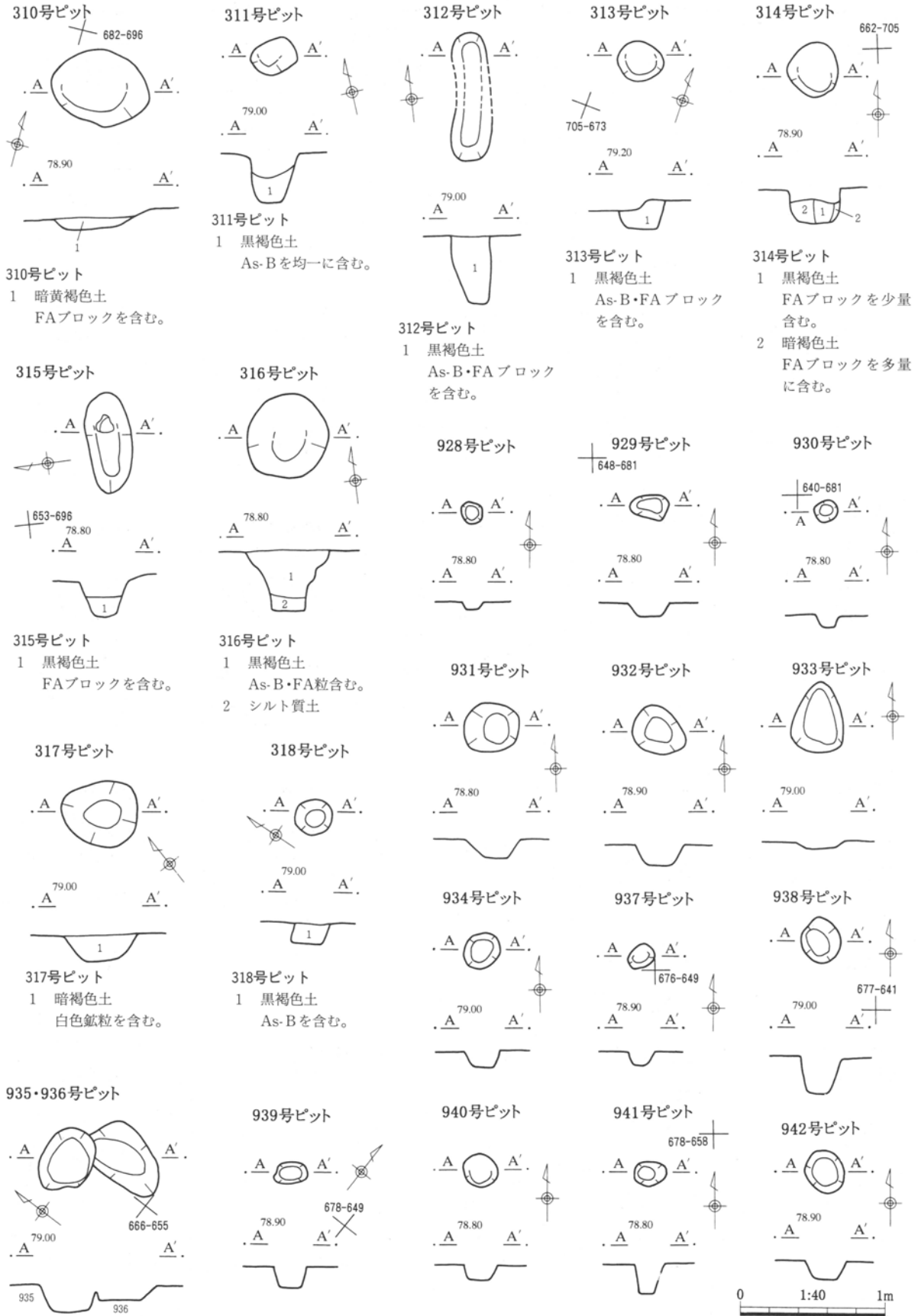
第401図 ピット実測図(18)

第2章 遺構と遺物

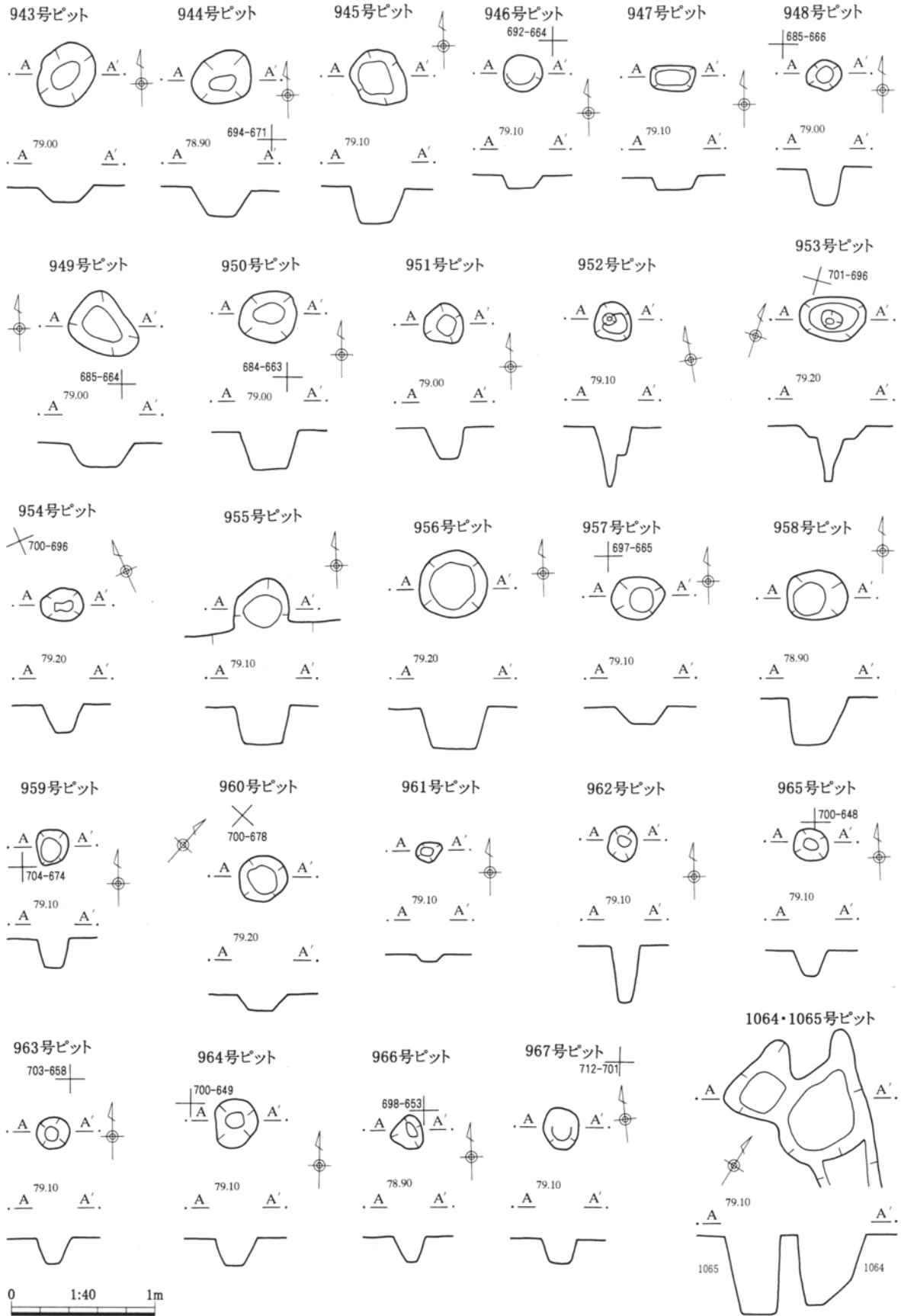


第402図 ピット実測図(19)

2. 中・近世面 (鎌倉時代～近世)

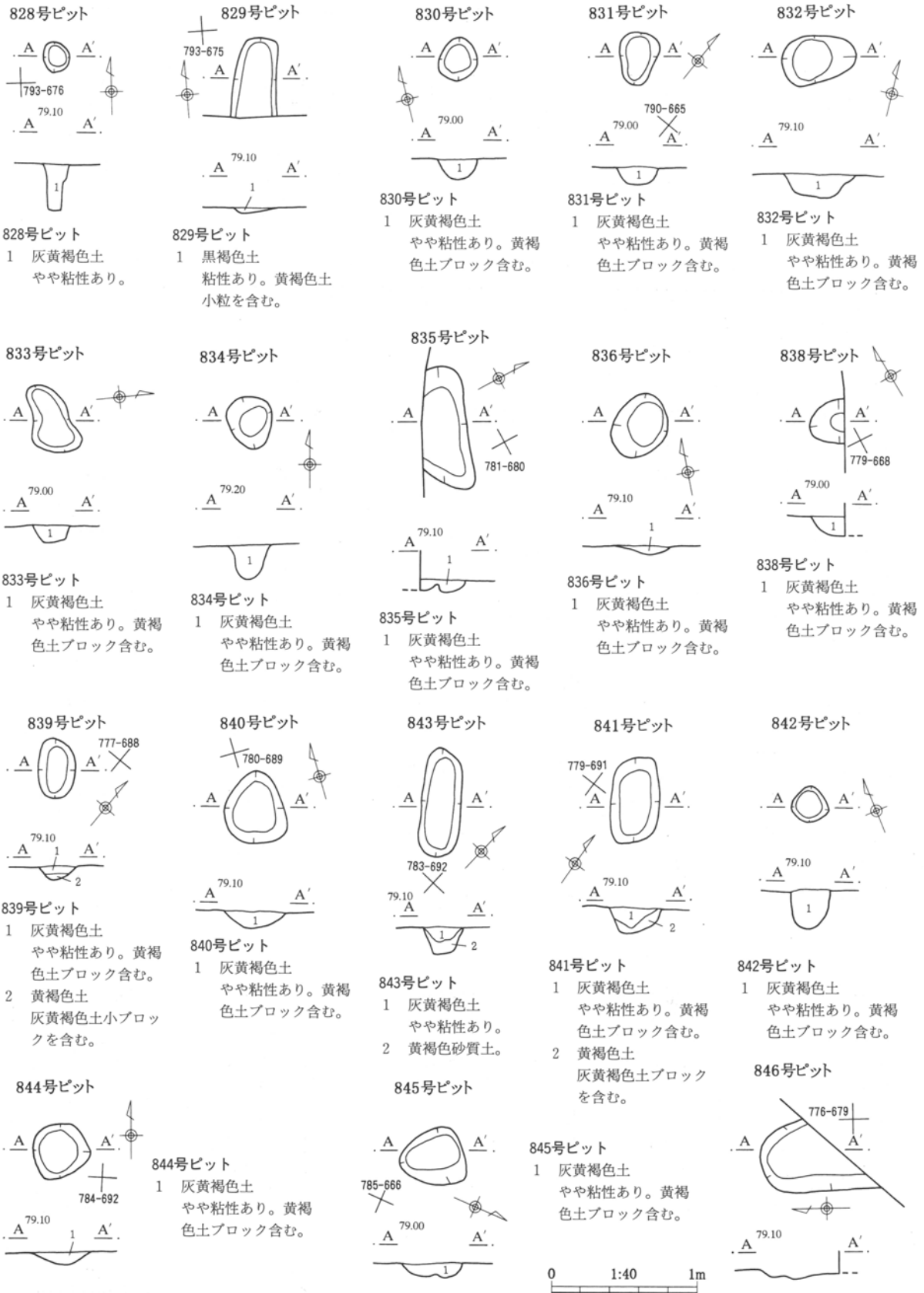


第403図 ピット実測図(20)



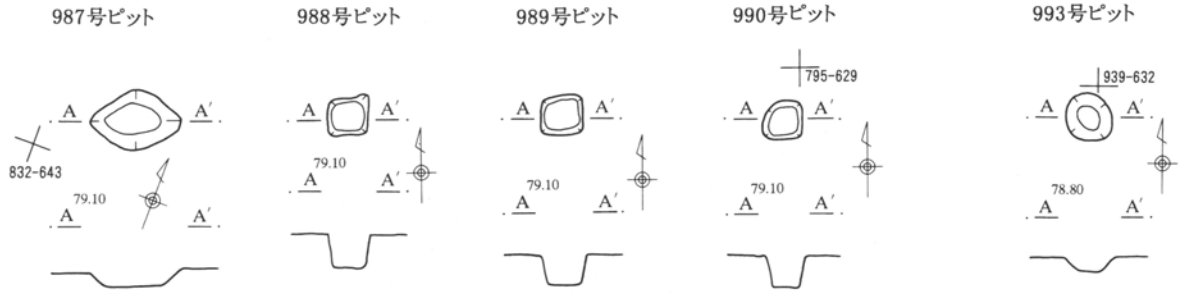
第404図 ピット実測図(21)

C区



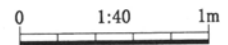
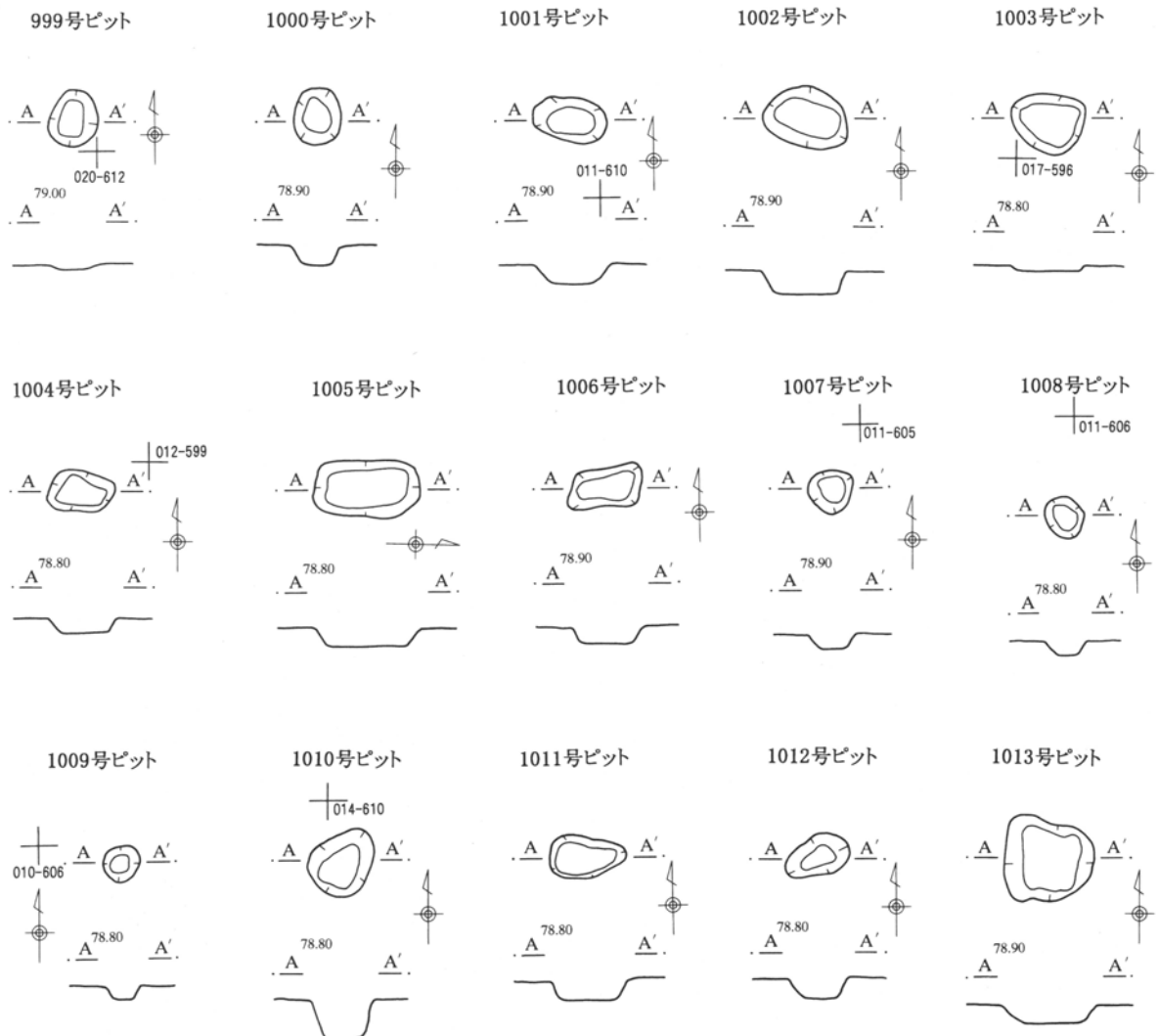
第405図 ピット実測図(22)

D区



E区

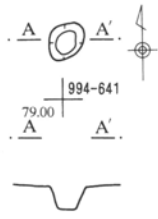
F区



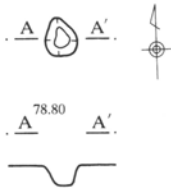
第406図 ピット実測図(23)

2. 中・近世面（鎌倉時代～近世）

1014号ピット



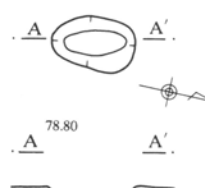
1015号ピット



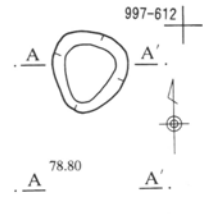
1016号ピット



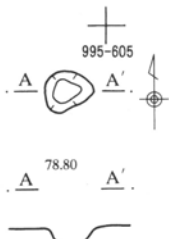
1017号ピット



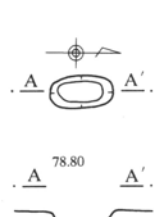
1018号ピット



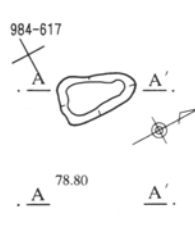
1019号ピット



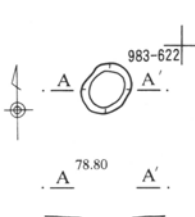
1020号ピット



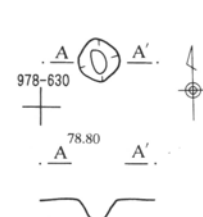
1021号ピット



1022号ピット



1023号ピット



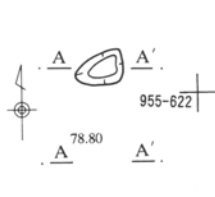
1024号ピット



1025号ピット



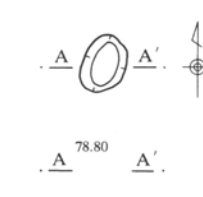
1026号ピット



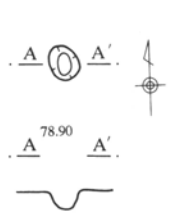
1027号ピット



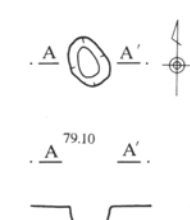
1028号ピット



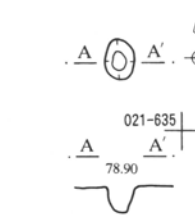
1032号ピット



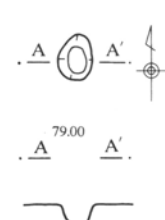
1033号ピット



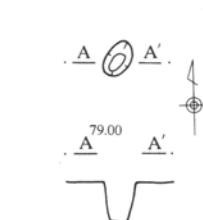
1034号ピット



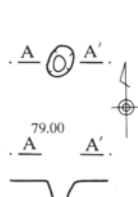
1035号ピット



1036号ピット



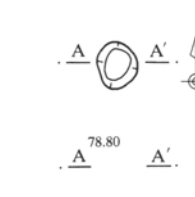
1037号ピット



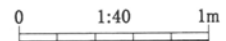
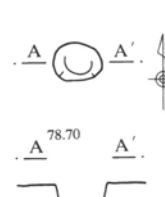
1038号ピット



1039号ピット



1040号ピット



第407図 ピット実測図(24)

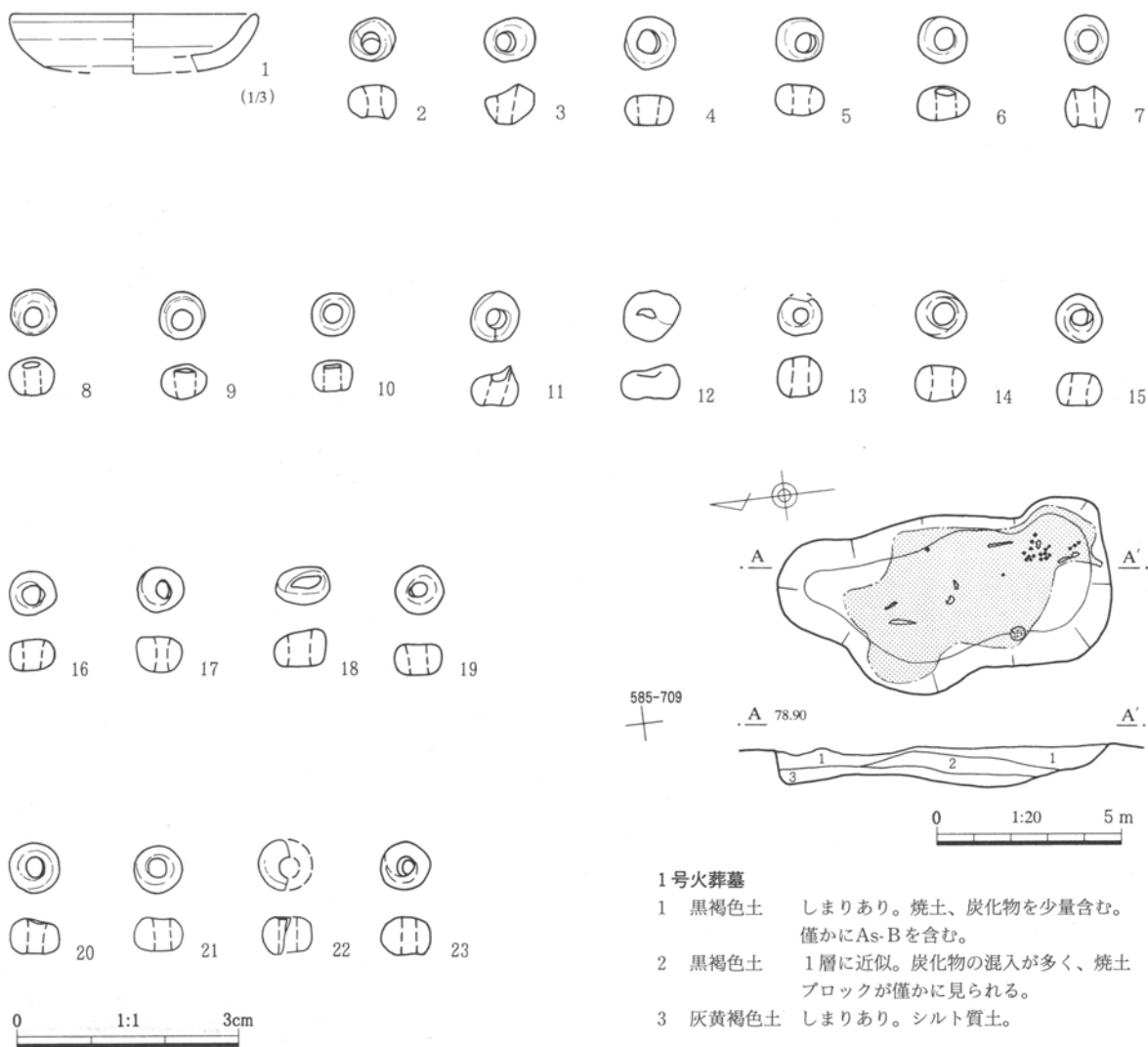
(9) 火葬墓

1号火葬墓 (第408図、PL-166)

位置 580—705グリッド 長軸方向 N-7°-E 形状 不整形 規模 長軸90cm、短軸45cm、深さ10cm 重複 なし 調査所見 浅い土坑である。埋土にAs-B軽石を含むことから、As-B降下以後の所産である。数珠玉・骨片等が出土し、炭化物が面的に広がっていることから、火葬墓と考えられる。

遺物 1はカワラケ。口径10.0cm。江戸時代。2～23は数珠玉。計測値は以下の通り。

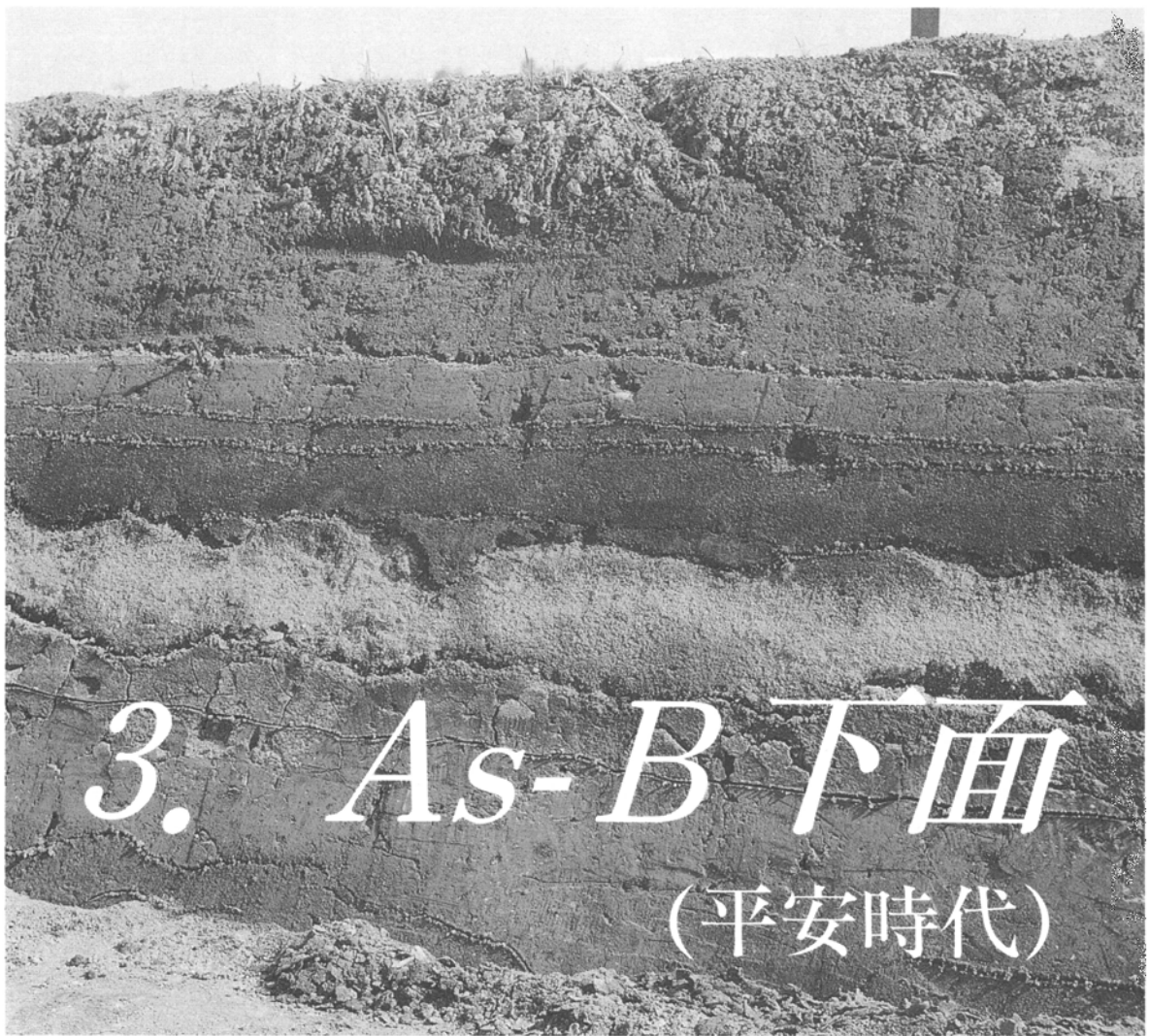
番号	径	厚さ	重量	番号	径	厚さ	重量	番号	径	厚さ	重量
2	0.60	0.45	0.22	10	0.60	0.40	0.31	18	0.65	0.50	0.26
3	0.60	0.55	0.27	11	0.70	0.55	0.18	19	0.65	0.40	0.25
4	0.70	0.40	0.23	12	0.70	0.45	0.29	20	0.70	0.50	0.29
5	0.60	0.40	0.21	13	0.50	0.55	0.22	21	0.65	0.45	0.27
6	0.60	0.45	0.22	14	0.50	0.50	0.27	22	0.65	0.50	0.19
7	0.65	0.60	0.28	15	0.65	0.45	0.27	23	0.70	0.50	0.29
8	0.65	0.50	0.25	16	0.60	0.45	0.23	(単位: cm・g)			
9	0.65	0.45	0.19	17	0.60	0.50	0.22				



第408図 1号火葬墓実測図・出土遺物

天仁元（1,108）年の浅間山の大噴火で、平安時代の上野国は、厚い火山性堆積物に覆われた。

上滝榎町北遺跡でも、厚さ10cmほどの火山性軽石層が検出された。軽石にパックされた調査面から、平安時代の生産域を考える。



中央の白い層が、1,108年に降下したAs-B軽石層

As-B 下面について

As-B軽石層は、天仁元(1,108)年に降下した、浅間山の噴火に伴う軽石層である。As-B下面の調査で検出された遺構は、水田跡と溝20条、耕作痕1、土坑9基、足跡列4である。

高崎市上滝町(旧上滝村)は、東は滝川、西は井野川によって挟まれた地域にある。滝川は、もともと天狗岩用水といわれ、吉岡町付近の利根川から取水し、高崎市上滝町あたりまでを潤したのが始まりである。天狗岩用水は、江戸時代初期の慶長年間(1,602~04年)に、総社城主秋元長朝によって掘削された用水である。すなわち、平安時代に滝川(天狗岩用水)は、存在していなかった。平安時代の上滝町は、井野川と現在の利根川河道を流れていたと思われる旧利根川(仮名。利根川は戦国時代に、現在の流路となる。それ以前は前橋市の北側を流れる桃の木川の流路を流れていた。)の間の低地帯である。

群馬県は火山災害の多い土地であり、広域テフラ層で旧地表面がパックされていることから、容易に当時の生産域のあった地表面を検出できる特色を持っている。このAs-B下水田跡では、はっきりと畦畔が確認でき、条里地割に伴うとされる畦畔や、畦畔で区切られた区画面積のわかる水田跡が検出されている。また、E区西半部には、竪穴住居跡も見られる。

条里制が群馬県にいつ頃から導入されたのかは、未だに解明できていない課題である。また、条里制という制度自体についても、学術的に評価が定まっていないように思われる。従来、班田収受法との関わりの中で、説明される場面が多かった条里制であるが、従来の見解は班田の行政管理面からの理解に、重きを置き過ぎているように思われる。耕地整理事業は、古代においても社会経済システムの中で考えられるべきものであろう。つまり、耕地整理前に比べて、収穫量や労働効率などの諸条件を加味した生産コストが減少していなければならないと考えられるからである。資本・労働を導入して耕地整理を行うのであるから、必然的にそれに見合う増収や労働効率化、または灌漑地域(耕地)の拡大、用排水路・道路網の整備等が行われていたと考えるべきであろう。

群馬県では、赤城山南麓で、弘仁9(818)年のものとされる洪水層下水田が検出されている。報告書によれば、その水田は弥生~古墳時代に盛行する小区画水田・極小区画水田ではなく、条里を伴うAs-B下水田と同じような大区画水田である。とすれば、群馬県には遅くとも、9世紀初めには、行政的指導のもとに条里を伴う圃場整備が行われていたことになり、As-B下水田は、その維持・発展した姿を示していると考えられようか。ともかく、未だ評価の定まっていない“条里制”であるが、古代史を考える上での重要なポイントでもある。その意味で、群馬県下で検出できるAs-B下水田跡は、それを考えていく上で、非常に重要なヒントを我々に与えてくれている。

溝は、水田に伴うものと、水田より新しい時期のものが混在する。土坑・ピットは、そのほとんどが水田跡より新しい時期の所産であろう。以下、A-1区・A-2区・A-3区・Aランプ・B区・C区・D区・E区・F区の順に、且つ水田跡・溝・耕作痕・灰掻き穴・土坑・井戸・掘立柱建物・柱穴列・ピットの順に報告する。

(参考文献)

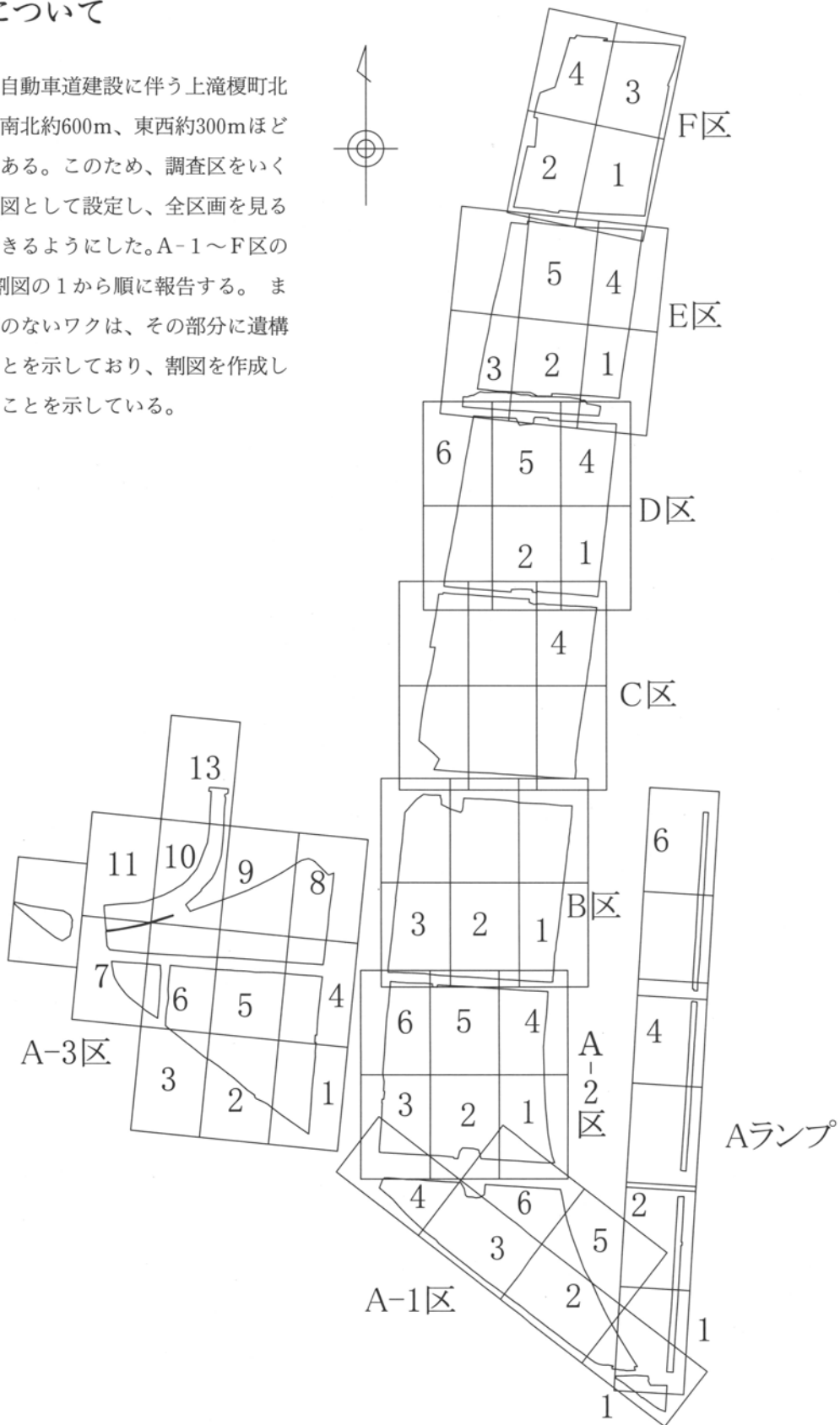
- 『上滝五反畑遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999。
- 『上滝榎町北遺跡・上滝II遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002。
- 『横手湯田遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002年。



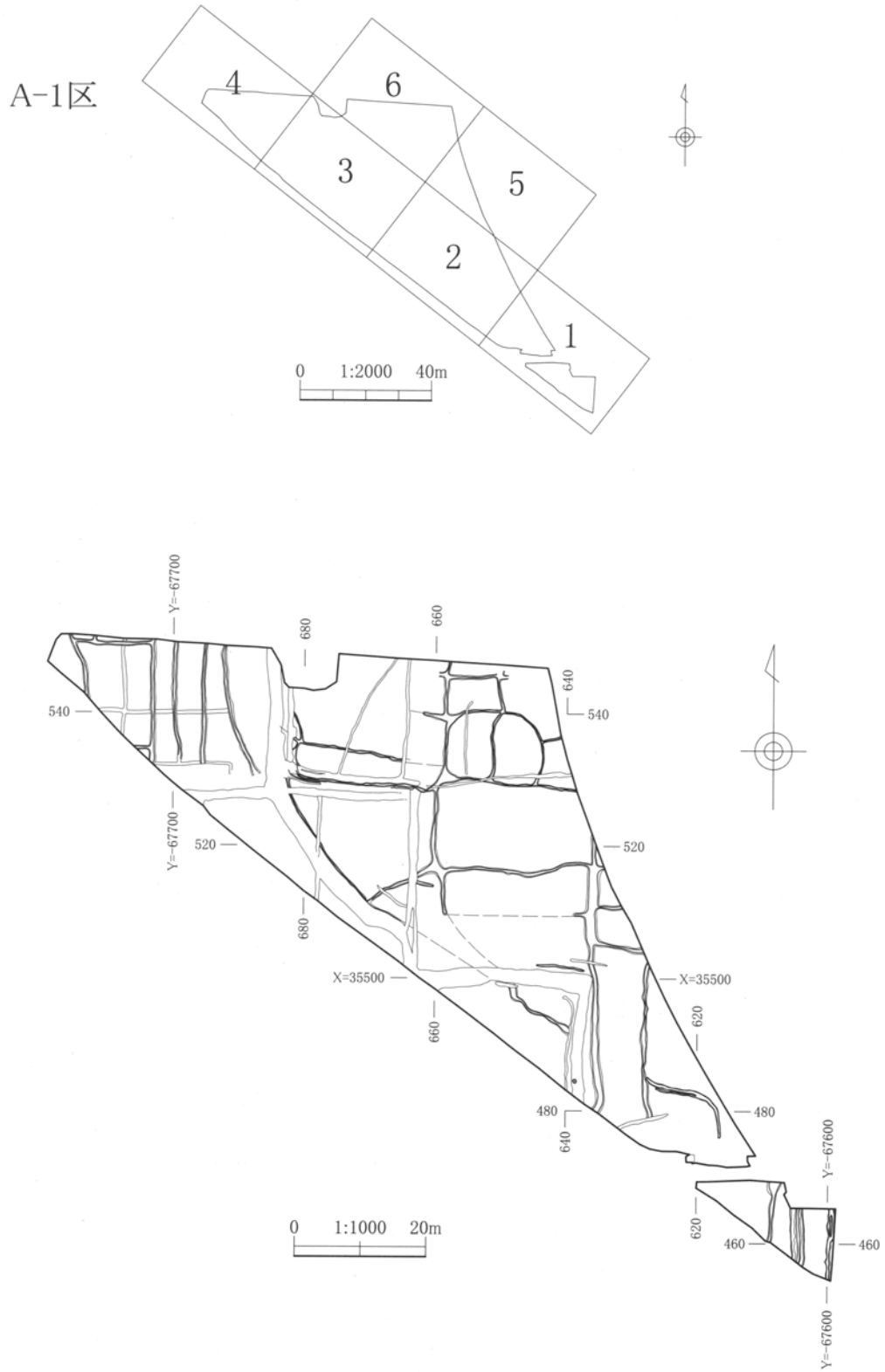
第409図 As-B下面全体図

割図について

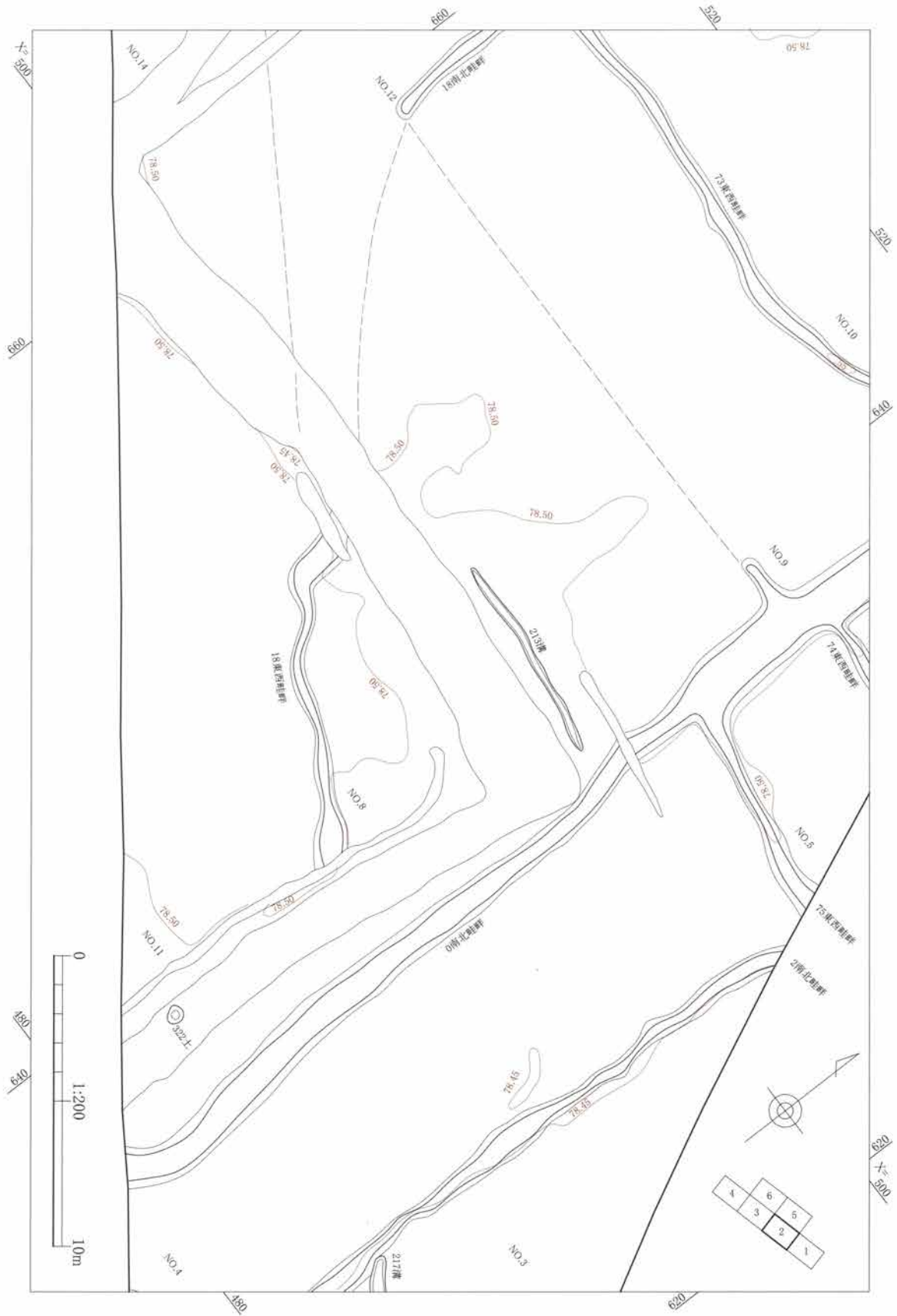
北関東自動車道建設に伴う上滝榎町北遺跡は、南北約600m、東西約300mほどの遺跡である。このため、調査区をいくつかの割図として設定し、全区画を見ることができるようにした。A-1～F区の順、且つ割図の1から順に報告する。また、数字のないワクは、その部分に遺構がないことを示しており、割図を作成していないことを示している。



第410図 As-B下面割図

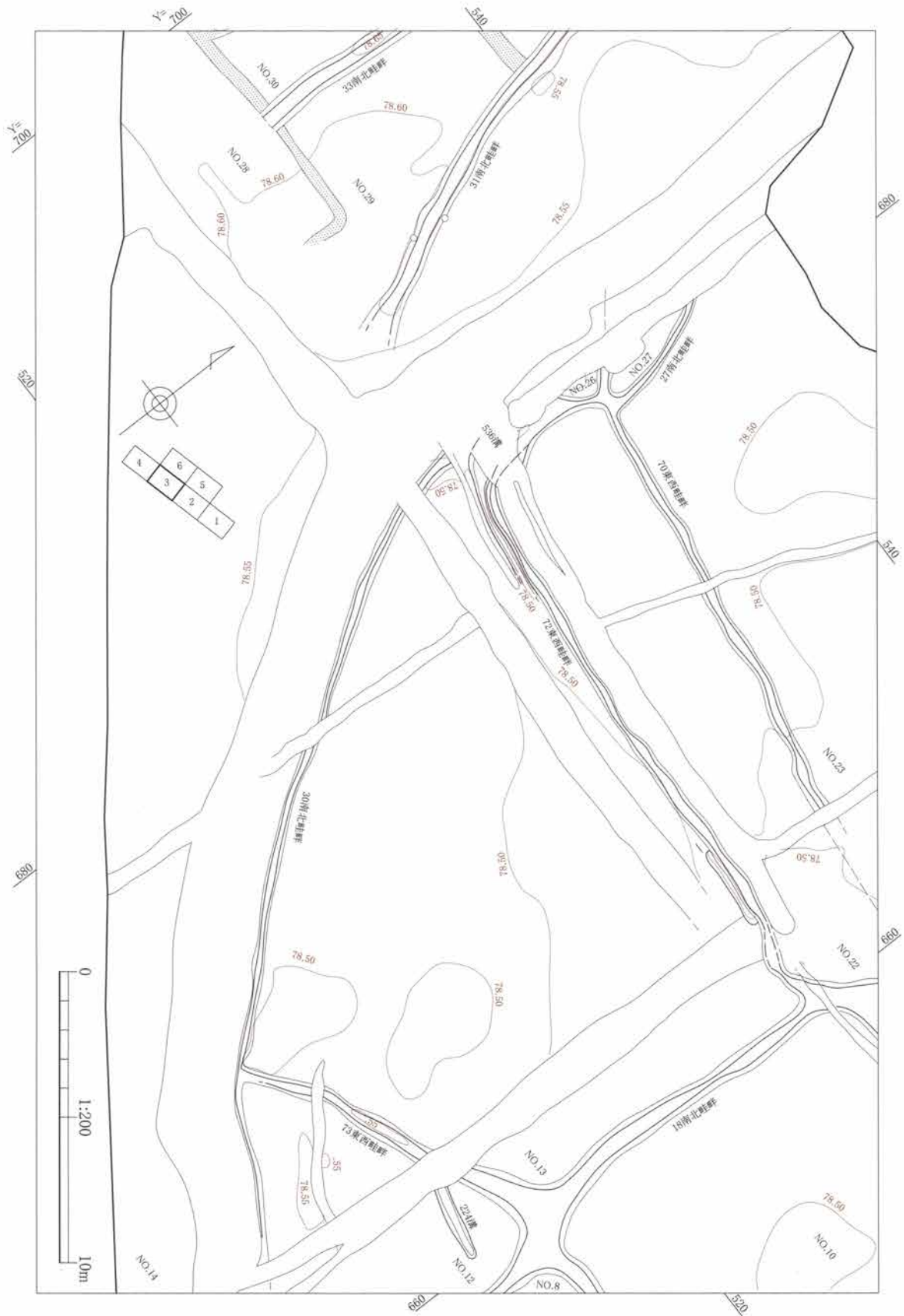


第411図 As-B下面 A-1区全体図・割図

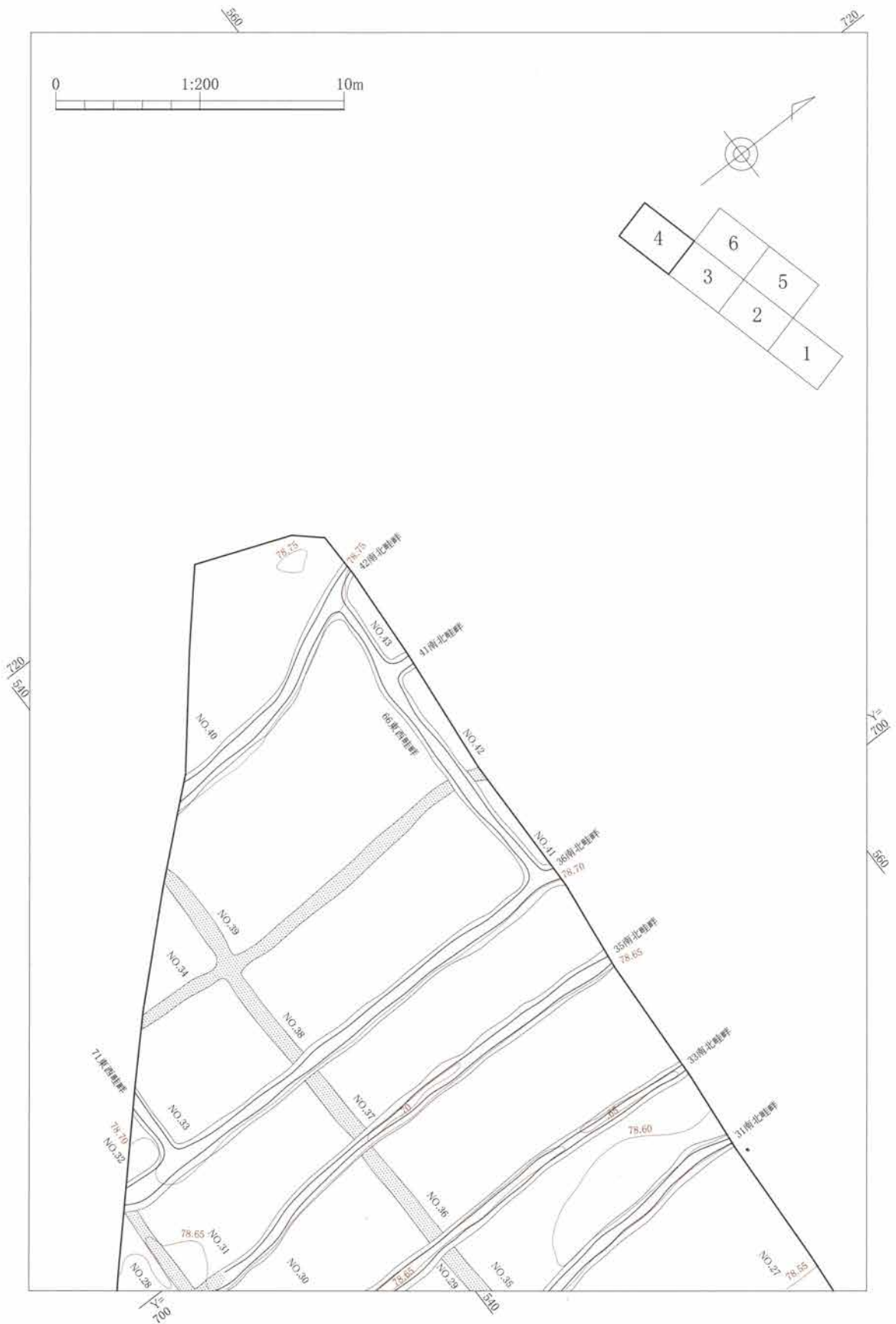


第413図 A-1区 図割-2

3. As-B下面 (平安時代)

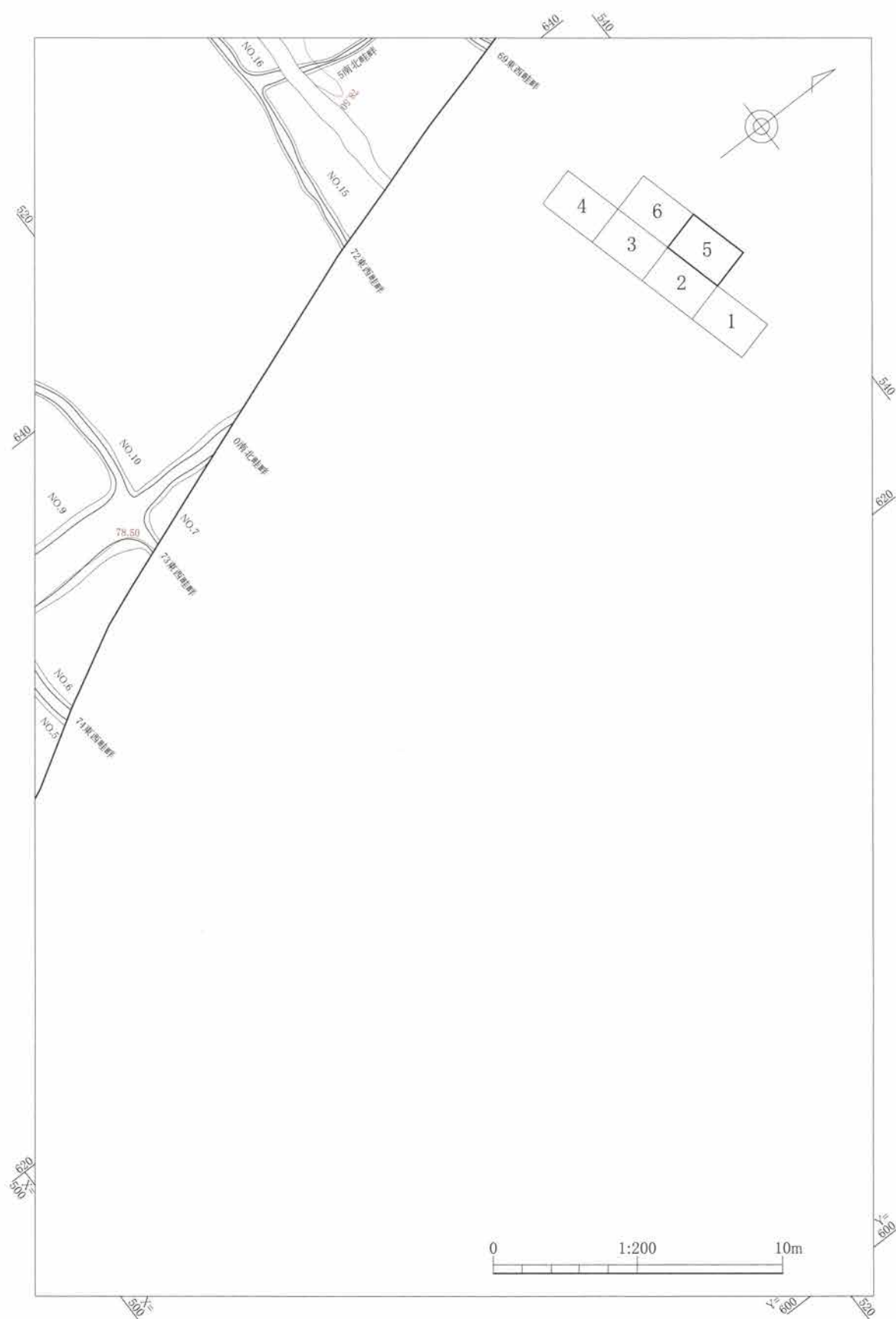


第414図 A-1区 図割-3

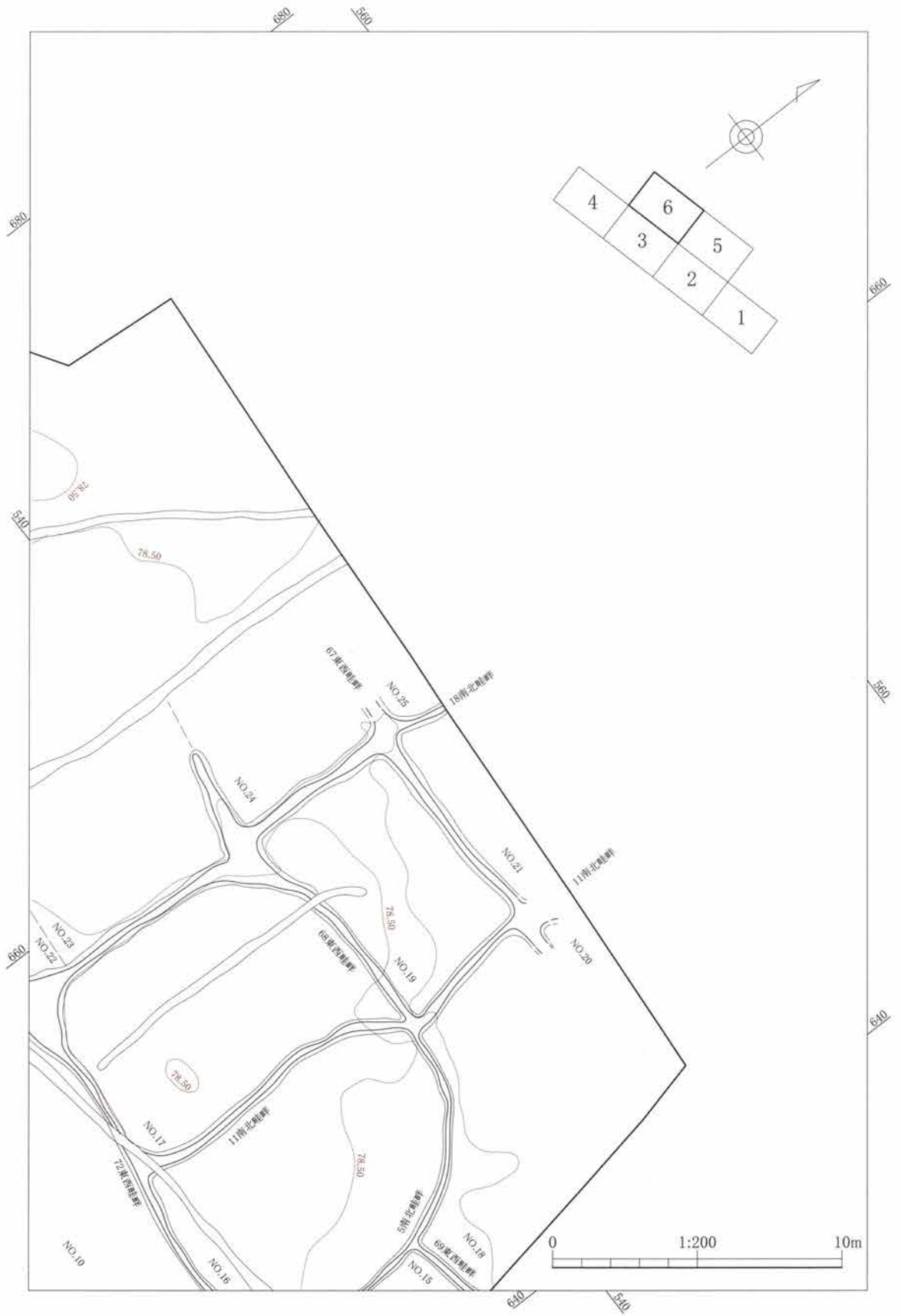


第415図 A-1区 図割-4

3. As-B下面 (平安時代)

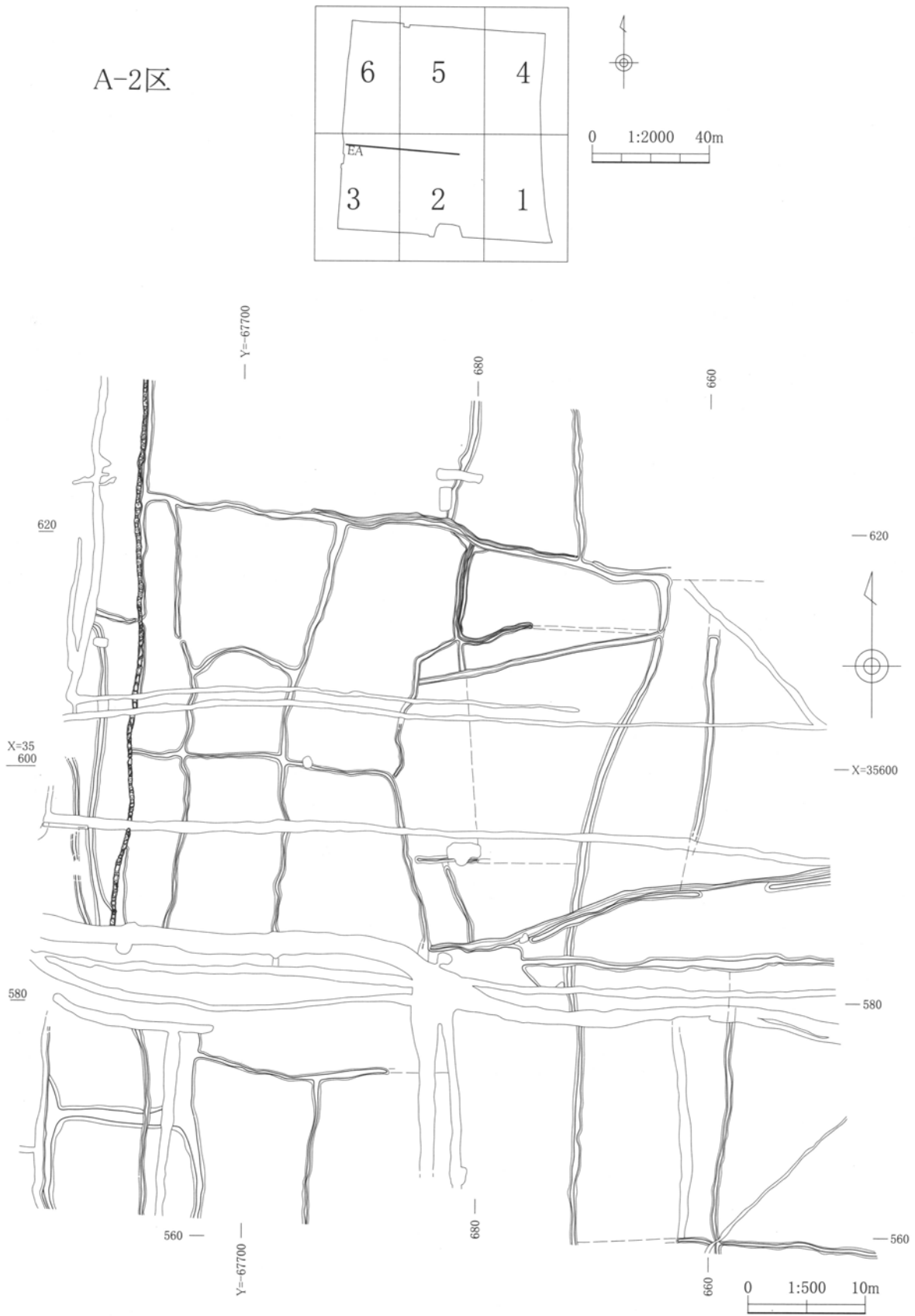


第416図 A-1区 図割-5

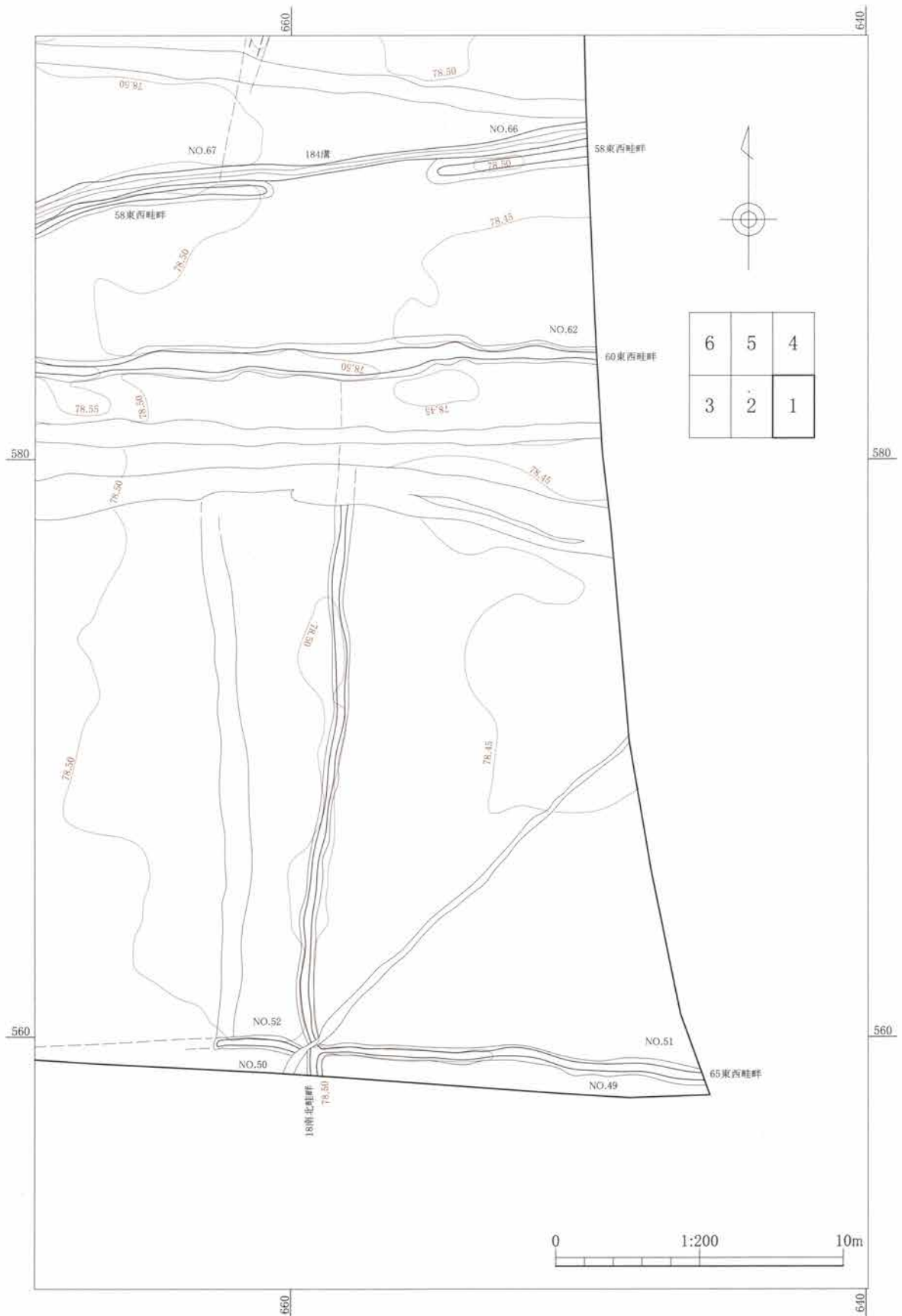


第417図 A-1区 図割-6

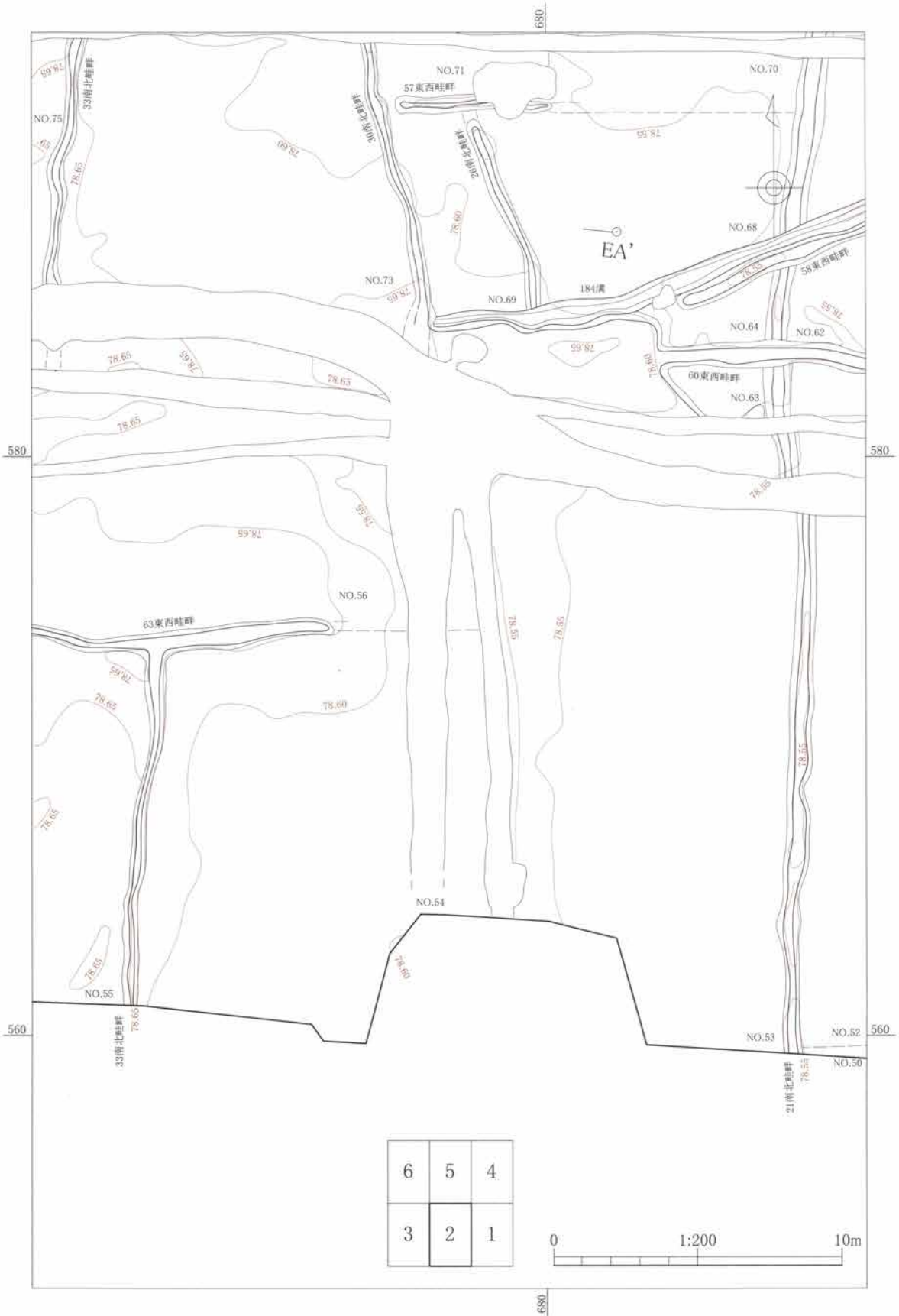
3. As-B下面 (平安時代)



第418図 As-B下面 A-2区全体図・割図

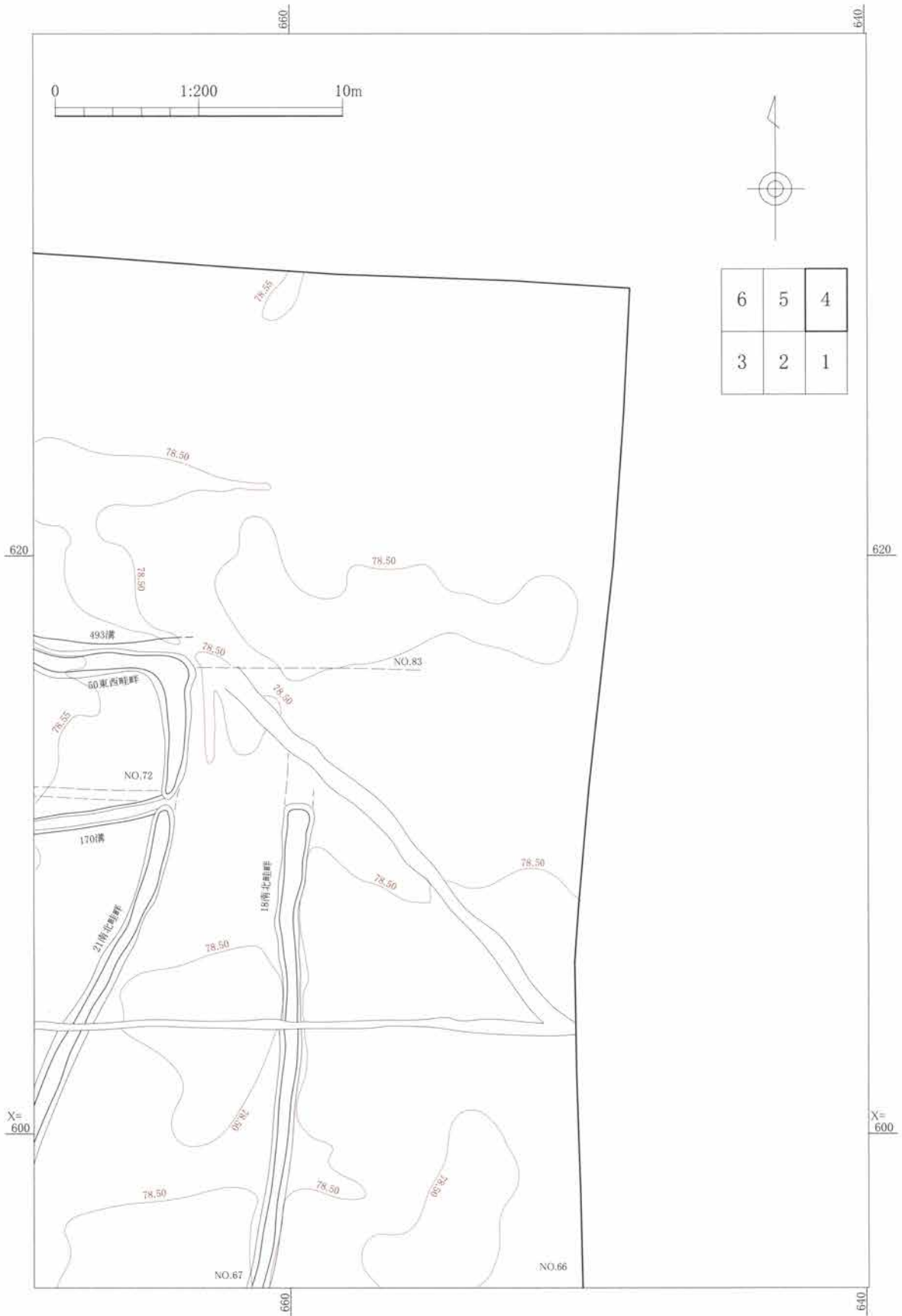


第419図 A-2区 図割-1

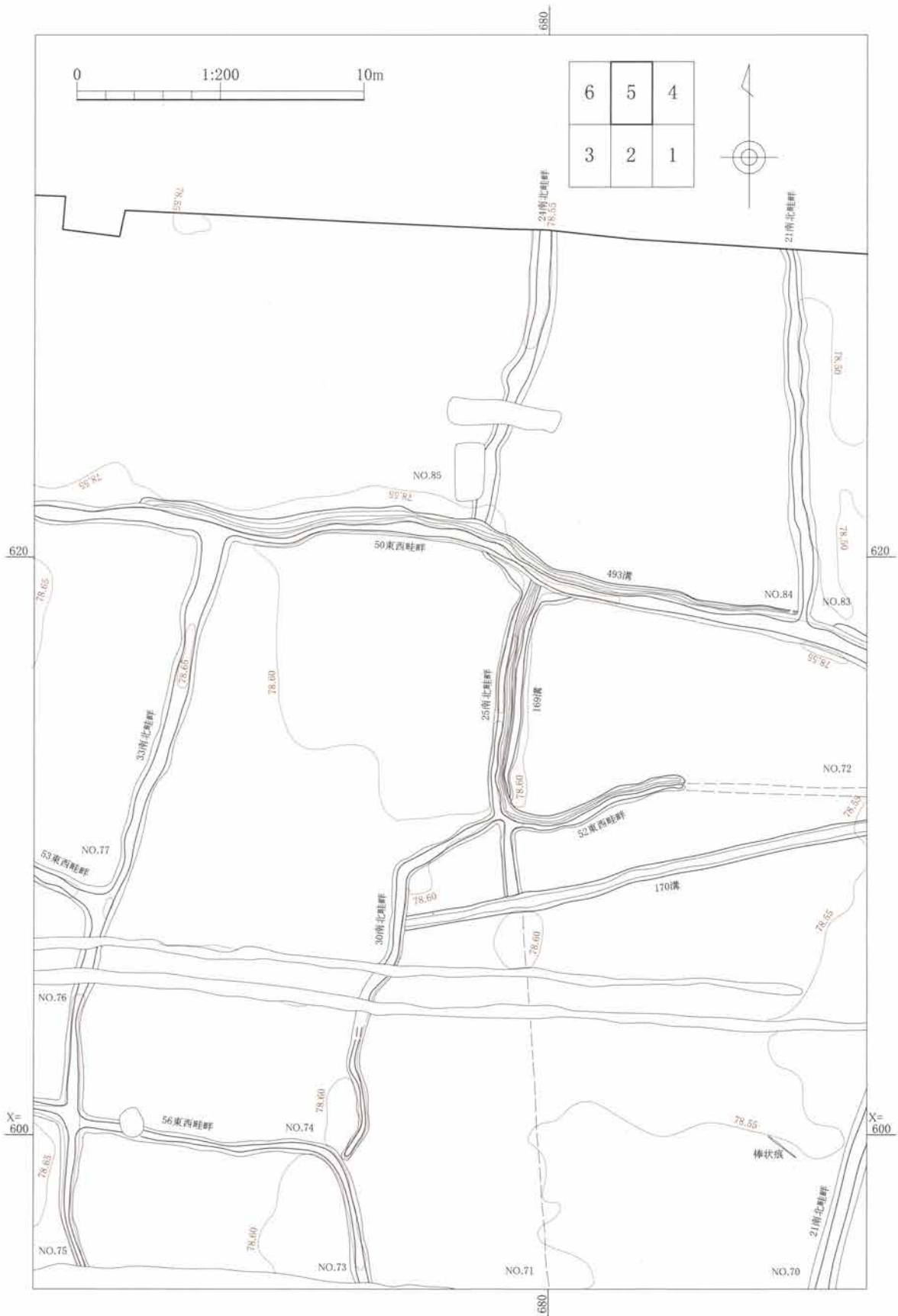


第420図 A-2区 図割-2

3. As-B下面（平安時代）

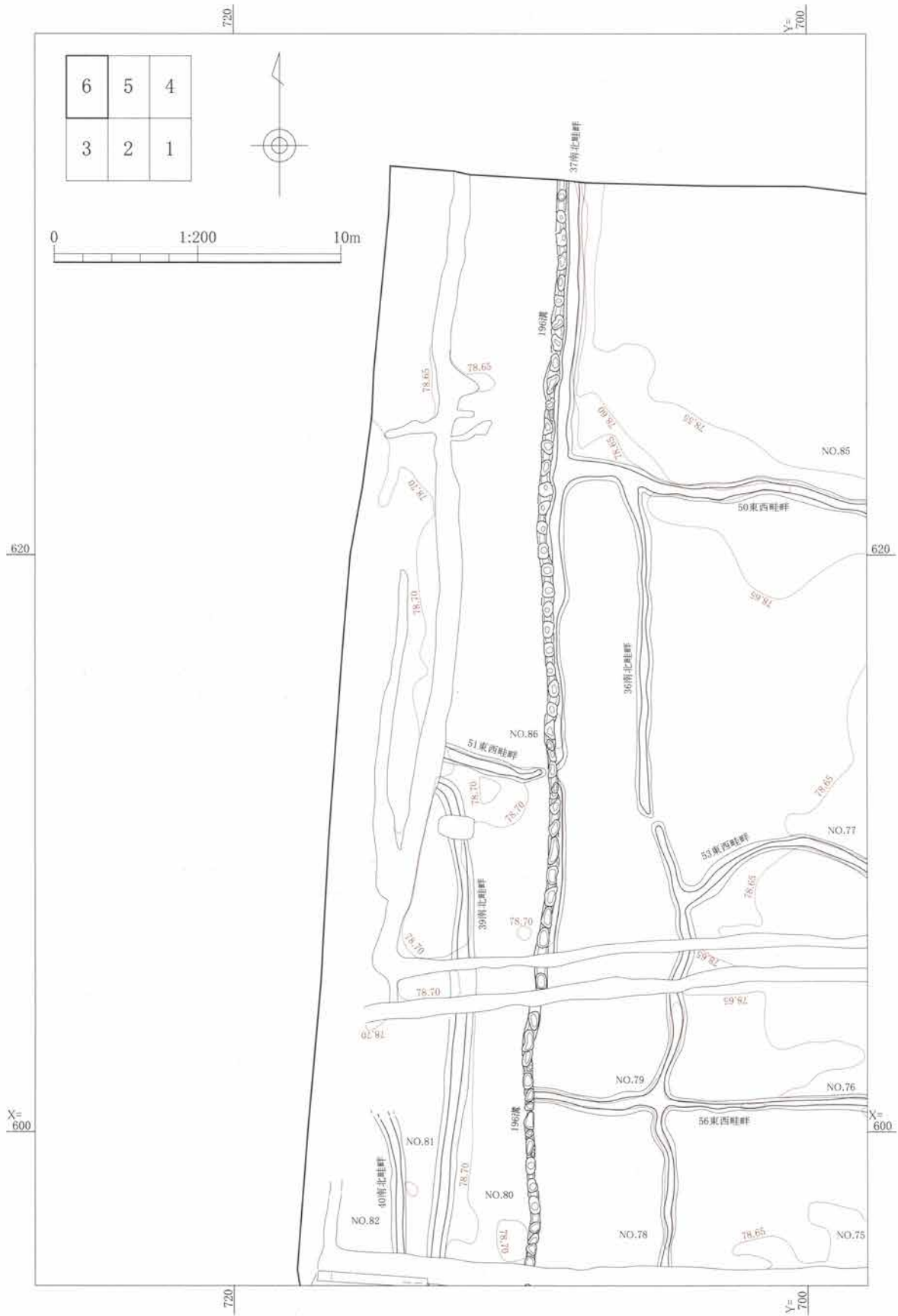


第422図 A-2区 図割-4

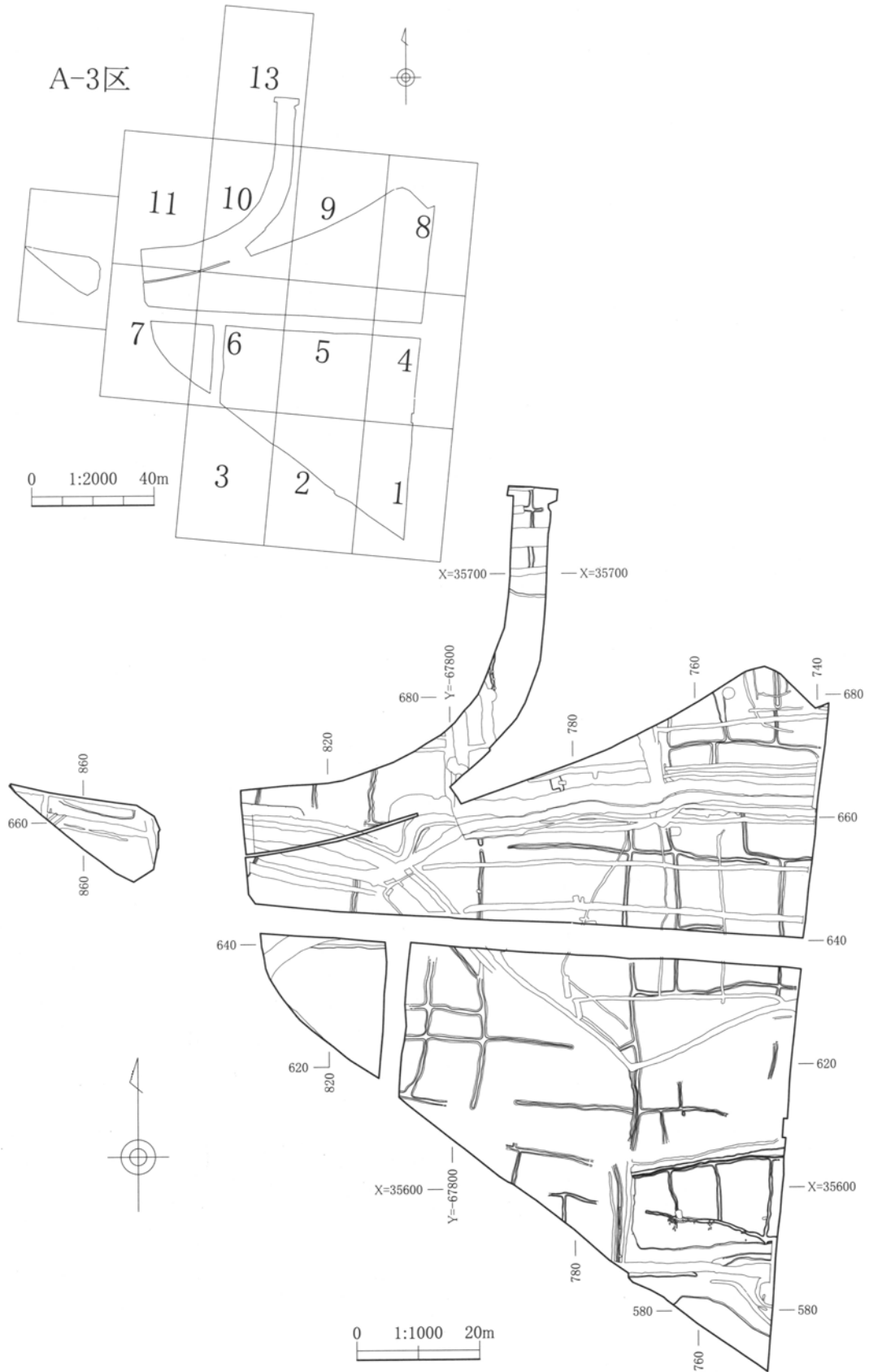


第423図 A-2区 図割-5

3. As-B下面 (平安時代)

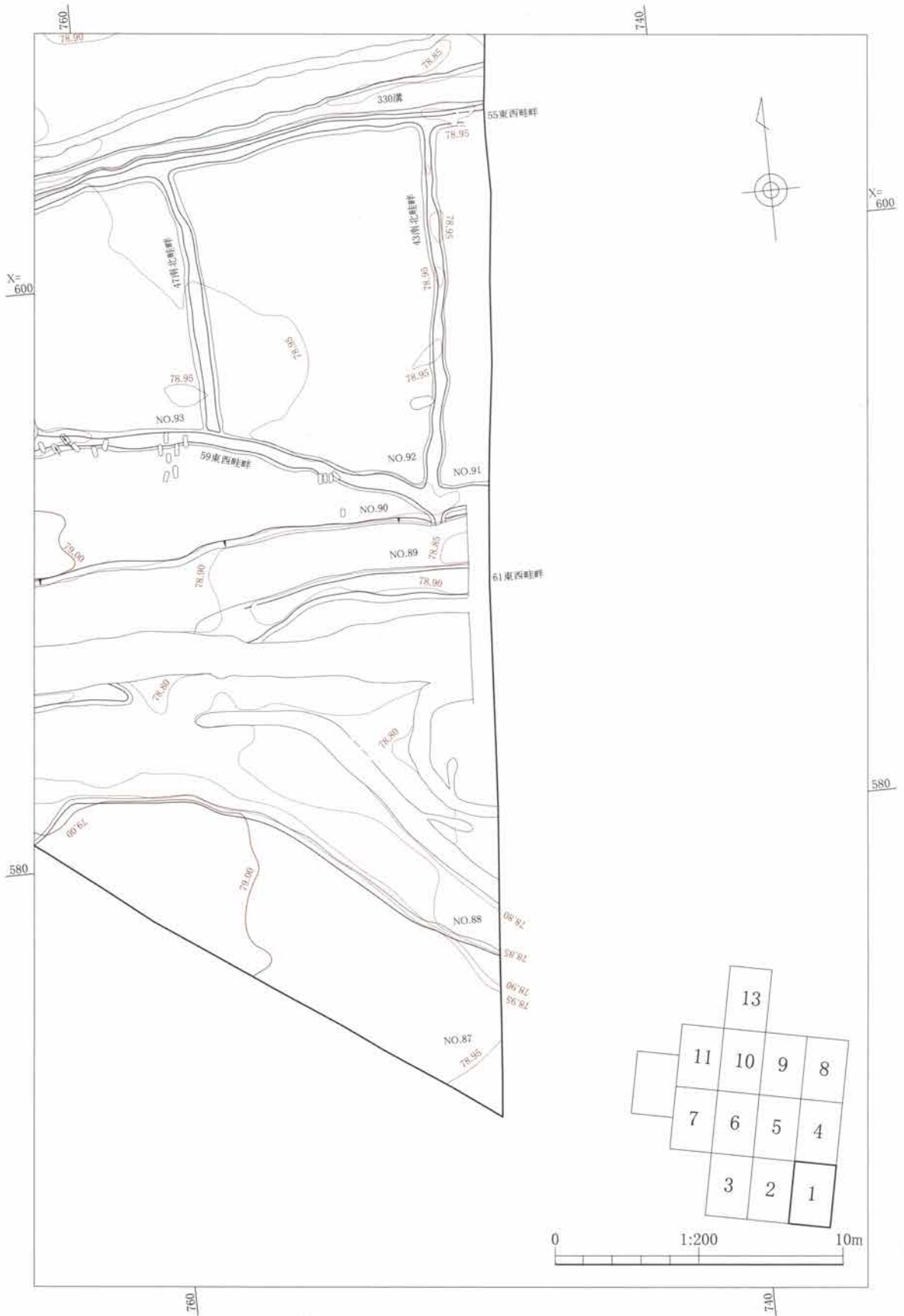


第424図 A-2区 図割-6



第425図 As-B下面 A-3区全体図・割図

3. As-B下面 (平安時代)

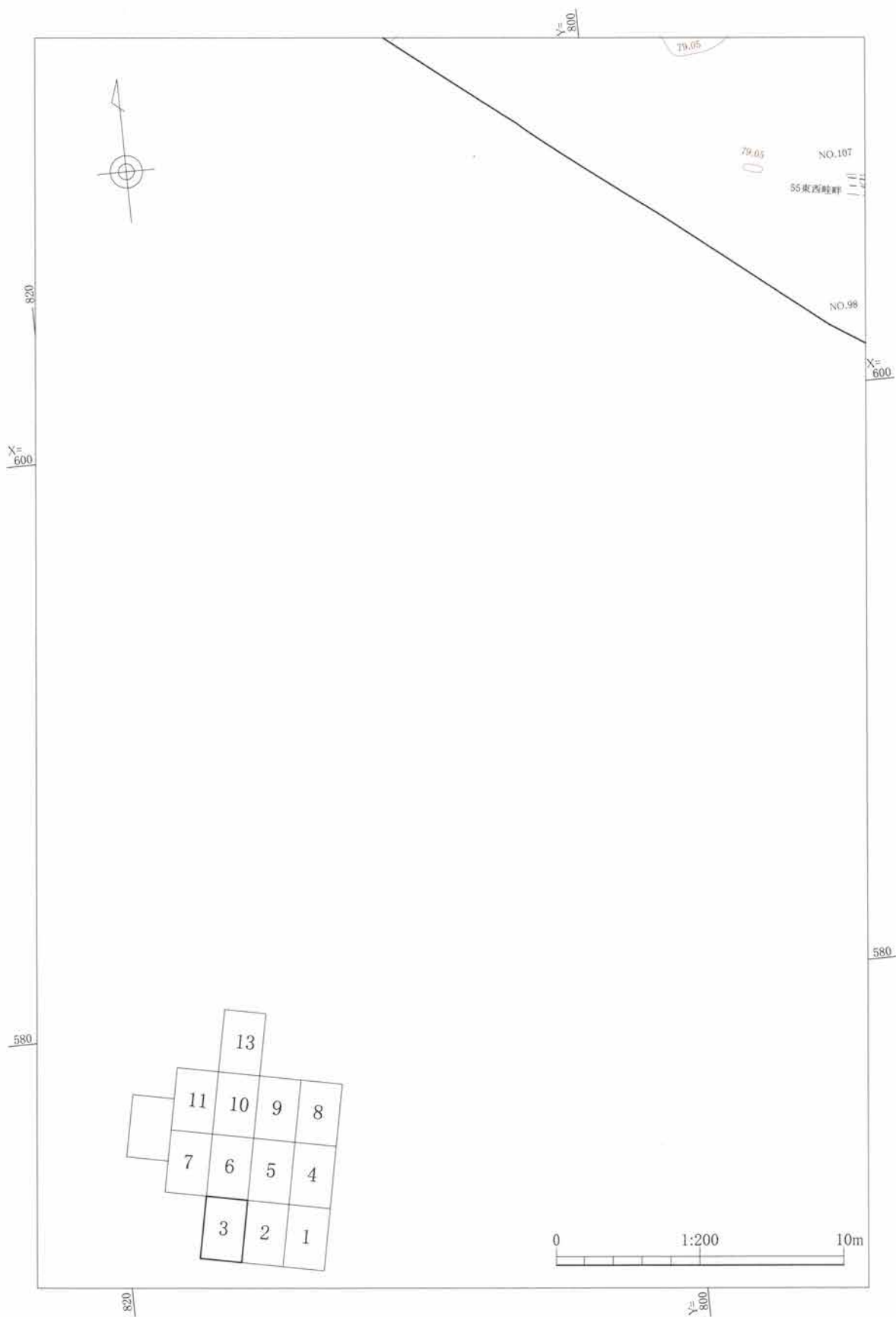


第426図 A-3区 図割-1

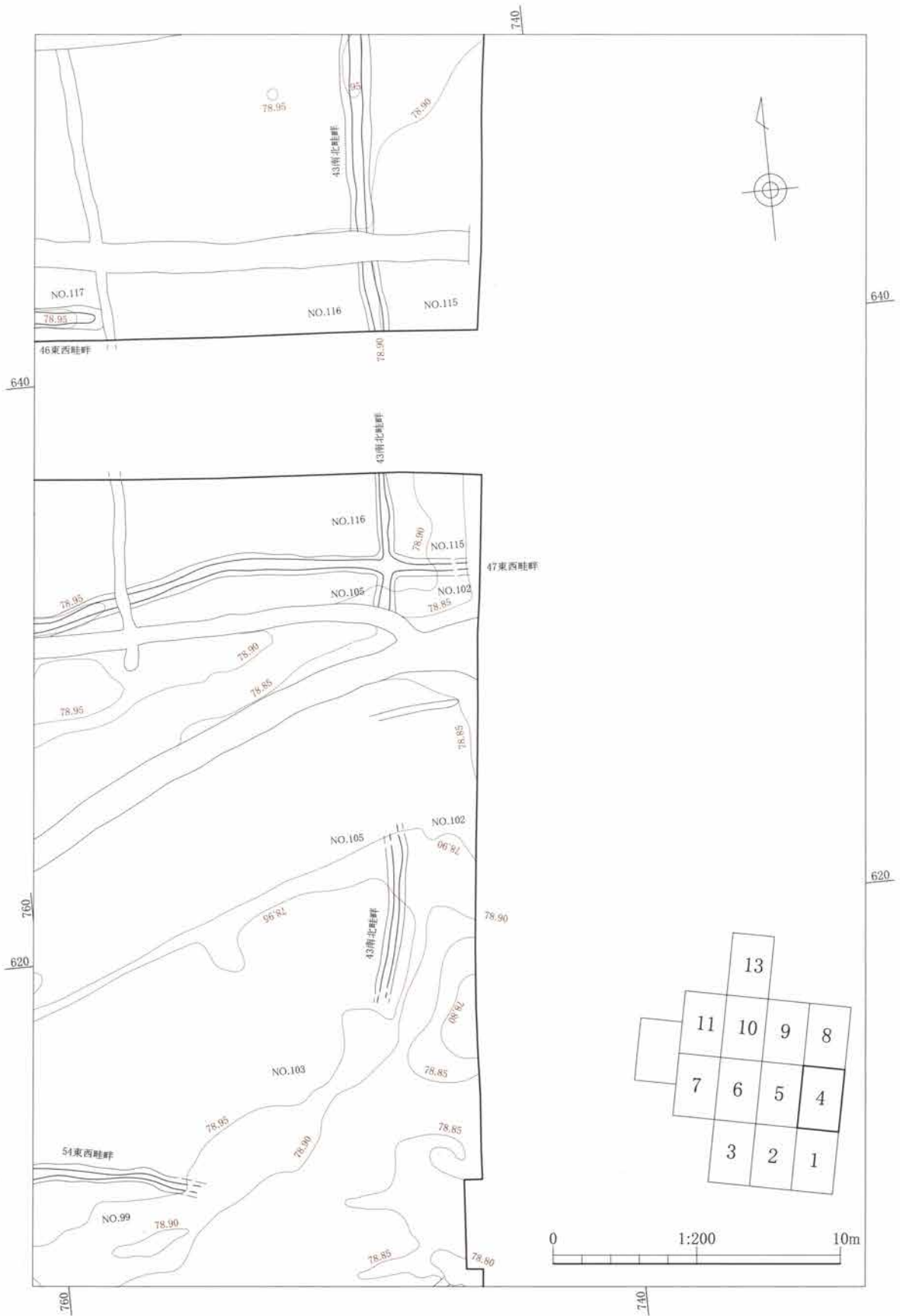


第427図 A-3区 図割-2

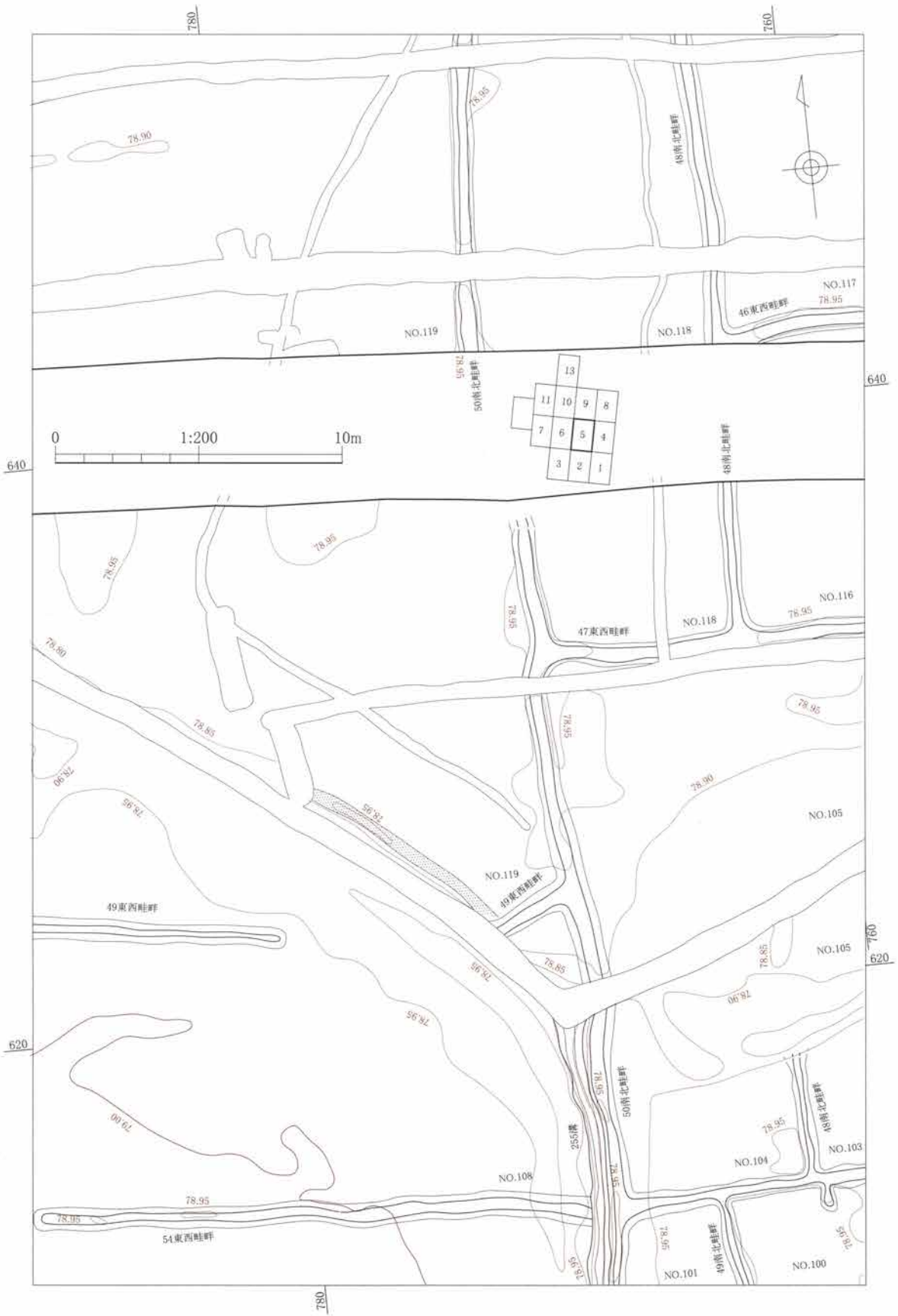
3. As-B下面 (平安時代)



第428図 A-3区 図割-3



第429図 A-3区 図割-4

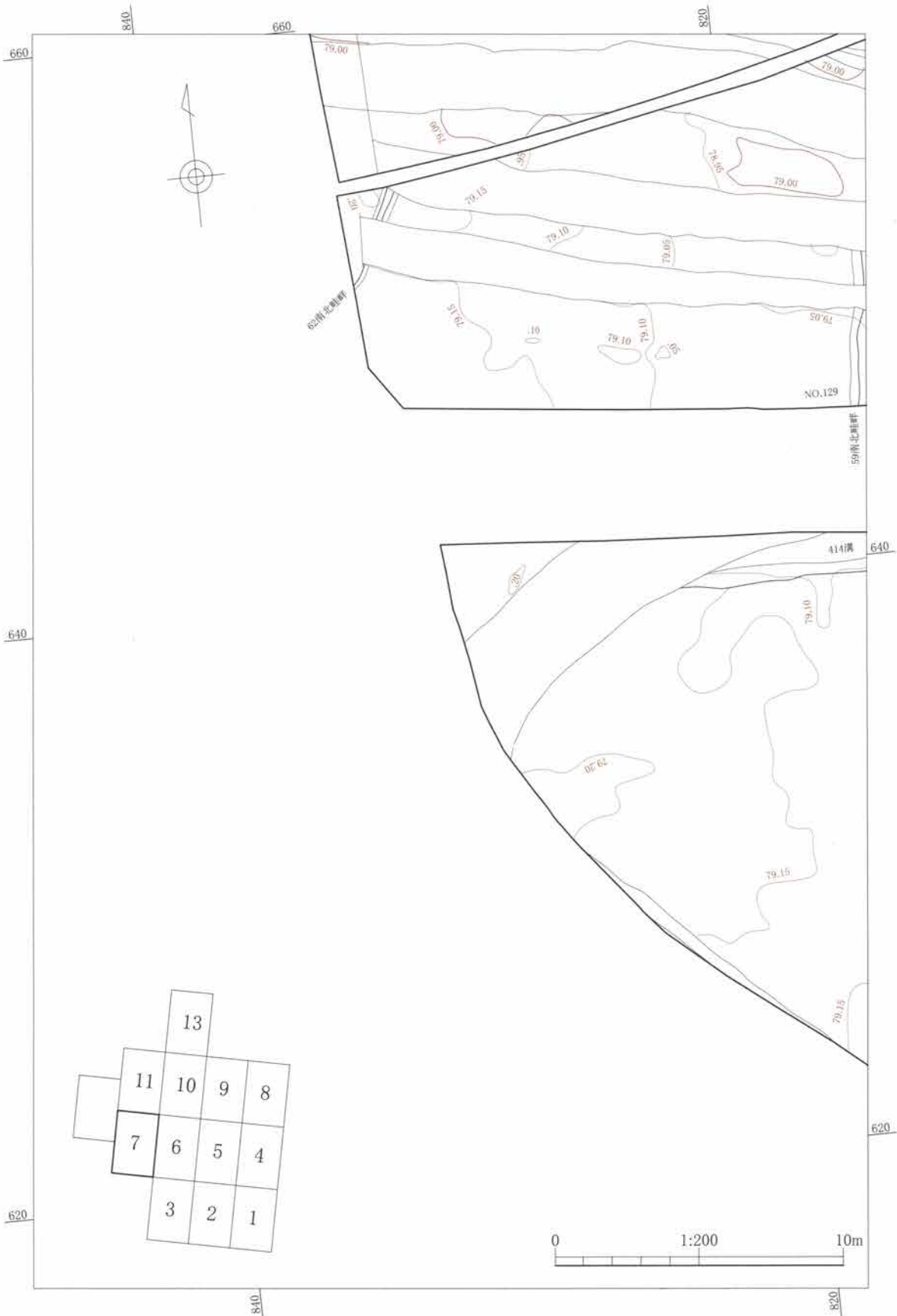


第430図 A-3区 図割-5

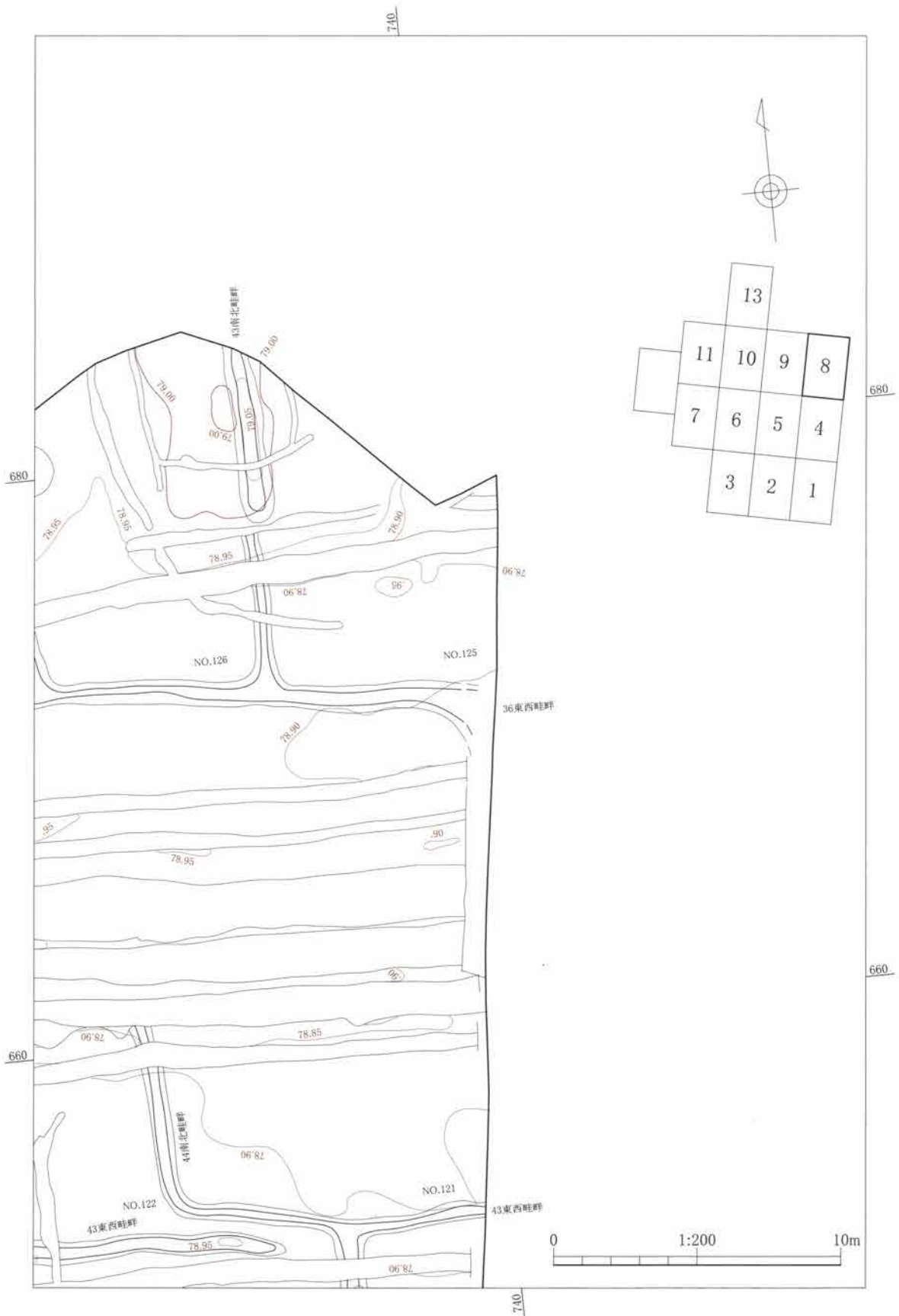


第431図 A-3区 図割-6

3. As-B下面 (平安時代)

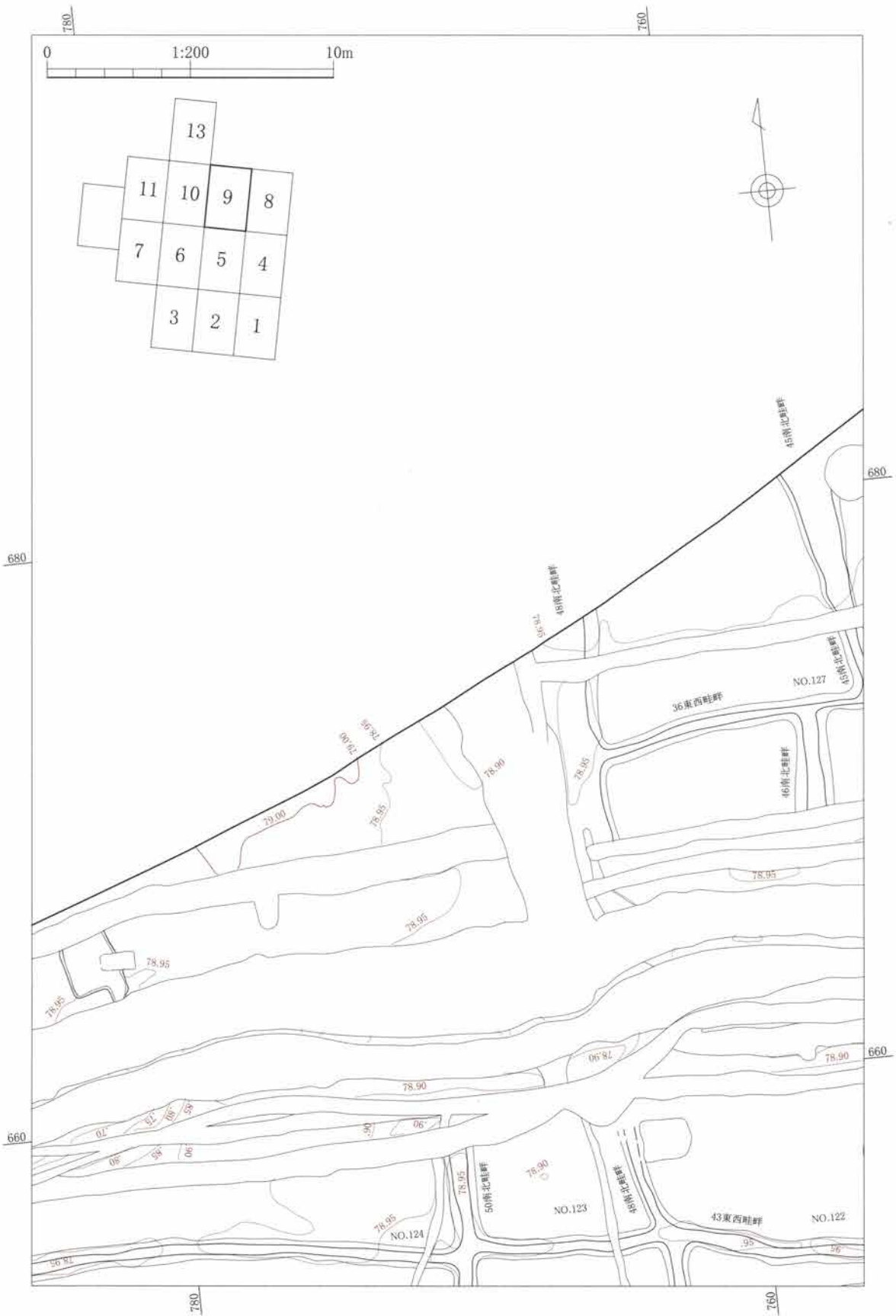


第432図 A-3区 図割-7

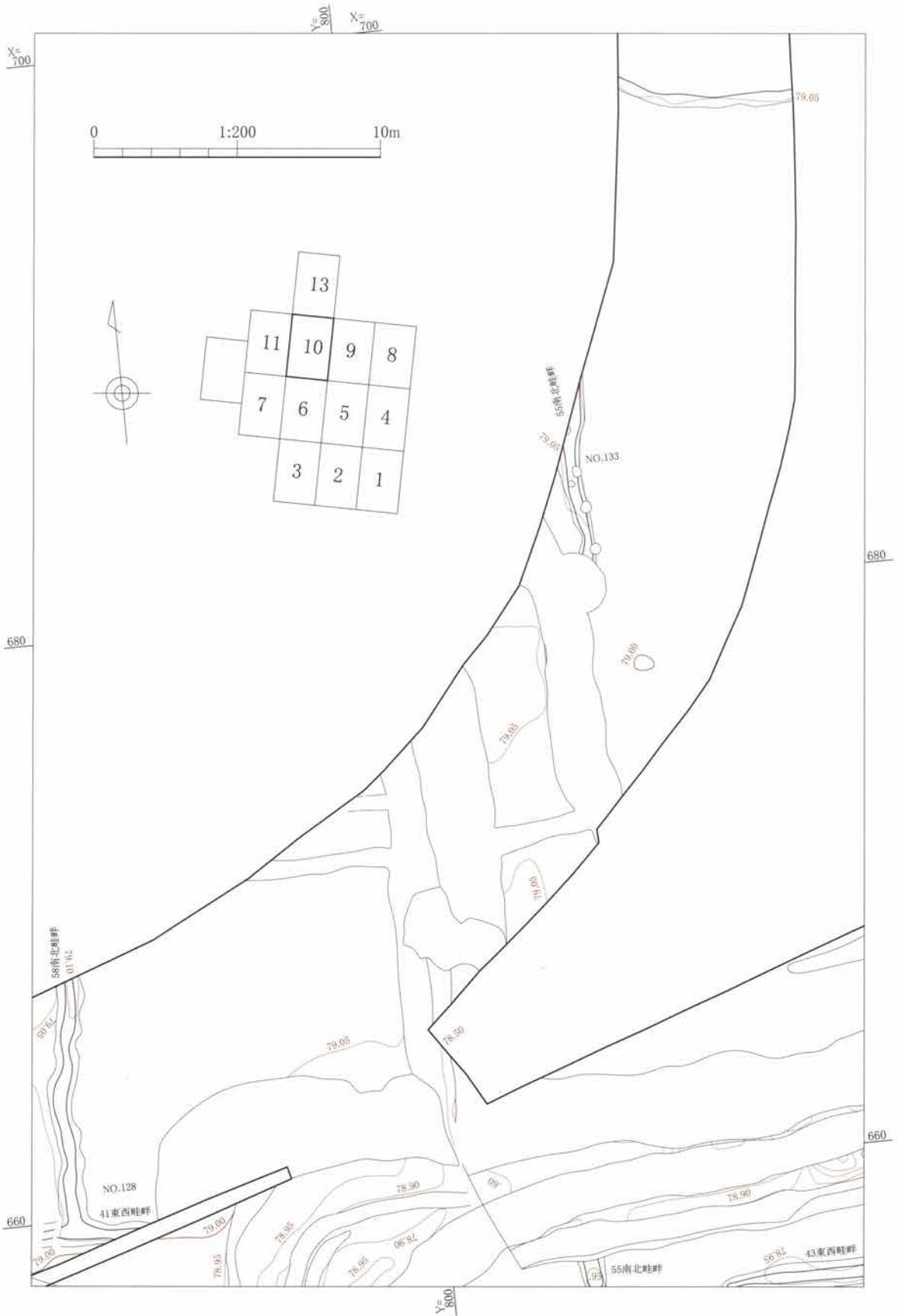


第433図 A-3区 図割-8

3. As-B下面 (平安時代)

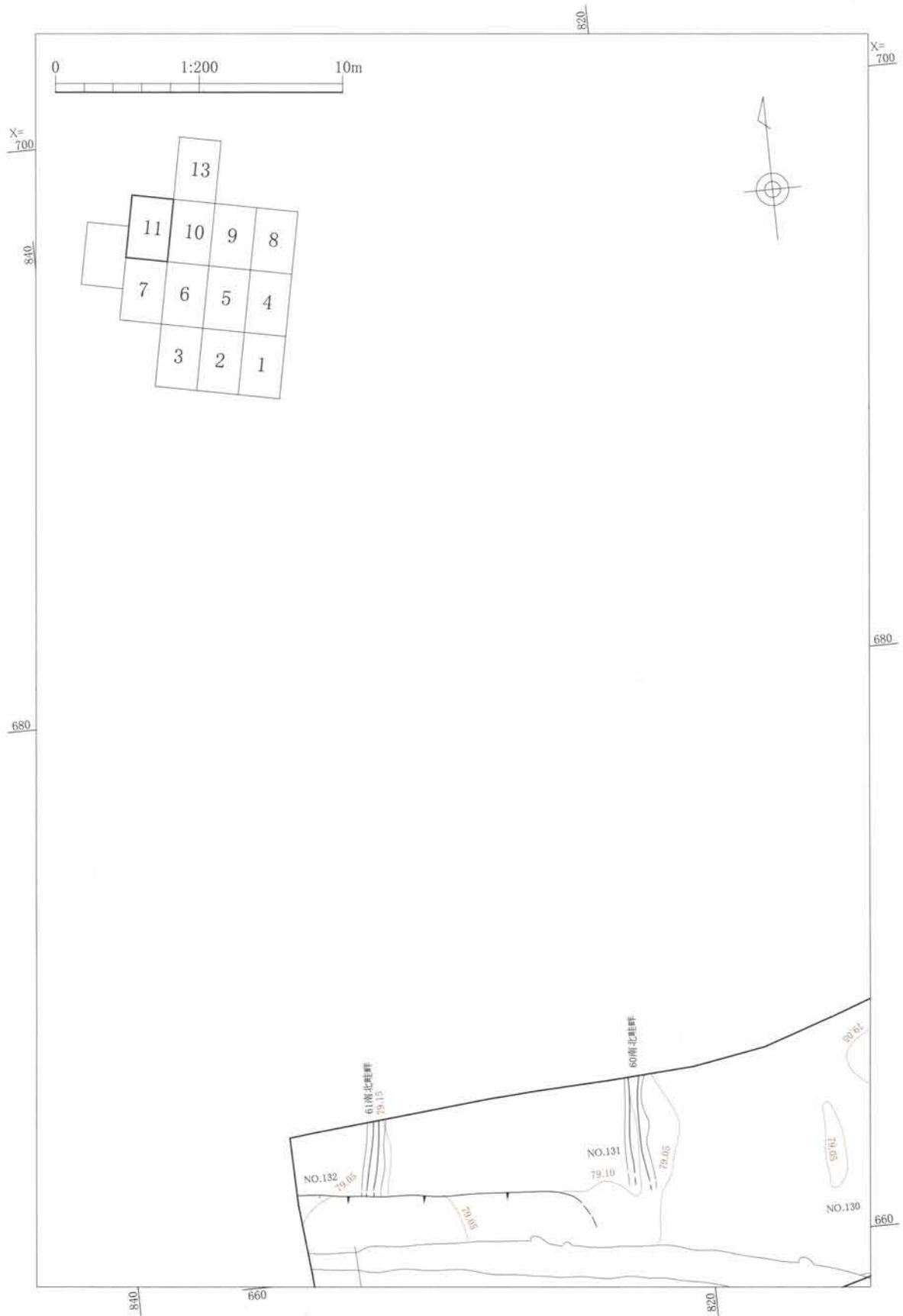


第434図 A-3区 図割-9

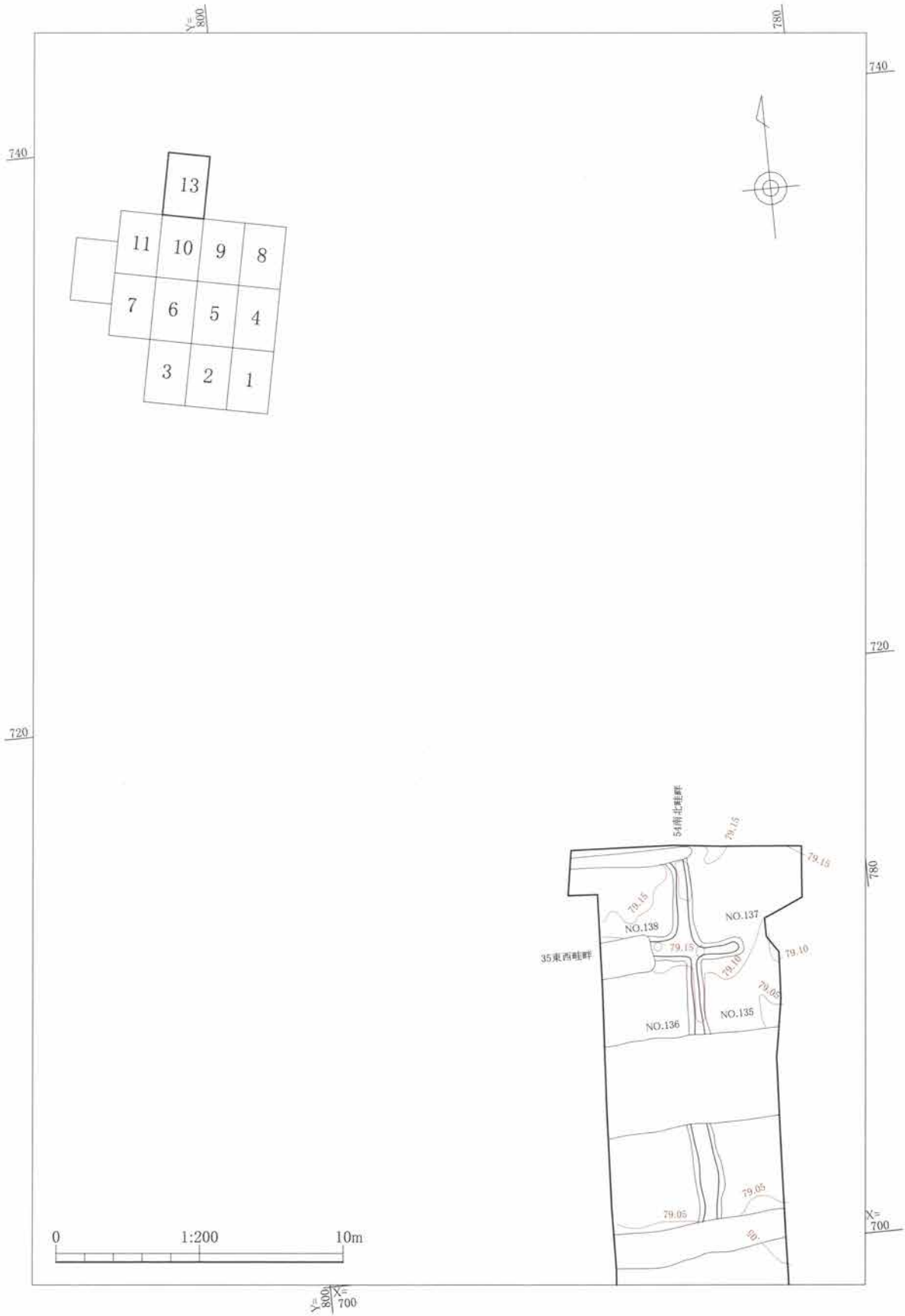


第435図 A-3区 図割-10

3. As-B下面 (平安時代)

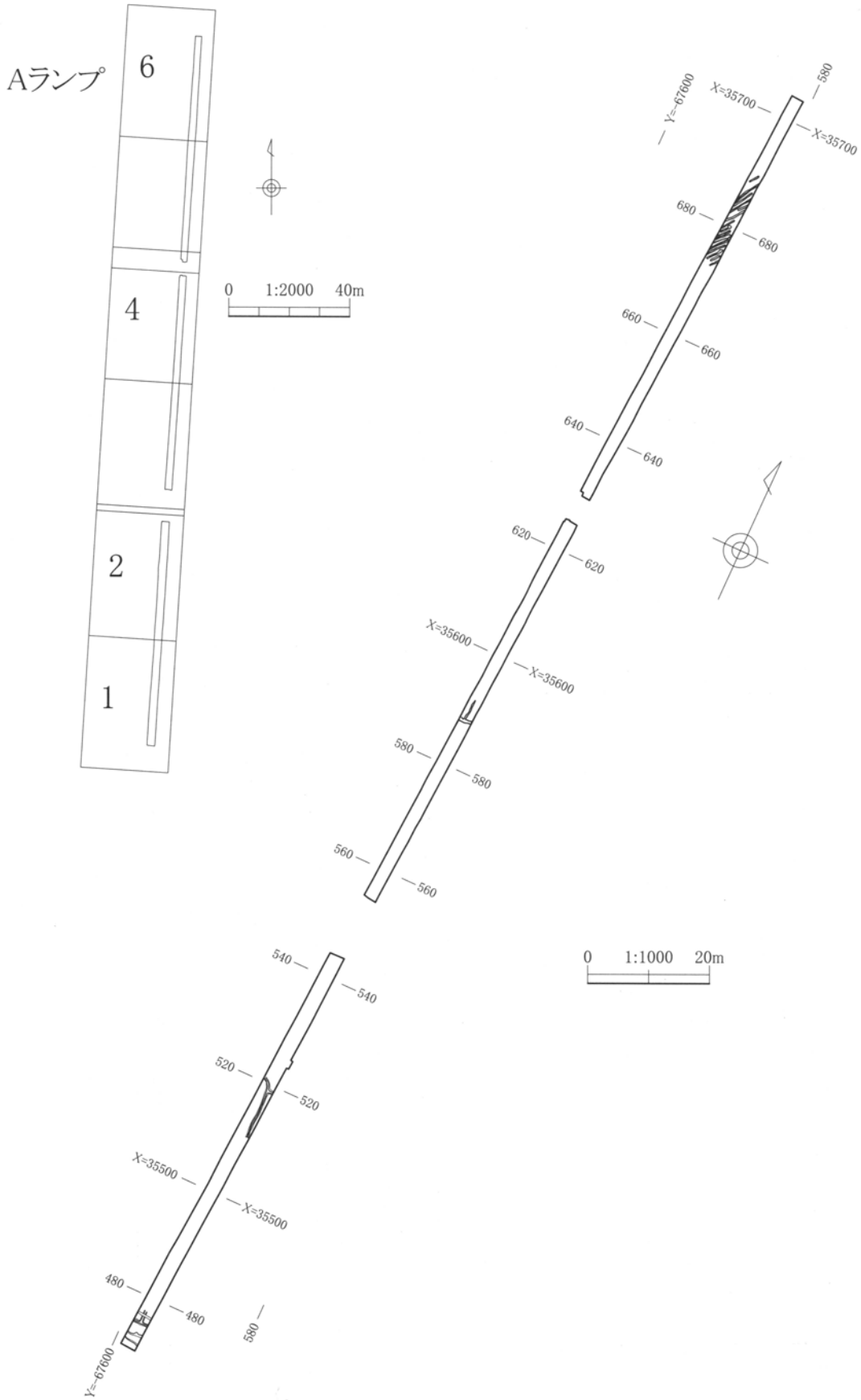


第436図 A-3区 図割-11

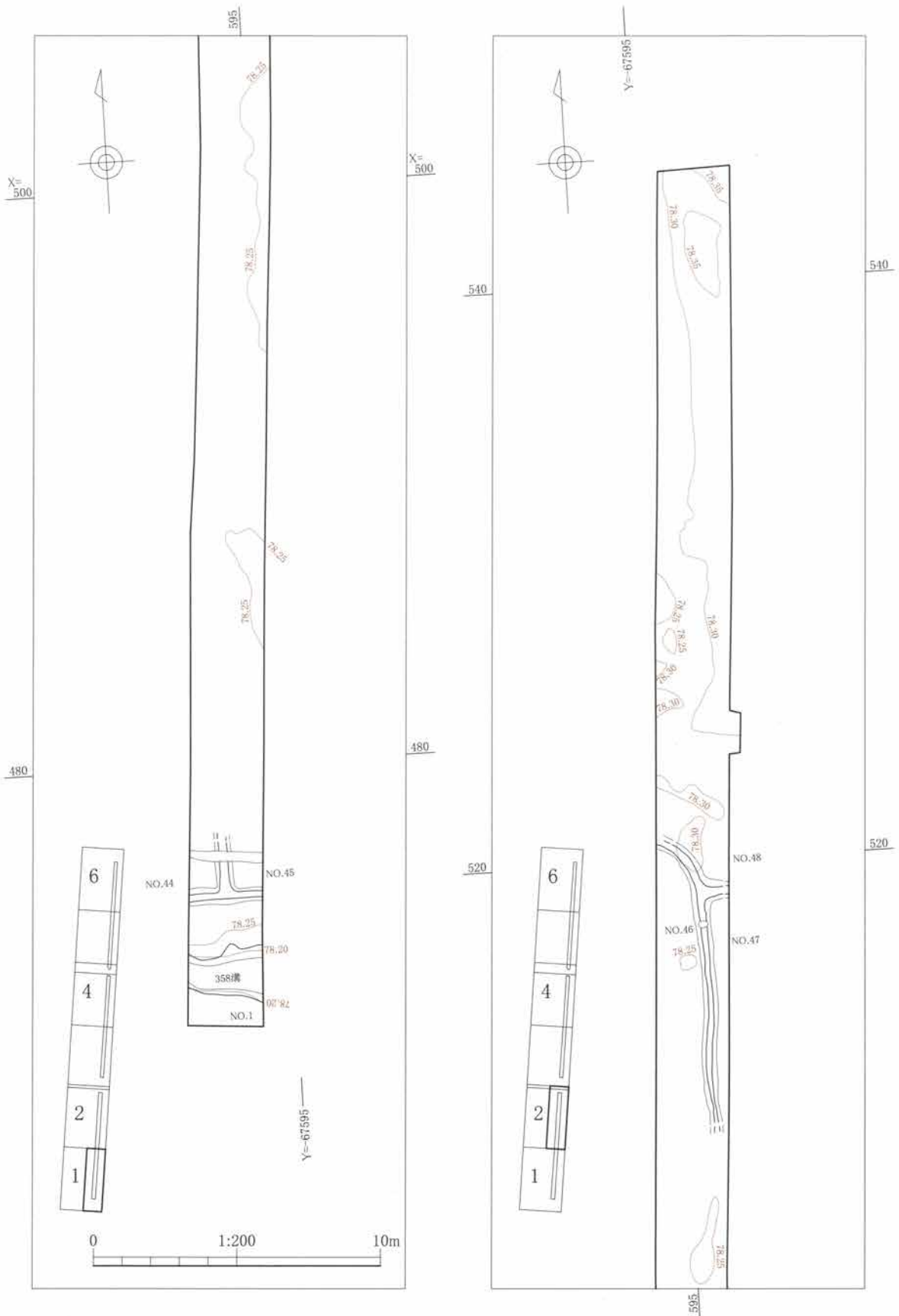


第437図 A-3区 図割-13

3. As-B下面 (平安時代)

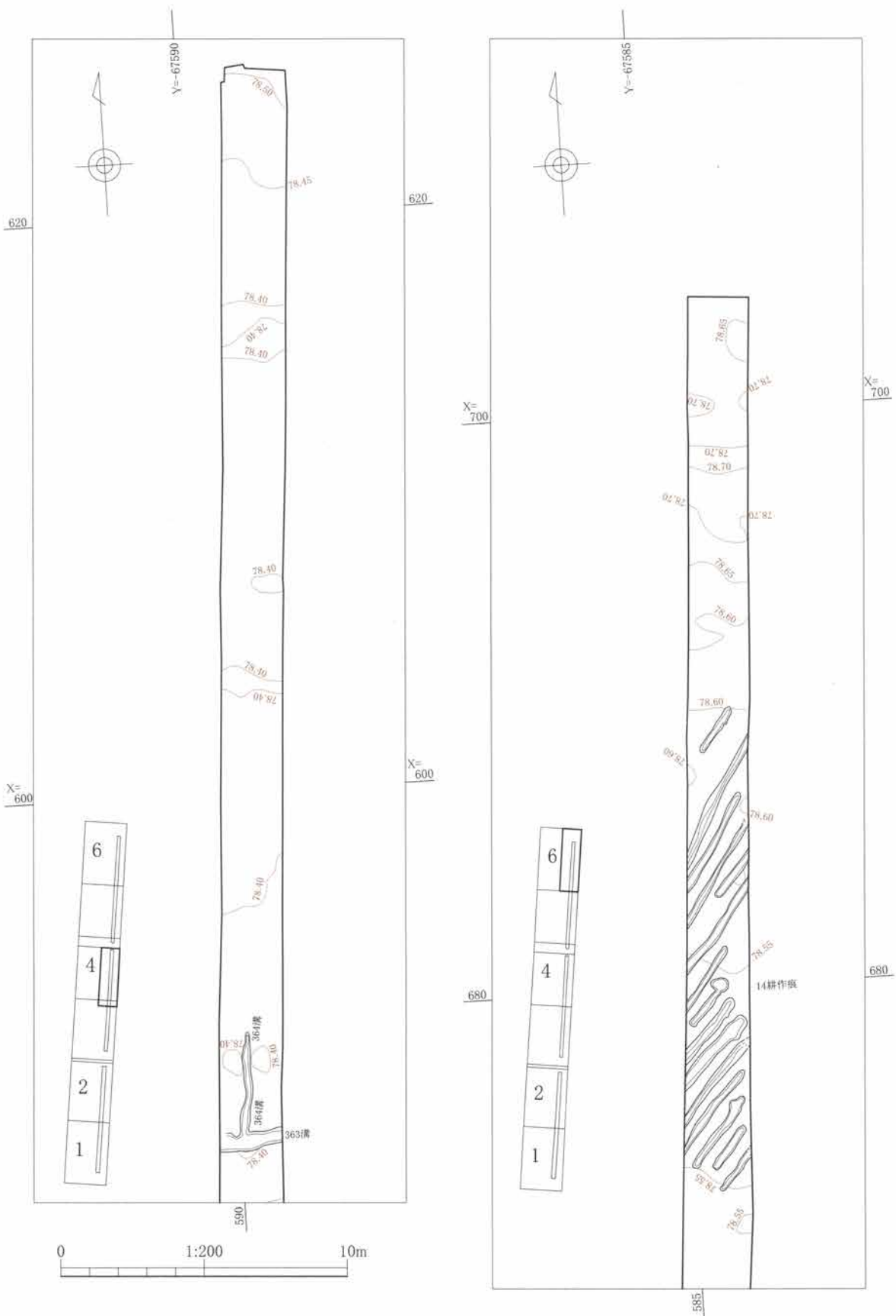


第438図 As-B下面 Aランプ全体図・割図

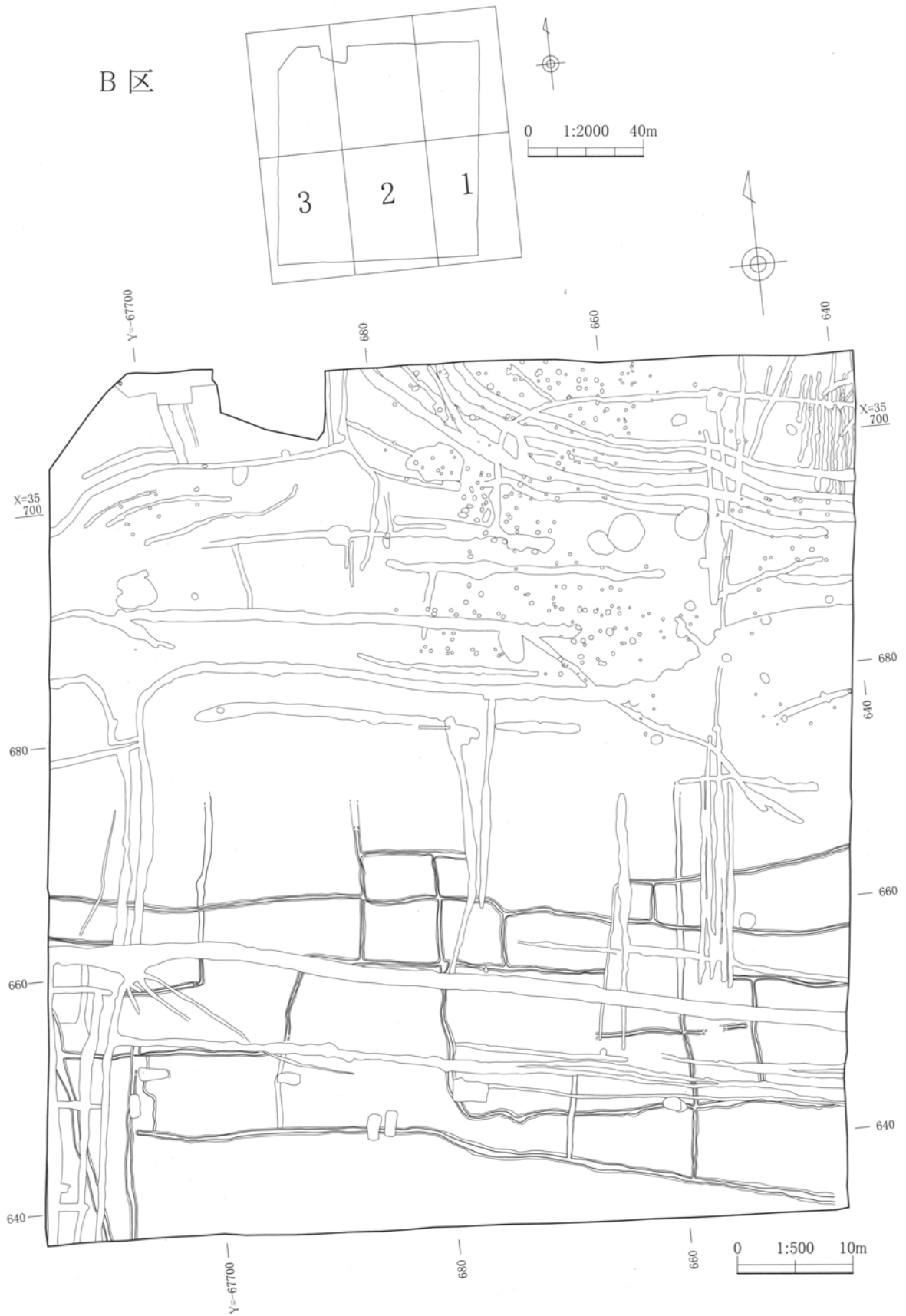


第439図 Aランプ 図割-1・2

3. As-B下面 (平安時代)



第440図 Aランプ 図割-4・6



第441図 As-B下面 B区全体図・割図

3. As-B下面 (平安時代)



第442図 B区 図割-1

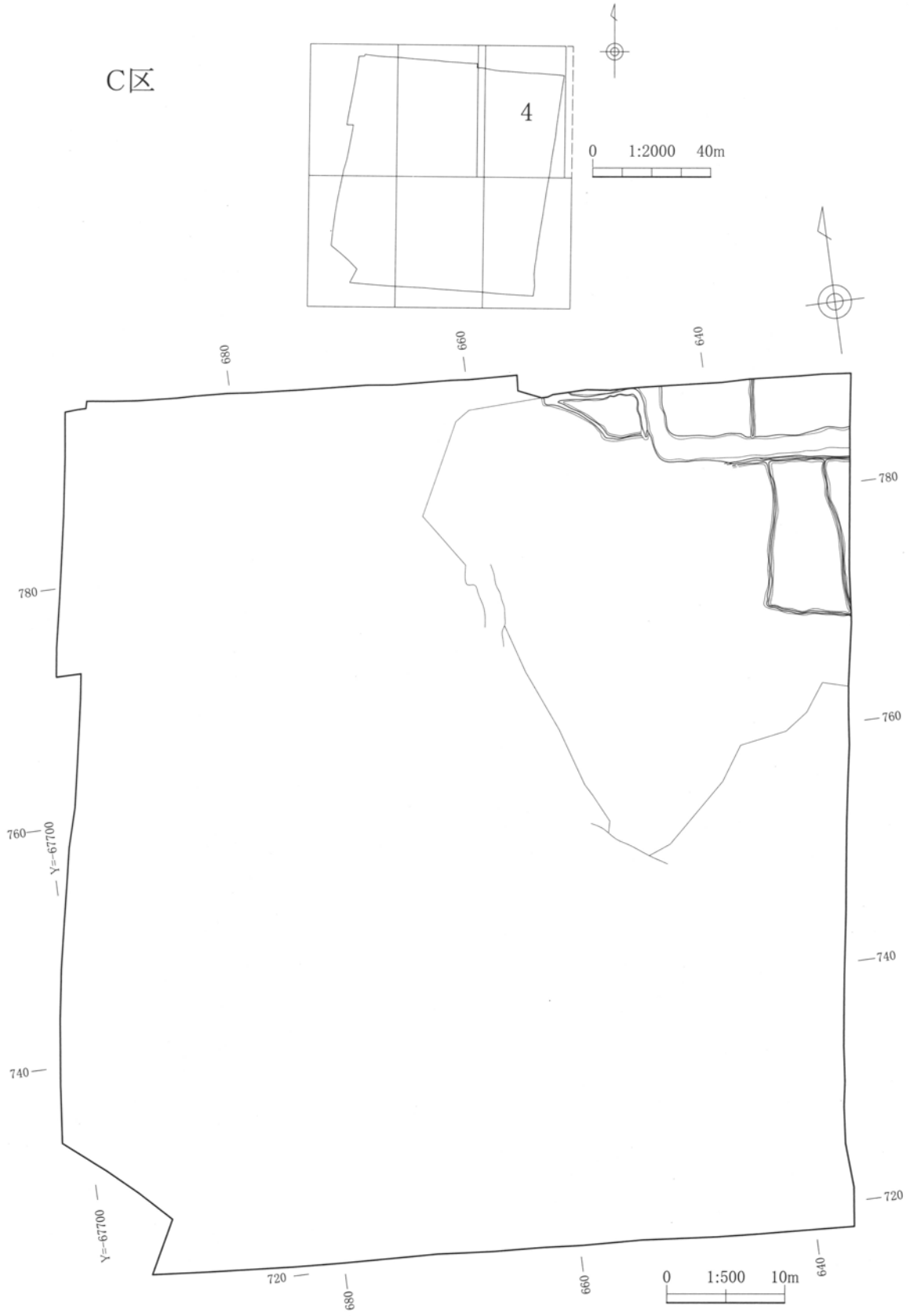


第443図 B区 図割-2

3. As-B下面 (平安時代)

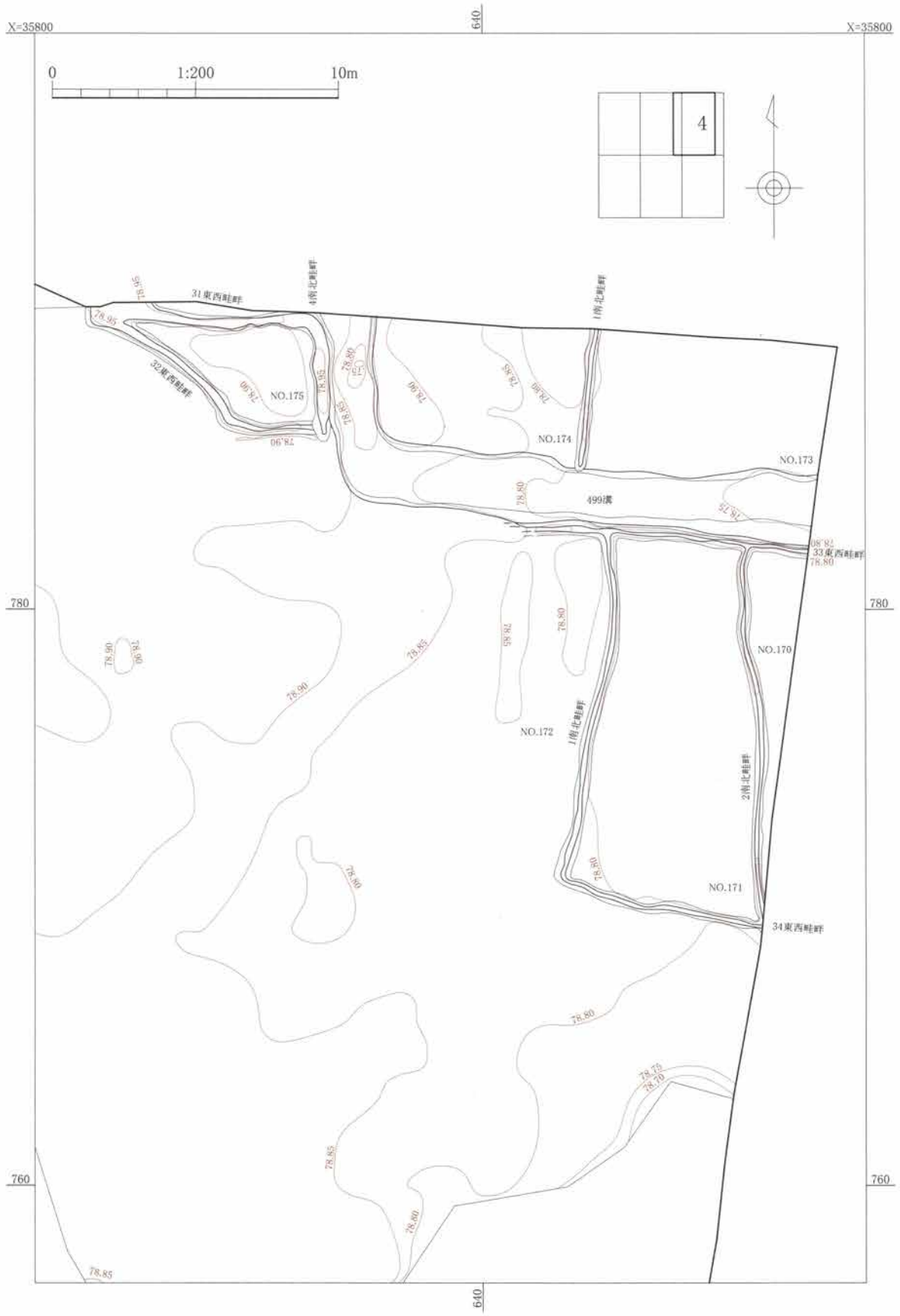


第444図 B区 図割-3



第445図 As-B下面 C区全体図・割図

3. As-B下面 (平安時代)



第446図 C区 図割-4



第447図 As-B下面 D区全体図・割図

3. As-B下面（平安時代）

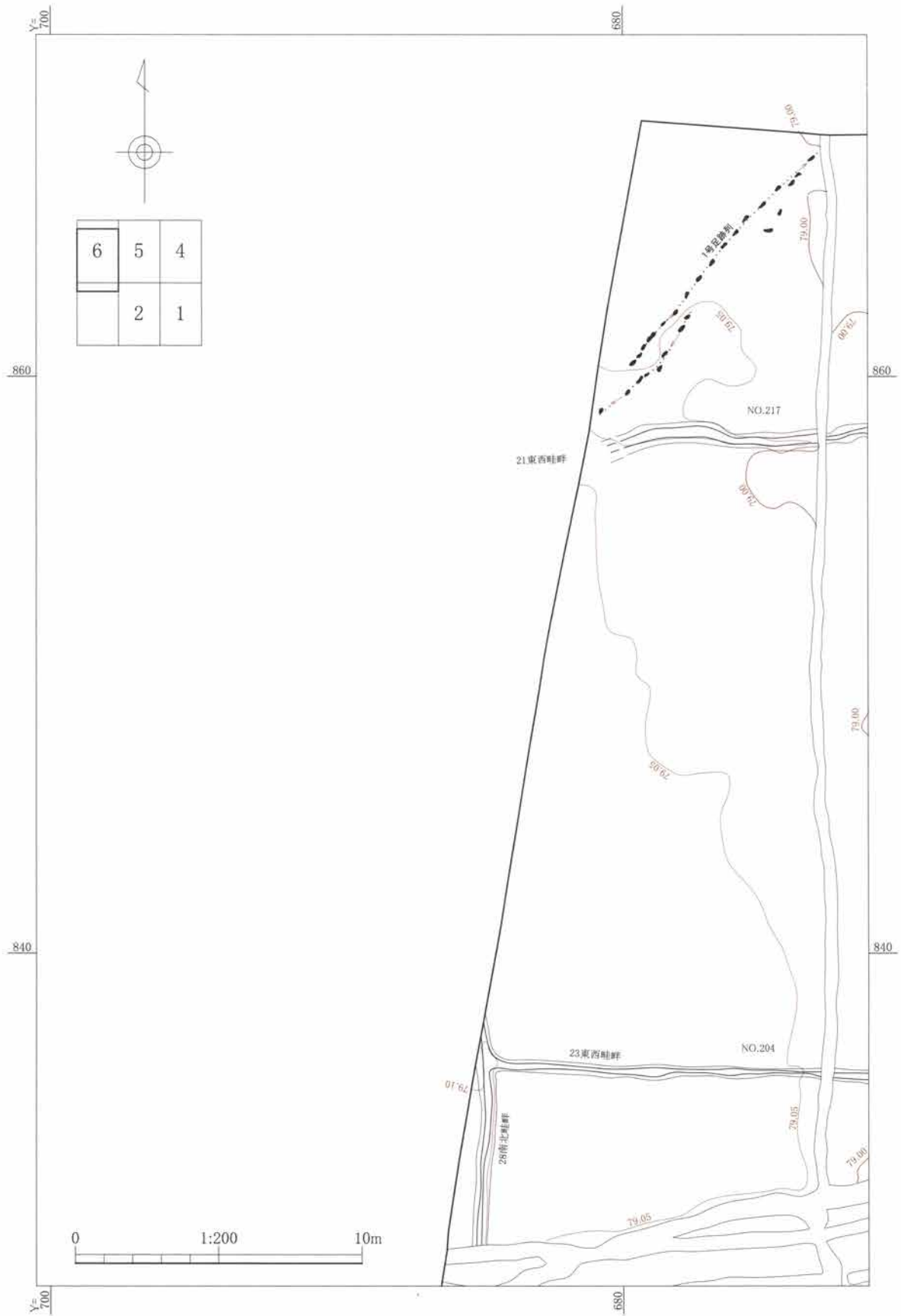


第448図 D区 図割-1

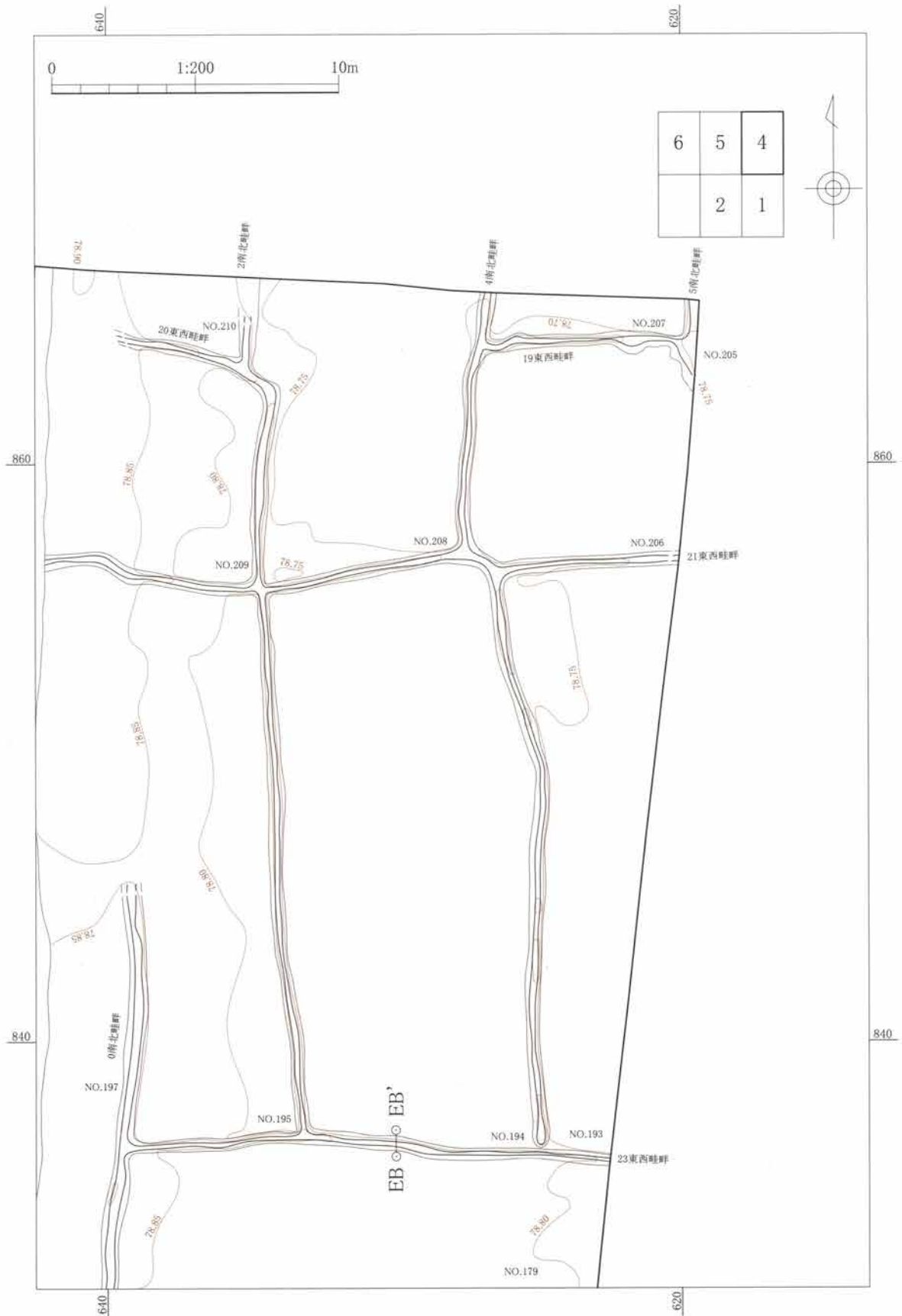


第449図 D区 図割-2

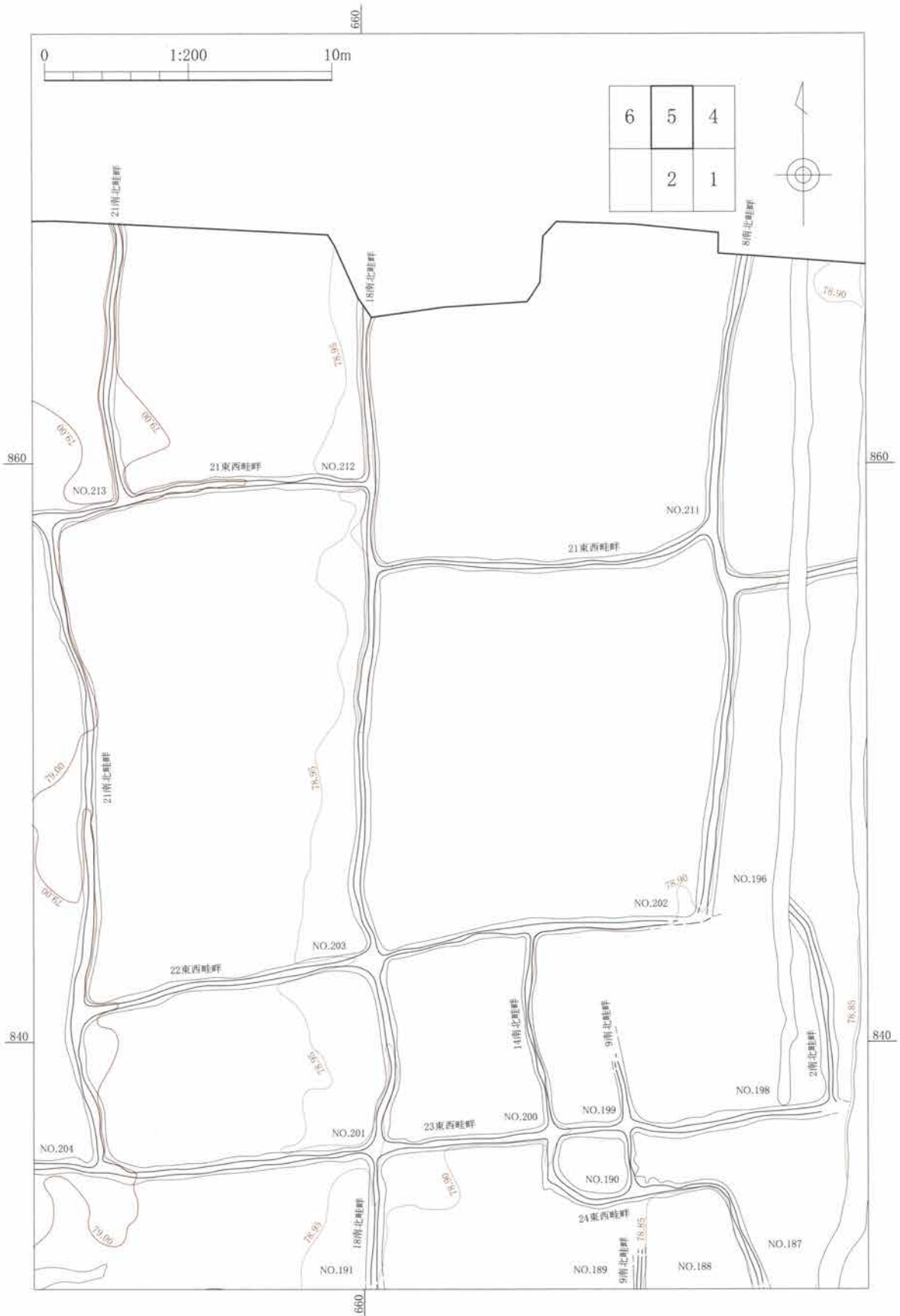
3. As-B下面 (平安時代)



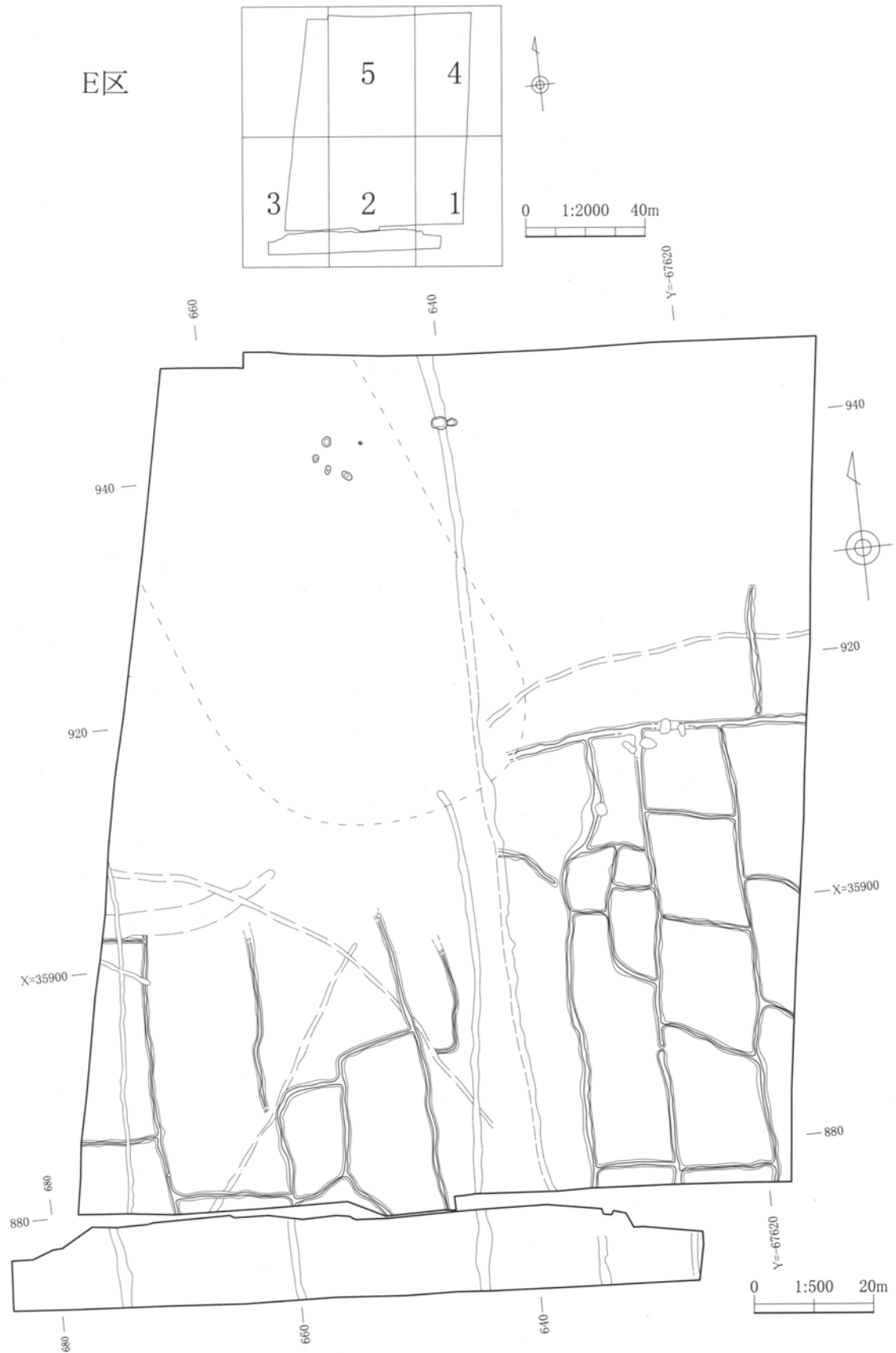
第450図 D区 図割-6



第451図 D区 図割-4

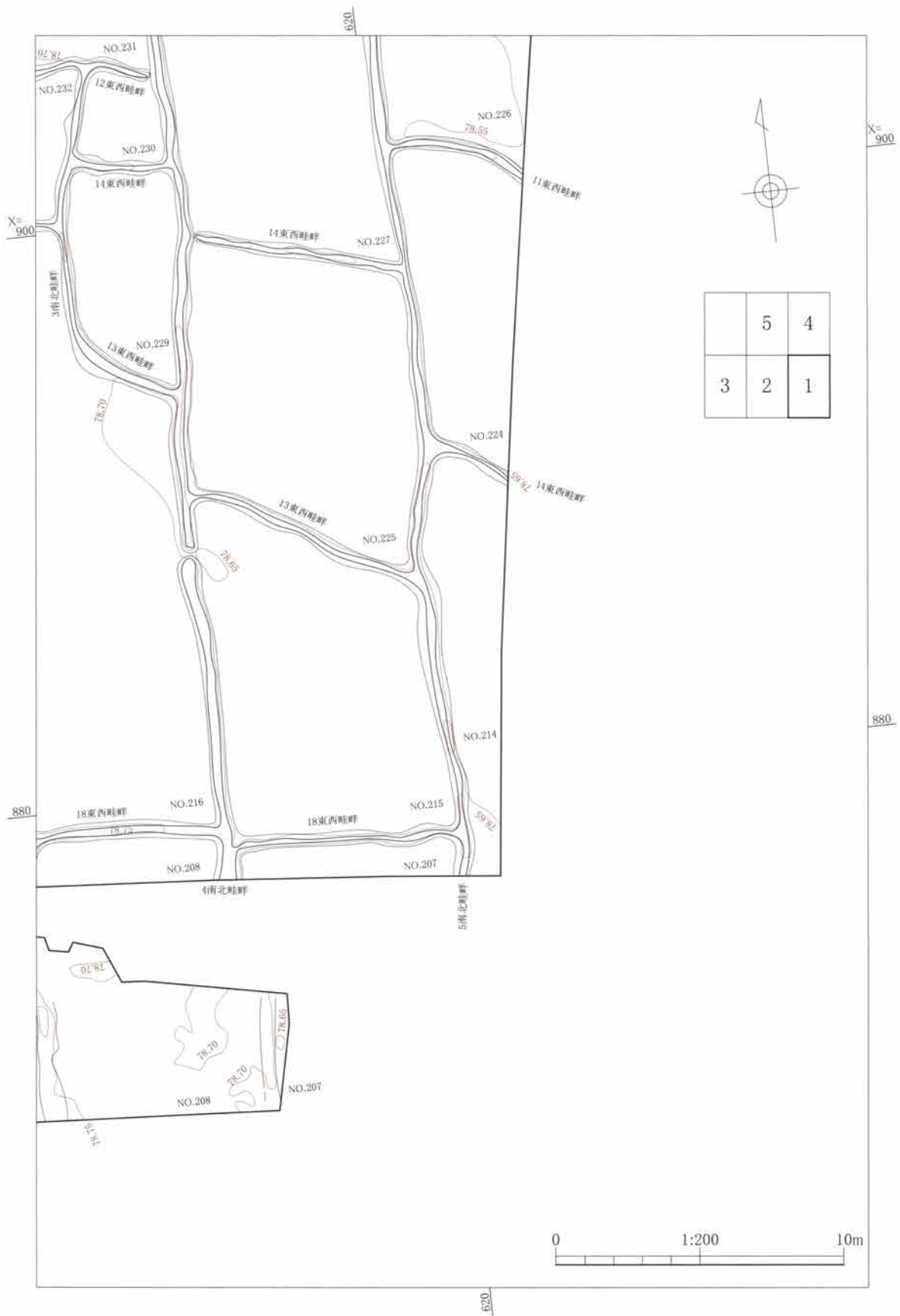


第452図 D区 図割-5

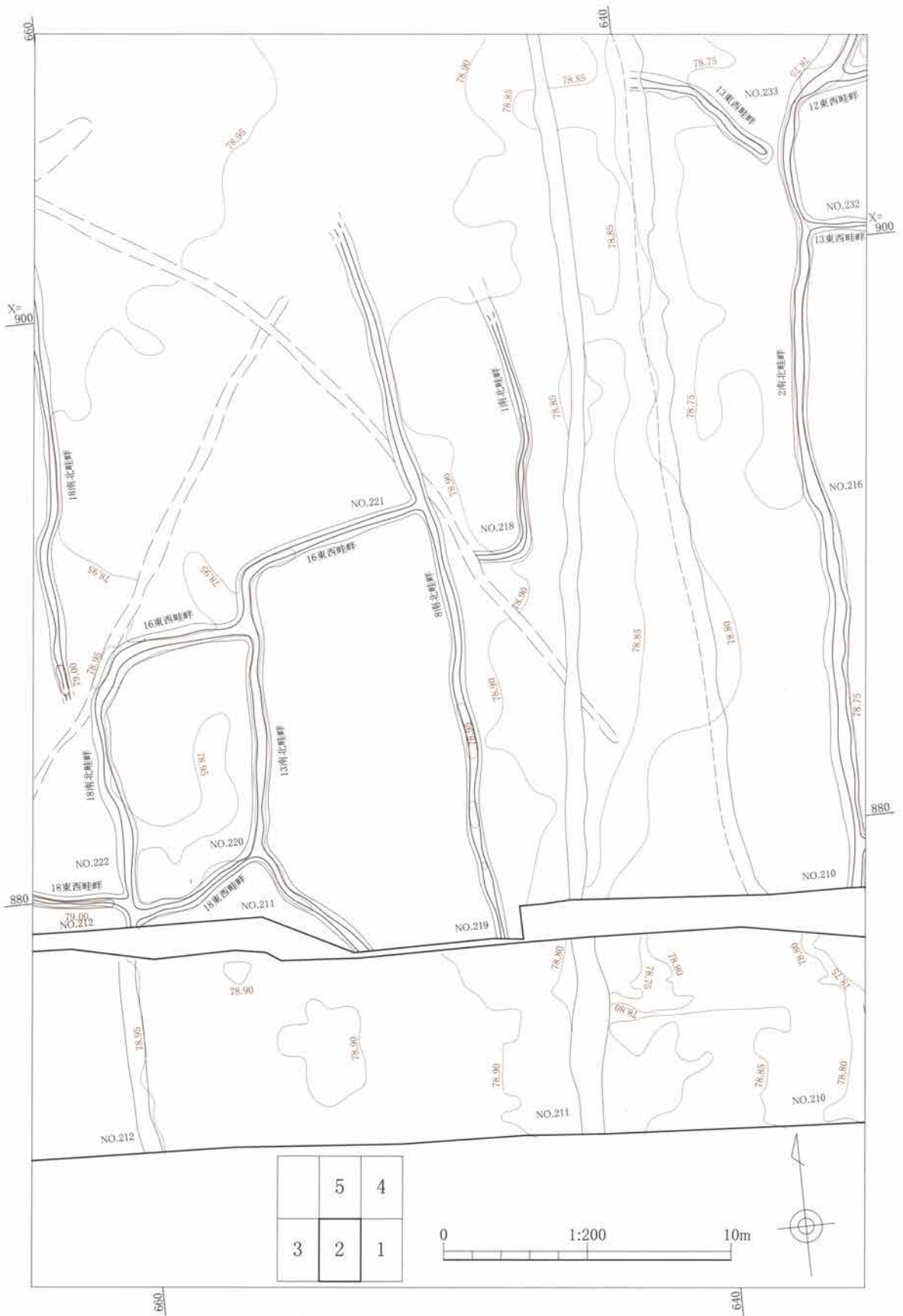


第453図 As-B下面 E区全体図・割図

3. As-B下面 (平安時代)



第454図 E区 図割-1

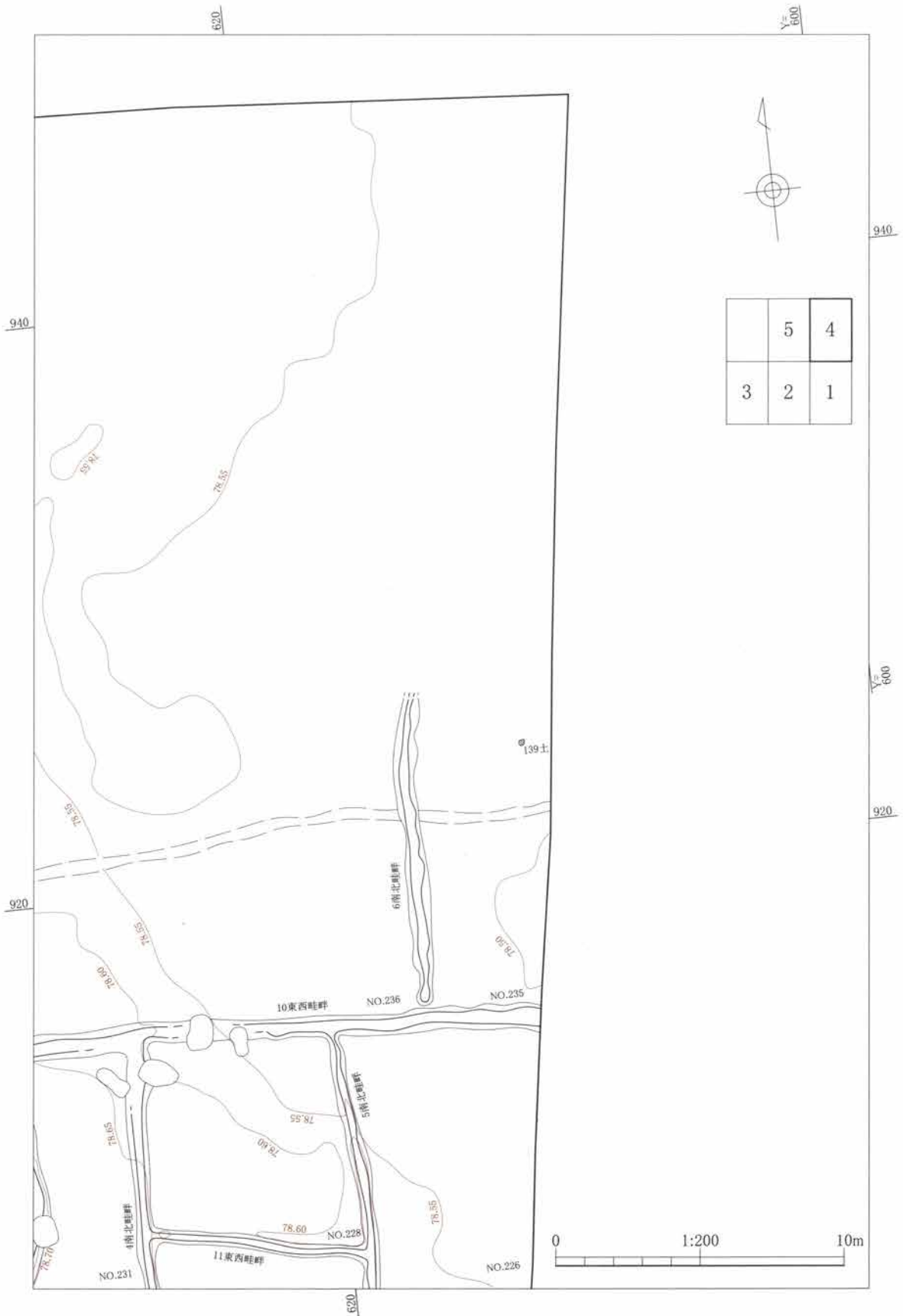


第455図 E区 図割-2

3. As-B下面 (平安時代)

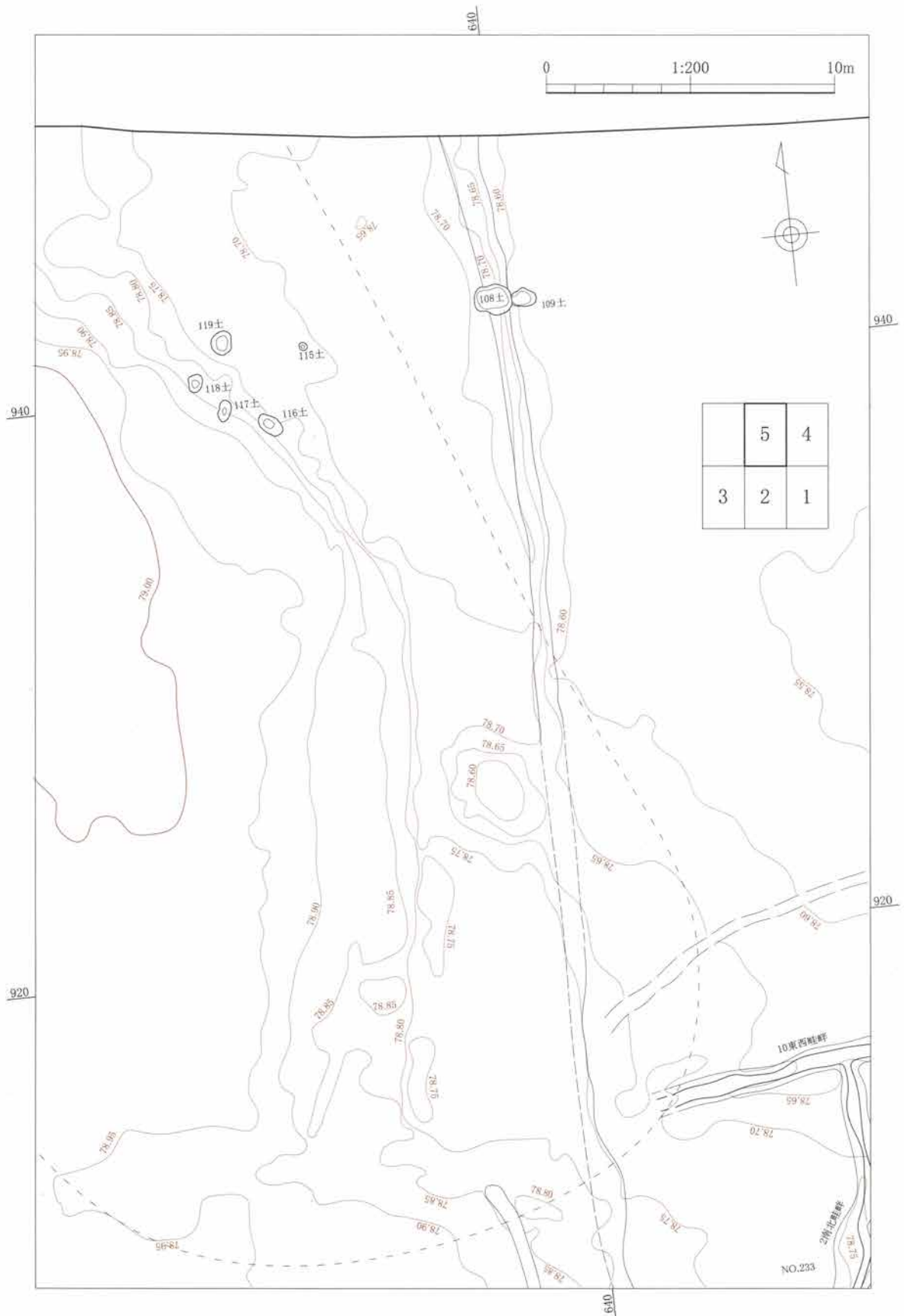


第456図 E区 図割-3

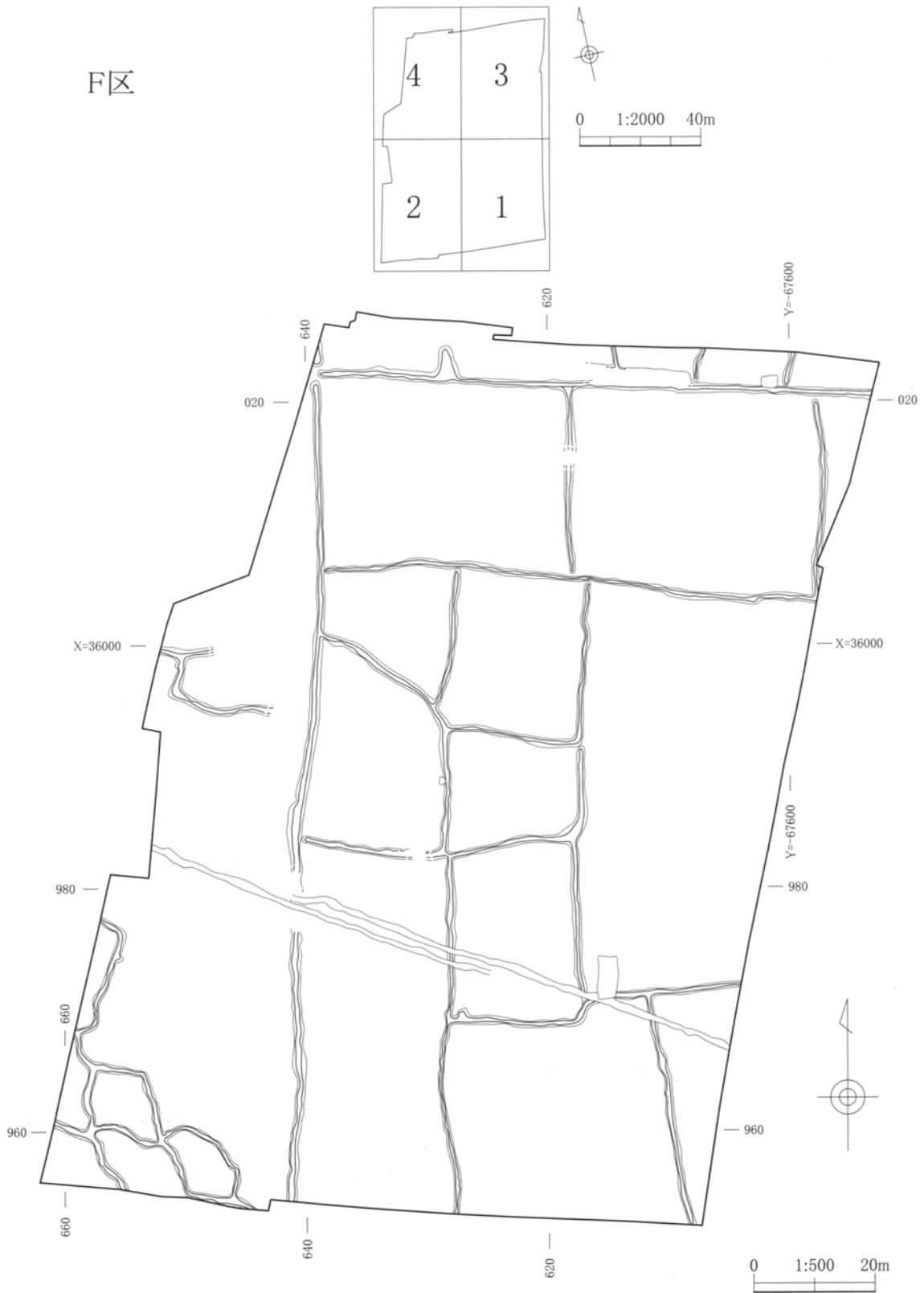


第457図 E区 図割-4

3. As-B下面 (平安時代)



第458図 E区 図割-5

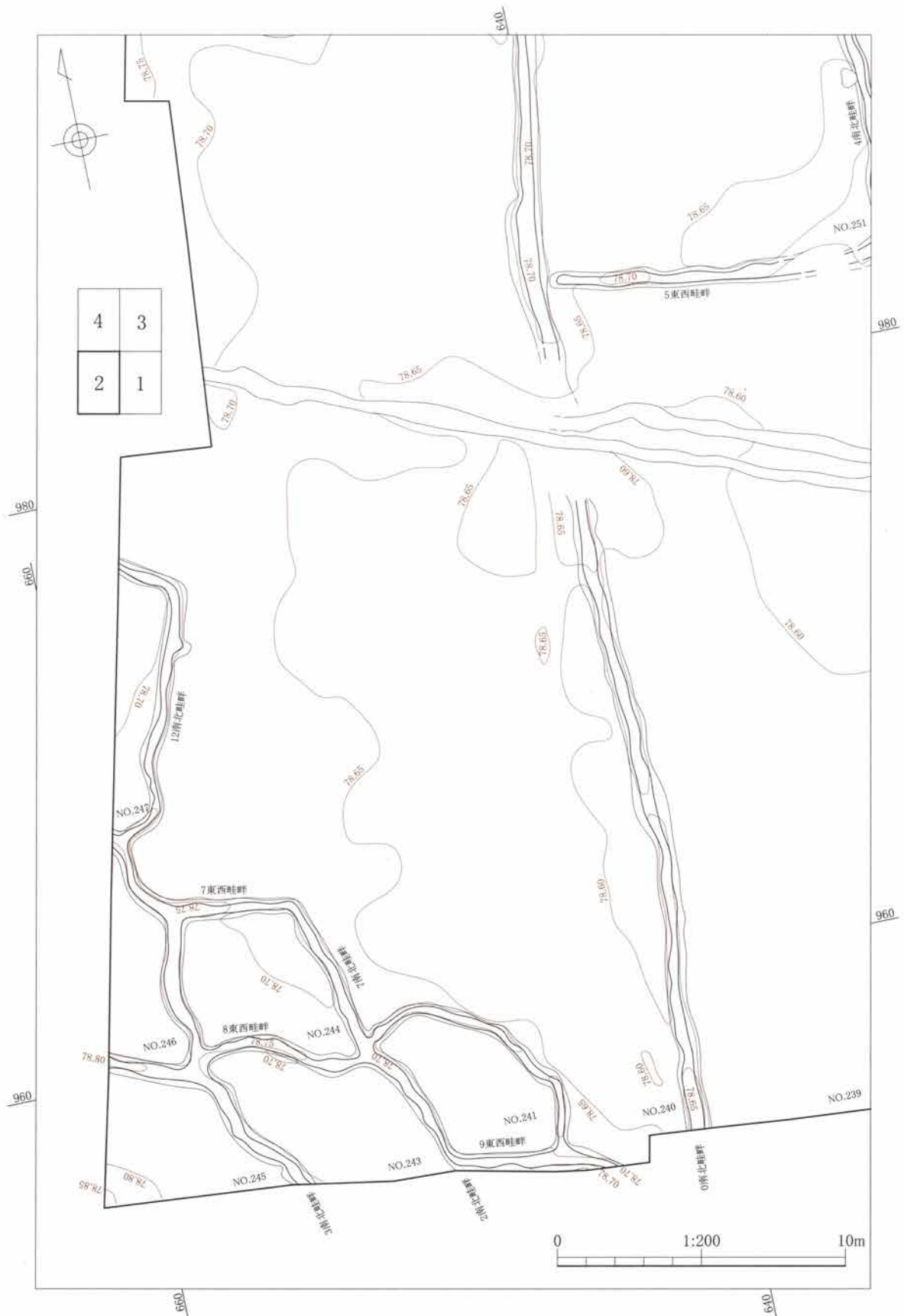


第459図 As-B下面 F区全体図・割図

3. As-B下面 (平安時代)



第460図 F区 図割-1

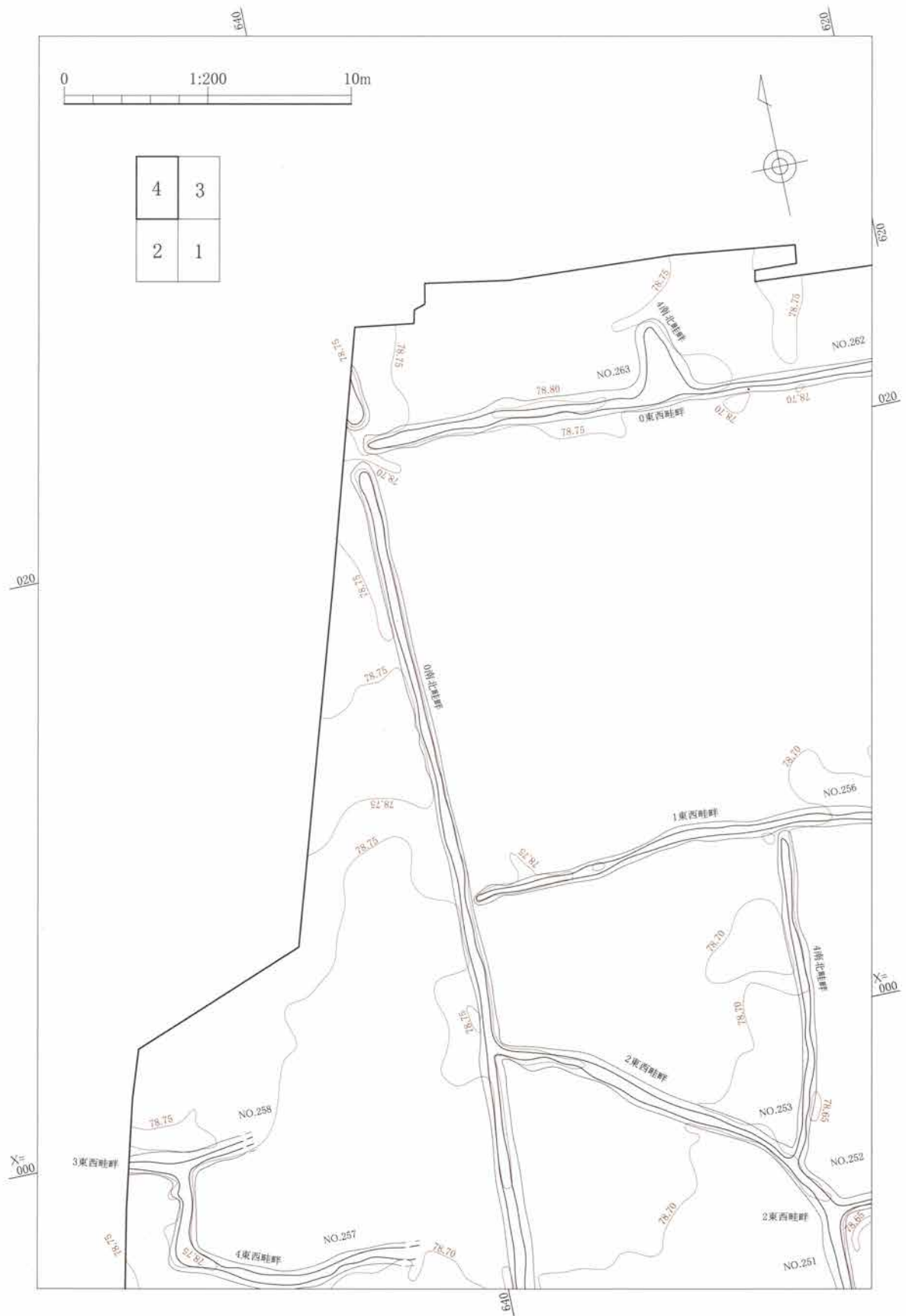


第461図 F区 図割-2

3. As-B下面 (平安時代)



第462図 F区 図割-3



第463図 F区 図割-4

(1) 水田跡

概要

As-B下水田跡は、天仁元（1,108）年の所産と考えられ、As-B軽石層下の水田跡である。つまり、As-B軽石にパックされた、平安時代の地表面としての水田跡と考えられる。

条里制に伴うと思われる、約109m間隔の畦畔も確認されている。近畿地方で検出できる半折型・長地型と考えられるような、整った水田区画は無い。『横田湯田遺跡』・『宿横手三波川遺跡』（群馬県埋蔵文化財調査事業団）で検出された、As-B下水田の畦畔と関連させて考えてみると、約109m毎に区割りをしていた様子が、ある程度把握できるが、しかし、畦畔の規模からは判断できない。

上滝榎町北遺跡の地形は、大きくは利根川と井野川に挟まれた後背湿地であり、北西から南東に向けて標高が低くなっている。そのため、灌漑用水の流れも基本的には、北西から南東方向へ流下していく構造となっている。各水田の区画ごとの水まわりは、大きな目で見れば上流（北西）の区画から下流（南東）の区画へと、流れていったと考えられる。As-B下水田では、畦畔は良好に検出できたが、水路はあまり検出できなかった。このことから、検出できた多くの水田跡は、田越し灌漑であった可能性が考えられる。つまり、上位の区画から下位の区画へ、水口を通して水を流していたのであろう。

上滝榎町北遺跡では、A-1～F区までのすべての調査区でAs-B下水田が検出できた。その中でC区での遺存状況が不良であった。以下、A-1区から順に報告する。

A-1区の水田跡（第411～417図、PL-167）

A-1区水田跡では、水田43枚が確認できた。水田跡はAs-B軽石直下のものである。As-B軽石層を取り払うことによって検出できたのが、この水田跡である。

畦畔の規模は、幅20～201cm、高さ0～7cmである。東西方向の畦畔が10条、南北方向の畦畔が16条ほど検出されている。水田の面積は、22～288㎡である。人の足跡や牛馬の蹄跡は、検出できなかった。畦畔は、ほぼ東西南北に直交するように造成されており、意識的な畦畔の配置を感じることができる。しかし、A-1区南西部には、北西～南東方向に30南北畦畔が通っている。これは、As-A面で検出された、147溝に沿っているようにも思え、147溝は平安時代から通っていた可能性も考えられよう。また、31南北畦畔も、北西から南東へ斜めに設定された畦畔であり、ある程度東西南北を意識しながらも、地形の現状に沿った土地管理をしている様子が読みとれる。

また、0南北畦畔は、他の畦畔と比して若干幅が広く、基幹的な農道として考えられる。この0南北畦畔は、D・F区でもはっきりと確認できた。この地域に条里制を適用する上で、基準となるような畦畔であった可能性も考えている。

A-2区の水田跡（第418～424図、PL-169）

A-2区水田跡では、水田37枚が確認できた。A-1区と同様に、As-B軽石層を取り払うことによって面的

第2章 遺構と遺物

に検出できた。

畦畔の規模は幅20～175cm、高さ0～8cmで、特に大小の差は認められない。東西畦畔が11条、南北畦畔が12条確認されている。水田面積は、5～612㎡である。ほぼ東西方向の畦畔から、構成された水田跡である。しかし、半折型・長地型などの区画は見いだすことはできない。

区内西側に、南北方向の169溝がある。この溝は、37南北畦畔に沿って掘削されており、且つ農具痕と思われるくぼみが、連続して検出できた。この溝は、水田内の水管理を行うために掘削されたものと考えられる。51東西畦畔を挟んで南北に通じているところからも、田越し灌漑における用排水のための溝であることが窺われよう。水田面から、馬歯が4点出土している（P-1,016参照）。

A-3区の水田跡（第425～437図、PL-171）

A-3区水田跡では、水田52枚が確認できた。A-1・2区と同様に、As-B軽石層を取り払うことによって面的に検出できた。

畦畔の規模は幅10～165cm、高さ0～9cmである。東西畦畔が12条、南北畦畔が20条確認されている。A-3区の畦畔も、ほぼ東西南北に通っている。しかし、明瞭に条里制を見いだすことはできない。また、中世において屋敷跡となった、A-3区の北側も畦畔が走っており、水田域であったことがわかる。水田面積は、小さいもので30㎡、大きいもので612㎡である。人の足跡や牛馬等の蹄跡は検出されなかった。南半部中央の255溝は、50南北畦畔に沿って掘削されていたことから、用水管理用に設けられた溝であろう。また330溝と55東西畦畔の関係も、同様と思われる。水田面から、馬歯が出土している（P-1,016参照）。

Aランプの水田跡（第438～440図、PL-172）

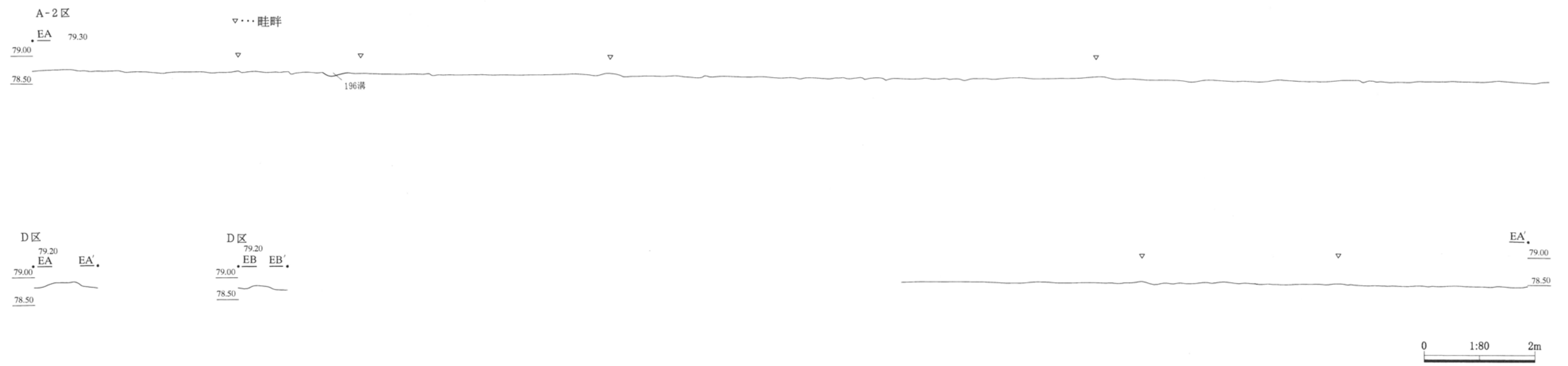
Aランプ水田跡では、畦畔・溝の遺存状況が不良で、水田5枚が確認できた。As-B軽石層を取り払うことによって面的に検出できた。

水田の遺存状況は全体的には不良で、畦畔はあまり検出できなかった。畦畔の規模は、幅36～88cm、高さ0～4cmである。水田面積は、調査区域の横幅が狭く計測不能である。B区平行部で、北東～南西方向の耕作痕が検出された。B区は、北半部が高いことから、Aランプにおいても同様の地形が連続していたと思われる。

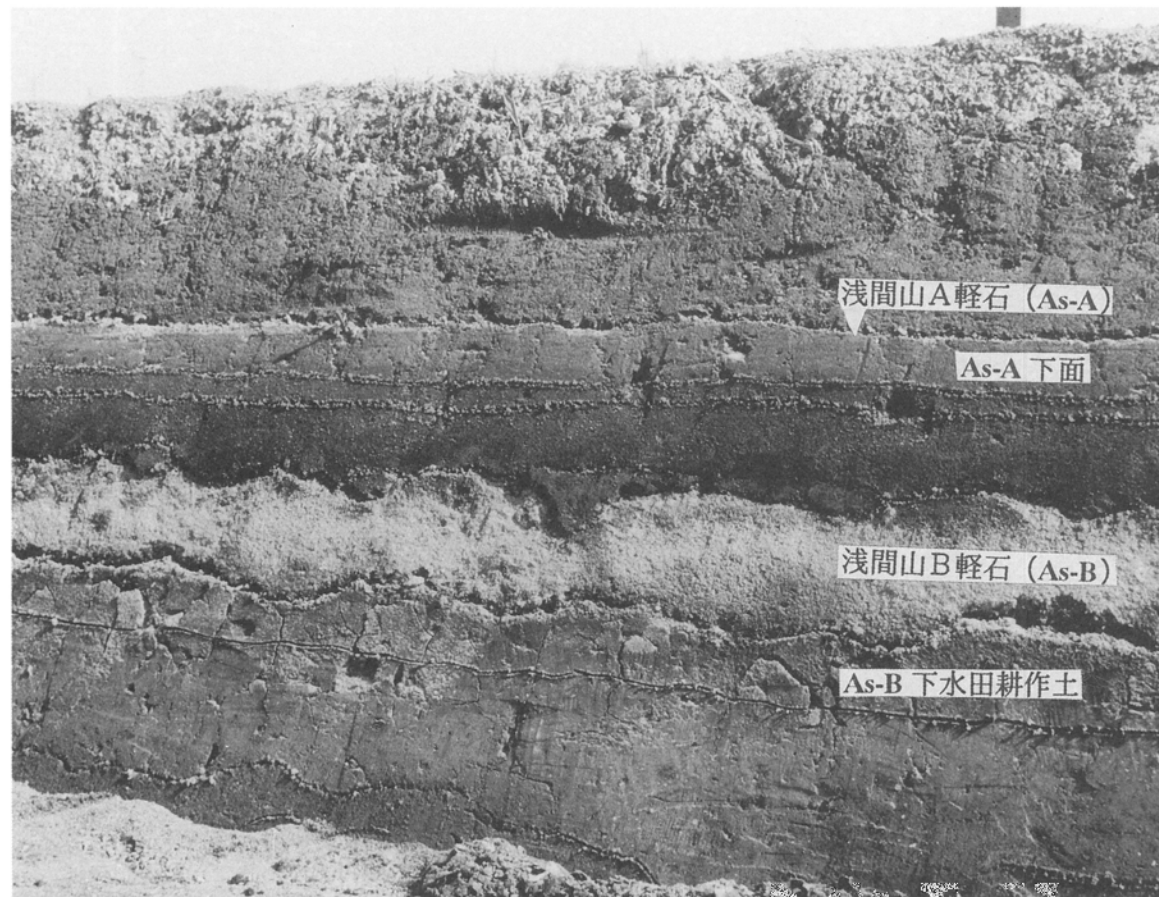
B区の水田跡（第441～444図、PL-172・173）

B区水田跡では、水田31枚が確認できた。A区と同様に、As-B軽石層を取り払うことによって面的に検出できた。しかし、B区北半部は、5～20cmほど標高が高くなっており、水田域として検出できたのは、南半部のみであった。また、北半部には中世～近世の溝・土坑・ピット・掘立柱建物・井戸などが集中して見られることから、微高地であったことが考えられる。

南半部で検出された水田跡における畦畔の規模は、幅25～100cm・高さ0～8cmである。東西畦畔が7条、南北畦畔が11条確認されている。比較的広い東西・南北方向の畦畔が西南部で検出されており、A-2・A-3区につながるものと考えられる。水田面積は、6～216㎡である。畦畔は、A-2・A-3区と同様に、ほ



第464図 As-B下面 エレベーション図



土層断面 (写真)

ほ東西南北方向に通っている。

C区の水田跡（第445～446図、PL-173）

C区水田跡は、北西部から水田6枚が確認できた。As-B軽石層を取り払うことによって面的に検出できた。畦畔の規模は、幅27～80cm、高さ0～6cmである。東西方向の畦畔が4条、南北方向が3条検出できた。面積は、13～65m²である。人の足跡は検出されなかった。

D区の水田跡（第447～452図、PL-174）

D区では、水田跡34枚が検出できた。As-B軽石層を取り払うことによって面的に検出できた。畦畔の規模は、幅21～84cm、高さ0～9cmである。東西方向の畦畔が12条、南北方向の畦畔が15条検出できた。水田の面積は、4～260m²である。

区の中央やや東を南北に走る、0南北畦畔は、A-1区につながる畦畔で、条里施工時において、位置的に基本となる性格の畦畔であった可能性が高い。しかし、規模では、他の畦畔と同等であり、一見して特別な意味を持つような大畦畔ではない。

北西端では、人間の足跡が、検出されている。1足跡列は、南西→北東に歩いている足跡と、その反対に北東→南西に歩いている足跡が、平行して2列検出できた。

E区の水田跡（第453～458図、PL-175）

E区では、水田跡27枚が検出できた。As-B軽石層を取り払うことによって面的に検出できた。畦畔の規模は、幅30～162cm、高さ0～9cmである。東西方向の畦畔が9条、南北方向の畦畔が11条検出できた。水田の面積は、8～260m²である。

区の中央やや東を南北に走る、0南北畦畔は、良好な状態では検出できなかった。しかし、D区とF区の0南北畦畔をつなぐ位置には、調査時に畦畔ではなく、僅かな高まりとして記録された部分がある。それが、中央を南北に走る、点線で示された部分である。これが、0南北畦畔の痕跡と考えられる。また、明瞭な足跡は検出されなかったが、D区の1足跡列から続く溝状の窪みが、南西部で検出できた。北西部は微高地であるため、後の耕作の影響から、明瞭な水田跡は検出できなかった。

F区の水田跡（第459～463図、PL-176）

F区では、水田跡27枚が検出できた。As-B軽石層を取り払うことによって面的に検出できた。畦畔の規模は、幅33～190cm、高さ0～9cmである。東西方向の畦畔が10条、南北方向の畦畔が11条検出できた。水田の面積は、18～325m²である。

区の中央やや西を南北に走る、0南北畦畔は、A-1区へもつながる畦畔で、条里施工時において、位置的に基本となる性格の畦畔であった可能性が高い。しかし、規模では、他の畦畔と同等であり、特別な意味を持つ大畦畔ではない。また、南西端では、畦畔の方向性が南北方向ではなく、若干乱れた部分が見られる。

これは、E区の微高地（台地）との関連で、不規則な方向性を示すものと考えられよう。明瞭な足跡は、検出されなかった。水田面から、馬歯が5点出土している（P-1,016参照）。

(2) 溝

概要

As-B下面から検出できた溝は、全部で20条である。水田跡に伴うと考えられる溝がほとんどである。地形との関係から溝の水の流れは、大まかには北西から南東方向に流下するものが多い。これは、当地域を挟むように流れている利根川と井野川の両河川が、ともに北西から南東方向に流下していることと関係する。遺跡内の微細な地形の起伏や、また区画に影響されて、異なる流れを示す溝も検出されているが、この地域を理解する上では、やはり大きくは北西から南東へ地形が傾斜していることを意識しておくことが必要であろう。

溝は、畦畔に沿って設置されている溝、畦畔を裁ち割って流れている溝など、様々である。畦畔に沿って設置された溝は、用水管理の溝として理解しやすい。しかし、畦畔を裁ち割って設置されている溝の性格を、どのように考えればよいのであろうか。単純には、土用干しや刈り取り期、落水時の排水用の溝である可能性も考えているが、想像にとどまる。以下、各調査区毎に報告する。

A-1区の溝

213号溝（第465図、PL-168）

位置 500—635・640グリッド 走向 西→東 規模 幅0.23～0.35m、深さ0.02～0.06m、調査長7.26m
形状 丸底状を呈する。 調査所見 A-1区の中央やや南よりに位置する、規模の小さな溝。用水管理の為の溝と思われる。 遺物 なし

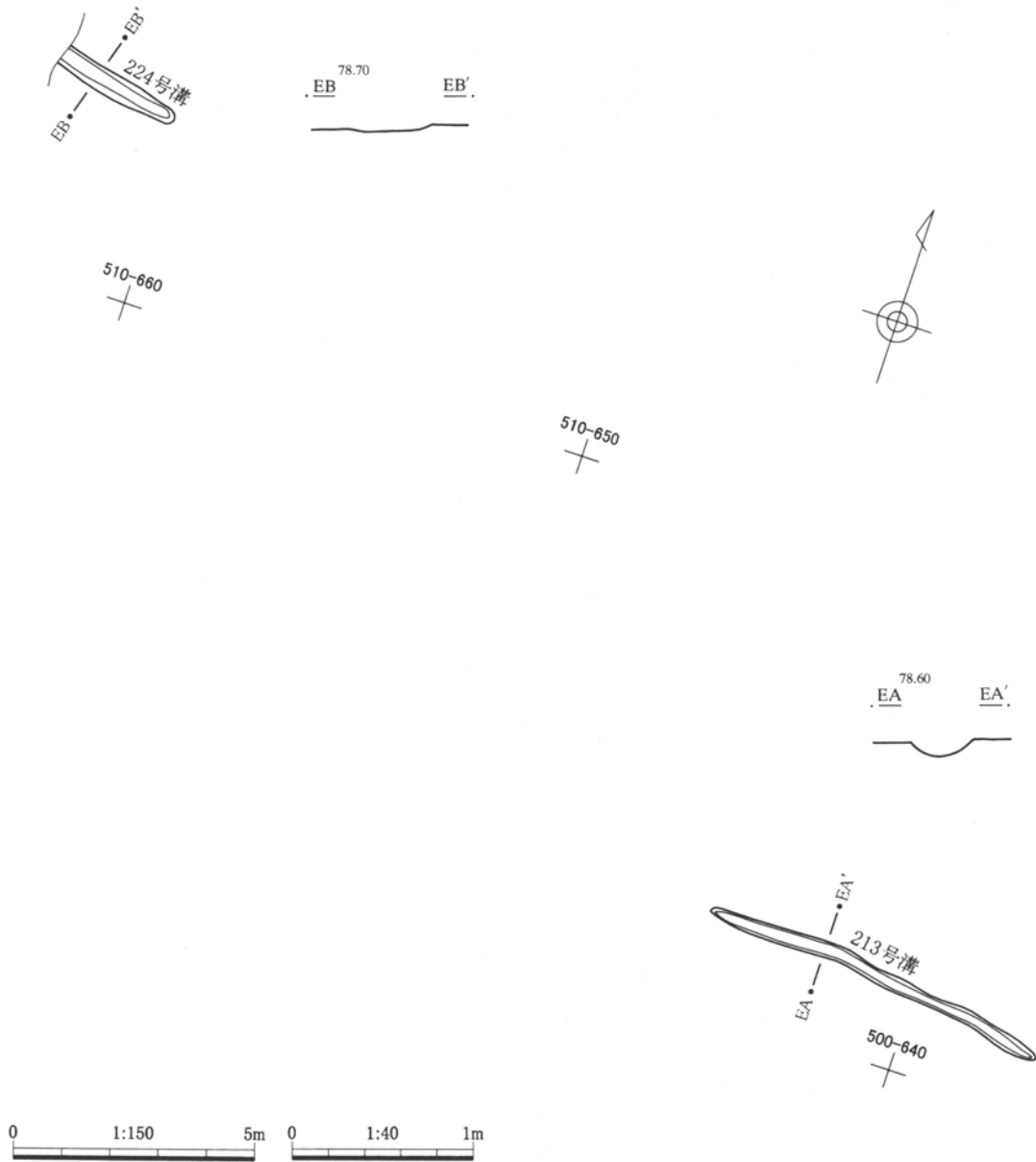
217号溝（第466図、PL-168）

位置 475・480—615、480—620、480・485—625グリッド 走向 西→南東
規模 幅0.36～0.84m、深さ0.02～0.06m、調査長16.24m 形状 丸底状の断面を呈する。
調査所見 A-1区南に位置する、東西方向の溝である。218溝との新旧関係不明。 遺物 なし

218号溝（第466図、PL-168）

位置 480—620・625グリッド 走向 西→東 規模 幅0.22～0.30m、深さ0.01～0.06m、調査長6.40m
形状 なべ底状の断面を呈する。 調査所見 A-1区の南部に位置する、東西方向の溝である。217溝との新旧関係不明。 遺物 なし

3. As-B下面（平安時代）



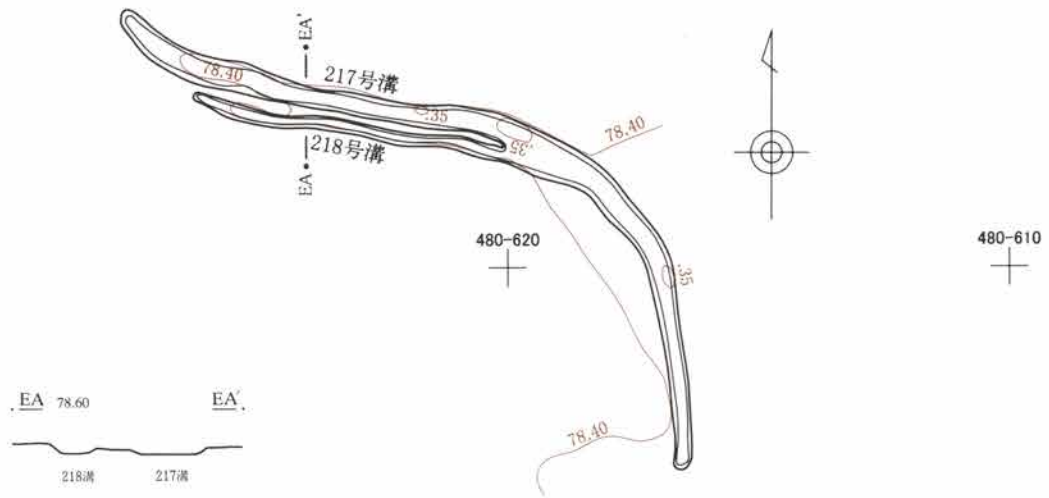
第465図 213・224号溝実測図

221号溝（第467図、PL-168）

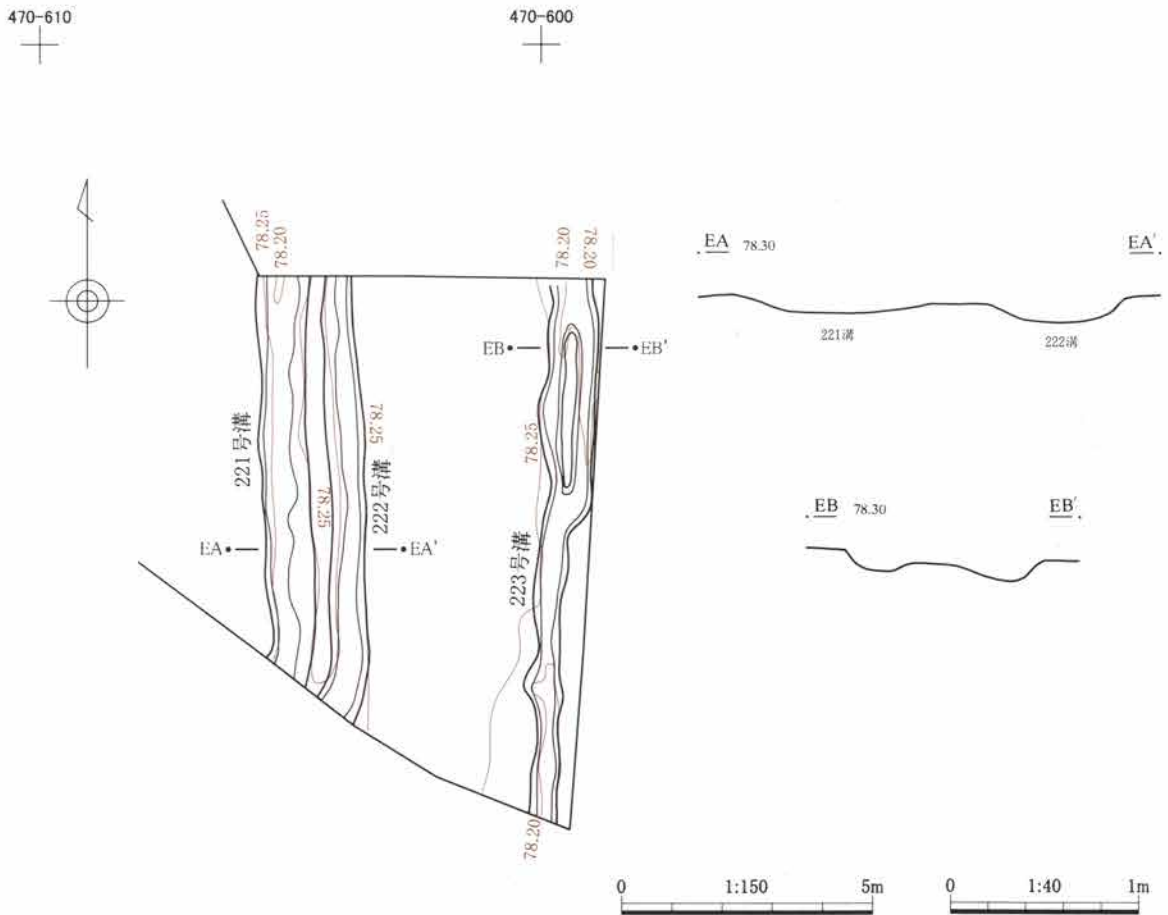
位置 455～465—600・605グリッド 走向 北→南 規模 幅0.77～1.05m、深さ0.02～0.08m、調査長7.95m 形状 なべ底状の断面を呈する。 調査所見 A-1区南に位置する、南北方向の溝である。222・223溝と平行して走る。 遺物 なし

222号溝（第467図、PL-168）

位置 455～465—600グリッド 走向 北→南 規模 幅0.53～0.82m、深さ0.04～0.06m、調査長8.70m 形状 なべ底状の断面を呈する。 調査所見 A-1区南端に位置する、南北方向の溝である。221・223溝と平行して走る。 遺物 なし



第466図 217・218号溝実測図



第467図 221～223号溝実測図

3. As-B下面（平安時代）

223号溝（第467図、PL-168）

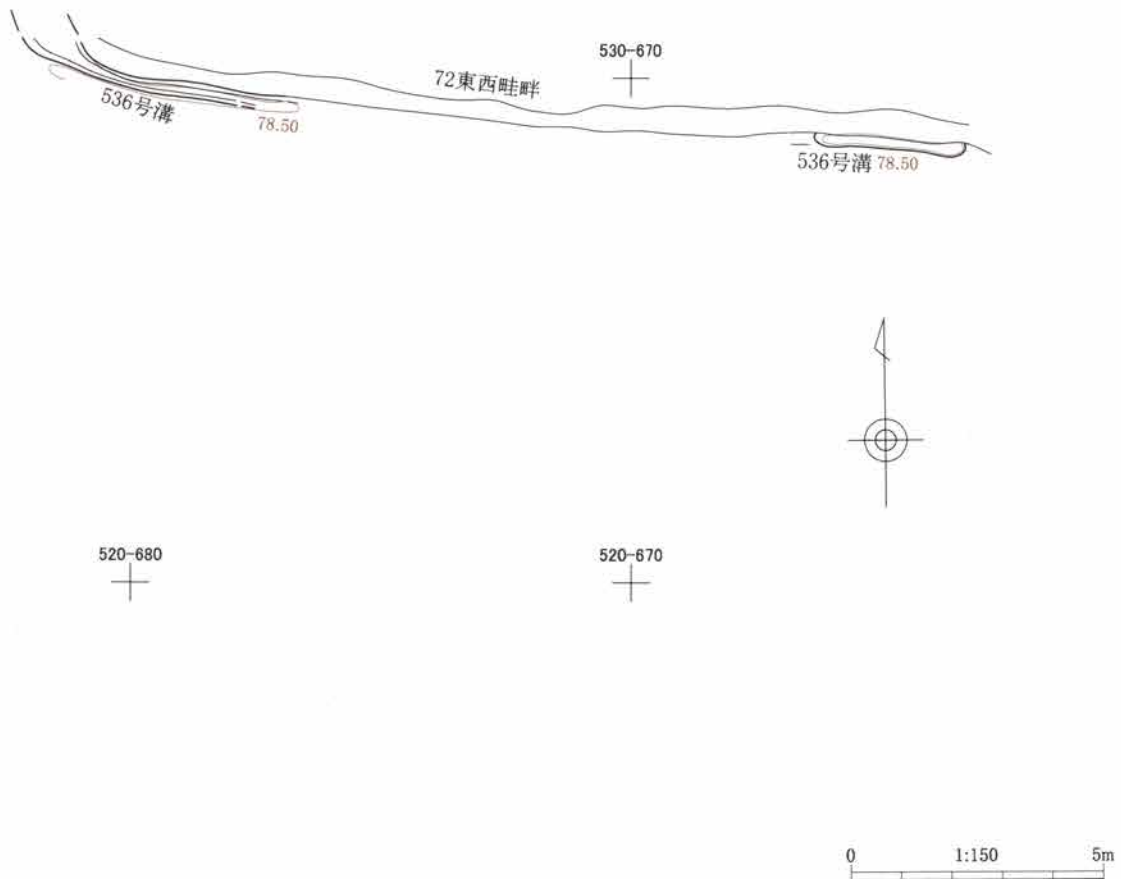
位置 450～465—595・600グリッド 走向 北→南 規模 幅0.40～1.09m、深さ0.03～0.08m、調査長10.73m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-1区南端に位置する、南北方向の溝である。221・222溝と平行して走る。 遺物 なし

224号溝（第465図、PL-168）

位置 510—660グリッド 走向 北西→東 規模 幅0.50m、深さ0.01～0.03m、調査長2.62m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-1区中央に位置する、小規模の溝である。一枚の水田内における、用水管理用の溝である。 遺物 なし

536号溝（第468図）

位置 525—660～680、530—680グリッド 走向 東→西 規模 幅0.30m、深さ0.02m、調査長19.03m 形状 なべ底状の断面を呈する。 調査所見 A-1区中央やや西寄りに位置する。小規模の溝である。 遺物 なし



第468図 536号溝実測図

A-2区の溝

169号溝 (第469図、PL-170)

位置 610—675・680、615—680グリッド **走向** 北→東 **規模** 幅0.19～0.40m、深さ0.02～0.05m、
調査長14.50m **形状** なべ底状の断面を呈する。 **調査所見** A-2区中央やや北寄りに位置する、小
規模の溝である。25南北畦畔や52東西畦畔に沿って設置されていることから、用水管理のための溝であろう。
遺物 なし

170号溝 (第469図、PL-170)

位置 610—660・665、605・610—670、605—675・680グリッド **走向** 西→東
規模 幅0.45～0.70m、深さ0.01～0.03m、**調査長**21.32m **形状** なべ底状の断面を呈する。
調査所見 A-2区中央やや北寄りに位置する、東西方向の溝である。ちょうど水口につながっているところ
から、排水用の溝であろう。 **遺物** なし

184号溝 (第470図、PL-170)

位置 590—545・550、585・590—655～665、585—670、580—670、580・585—675・680グリッド
走向 西→東 **規模** 幅0.28～0.92m、深さ0.01～0.05m、**調査長**34.96m
形状 なべ底状の断面を呈する。 **調査所見** A-2区中央東寄りに位置する、東西方向の溝である。58東
西畦畔に沿って設置されていることから、水田における用水管理の溝であろう。 **遺物** なし

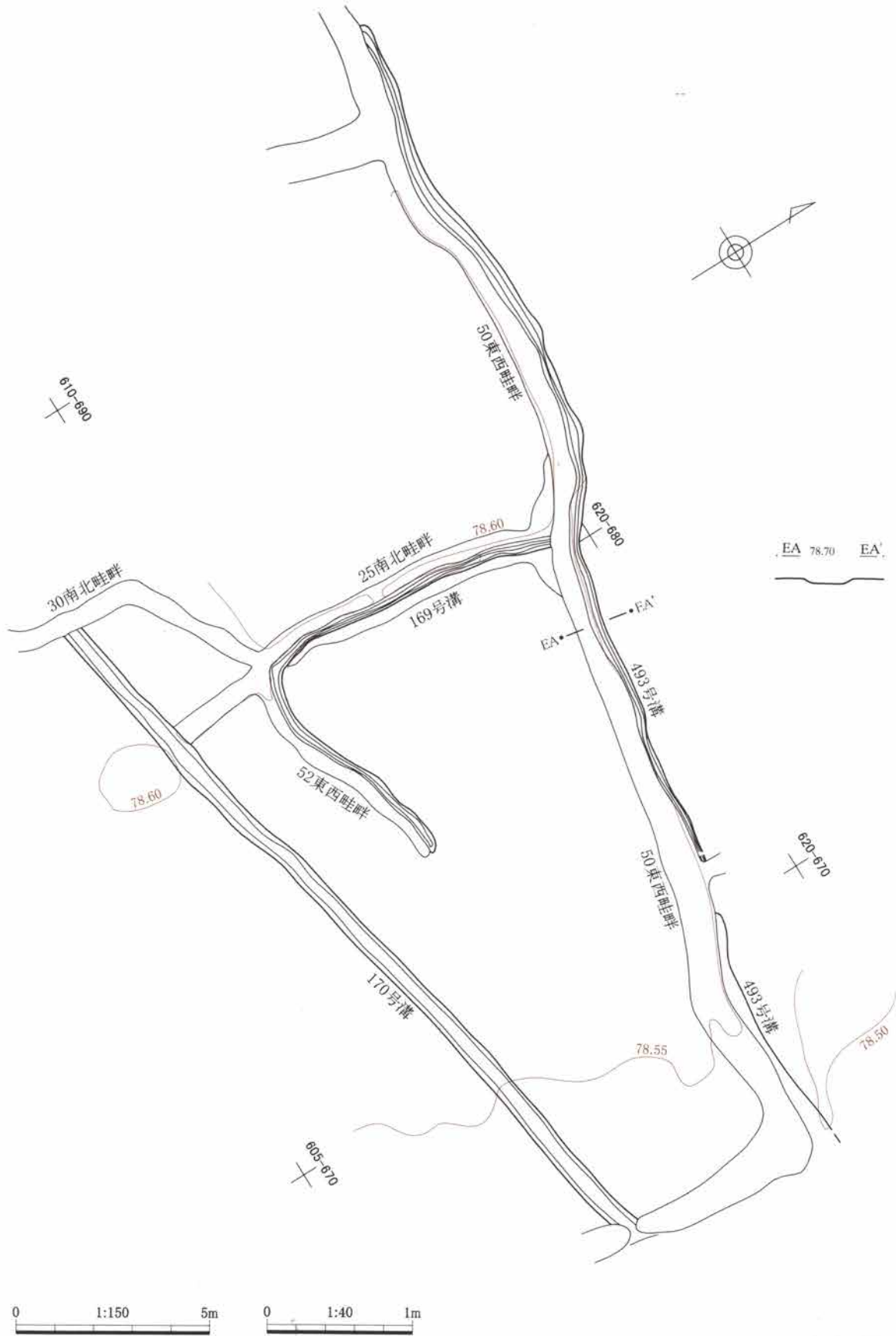
196号溝 (第471図、PL-170)

位置 585—710、590—705・710、595～630—705グリッド **走向** 北→南
規模 幅0.28～0.60m、深さ0.01～0.03m、**調査長**46.98m **形状** 農具痕のような小さな窪みが、連続し
て見られる。 **調査所見** A-2区西部を南北に走る溝である。農具痕のような窪みが連続してみられる。
しかし、37南北畦畔に沿って掘削され、水口を通過していることなどから、やはり用水管理用の溝と考えた
い。 **遺物** なし

493号溝 (第469図)

位置 615—670～680、620—680～690グリッド **走向** 西→東 **規模** 幅0.16～0.50m、深さ0.01～
0.11m、**調査長**31.10m **形状** 浅いなべ底状の断面を呈する。 **調査所見** A-2区北寄りに位置する、
東西方向の溝である。50東西畦畔に沿っており、用水管理の溝と思われる。 **遺物** なし

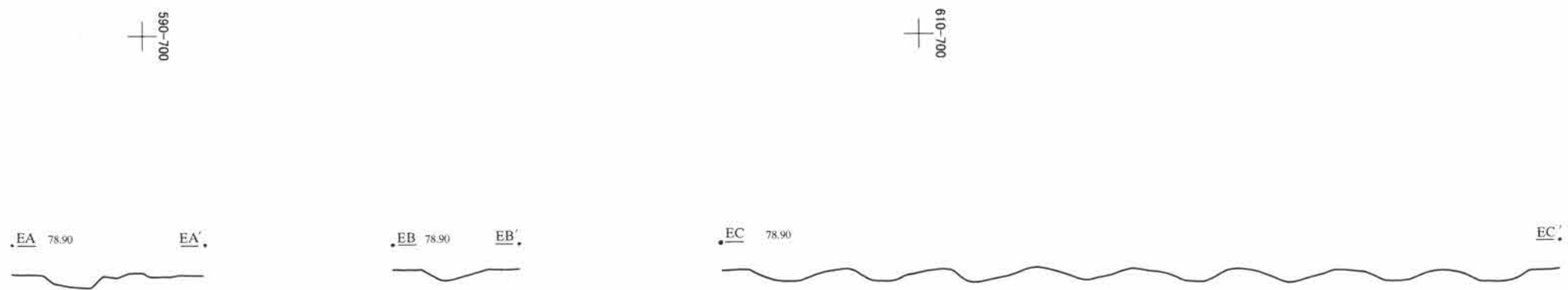
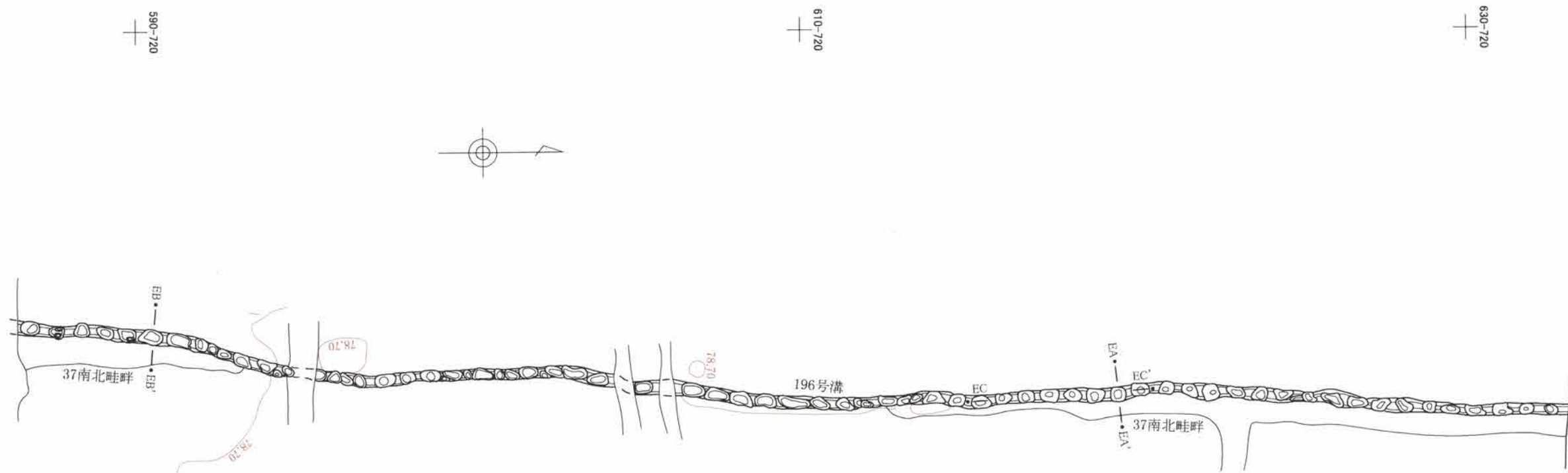
3. As-B下面 (平安時代)



第469図 169・170・493号溝実測図



第470図 184号溝実測図



第471图 196号沟实测图

A-3 区の溝

255号溝（第473図、PL-171）

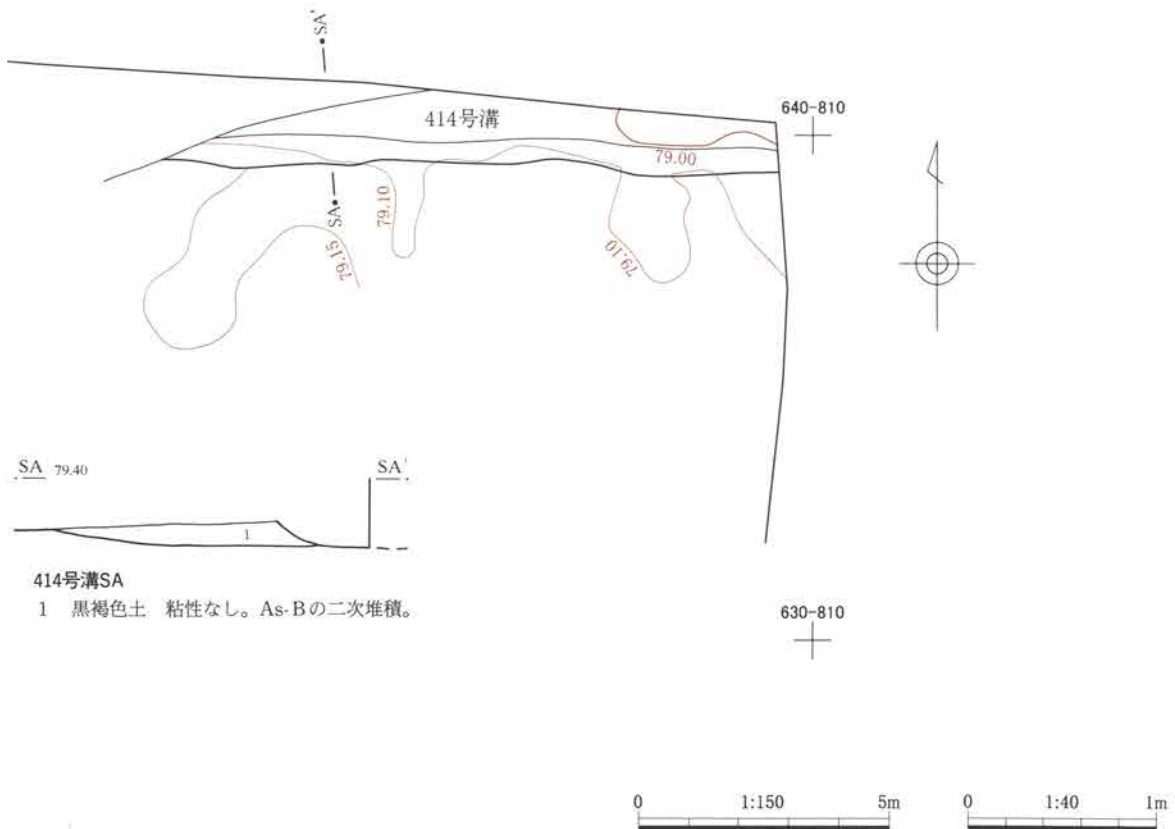
位置 605～615—765～770グリッド 走向 北→南 規模 幅0.48～0.90m、深さ0.07m、調査長12.67m 形状 丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-3区南半部の中央に位置する、南北方向の溝である。50南北畦畔に沿っていることから、用水管理の溝と思われる。 遺物 なし

330号溝（第473図、PL-171）

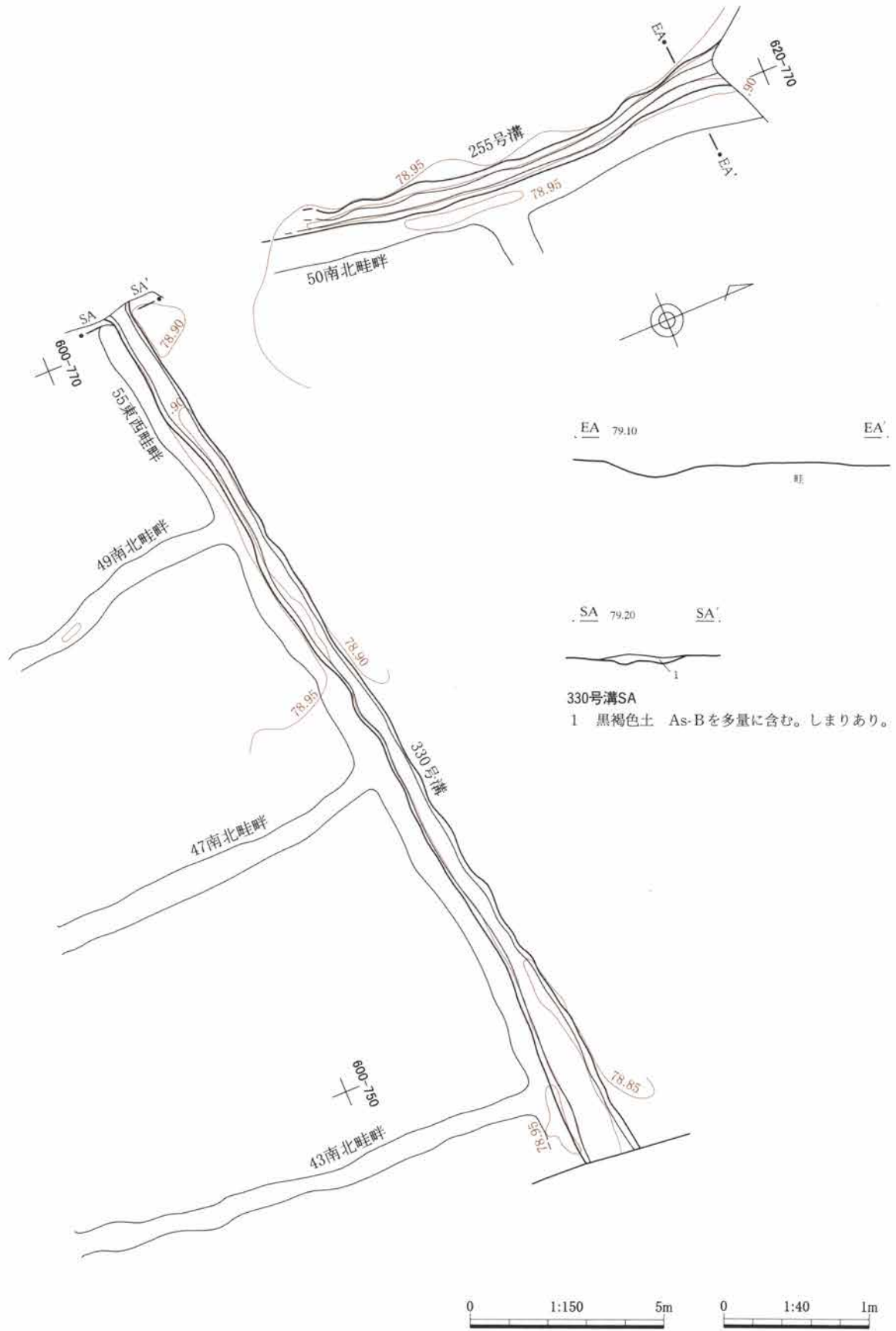
位置 600・605—745～755、600—760～770グリッド 走向 西→東 規模 幅0.40～1.30m、深さ0.01～0.07m、調査長24.94m 形状 浅い丸底状の断面を呈する。 調査所見 A-3区南半部の南寄りに位置する、東西方向の溝である。55東西畦畔に沿っていることから、用水管理の溝と思われる。 遺物 なし

414号溝（第472図、PL-171）

位置 635・640—815・820グリッド 走向 西→東 規模 幅1.40+m、深さ0.05～0.11m、調査長11.22m 形状 なべ底状の断面を呈する。 調査所見 A-3区南半部の西端に位置する、東西方向の溝である。 遺物 なし



第472図 414号溝実測図



第473図 255・330号溝実測図

Aランプの溝

358号溝 (第474図、PL-172)

位置 470—595グリッド 走向 西→東 規模 幅1.06~1.90m、深さ0.07~0.08m、調査長2.60m

形状 なべ底状の断面を呈する。 調査所見 南端に位置する、東西方向の溝である。

遺物 なし

363号溝 (第475図、PL-172)

位置 585—585・590グリッド 走向 西→東 規模 幅0.49~0.64m、深さ0.02m、調査長1.90m

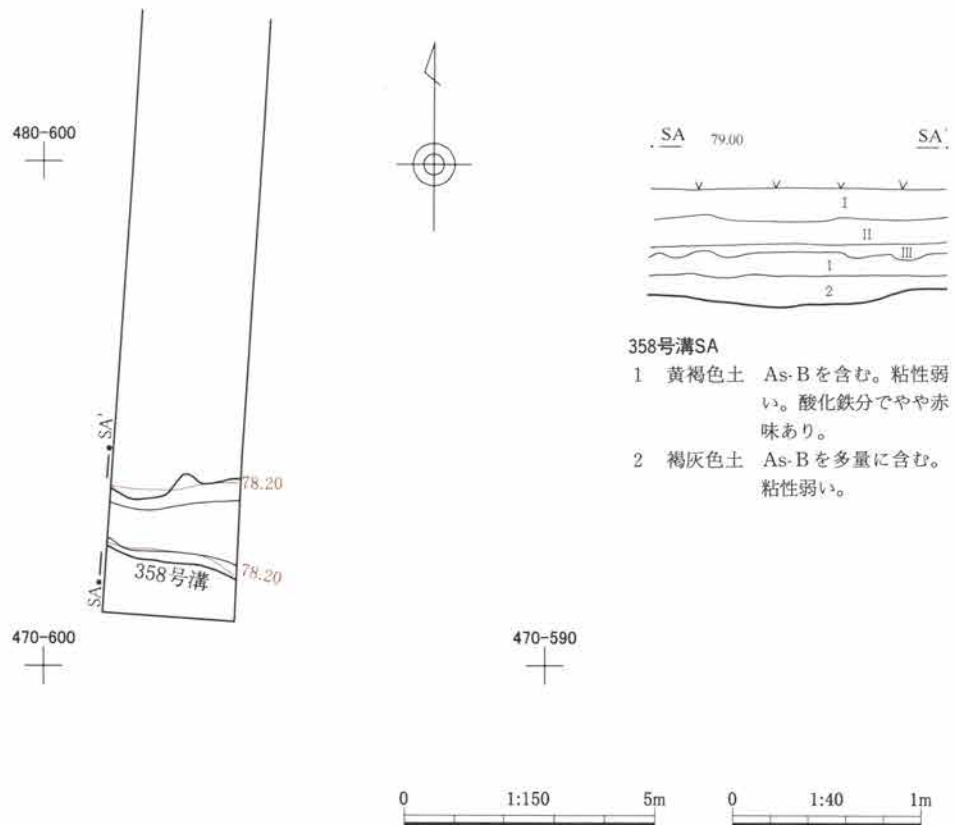
形状 なべ底状の断面を呈する。 調査所見 A-2区平行部 (Aランプ中央部) のほぼ中央に位置する、

東西方向の溝である。 遺物 なし

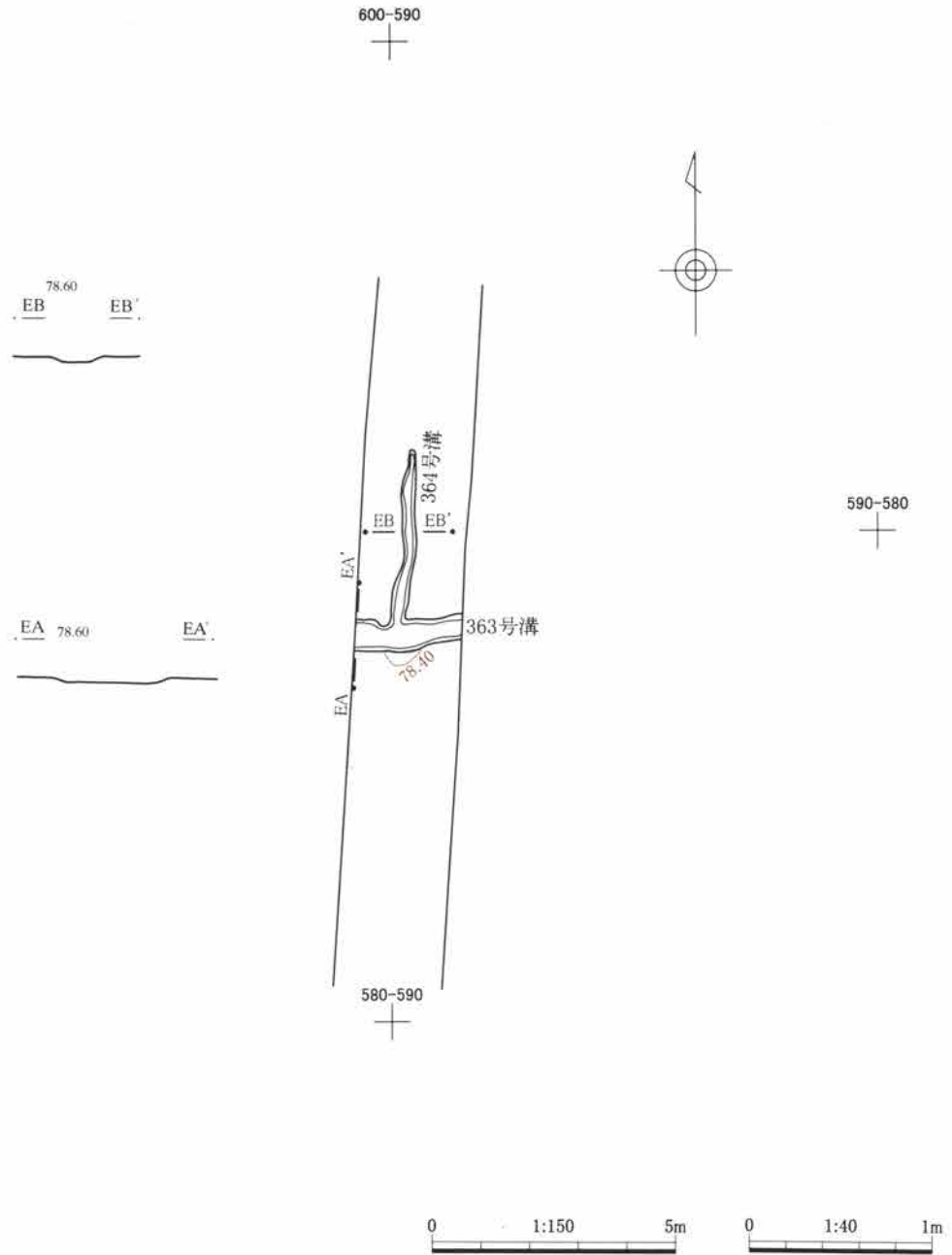
364号溝 (第475図、PL-172)

位置 585・590—585グリッド 走向 北→南 規模 幅0.16~0.35m、深さ0.01~0.02m、調査長3.50

m 形状 なべ底状の断面を呈する。 調査所見 A-2区平行部 (Aランプ中央部) のほぼ中央に位置する、南北方向の溝である。 遺物 なし



第474図 358号溝実測図



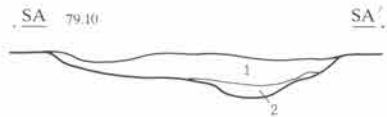
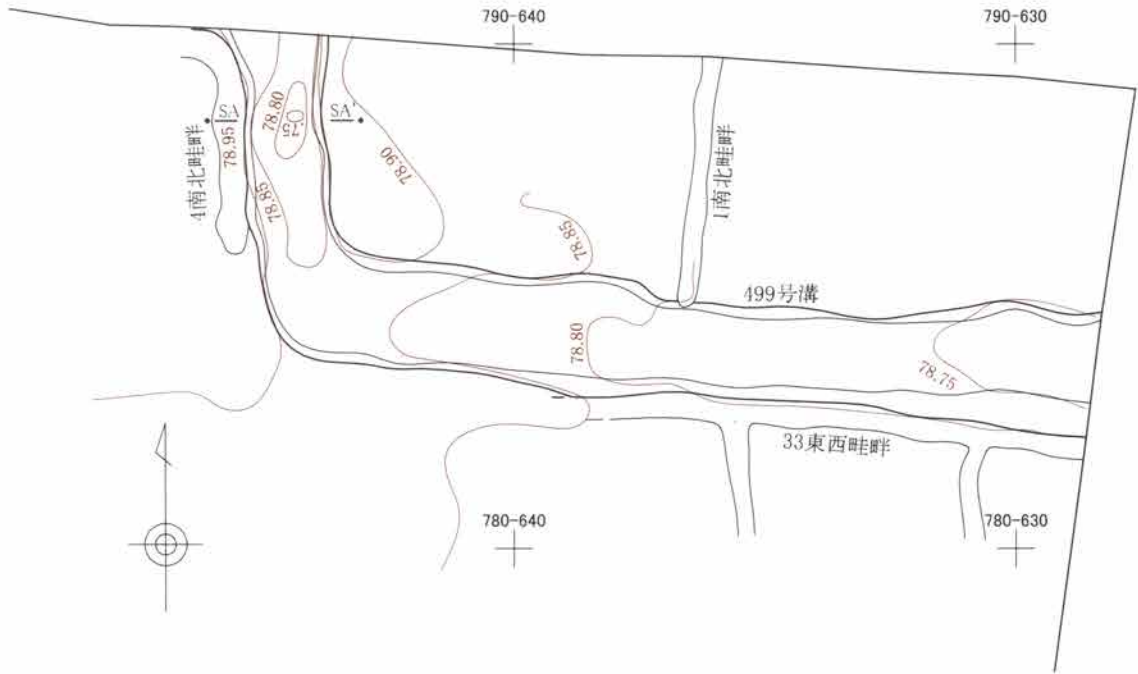
第475図 363・364号溝実測図

C区の溝

499号溝 (第476図)

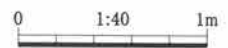
位置 780～790—625～645グリッド **走向** 北→東 **規模** 幅1.48～2.40m、深さ0.01～0.20m、調査長21.00m **形状** 不定型な断面を呈する。 **調査所見** 北東端に位置する溝である。33東西畦畔が溝と平行していること、1南北畦畔が溝で区切られていることなどから、水田に伴う用水路であったことも考えられる。しかし、D区では検出されなかった。 **遺物** なし

3. As-B下面 (平安時代)



499号溝SA

- 1 明褐色土 白色鈳粒を含む。FAブロックを少量含む。粘性なし。
- 2 黒褐色土 粘性ややあり。FAブロックを含む。



第476図 499号溝実測図

(3) 土 坑

概 要 (第477図、PL-176)

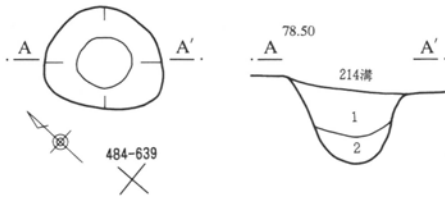
土坑は、A-1区から1基、E区から8基、計9基が検出された。土坑の性格については、慎重を期さねばならないが、現段階ではそのほとんどが、水田にともなうものではないと考えたい。

E区の土坑は、住居跡などがある微高地（台地）にあり、別に項目を設けて、E区台地部を一括して報告する。

土坑一覧表

土坑番号	調査区	位置(グリッド)	長軸方向	平面形状	規模(cm)			遺物番号	備 考
					長軸	短軸	深さ		
322	A-1	480-635	N-40°-W	円形	62	54	41		
139	E	920-610	N-2°-E	//	24	19	13		

322号土坑



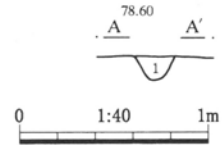
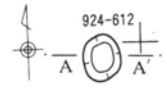
322号土坑

- 1 にぶい黄褐色土 粘性弱い。FAブロックを含む。
- 2 褐灰色土 粘性強い。FAブロックを含む。

139号土坑

- 1 暗褐色土 As-Bを多量に含む。

139号土坑



第477図 土坑実測図

(4) 耕作痕

概 要

As-B下面での耕作痕は、Aランプ（B区平行部）から1検出された。Aランプでは、As-B下水田の遺存状況が不良であることから、この耕作痕がAs-B下水田跡と同時期の遺構なのか、後世の遺構なのかは、はっきりしない。B区平行部のAランプでは、As-B軽石の良好な純層がなかった。このため、As-B混土層下の遺構としての、検出である。

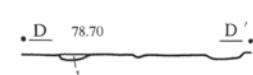
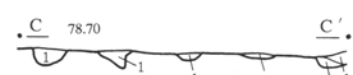
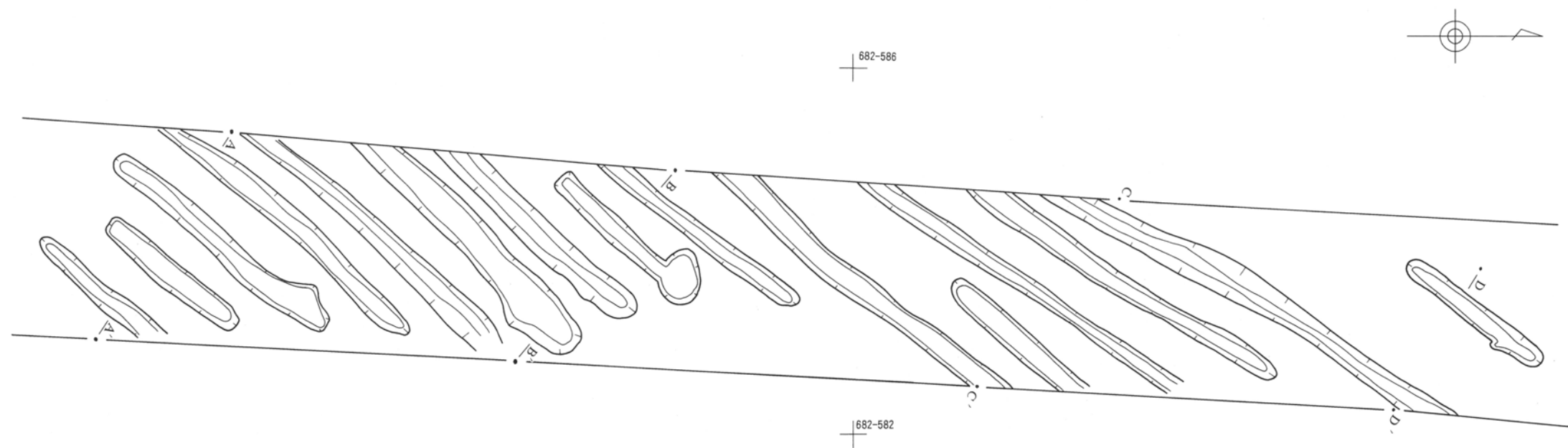
また、個別報告はしないが、長さ1m深さ5cmほどの、棒状の遺物が腐った痕跡のような遺構が見ついている。詳細は不明であるが、写真のみ掲載した（PL-176）。

14号耕作痕 (第478図、PL-176)

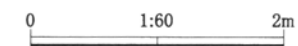
位置 670~690-580・585グリッド サクの走向 N-31°-E 全体規模 長さ12.13m、幅16.66m

サク規模 長さ1.80~5.10+m、幅0.24~0.50m、深さ0.02~0.14m 工具痕の幅 なし

調査所見 B区平行部のAランプで検出された、サク状の遺構である。15列のサクが検出された。As-B軽石降下以後の、耕作痕と思われる。工具痕は、検出されなかった。 遺物 なし



A ランプ耕作痕
 14号耕作痕
 1 灰黄褐色土 粒子細かい砂質土。
 2 褐灰色土 やや粘性あり。FA水田耕作土の土か。



第478図 14号耕作痕実測図

(5) 足跡列

概要

As-B下面では、D区北西部からE区にかけて、人間の足跡の連なりが検出された。特に、D区北西部の遺存状況は良好で、1足跡列として取り上げた。D区から連続する足跡列がE区でも検出されたが、E区の遺存状況が不良であるため、E区では一点破線で足跡列と思われる連なりを図示した。牛馬の蹄跡は検出されなかった。

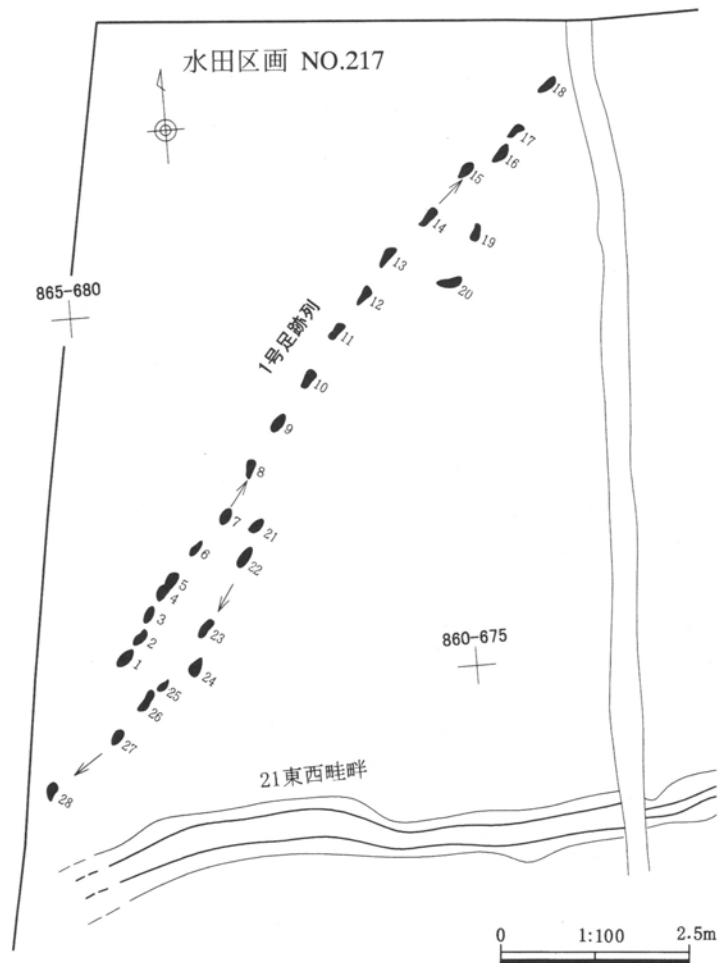
1号足跡列（第479図、PL-174）

位置 670～685—855～870グリッド 足跡の走向 N-40°-E 全体規模 長さ11.5m

調査所見 D区北西端で検出された。D区の北西部を、南西→北東へ歩いた足跡と、北東→南西へ歩いた足跡の2種類が検出されている。E区でも、D区からの連なりと考えられる遺構が検出されたが、遺存状況が不良であったため、1足跡列からは削除した。足跡は、No.217水田区画を斜めに横断するように歩き、再び同じ場所を帰ってきたものと考えられる。具体的な性格は不明である。計測値は表の通り。

(単位mm)

No.	方向	幅	長さ	右足	左足
1	北 東	170	230		
2	北 東	85	230	○	
3	北 東	100	240		
4	北 東	125	240		○
5	北 東	130	200	○	
6	北 東	135	260		○
7	北 東	115	210		
8	北 東	120	255	○	
9	北 東	115	270		○
10	北 東	110	255	○	
11	北 東	105	270		○
12	北 東	105	290	○	
13	北 東	105	315		○
14	北 東	120	300	○	
15	北 東	120	260		○
16	北 東	125	290	○	
17	北 東	100	240		○
18	北 東	130	295	○	
19	南 西	110	235		○
20	東	130	325	○	
21	南 西	120	235	○	
22	南 西	130	300		
23	南 西	115	285		○
24	南 西	145	260	○	
25	南 西	95	180		○
26	南 西	115	320		○
27	南 西	100	240		
28	南 西	135	230		○



第479図 1号足跡列実測図



平安時代の足跡 (D区北西部)



(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第290集

上滝榎町北遺跡

—第1分冊 平安時代～近世・近代編—

北関東自動車道(高崎～伊勢崎)地域
埋蔵文化財発掘調査報告書第9集

平成14年10月24日 印刷

平成14年10月31日 発行

編集・発行／(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県勢多郡北橘村大字下箱田784番地の2

電話 (0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／朝日印刷工業株式会社